

堺市
男女共同参画に関する
市民意識・実態調査
報告書
【速報版】

2025年（令和7年）11月

堺市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査項目.....	1
3	調査対象.....	1
4	調査期間.....	1
5	調査方法.....	1
6	回収結果.....	1
7	調査結果の表示方法.....	2
8	調査の精度.....	3
II	回答者の属性.....	4
III	調査結果.....	13
1	男女の役割や地位に関する意識について.....	13
2	家庭生活などに関する意識について.....	35
3	こどもの教育について.....	47
4	介護について.....	56
5	仕事について.....	57
6	地域・生活全般について.....	79
7	様々な暴力について.....	89
8	配偶者や交際相手等からの暴力について.....	97
9	防災対策について.....	132
10	男女共同参画に関する言葉や施策について.....	133
11	自由意見.....	136
IV	調査結果からみられる現状と課題.....	137
V	調査票.....	138

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、「第5期さかい男女共同参画プラン」の実施期間の評価と、新規計画の策定に向け、現状及び課題を整理することを目的として実施しました。

2 調査項目

- (1) 男女の役割や地位に関する意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) こどもの教育について
- (4) 介護について
- (5) 仕事について
- (6) 地域・生活全般について
- (7) 様々な暴力について
- (8) 配偶者や交際相手等からの暴力について
- (9) 防災対策について
- (10) 男女共同参画に関する言葉や施策について

3 調査対象

母集団 堺市在住の満18歳以上の方を無作為抽出
(令和7年7月1日時点で18歳以上の方)

標本数 4,000人

抽出方法 区別人口比・性比に合わせ令和7年5月末の住民基本台帳人口（外国人住民を含む）から無作為抽出

4 調査期間

令和7年7月16日（水）から令和7年8月7日（木）

5 調査方法

郵送配布、郵送またはインターネットによる無記名回答

6 回収結果

発送数	未着数	実発送数	有効回収数		有効回収率
			WEB	紙	
4,000通	20通	3,980通	372通	計1,365通	34.1%
			993通		

7 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・回答があっても、少数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0%」と示している。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・図表においては「全体」「女性」「男性」それぞれの数値を示しているが、性別の回答には、「その他」及び「無回答」が含まれるため、「女性」と「男性」の数値の合計は「全体」の数値とは一致しない。

8 調査の精度

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになります。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となります。

その精度は、以下の式で表される標本誤差を算出することで把握できます(信頼度は95%とします)。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団（満18歳以上の市民694,276人） n：標本数（回答者総数1,365人）

P：測定値（回答比率）%

【信頼度95%における主要な%の標本誤差】

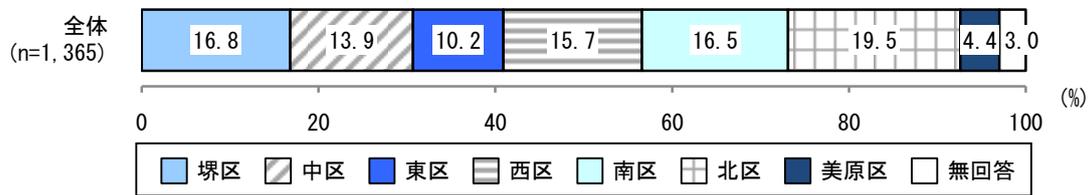
	n	p(%)									
		5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
		95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	55%	50%
総数	1,365	1.2	1.6	1.9	2.2	2.3	2.5	2.6	2.7	2.7	2.7
<性別>											
男性	723	1.6	2.2	2.7	3.0	3.2	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7
女性	477	2.0	2.7	3.3	3.7	4.0	4.2	4.4	4.5	4.6	4.6
<年代別>											
女性 29歳以下	67	5.3	7.3	8.7	9.8	10.6	11.2	11.7	12.0	12.2	12.2
30歳代	70	5.2	7.2	8.5	9.6	10.4	11.0	11.4	11.7	11.9	12.0
40歳代	101	4.3	6.0	7.1	8.0	8.6	9.1	9.5	9.7	9.9	10.0
50歳代	148	3.6	4.9	5.9	6.6	7.1	7.5	7.8	8.1	8.2	8.2
60歳代	122	3.9	5.4	6.5	7.2	7.8	8.3	8.6	8.9	9.0	9.1
70歳以上	211	3.0	4.1	4.9	5.5	6.0	6.3	6.6	6.7	6.8	6.9
男性 29歳以下	39	7.0	9.6	11.4	12.8	13.9	14.7	15.3	15.7	15.9	16.0
30歳代	47	6.4	8.8	10.4	11.7	12.6	13.4	13.9	14.3	14.5	14.6
40歳代	73	5.1	7.0	8.4	9.4	10.1	10.7	11.2	11.5	11.6	11.7
50歳代	85	4.7	6.5	7.7	8.7	9.4	9.9	10.3	10.6	10.8	10.8
60歳代	99	4.4	6.0	7.2	8.0	8.7	9.2	9.6	9.8	10.0	10.1
70歳以上	131	3.8	5.2	6.2	7.0	7.6	8.0	8.3	8.6	8.7	8.7

例として、問3の「もっと女性が増えた方がよい職業や役職」の結果を見ると、「裁判官・検察官・弁護士」は全体で50.0%であり、表の「全体」の欄で最も近い値（50%）は「2.7」となっています。そのことから、母集団（満18歳以上の市民全体）を対象に調査を行えば「同和問題」における回答比率は、50.0%の±2.7で、47.3%～52.7%の間であると推測されます。

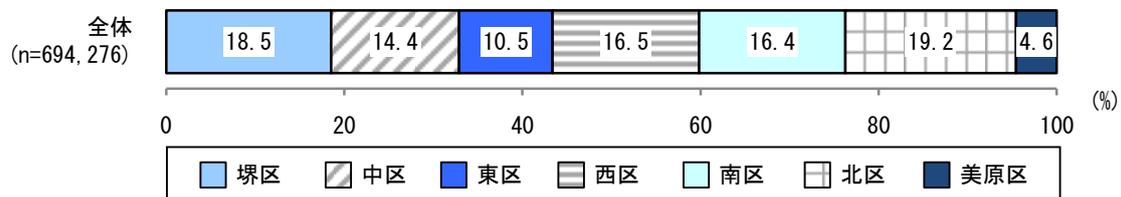
※信頼度95%とは、同じ方法で100回調査すれば、95回は真の値から、上式で求められた誤差の範囲内に入ることです

II 回答者の属性

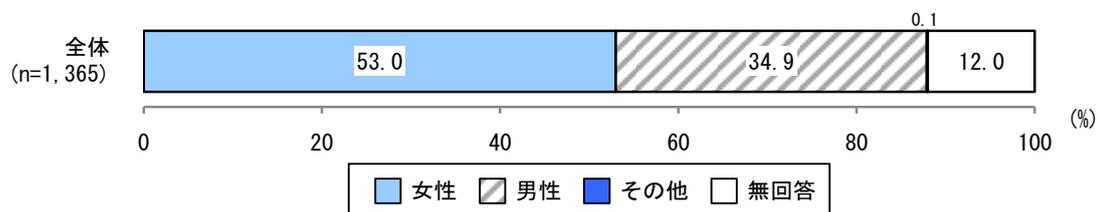
■居住区



【参考：堺市18歳以上居住区別住民基本台帳人口割合（令和7年5月末現在）】



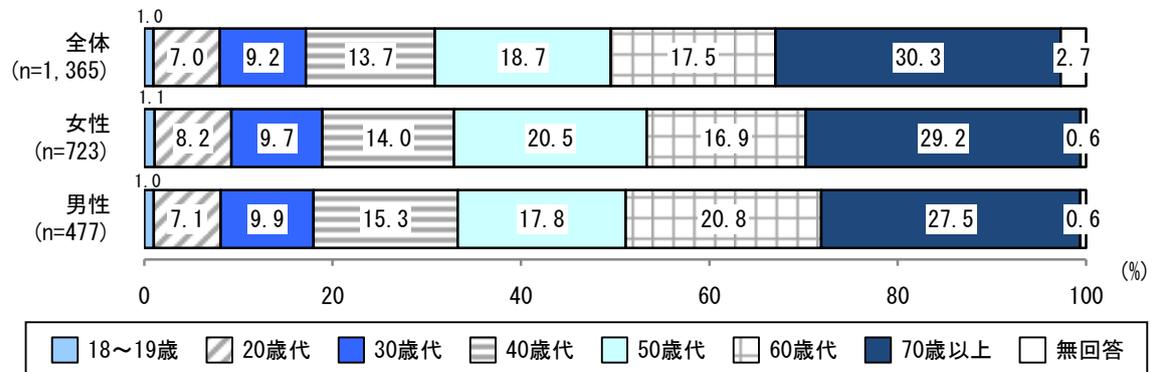
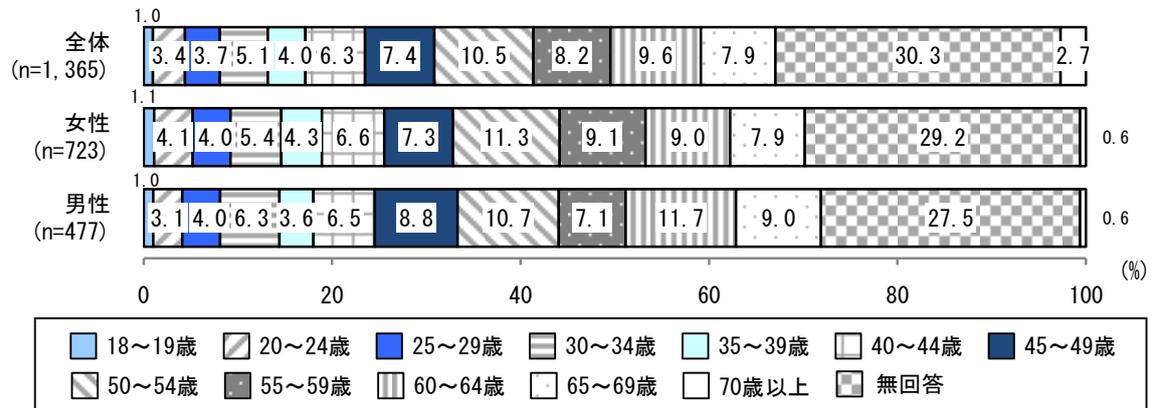
■性別



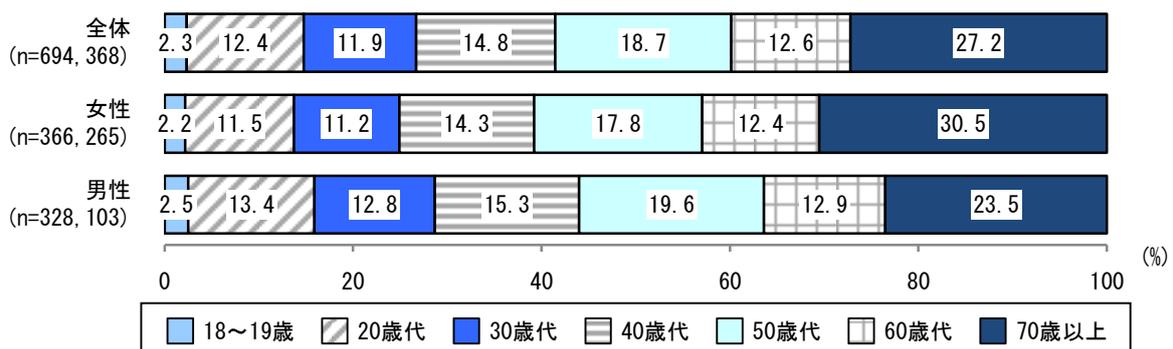
【参考：堺市18歳以上性別住民基本台帳人口割合（令和7年5月末現在）】



■年代別

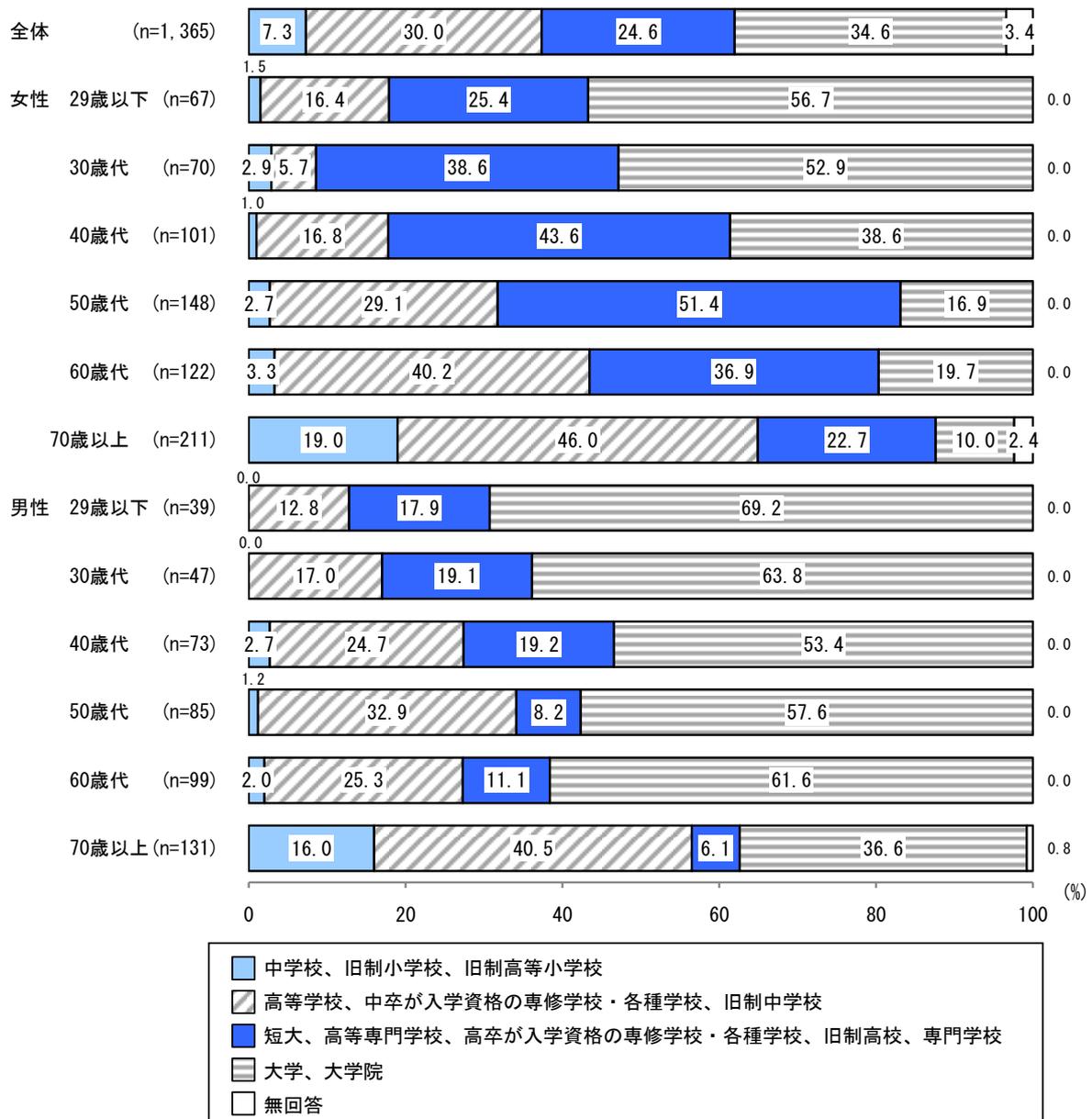
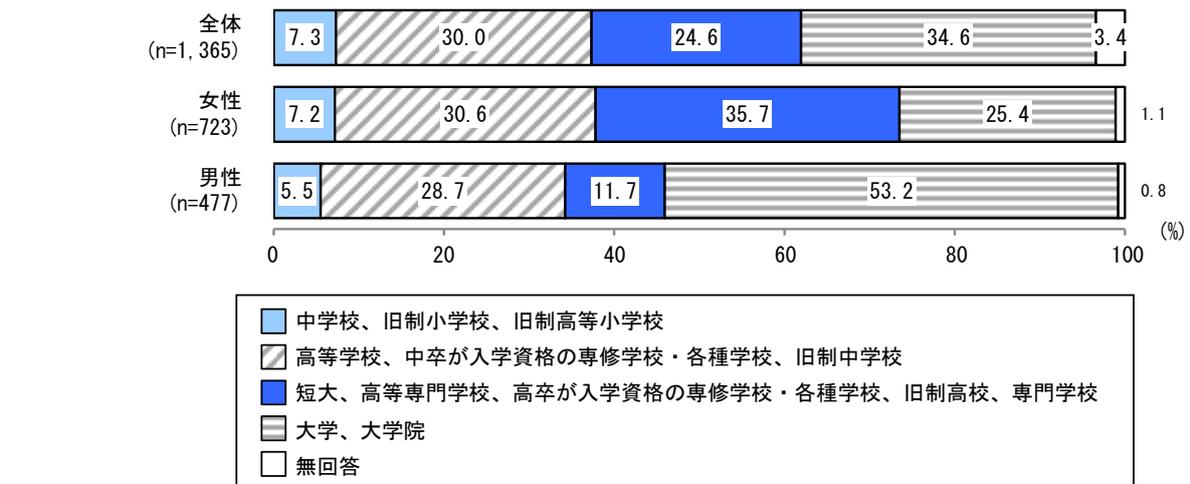


【参考：堺市18歳以上年代別住民基本台帳人口（令和7年5月末現在）】

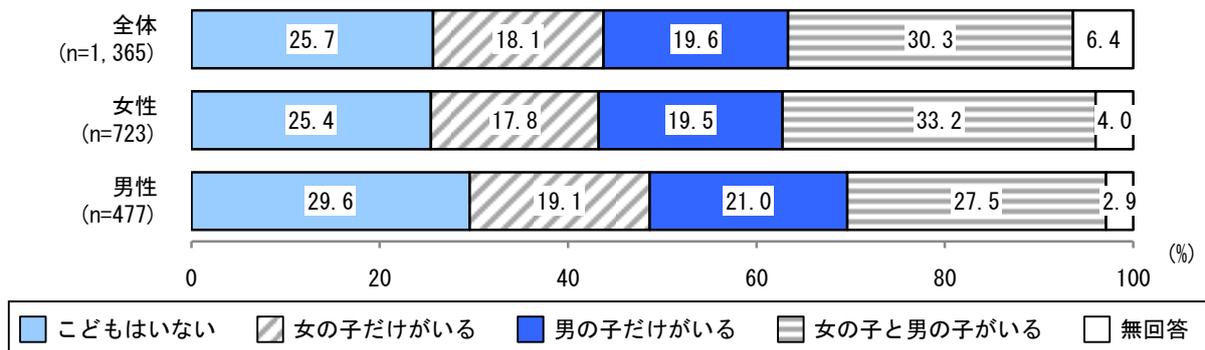


（「住民基本台帳（外国人住民を含む）による世帯数・人口（令和7年7月）」を元に作成）

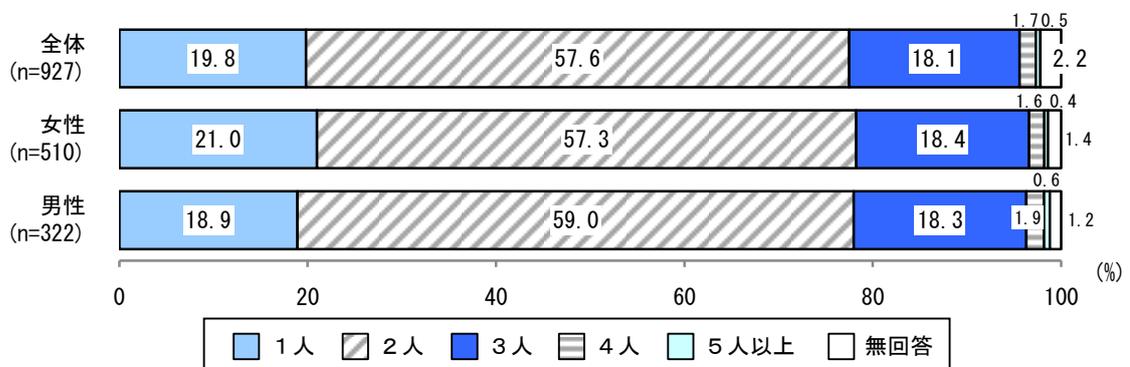
■最終学歴



■こどもの有無



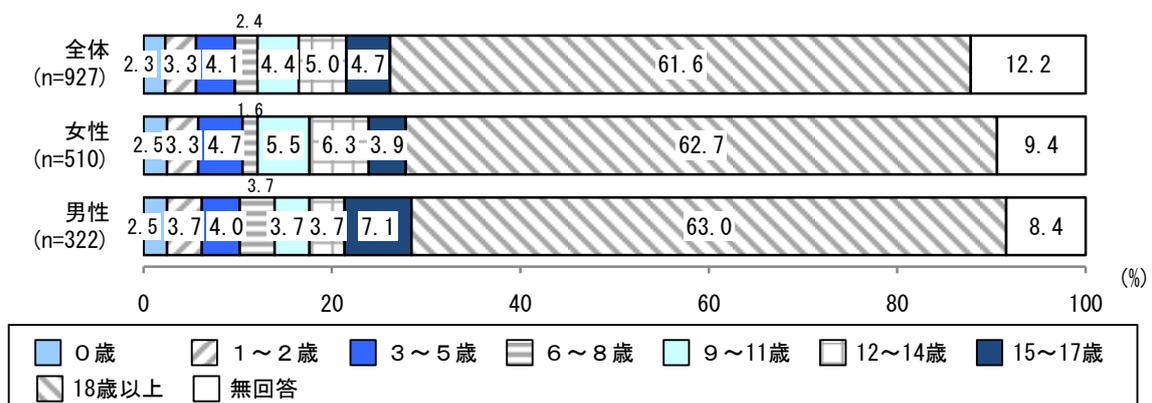
■こどもの人数



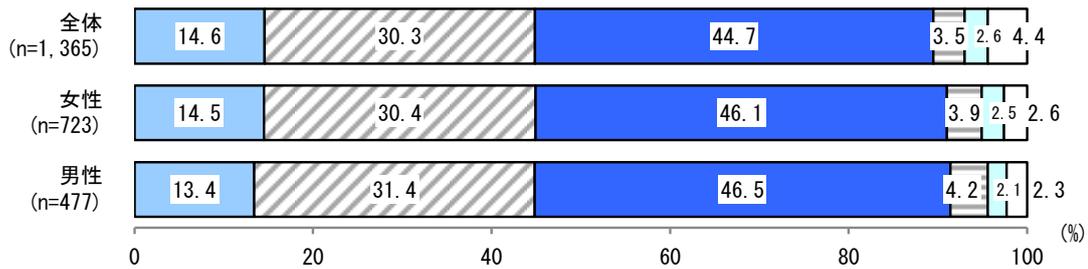
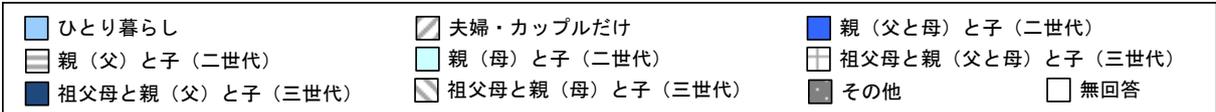
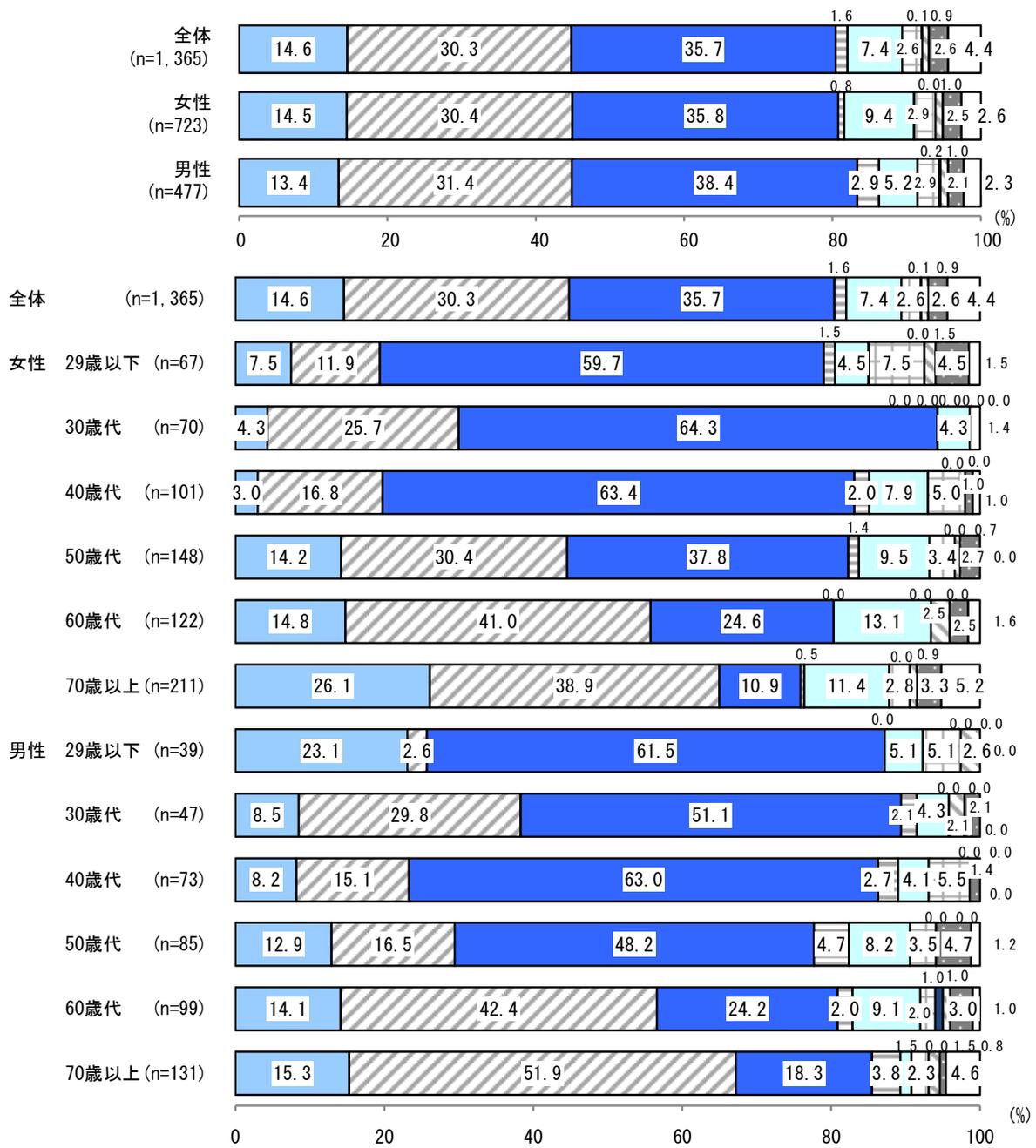
■こどもの成長段階

(単位=MA%)	n	小学校入学前	小学生	中学生	高校生	高校卒業～19歳まで	20歳以上	無回答
全体	927	10.6	11.3	8.0	7.4	5.6	74.2	1.1
女性	510	11.0	12.0	8.6	6.7	5.7	73.9	1.0
男性	322	11.2	10.9	6.8	9.9	5.3	72.4	0.3

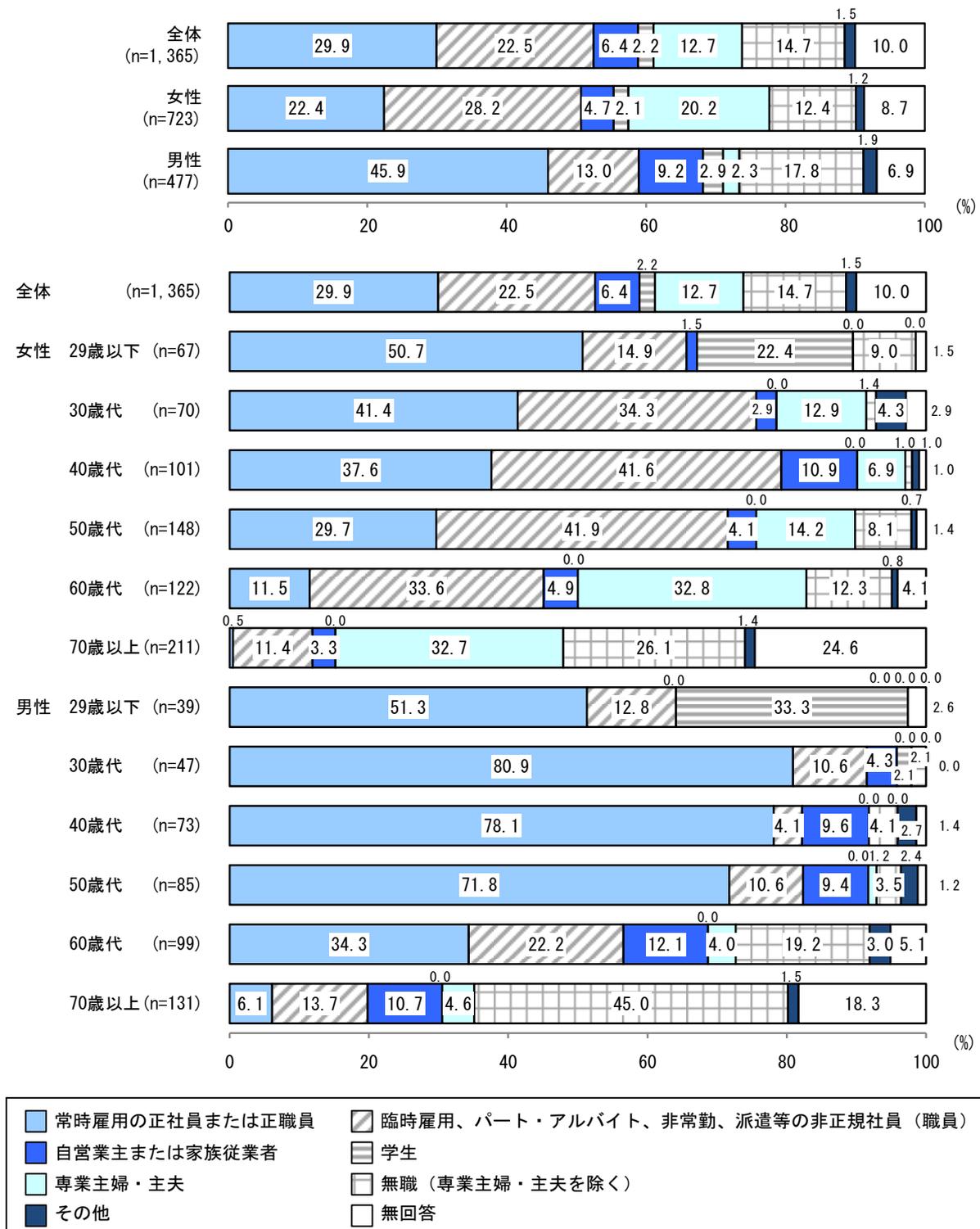
■末子の年齢



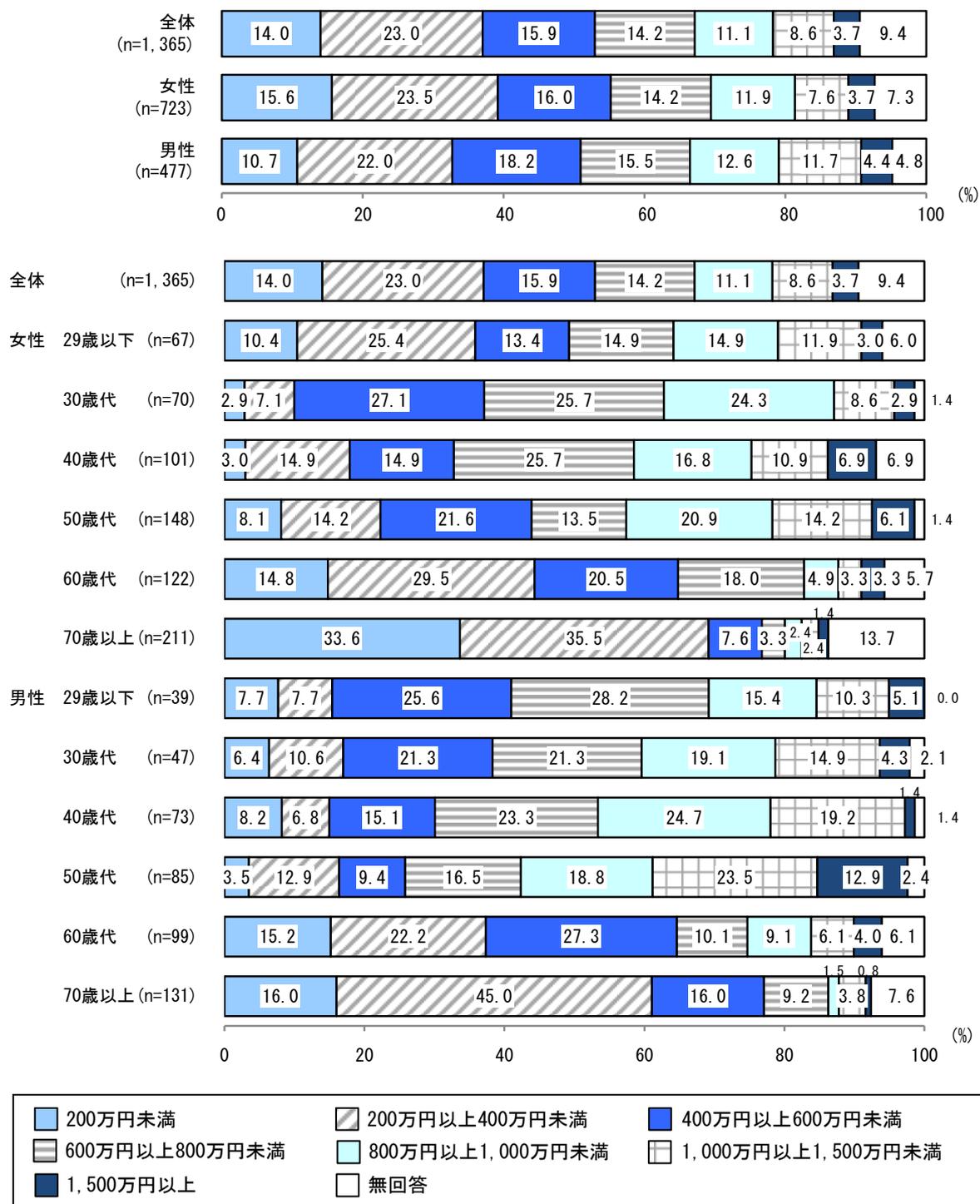
同居の家族構成



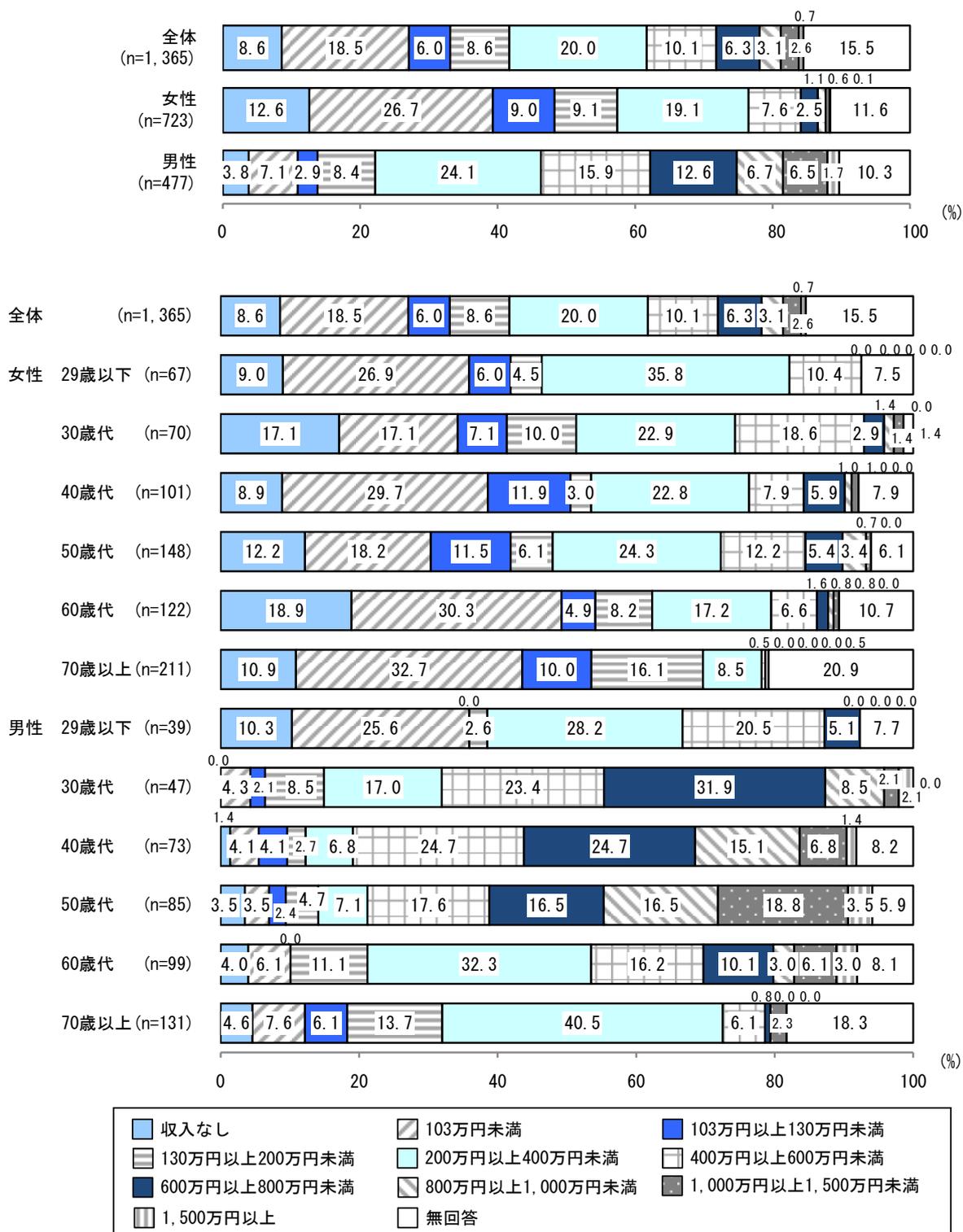
■勤務形態（問10）



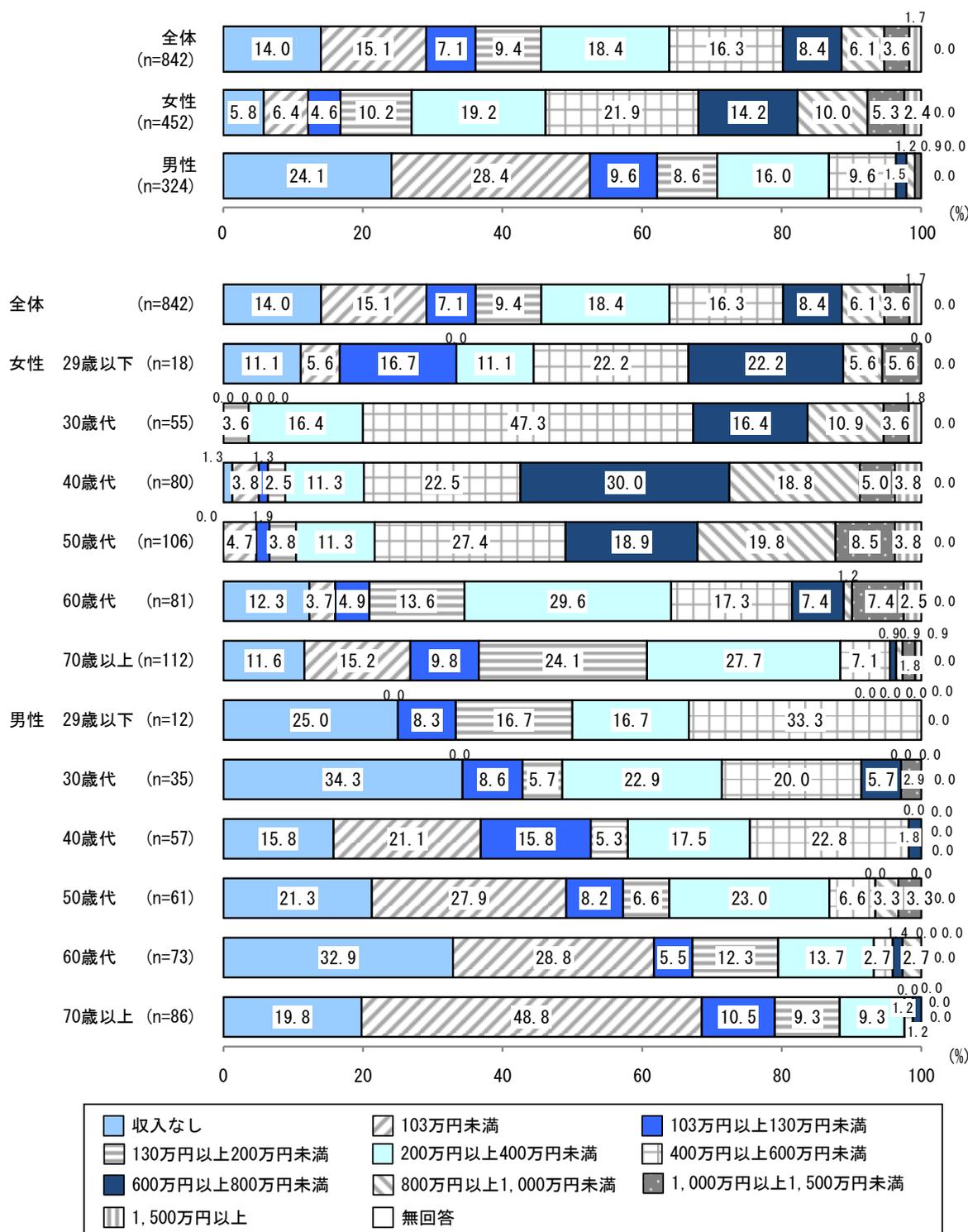
■世帯収入



■個人収入



配偶者・パートナーの収入



Ⅲ 調査結果

1 男女の役割や地位に関する意識について

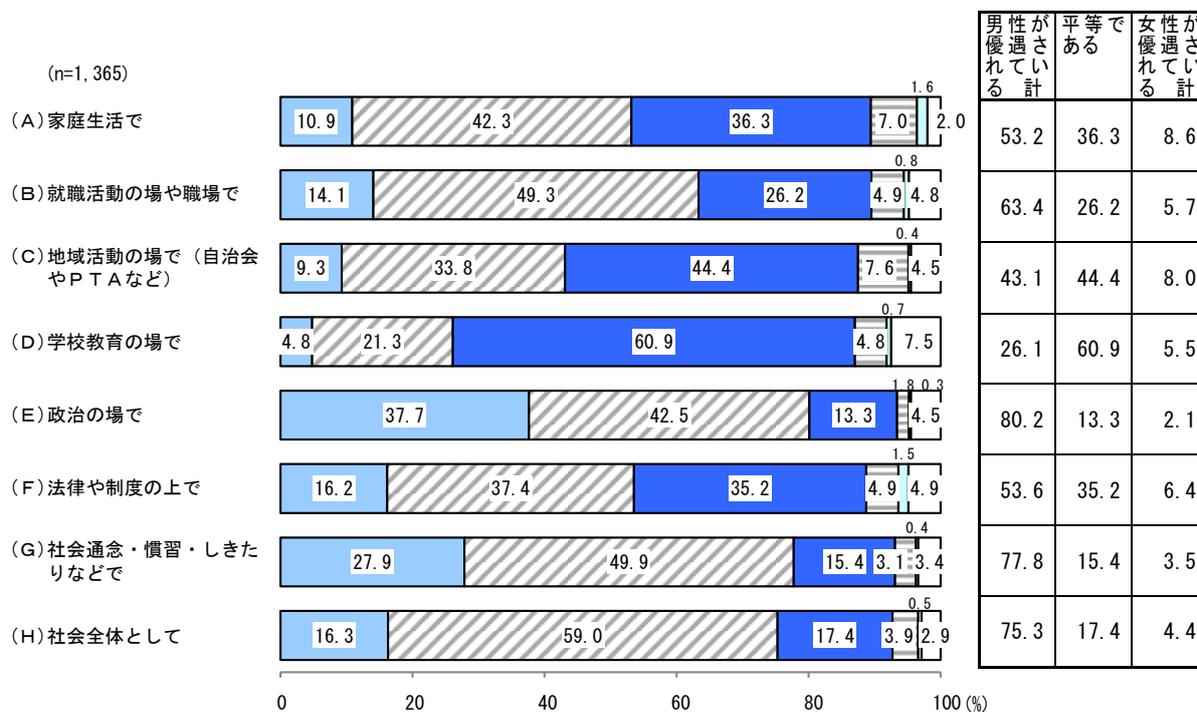
(1) 各分野の男女の地位の平等感

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。(それぞれ○は一つ)

全体、性別ともに、『(D) 学校教育の場で』において「平等である」との回答が最も高い。

性別で見ると、いずれの項目も女性の“男性が優遇されている計”の割合は男性に比べて10ポイント以上高くなっており、『(A) 家庭生活上で』『(C) 地域活動の場で(自治会やPTAなど)』『(F) 法律や制度の上で』で男女差がより大きくなっている。

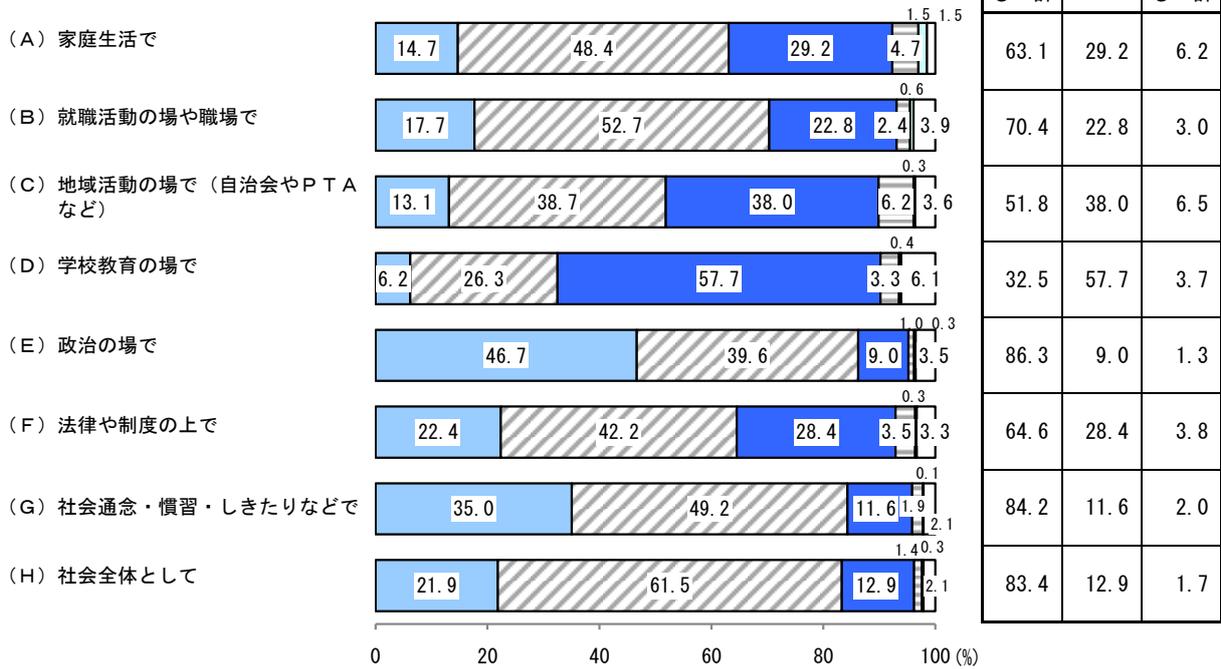
前回調査との比較で見ると、『(E) 政治の場で』以外の項目において、「平等である」との全体の回答は前を上回っている。



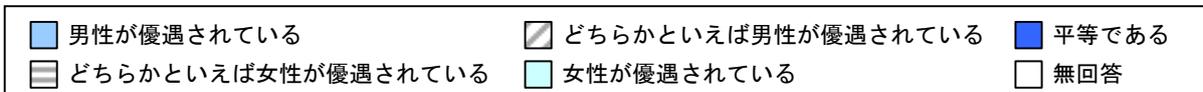
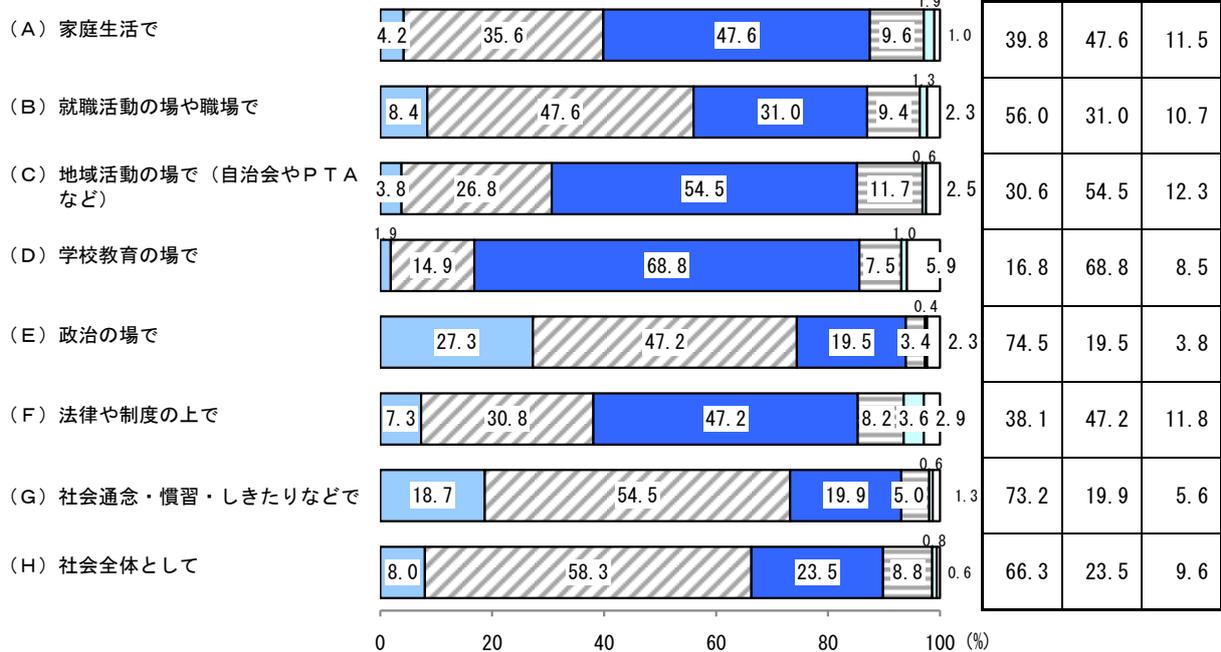
■ 男性が優遇されている ■ どちらかといえば男性が優遇されている ■ 平等である
 ■ どちらかといえば女性が優遇されている ■ 女性が優遇されている ■ 無回答

※男性が優遇されている計：「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた値
 女性が優遇されている計：「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた値

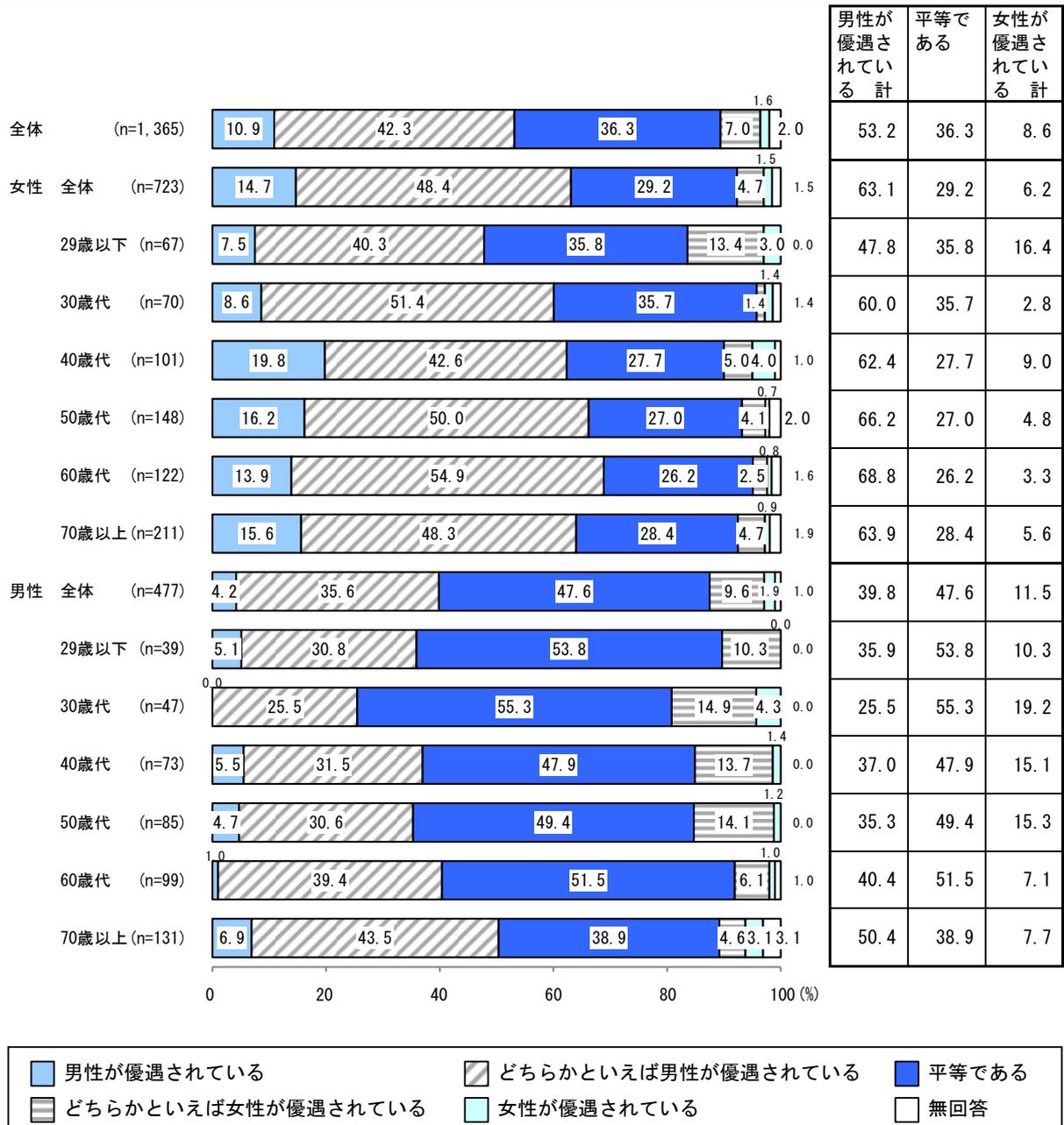
女性(n=723)



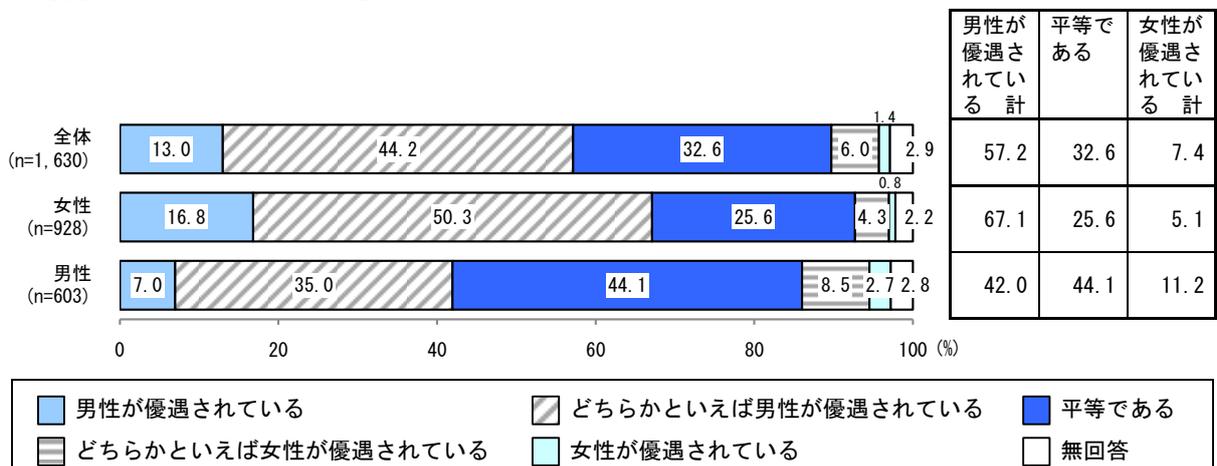
男性(n=477)



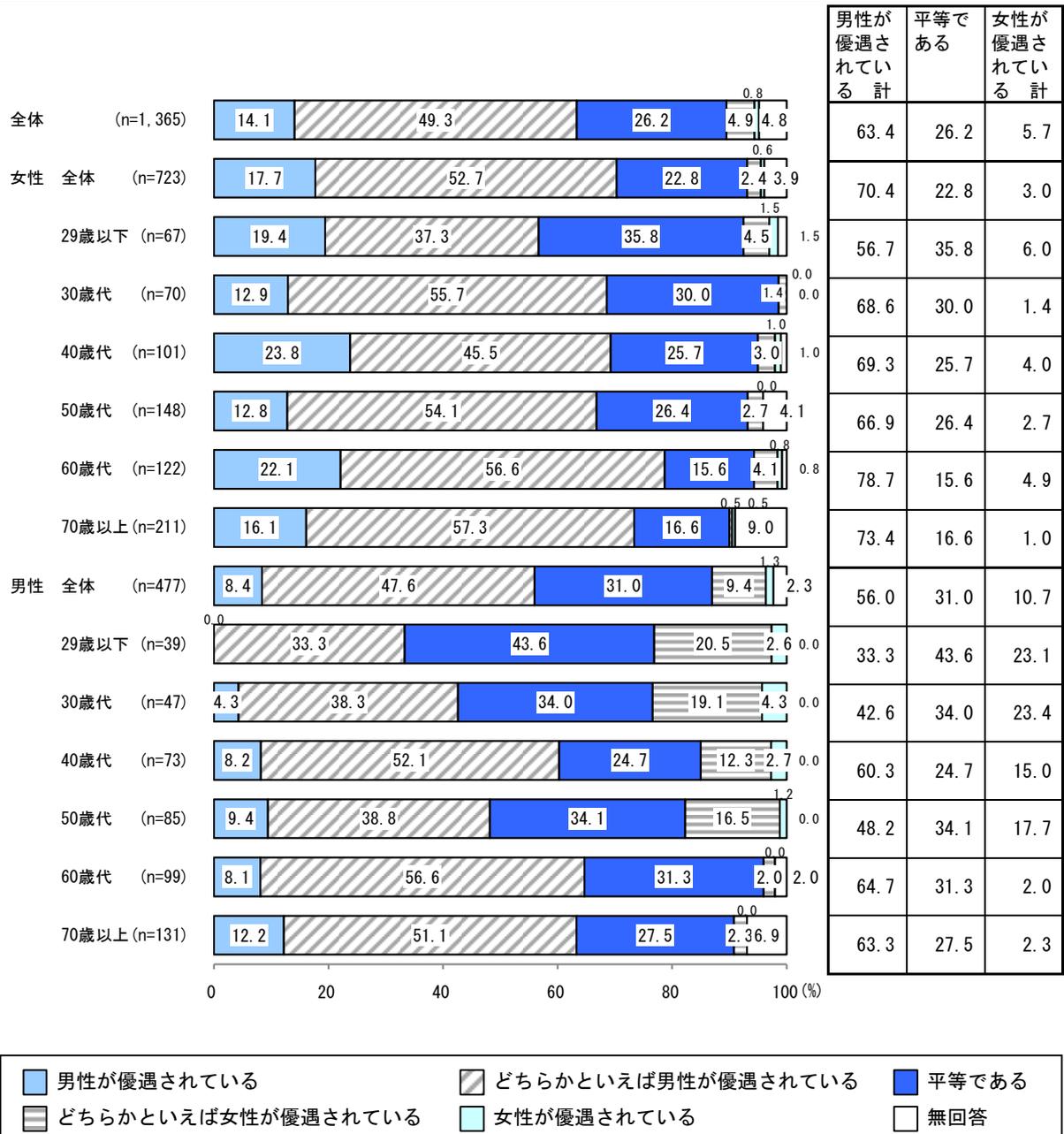
(A) 家庭生活で



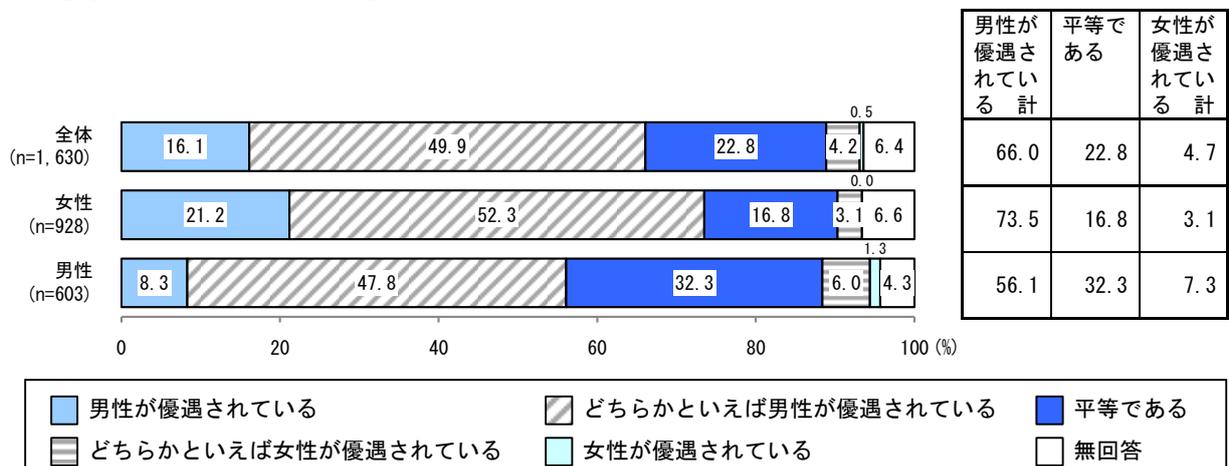
【前回調査（令和2年）】



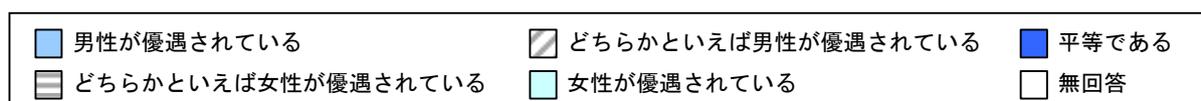
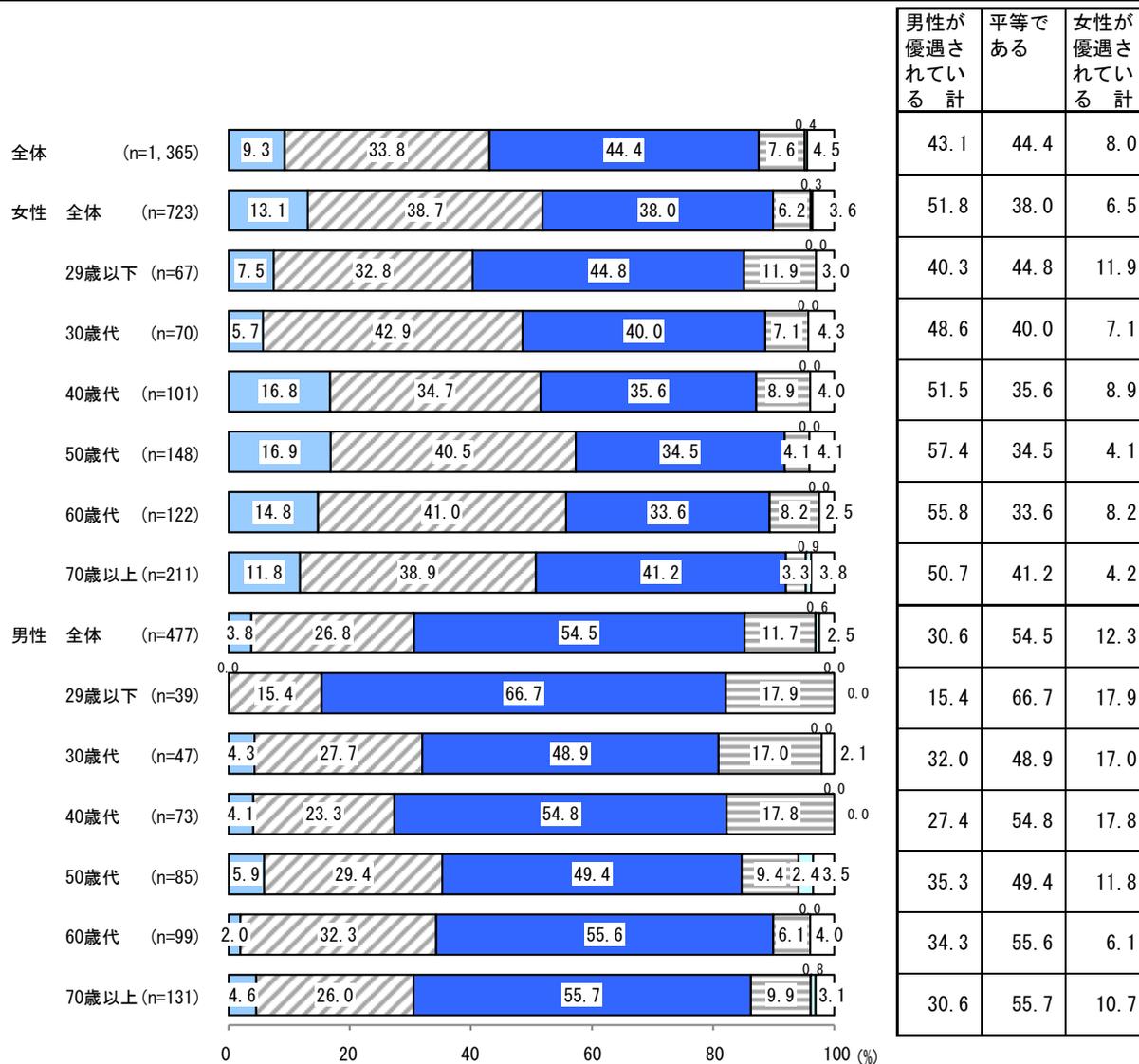
(B) 就職活動の場や職場で



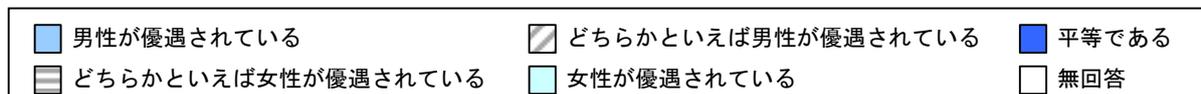
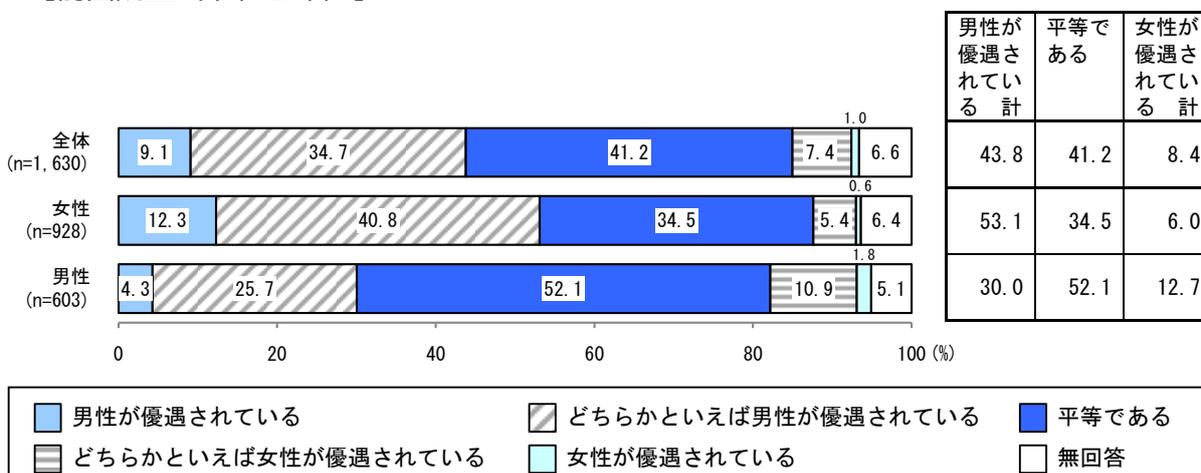
【前回調査（令和2年）】



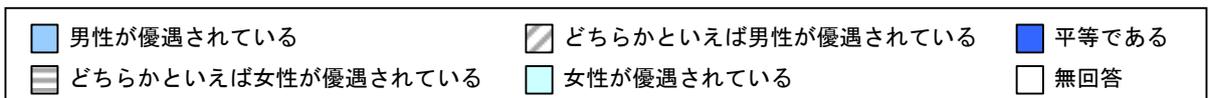
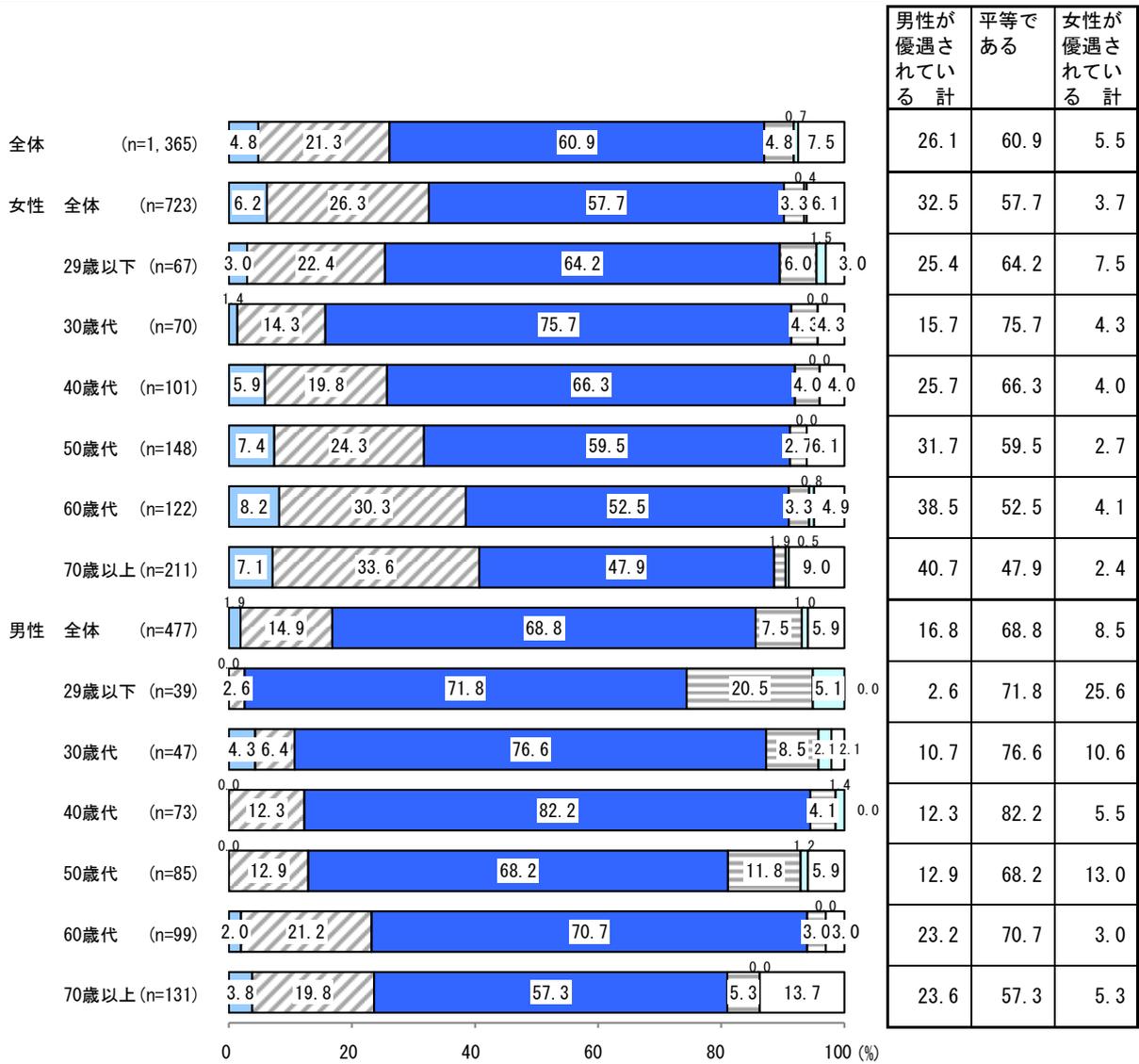
(C) 地域活動の場で(自治会やPTAなど)



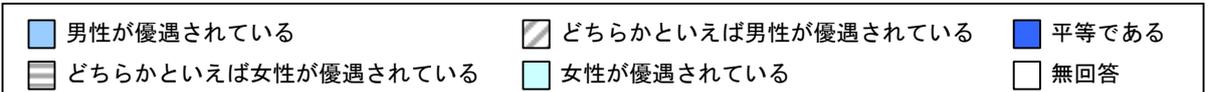
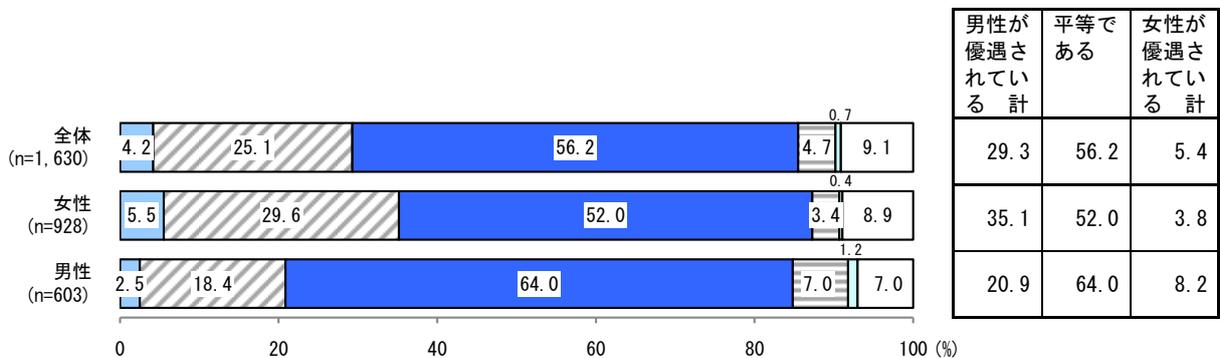
【前回調査(令和2年)】



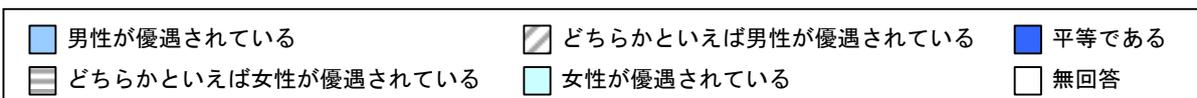
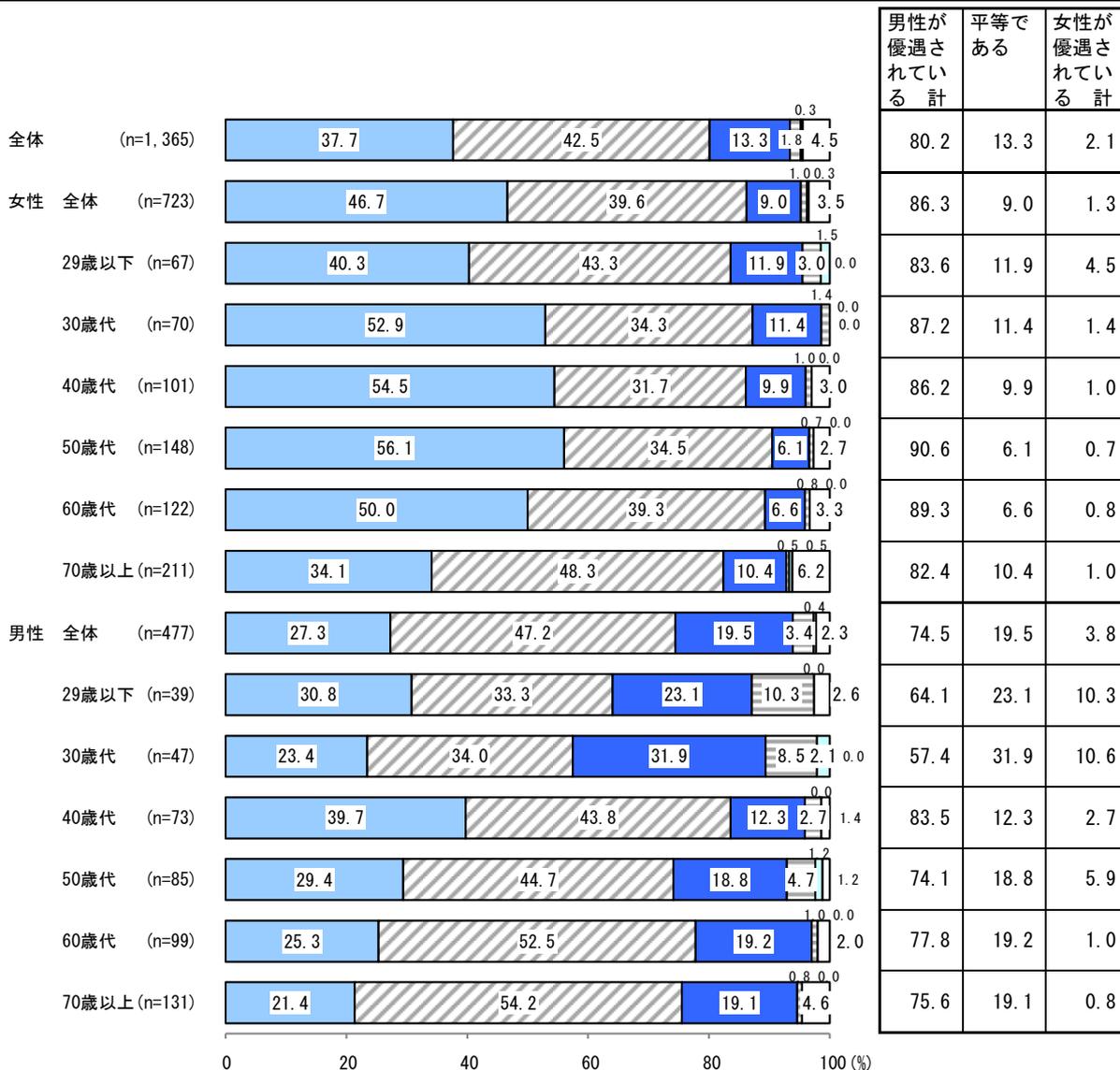
(D) 学校教育の場で



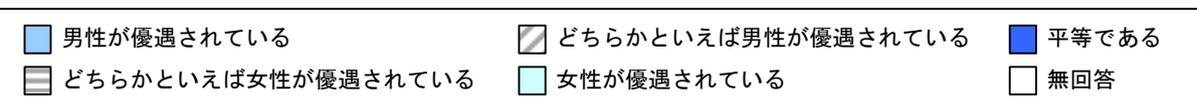
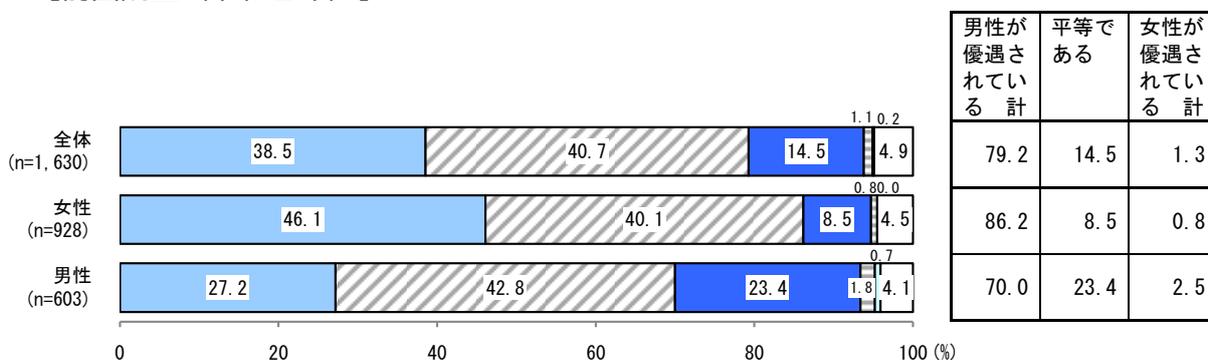
【前回調査（令和2年）】



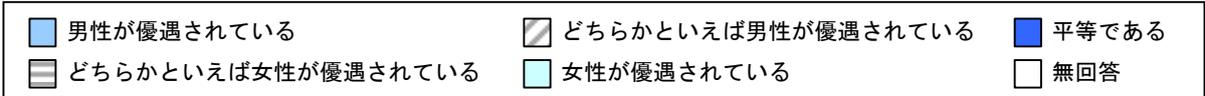
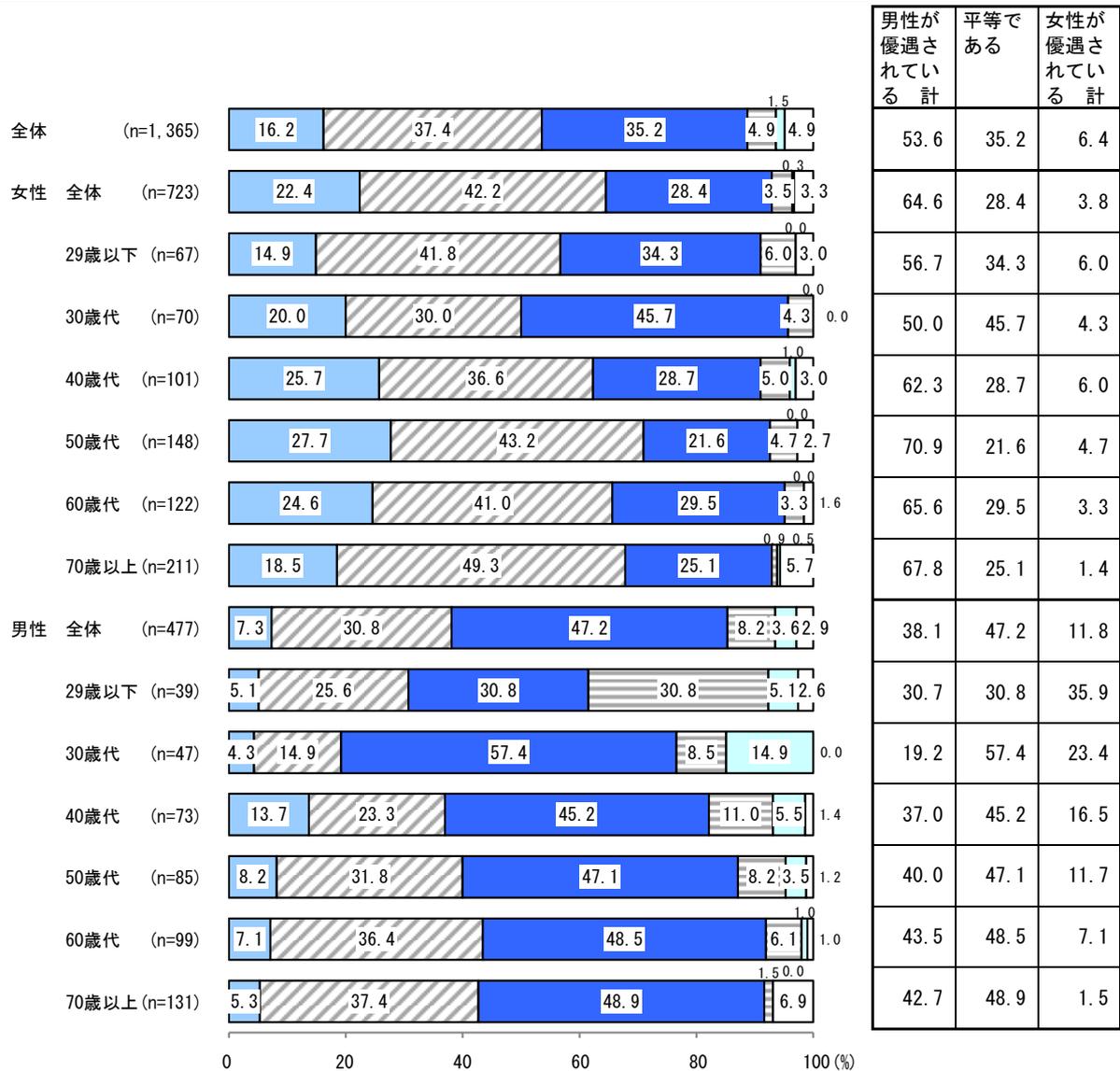
(E) 政治の場で



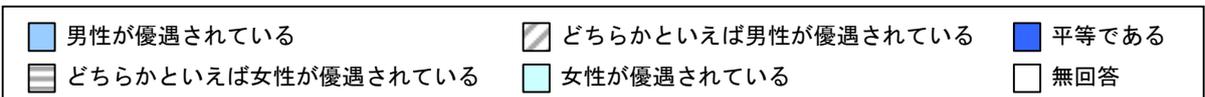
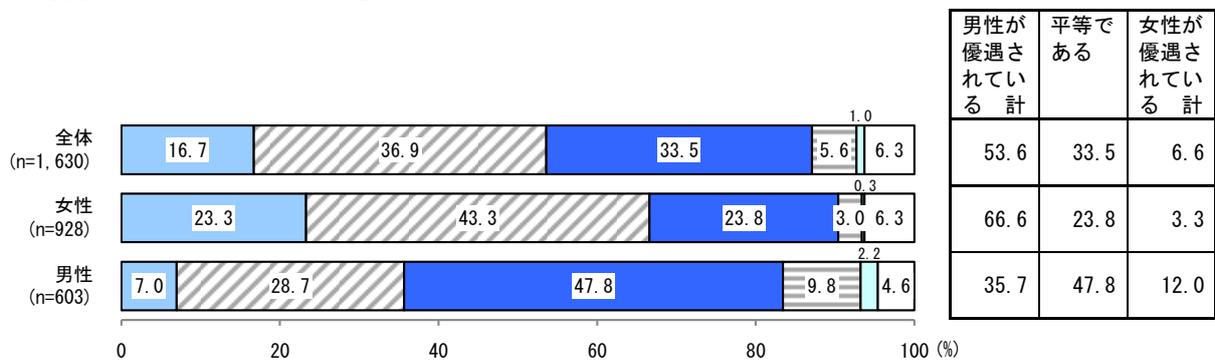
【前回調査（令和2年）】



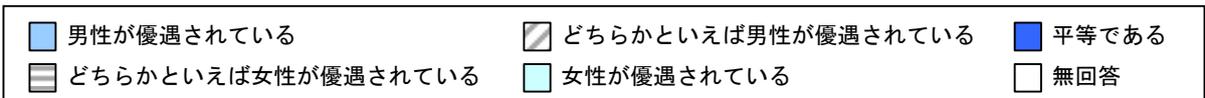
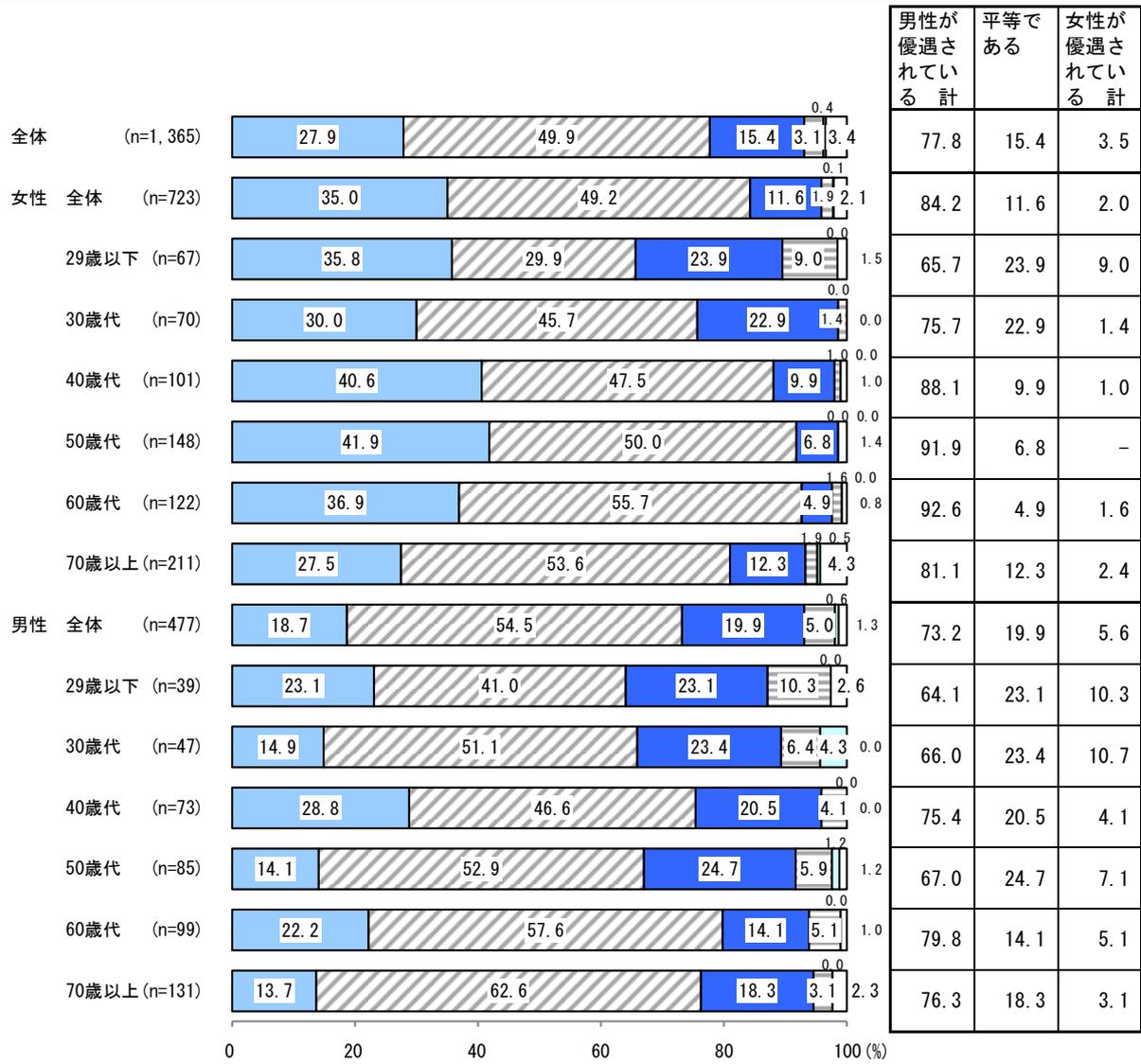
(F) 法律や制度の上で



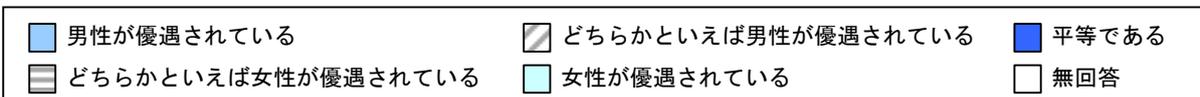
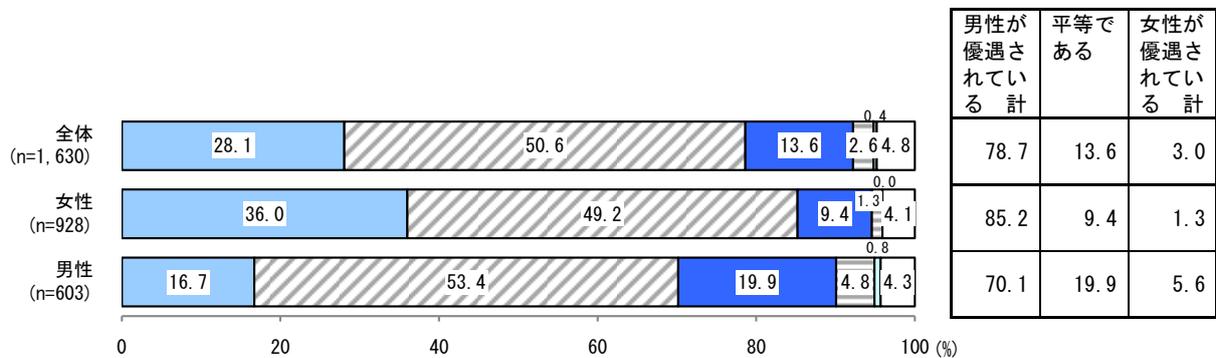
【前回調査（令和2年）】



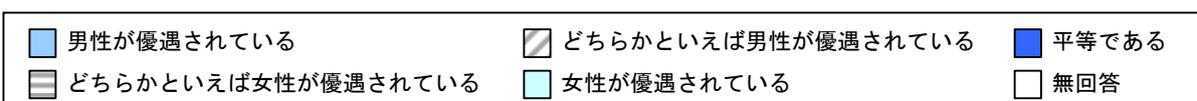
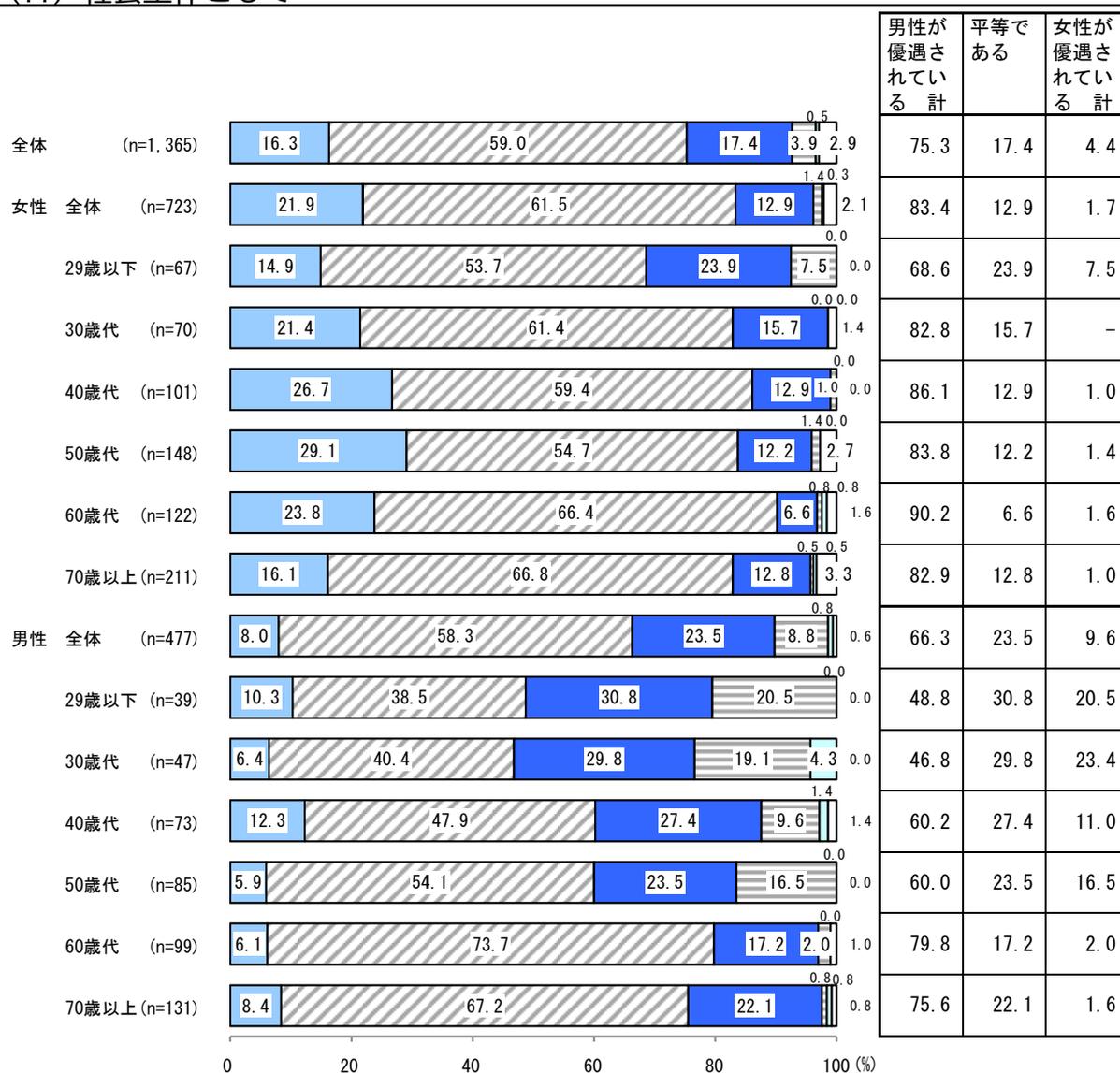
(G) 社会通念・慣習・しきたりなどで



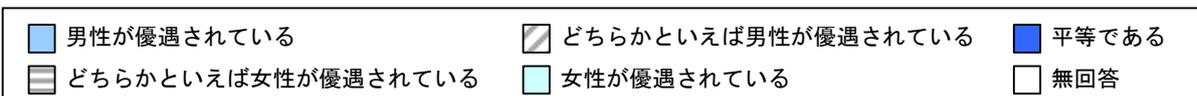
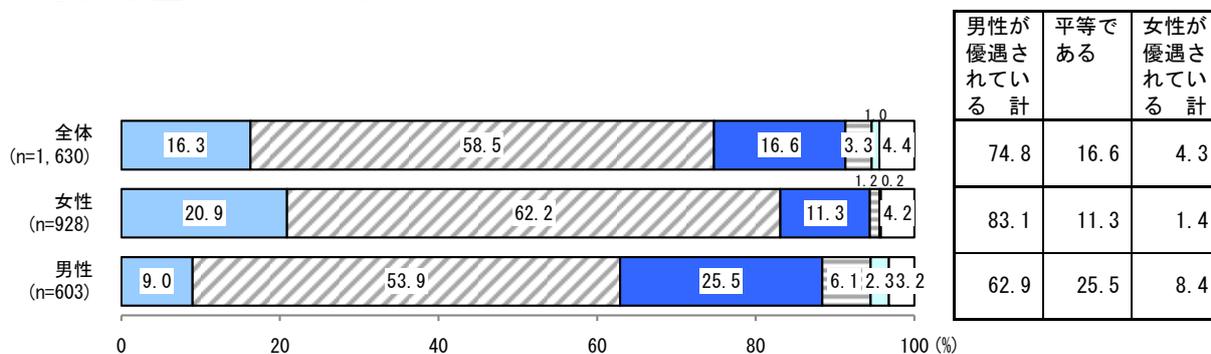
【前回調査（令和2年）】



(H) 社会全体として



【前回調査 (令和2年)】



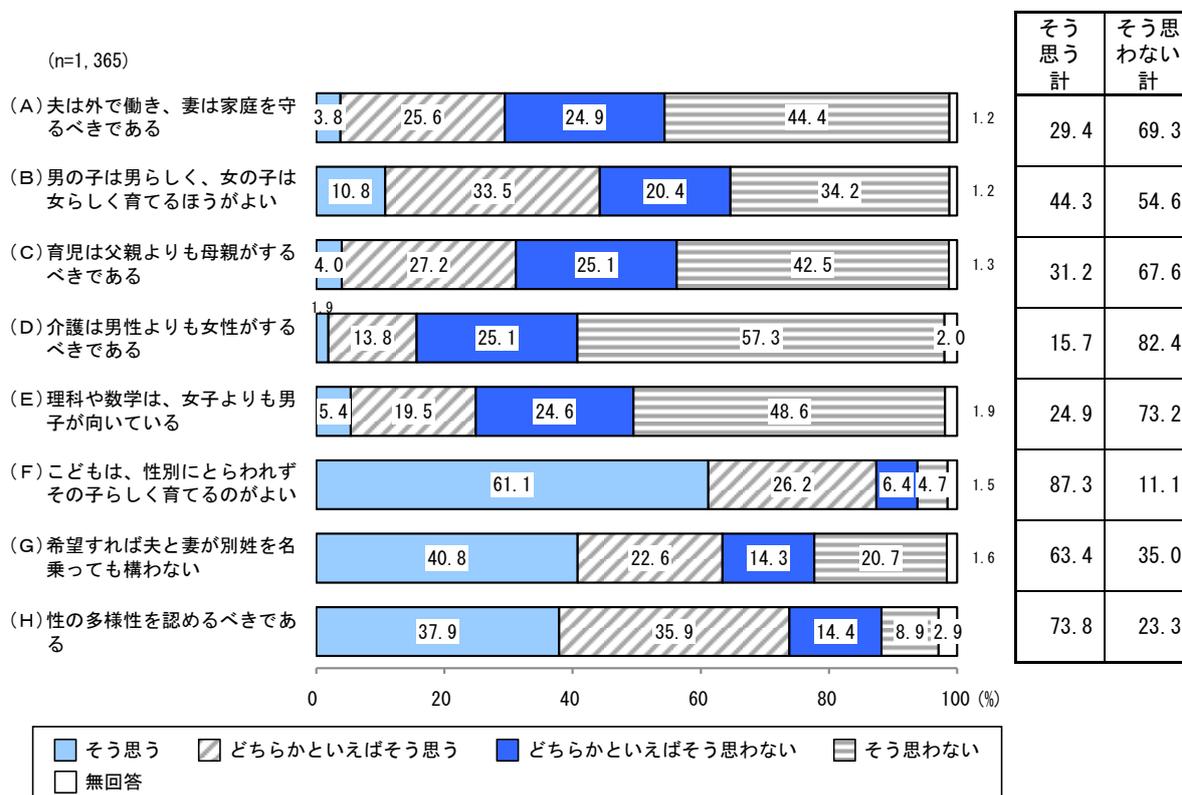
(2) 家庭生活などに関する意識について

問2 次の考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ○は一つ)

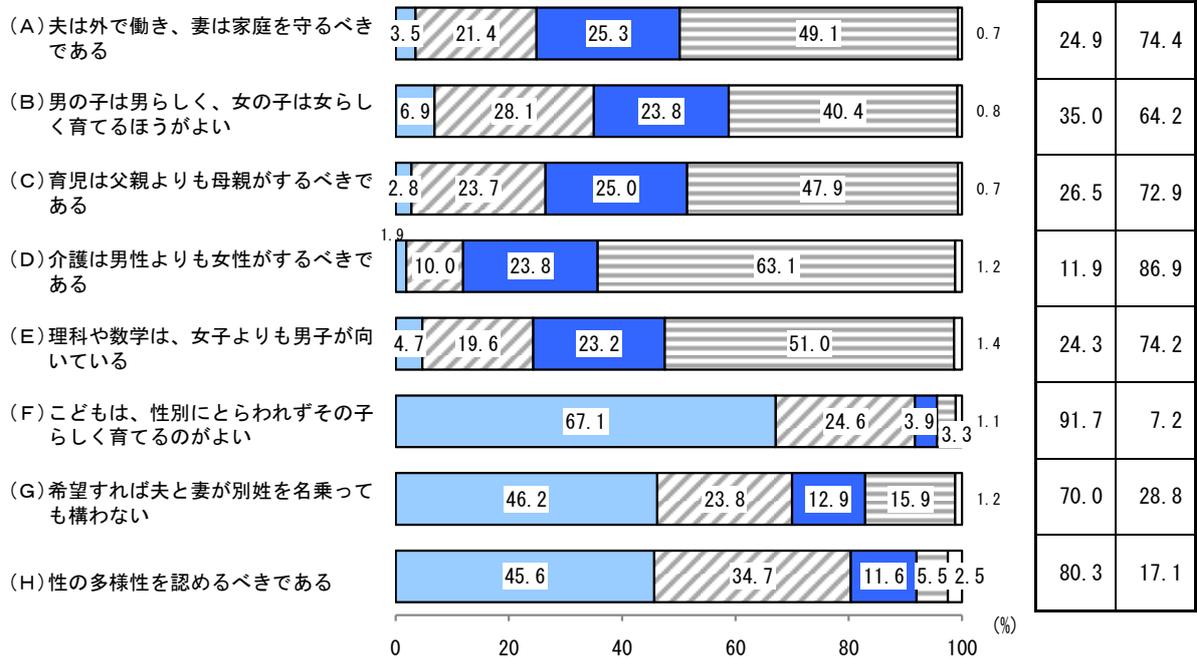
全体では、『(F) こどもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい』『(G) 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』『(H) 性の多様性を認めるべきである』では“そう思う計”の割合が“そう思わない計”を上回っている。

性別で見ると、女性の“そう思う計”の割合は『(G)希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』『(H)性の多様性を認めるべきである』で男性に比べて10ポイント以上高い。男性の“そう思う計”の割合は『(A)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』『(B)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい』『(C)育児は父親よりも母親がするべきである』で女性に比べて10ポイント以上高い。

前回調査との比較で見ると、“そう思う計”の割合は、全体では『(F) こどもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい』と『(G)希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』は前回より高くなっているが、それ以外の項目は前回より低くなっている。

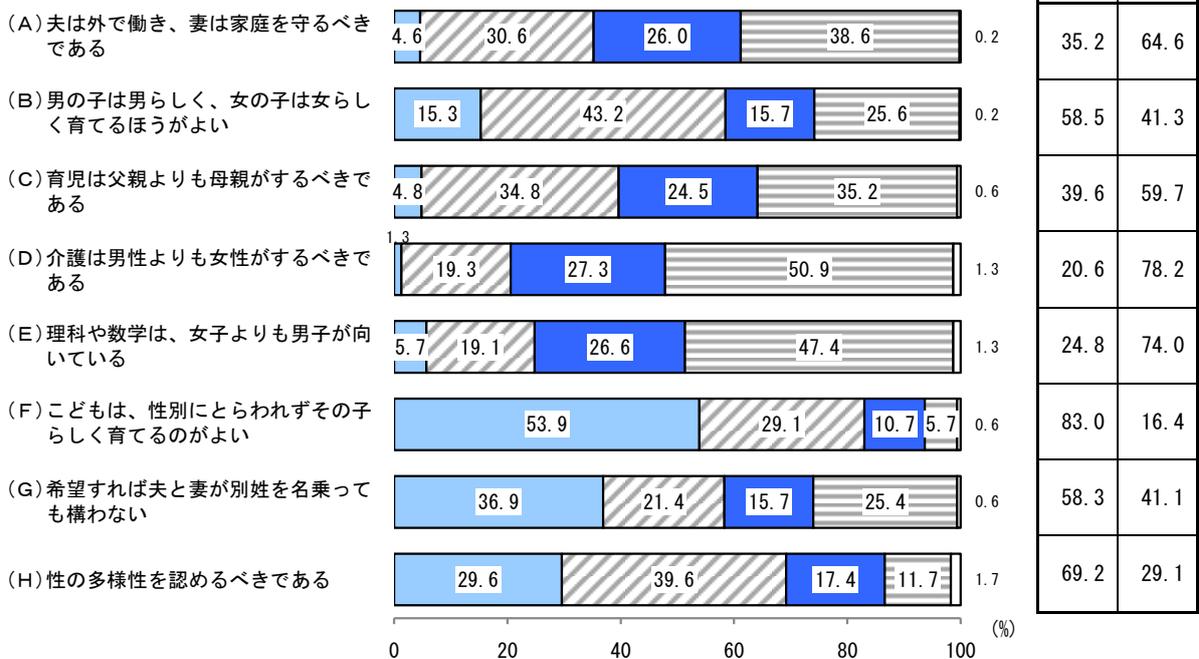


女性(n=723)



■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 無回答

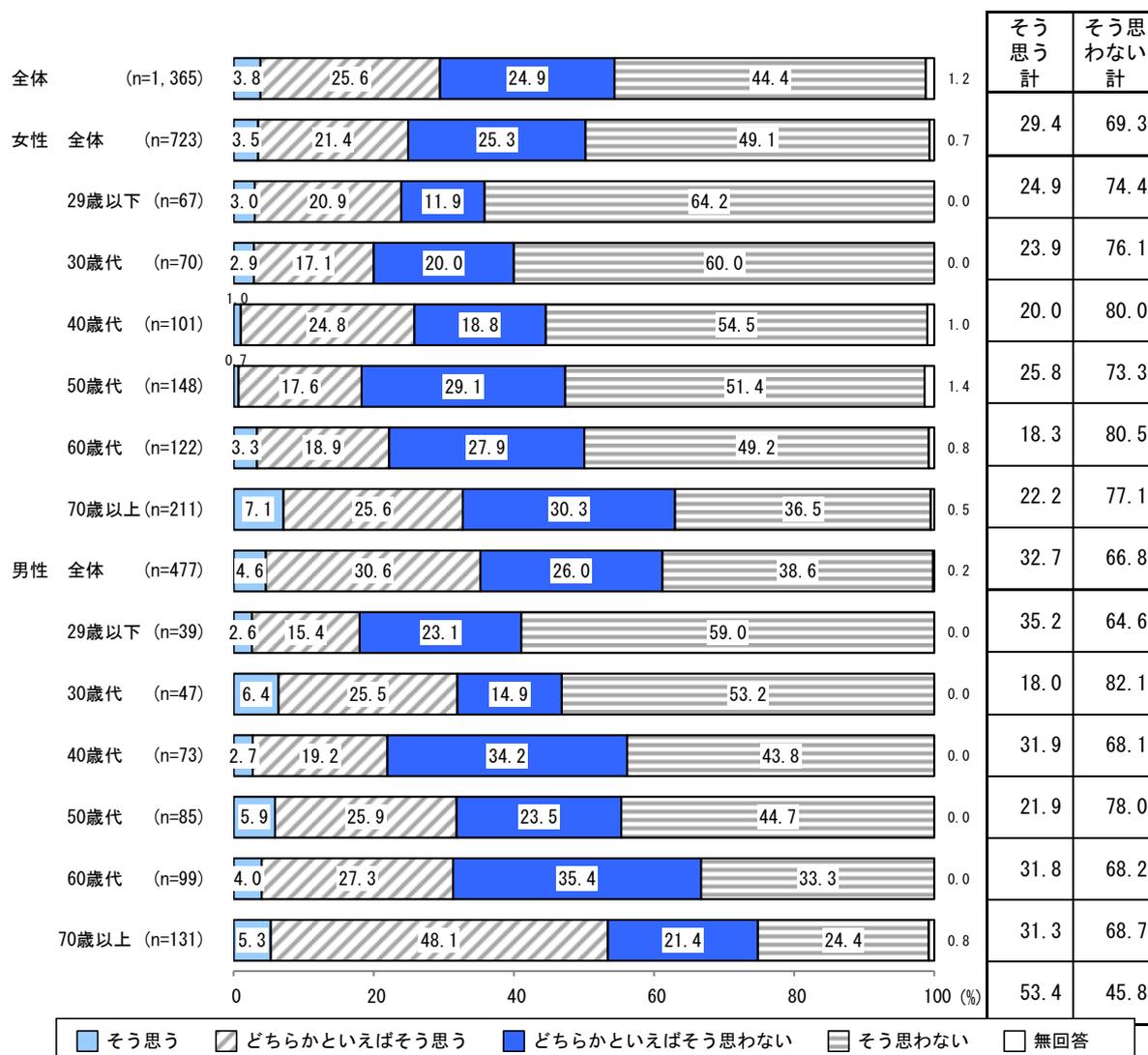
男性(n=477)



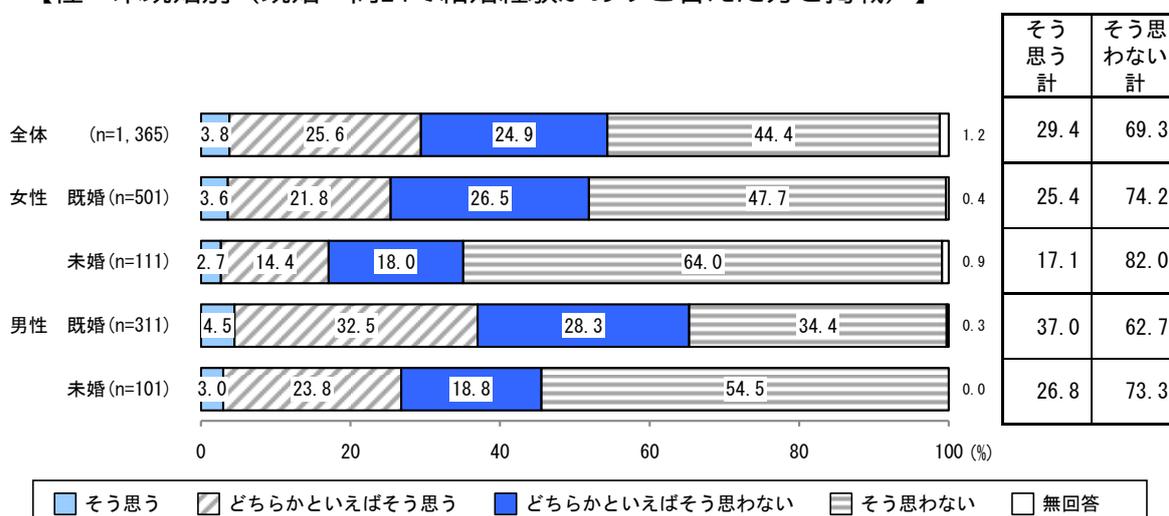
■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 無回答

(A) 夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである

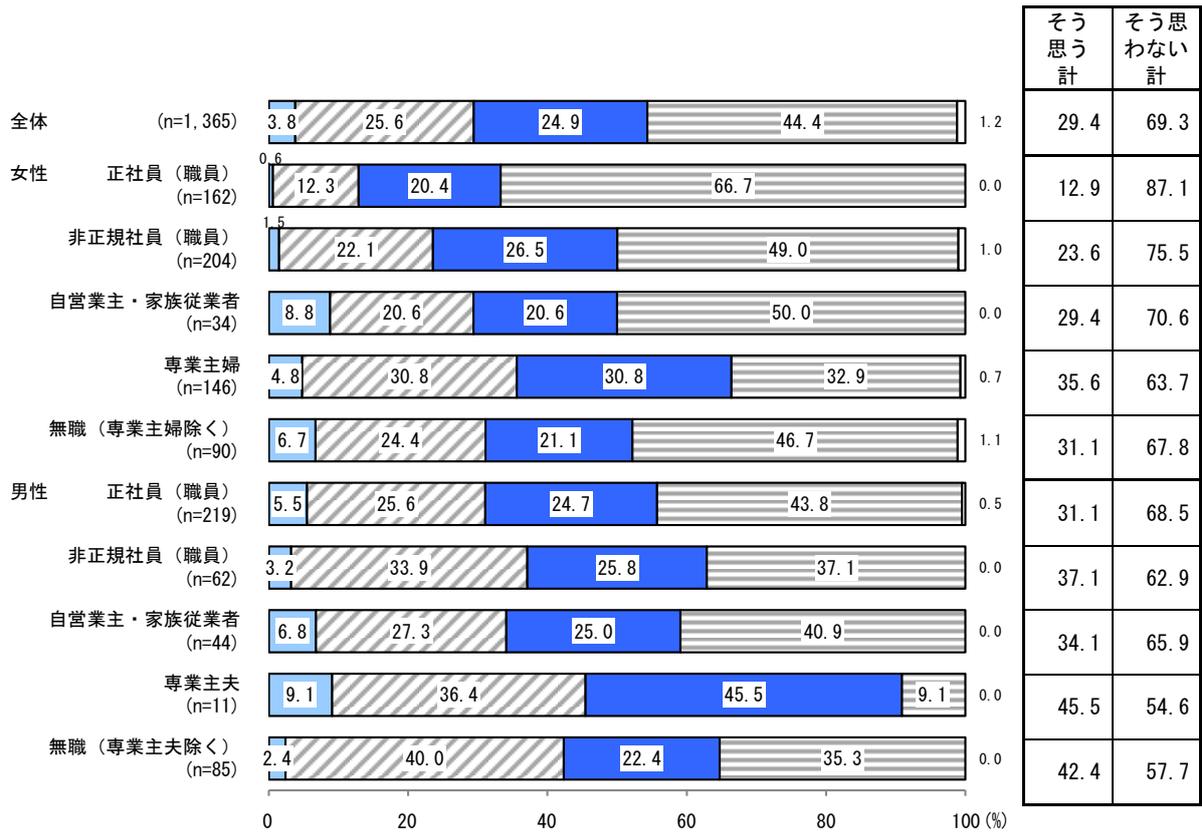
性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は概ね男女ともに年代の低い方が高く、性・未既婚別では男女ともに未婚者の方が高い。また、性・勤務形態別では特に女性の正社員（正職員）で高い。前回調査と比較すると、全体・男女ともに“そう思わない計”は高い。



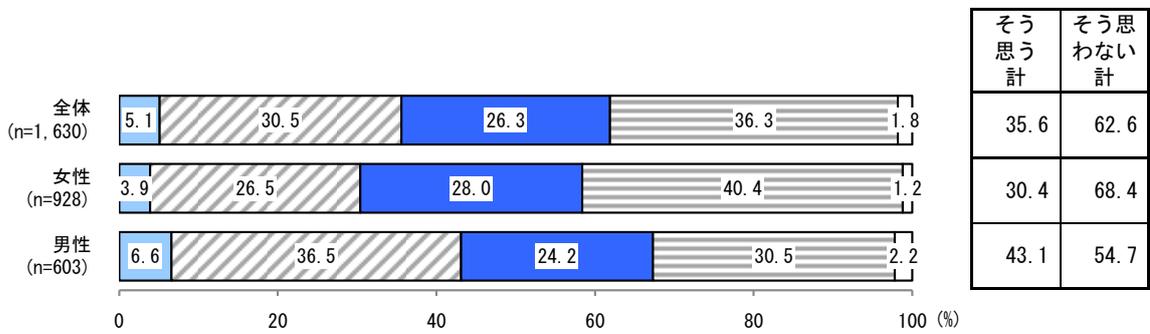
【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】



【性・勤務形態別】

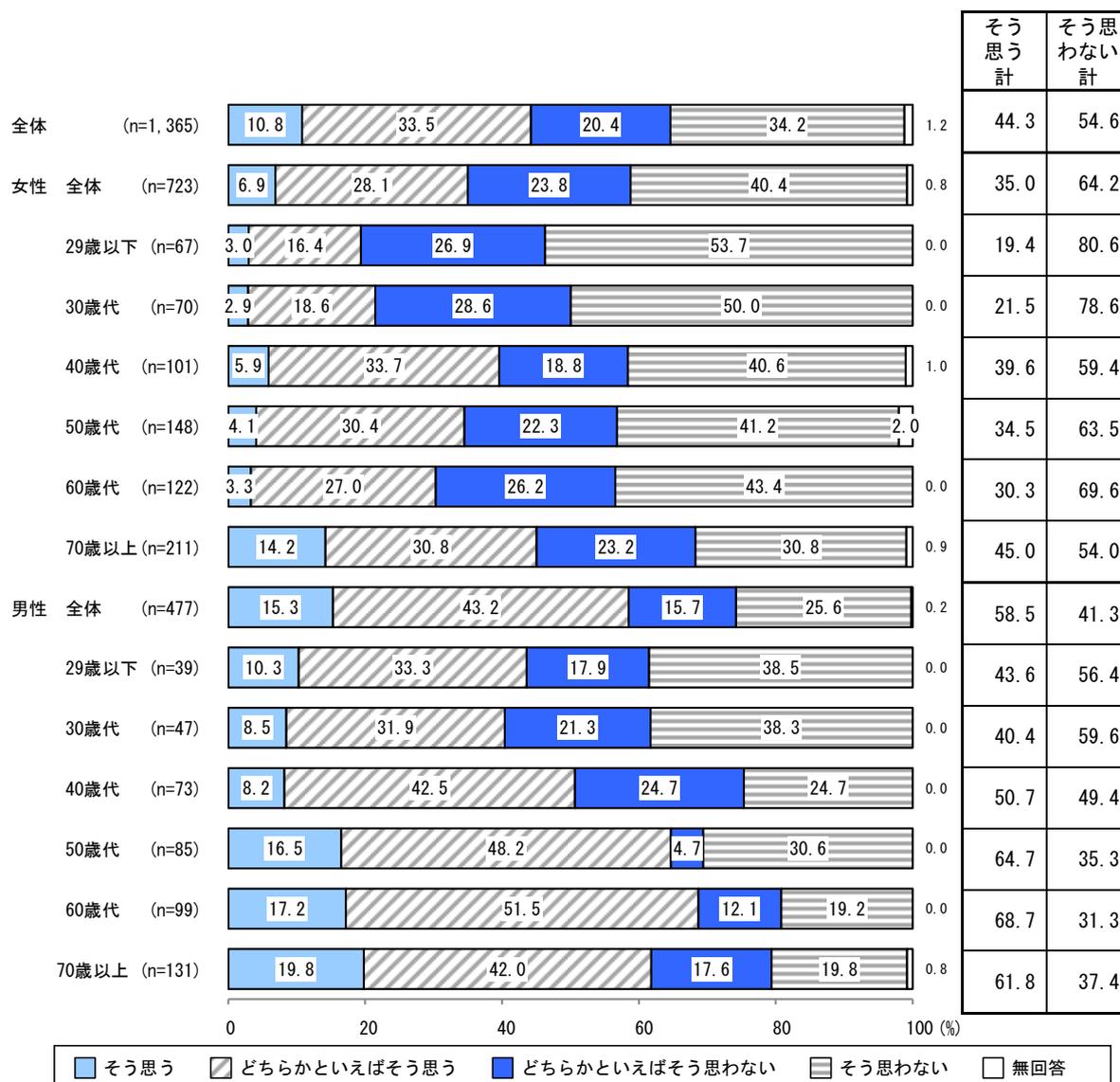


【前回調査（令和2年）】

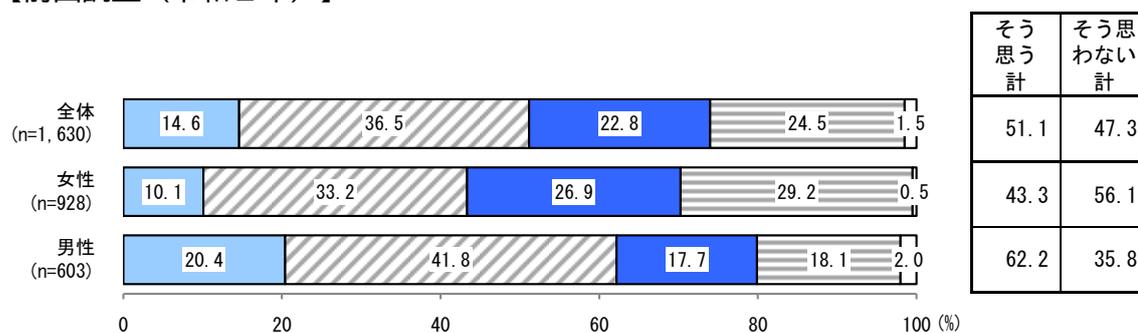


(B) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は男性の年代が高くなるにつれて低くなっており、40歳代以上で50%を下回る。全ての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、60歳代では男女差が38.3ポイントと大きくなっている。

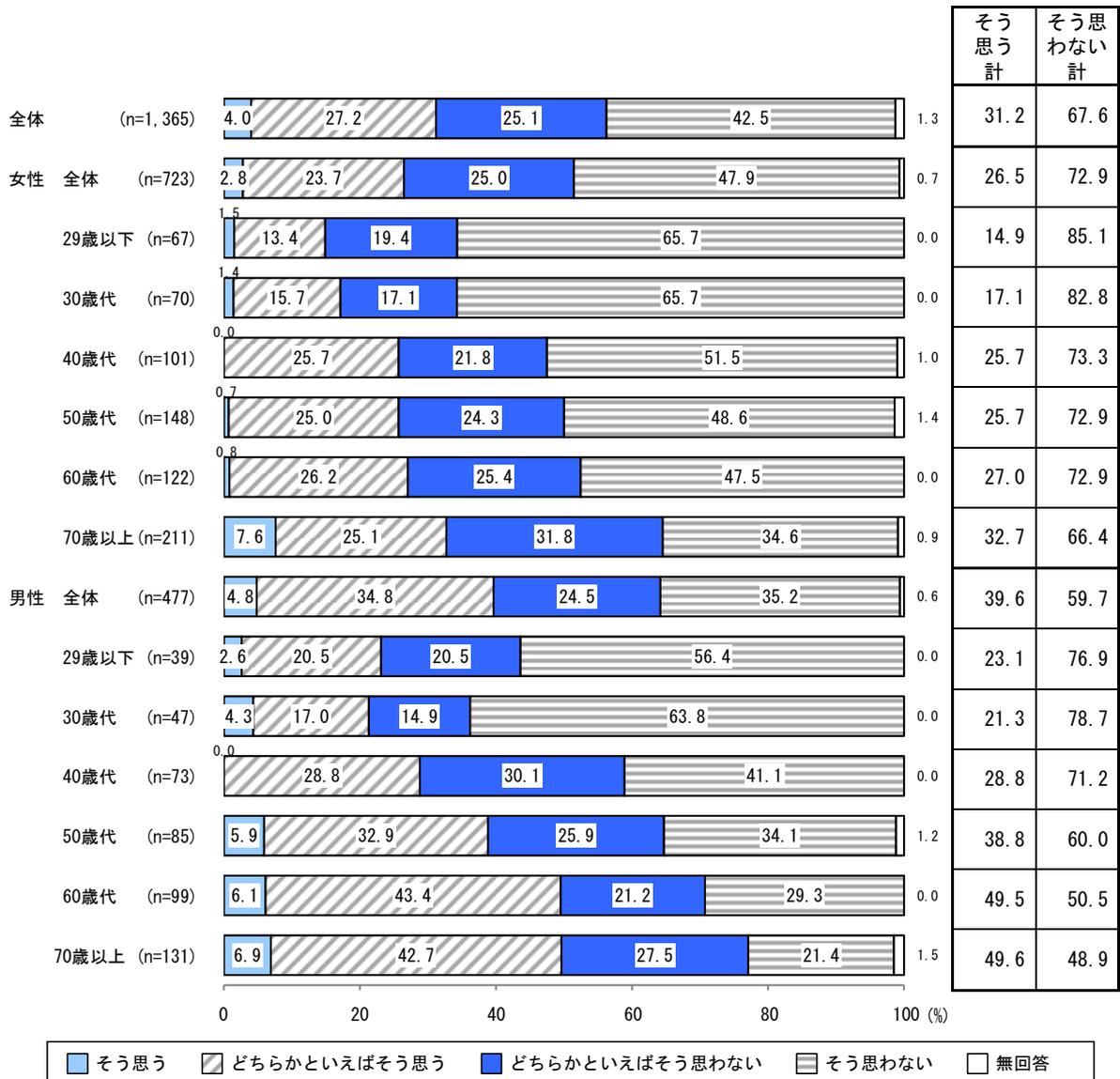


【前回調査（令和2年）】

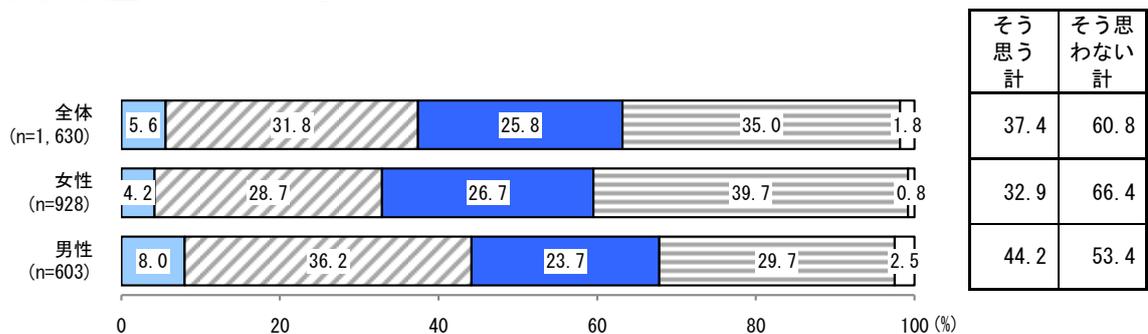


(C) 育児は父親よりも母親がすべきである

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は、女性は60歳代以下、男性は40歳代以下が70%以上と高い。全ての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、50歳代以上で男女差がより大きい。

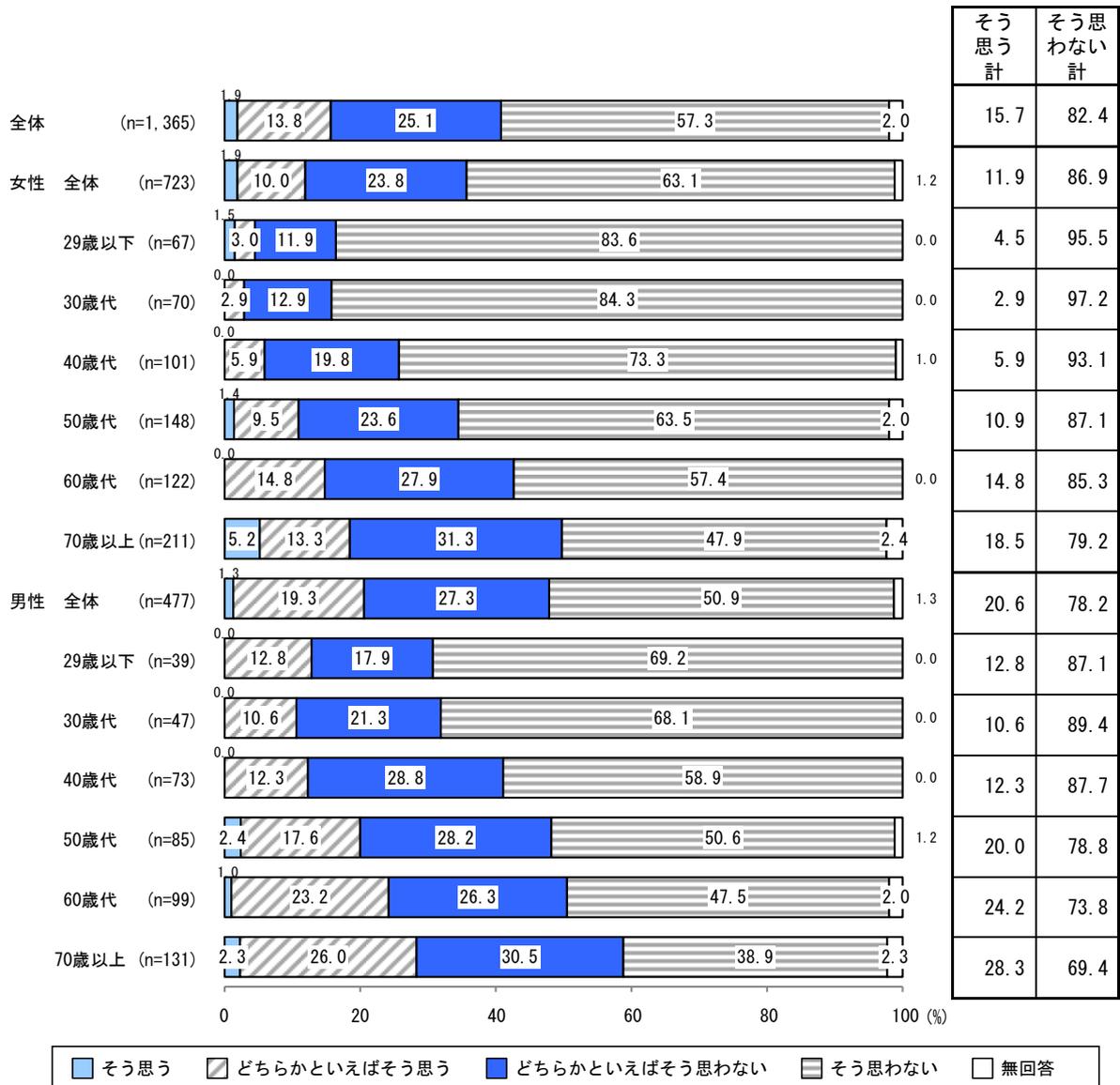


【前回調査（令和2年）】

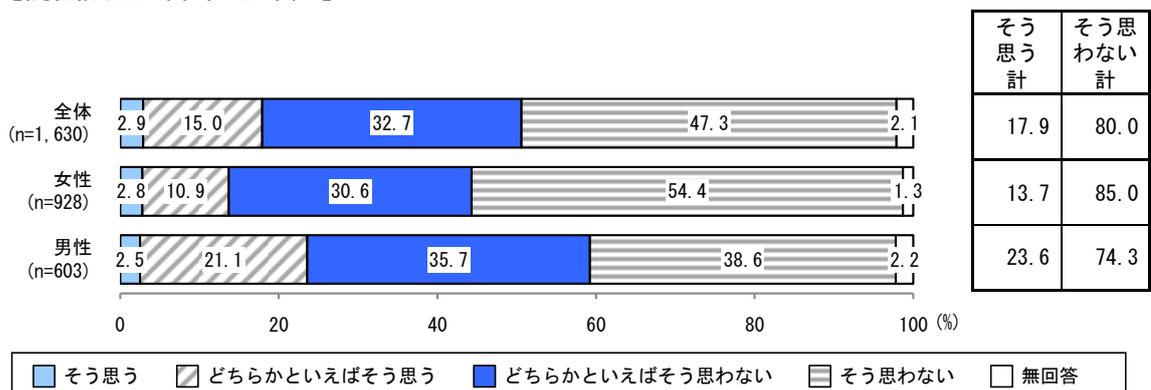


(D) 介護は男性よりも女性がすべきである

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は男女とも年代が高くなるほど概ねその割合は低い。全ての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低くなっている。

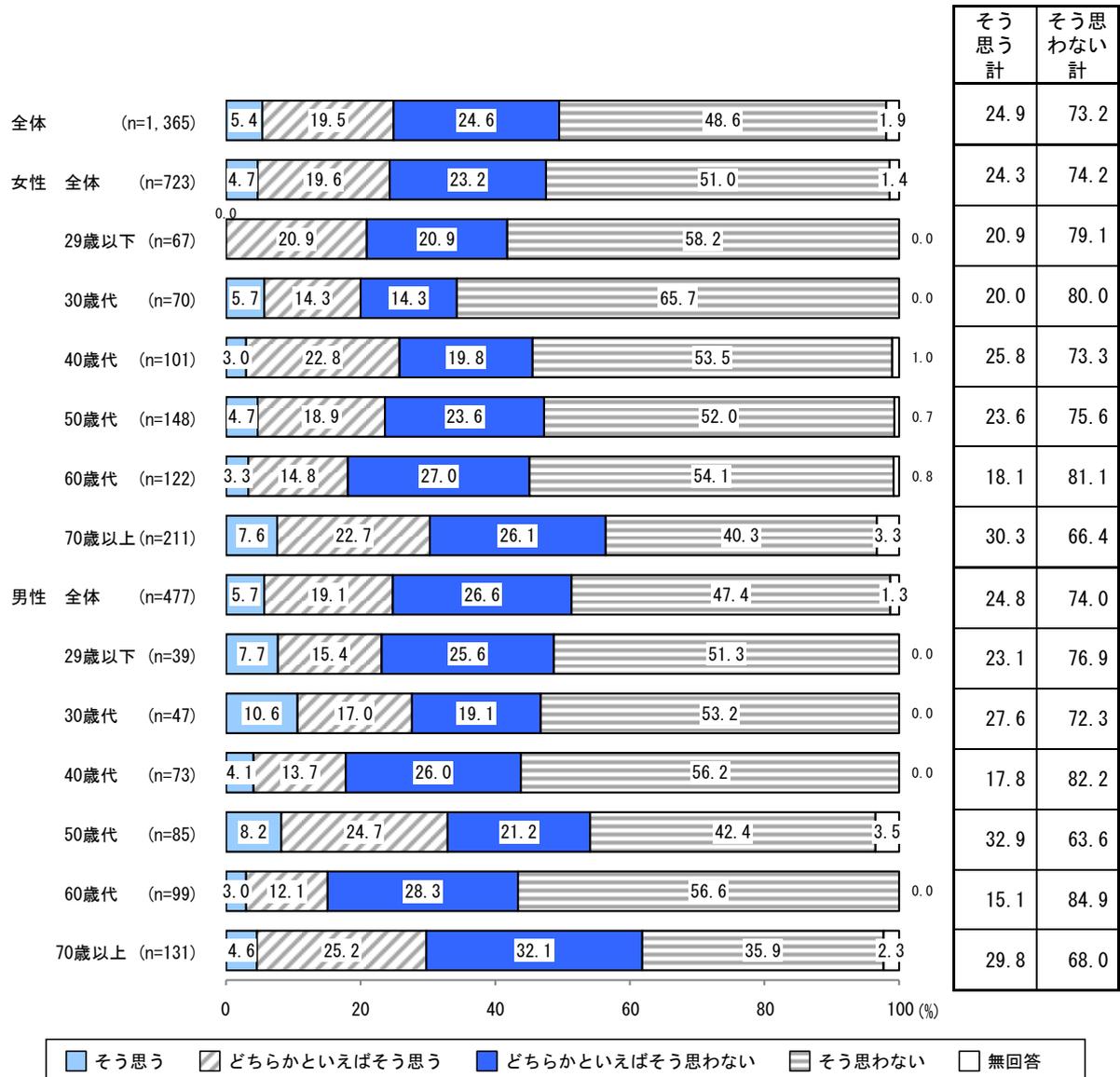


【前回調査（令和2年）】

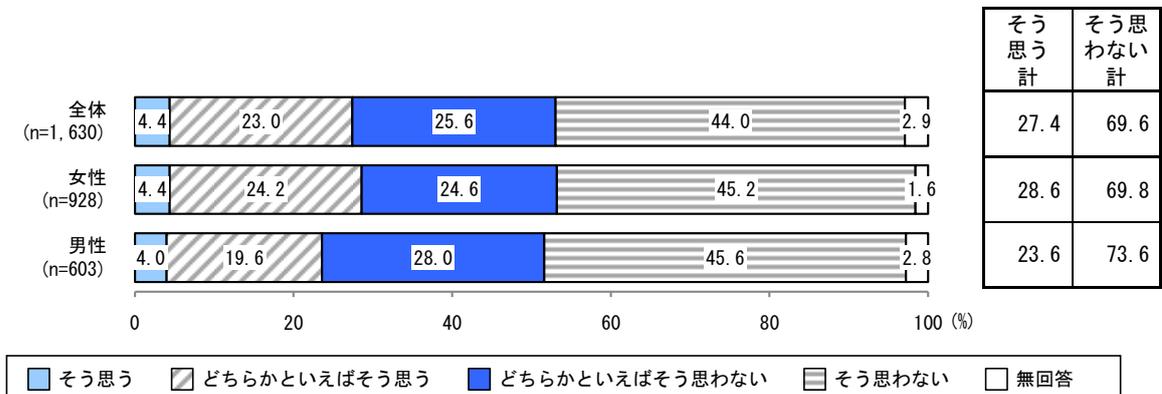


(E) 理科や数学は、女子よりも男子が向いている

性・年代別でみると、“そう思わない計”の割合は30歳代以下および50歳代で女性が男性に比べて高く、50歳代では男女差がより大きい。

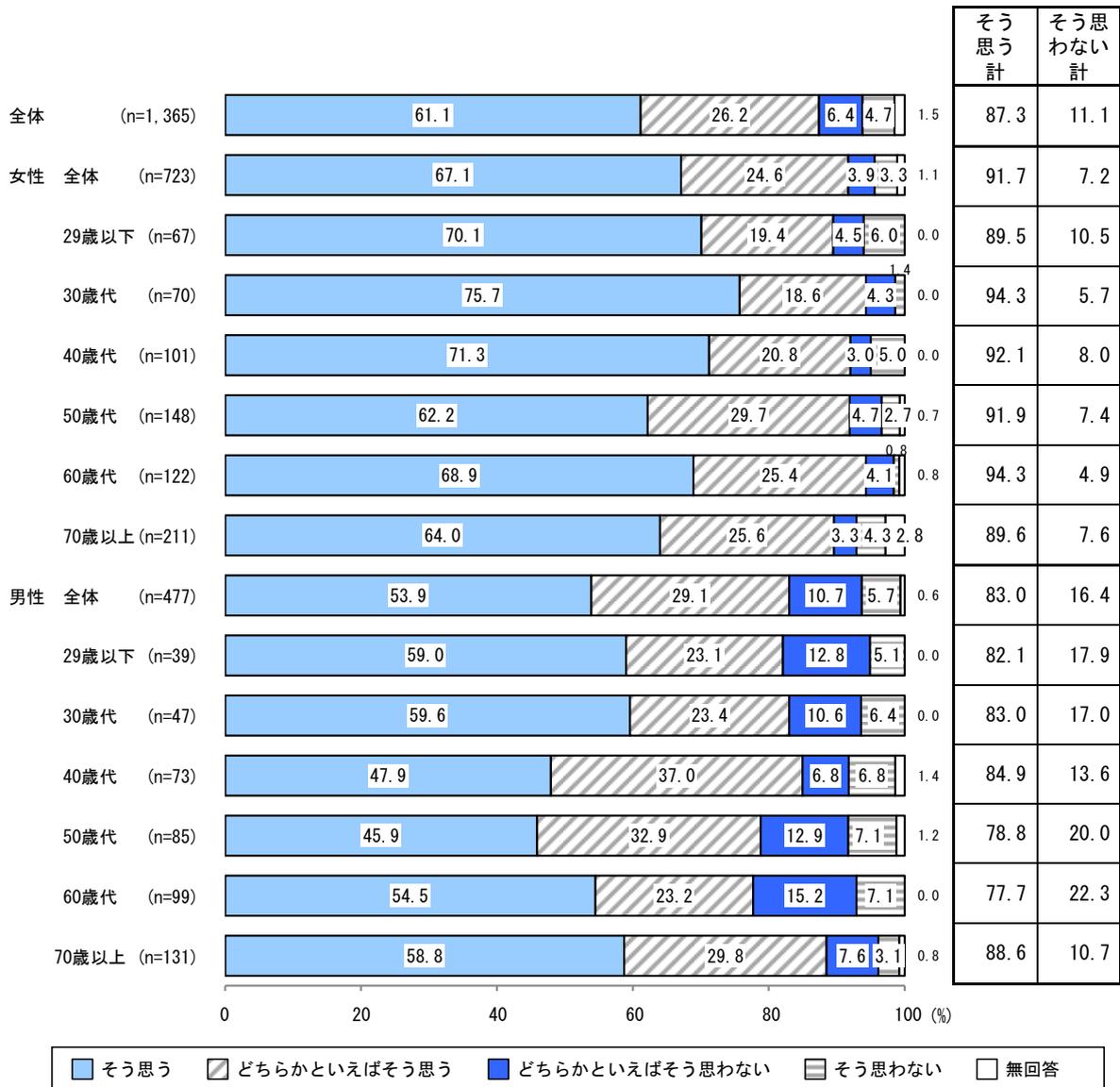


【前回調査（令和2年）】

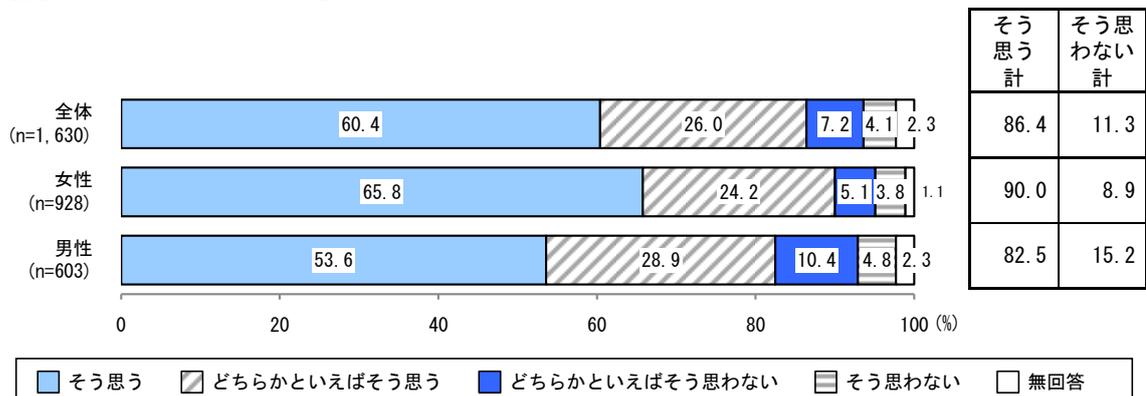


(F) 子どもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい

性・年代別で見ると、“そう思う計”の割合は男性の50・60歳代以外の全ての年代で80%を超えている。全ての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高くなっている。

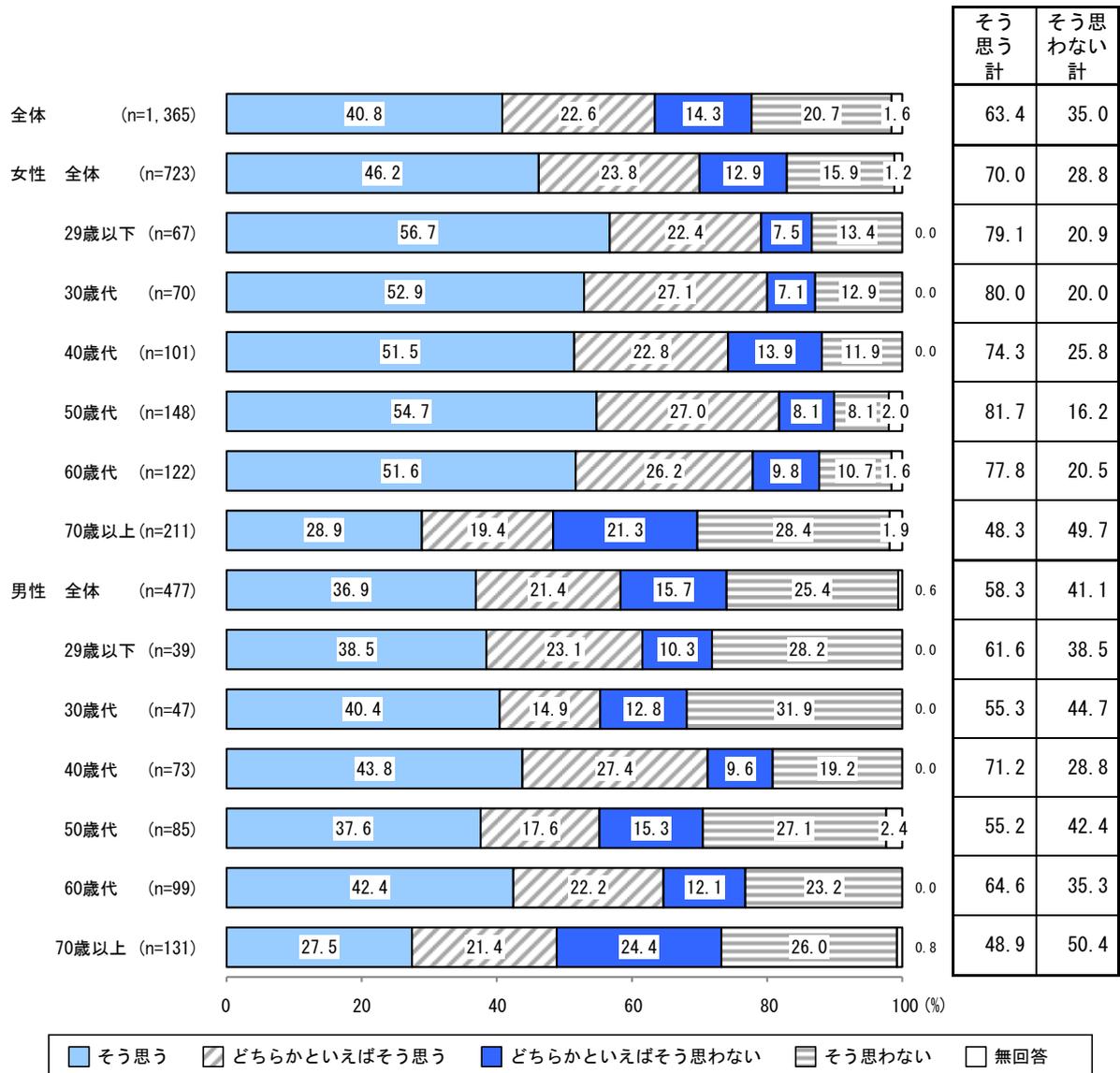


【前回調査（令和2年）】

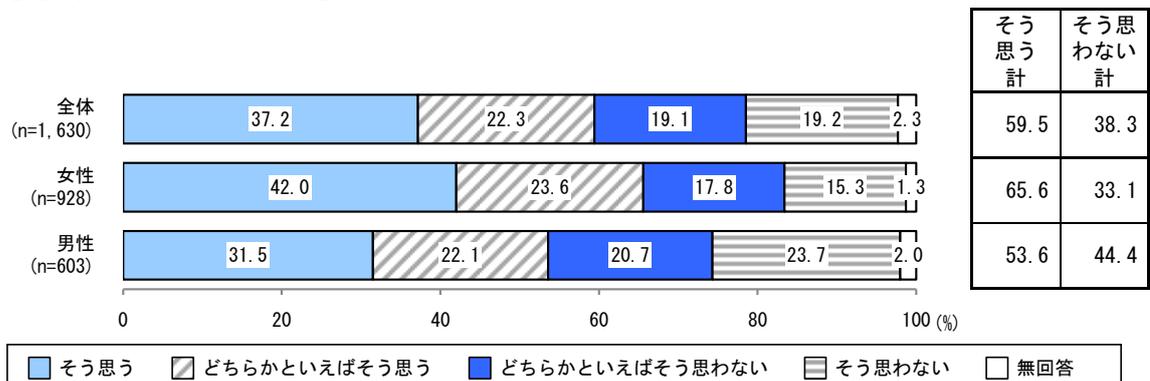


(G) 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない

性・年代別でみると、“そう思う計”の割合は女性の60歳代までの年代では70~80%を占めている。70歳以上を除く全ての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高く、50歳代で男女差がより大きい。

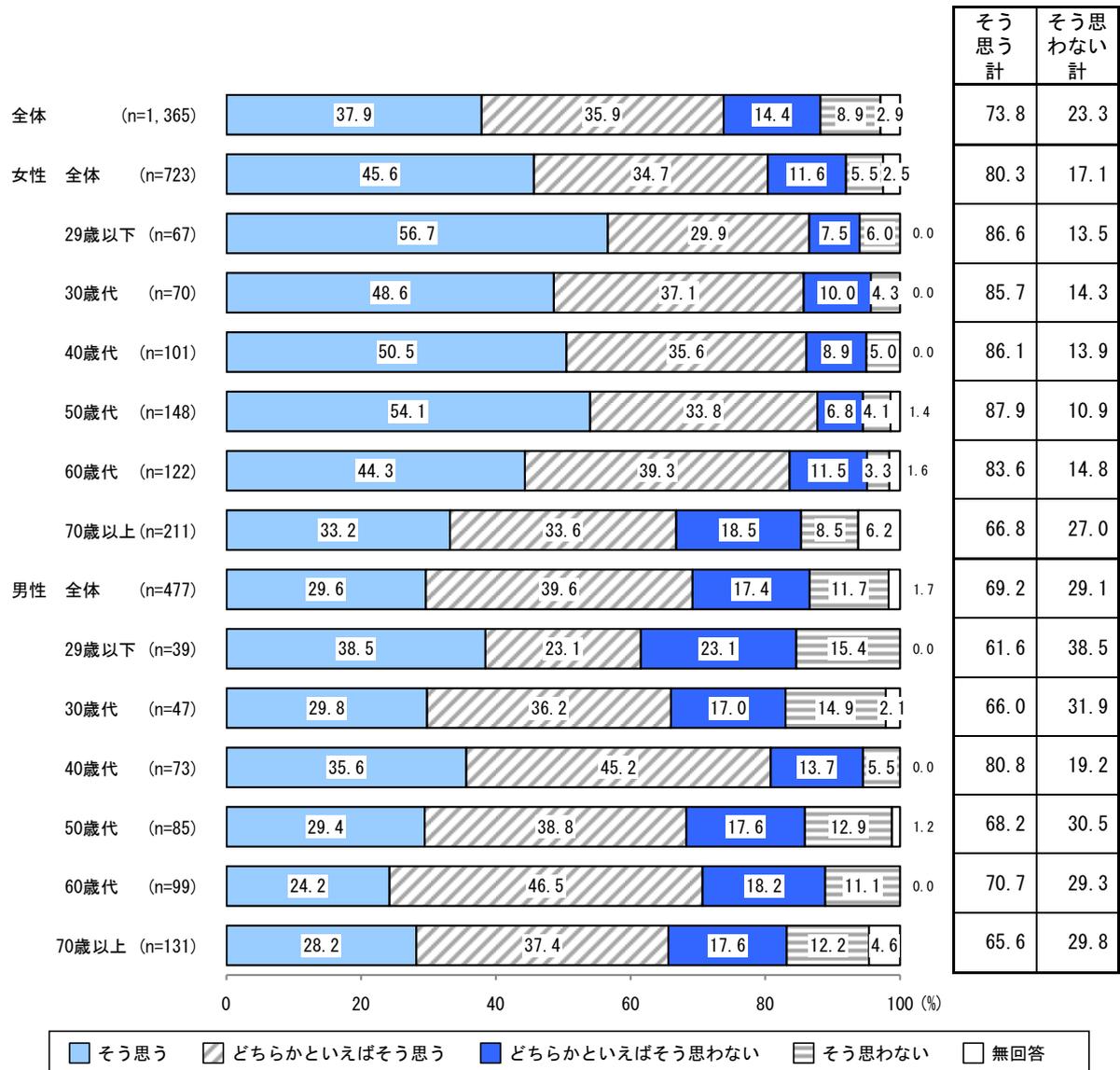


【前回調査（令和2年）】

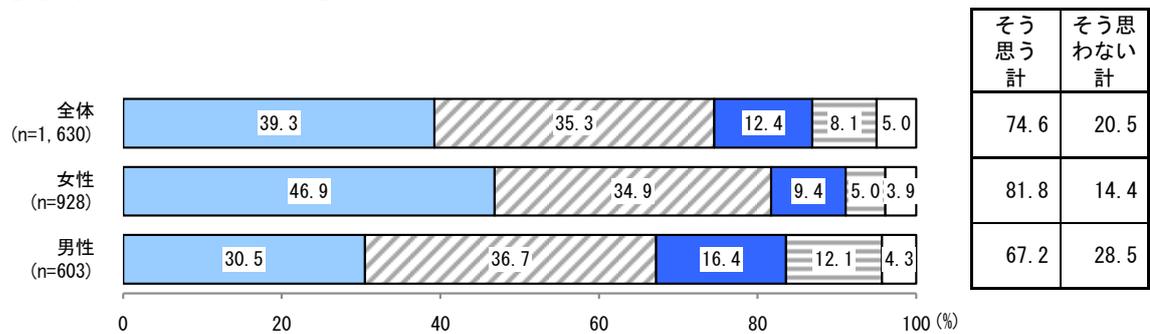


(H) 性の多様性を認めるべきである

性・年代別でみると、“そう思う計”の割合は女性の60歳代までの年代および男性の40歳代で80%台と高い。全ての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高く、29歳以下で男女差がより大きい。



【前回調査（令和2年）】



(3) もっと女性が増えた方がよい職業や役職

問3 あなたが、今後女性が増えた方がよいと思う職業や役職はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「国会議員・地方議員などの政治家」が59.8%で最も多く、次いで「医師」が56.7%となっている。

性別で見ると、女性では「医師」が62.5%で最も多く、男性に比べて11.1ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体ではいずれの項目も前回より割合が高く、前回調査では「医師」が54.9%で最も高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
大臣や閣僚	56.2	57.1	61.0	49.1	53.4	43.3
地方自治体の首長（知事、市長など）	54.6	55.6	57.9	47.7	49.2	46.4
国会議員・地方議員などの政治家	59.8	60.9	63.1	53.1	56.1	49.3
国家公務員・地方公務員の管理職	48.1	49.0	49.9	42.8	46.7	37.3
裁判官・検察官・弁護士	50.0	54.4	47.0	44.4	49.5	38.1
大学教授	35.8	36.5	37.7	29.4	31.3	27.4
企業の管理職	53.3	55.5	52.4	46.1	48.9	43.0
起業家・経営者	42.6	43.8	43.8	38.3	41.2	35.3
団体（組合、NPO、自治会等）の役員	36.9	37.3	37.5	28.6	29.6	26.4
学校長・大学学長	36.3	37.3	37.1	29.3	32.2	25.9
新聞・放送の記者	30.7	31.0	30.4	24.7	27.2	21.1
医師	56.7	62.5	51.4	54.9	59.5	49.1
科学者	34.7	34.0	35.4	28.5	29.7	27.4
その他	3.6	2.6	6.1	1.7	1.5	2.0
特にない	12.4	10.4	13.6	13.3	11.2	16.1
無回答	1.0	0.7	0.2	2.5	2.0	2.8

2 家庭生活などに関する意識について

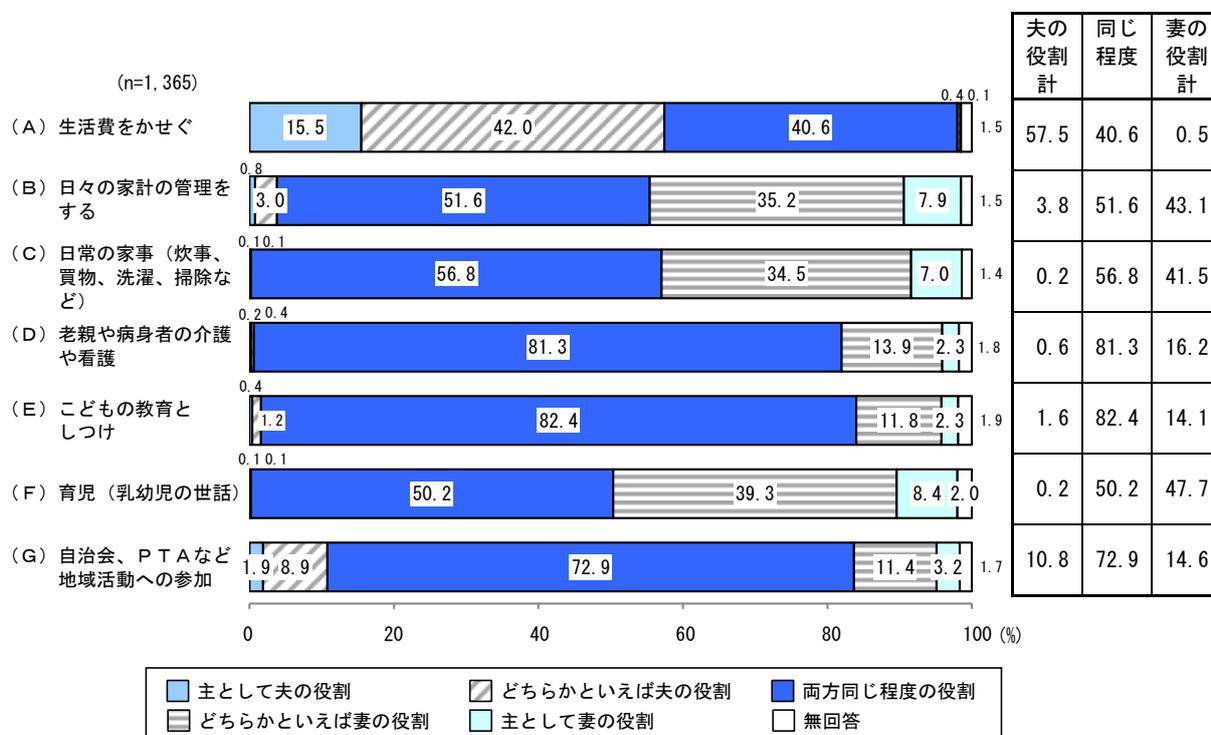
(1) 夫婦間の役割分担意識

問4 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者・パートナーがいない方は、仮にしていることを想定してお答えください。（それぞれ〇は一つ）
※「配偶者・パートナー」には、婚姻届を出していない事実婚の相手も含まれます。

全体では、『(A)生活費を稼ぐ』は“夫の役割計”が57.5%と高いが、それ以外の項目は「同じ程度」の割合が最も高くなっている。

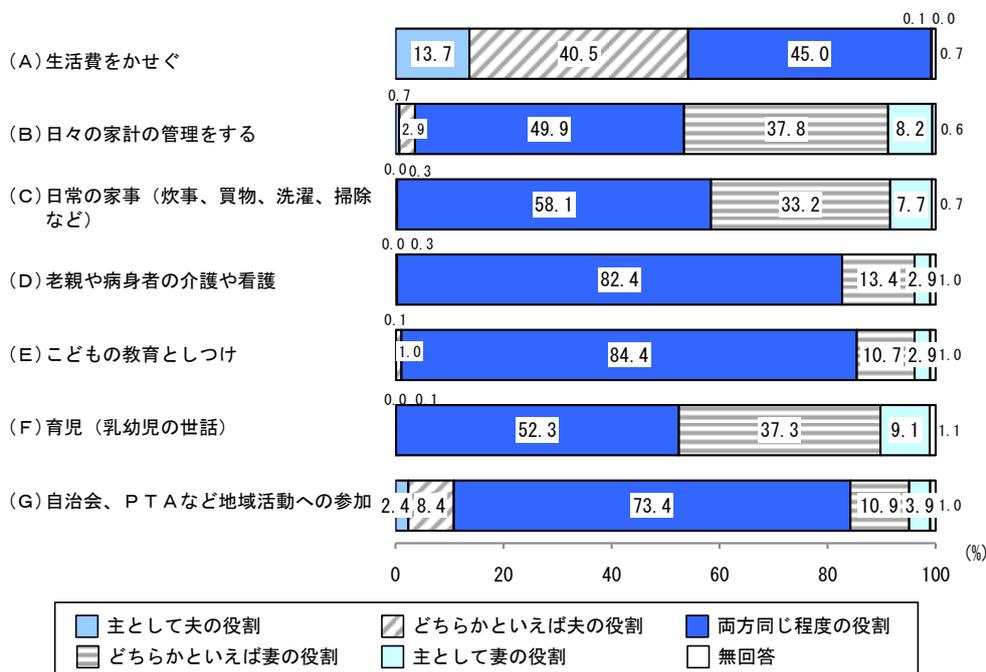
性別でみると、『(A)生活費を稼ぐ』では“夫の役割計”が女性より男性のほうが10.4ポイント高い以外は、男女間で“夫の役割計”の割合や“妻の役割計”の割合に大きな差はみられない。

前回調査との比較でみると、全体では「同じ程度」の割合はいずれの項目も前回より高くなっている。



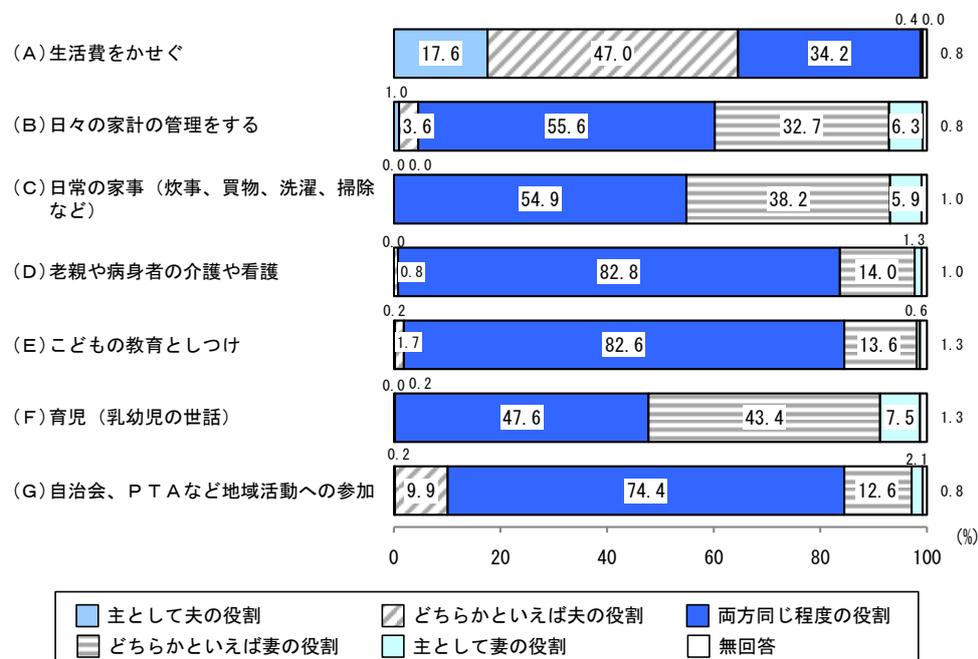
※夫の役割計：「主として夫の役割」「どちらかといえば夫の役割」をあわせた値
 妻の役割計：「主として妻の役割」「どちらかといえば妻の役割」をあわせた値

女性(n=723)



夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
54.2	45.0	0.1
3.6	49.9	46.0
0.3	58.1	40.9
0.3	82.4	16.3
1.1	84.4	13.6
0.1	52.3	46.4
10.8	73.4	14.8

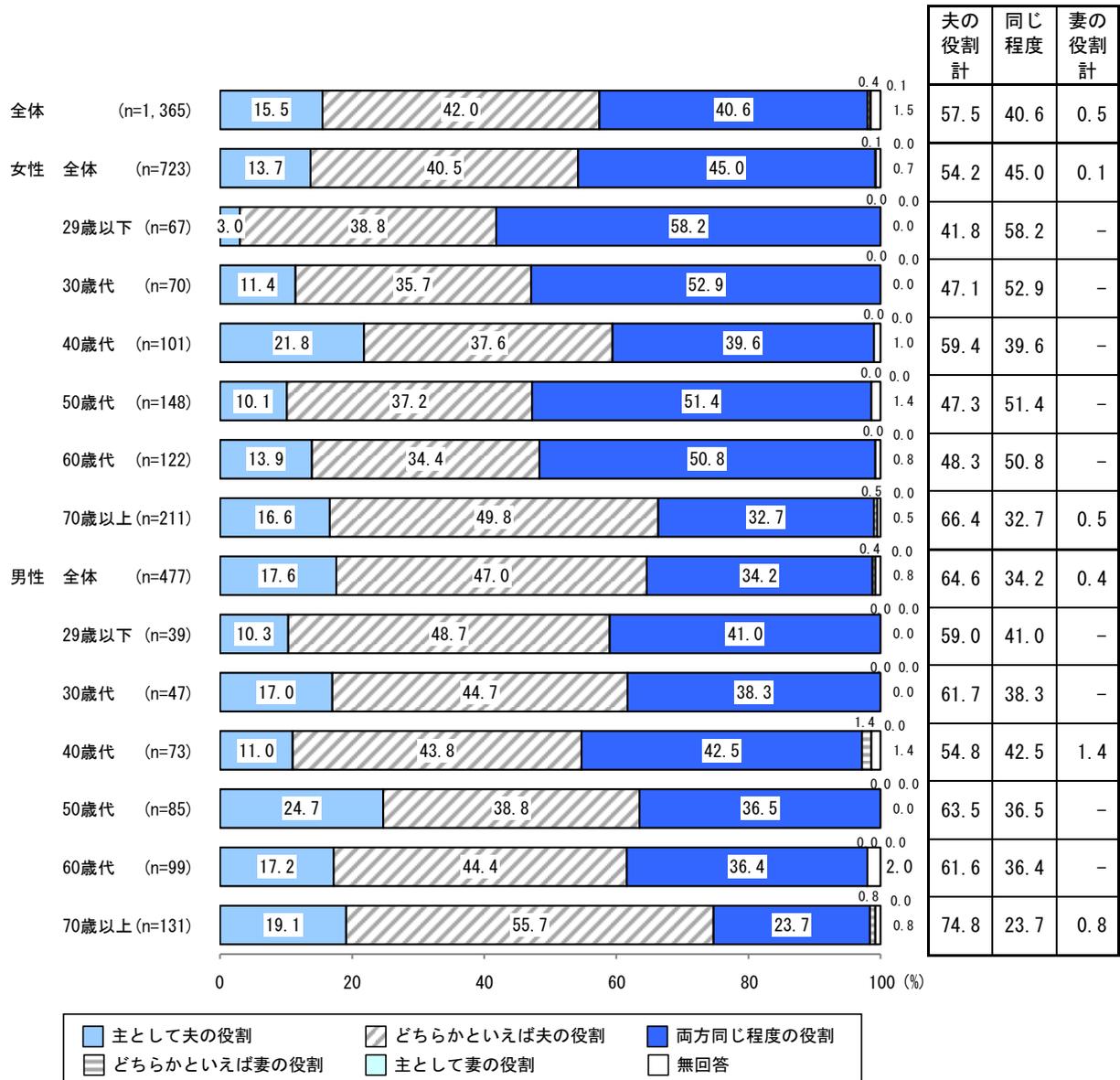
男性(n=477)



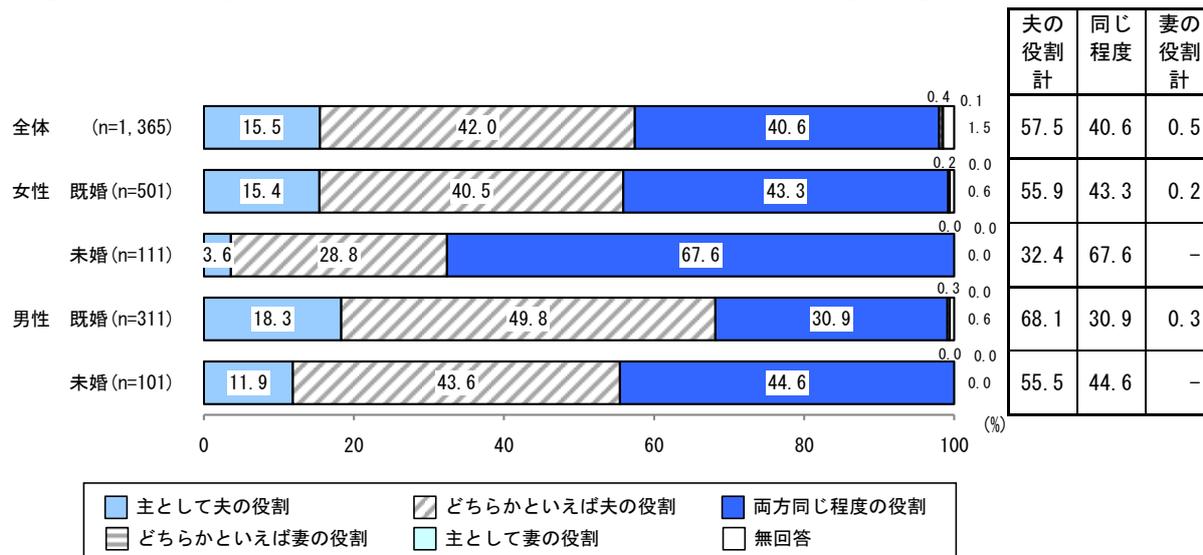
夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
64.6	34.2	0.4
4.6	55.6	39.0
-	54.9	44.1
0.8	82.8	15.3
1.9	82.6	14.2
0.2	47.6	50.9
10.1	74.4	14.7

(A) 生活費をかせぐ

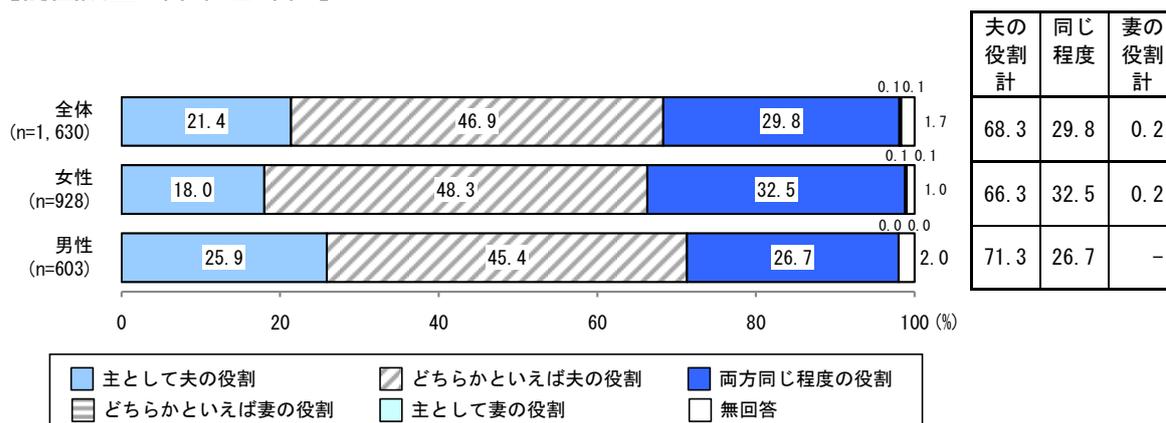
性・年代別でみると、“夫の役割計”の割合は40歳代では男性より女性のほうが高いが、それ以外の年代は男性のほうが高くなっている。



【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】

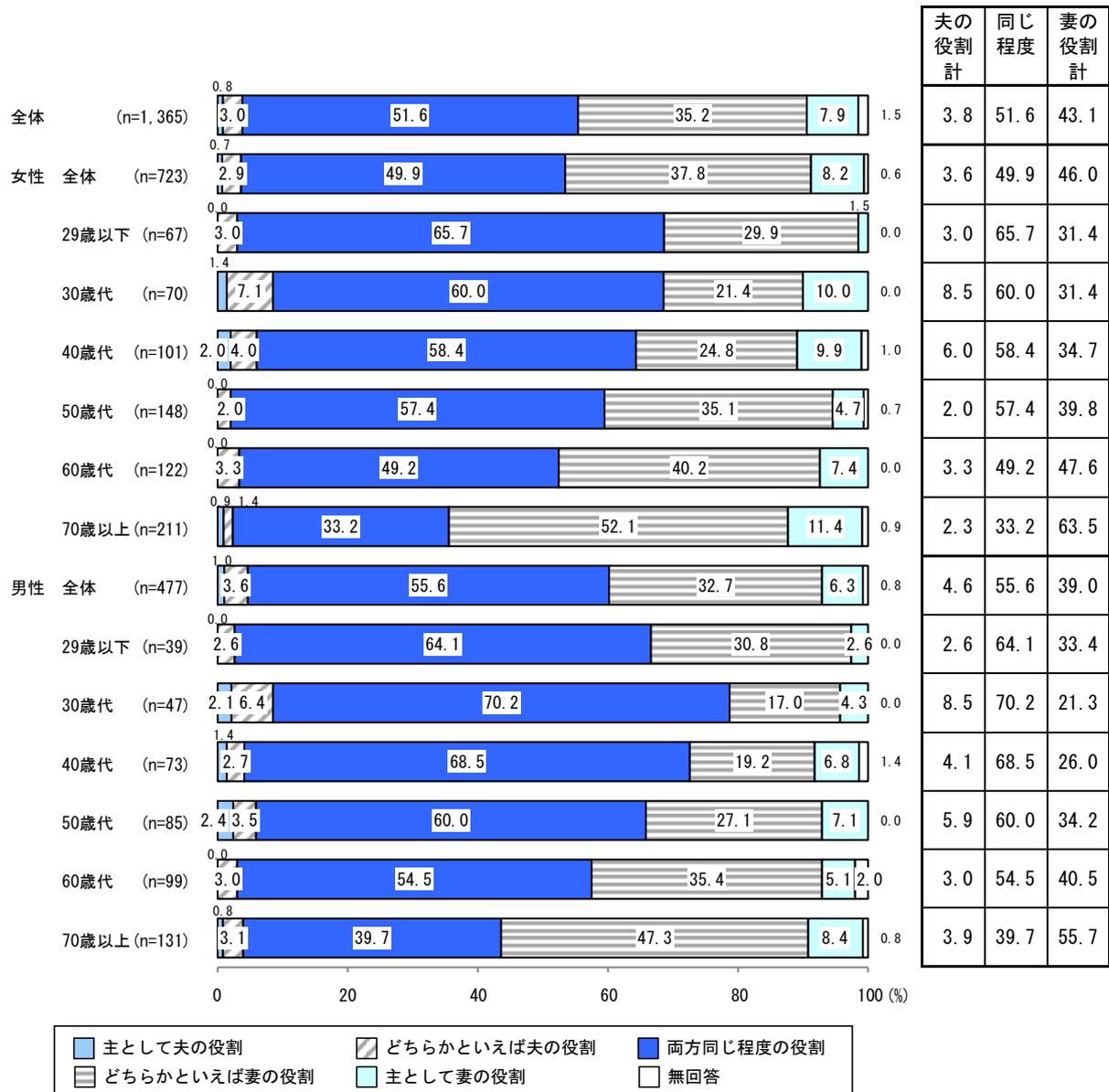


【前回調査（令和2年）】

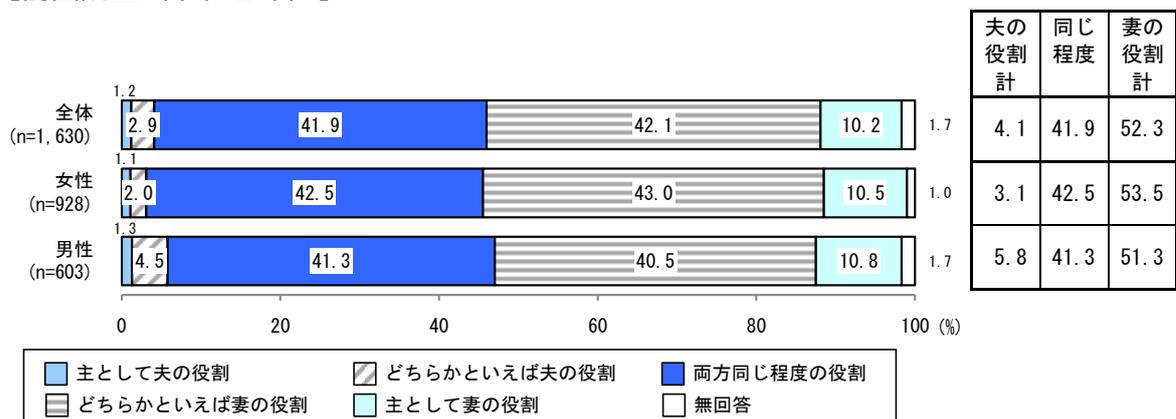


(B) 日々の家計の管理をする

性・年代別でみると、“妻の役割計”の割合は男女ともに概ね高齢になるほど割合が高く、男女とも70歳以上が最も高くなっている。30歳代以上女性の“妻の役割計”の割合が男性に比べて高い。



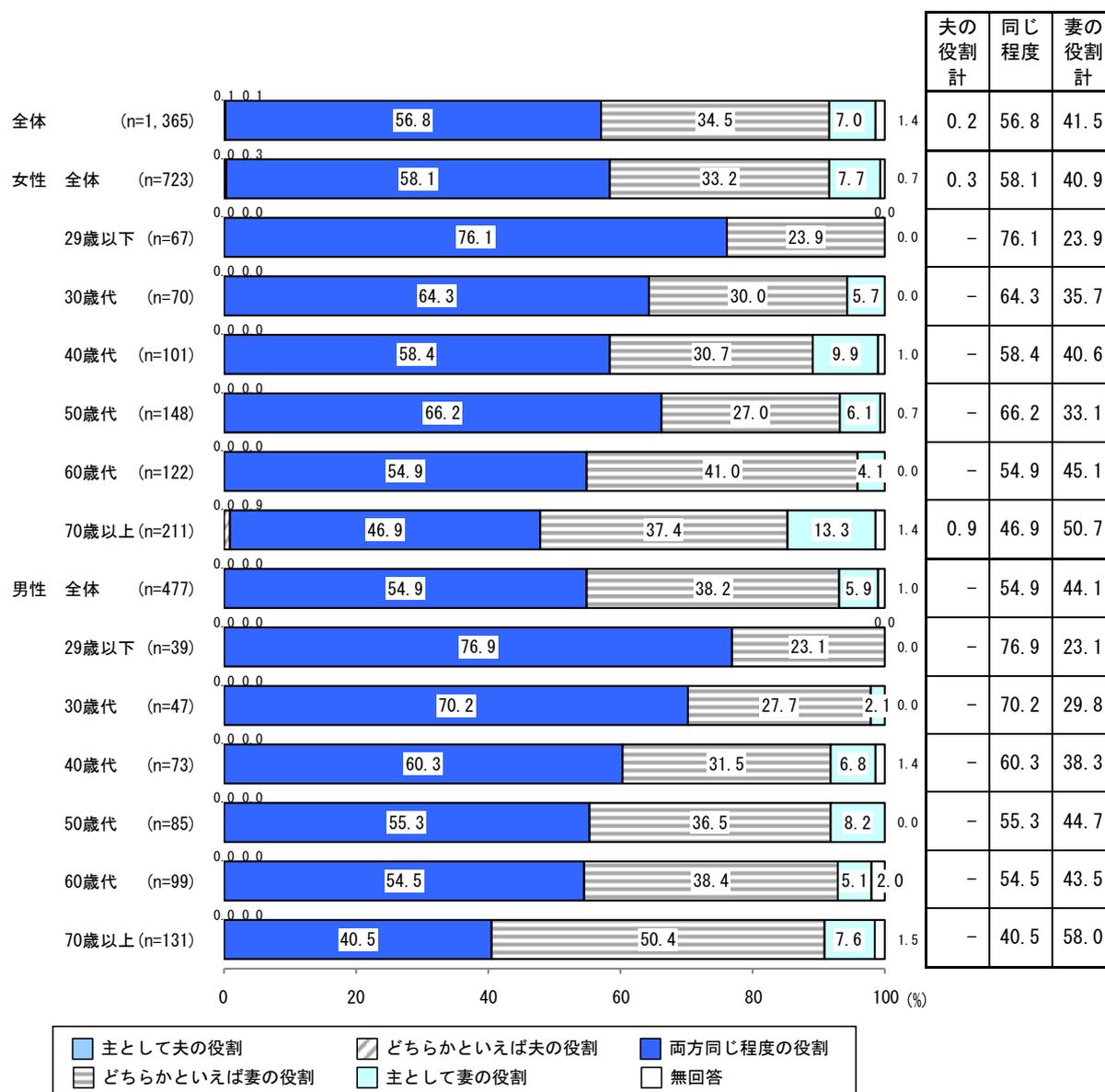
【前回調査（令和2年）】



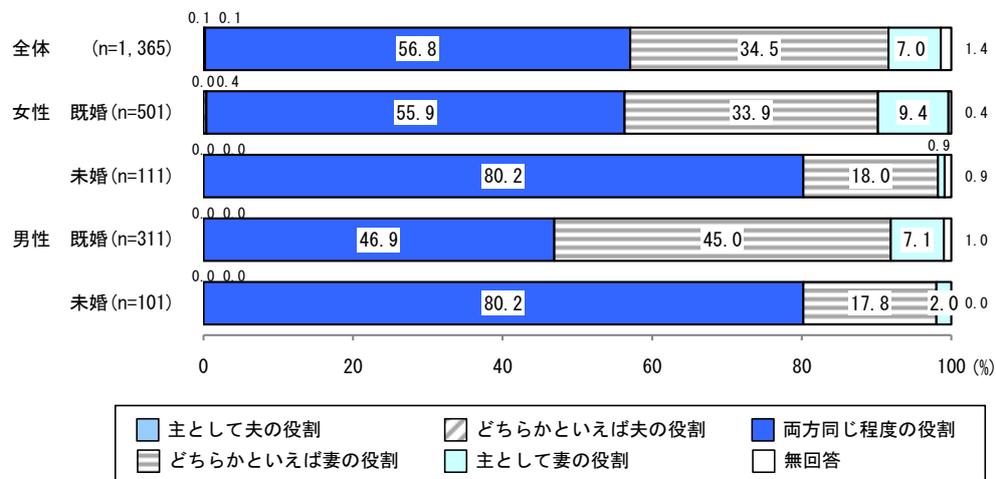
(C) 日常の家事

性・年代別でみると、“妻の役割計”の割合は男女ともに30歳代以下で低く、「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えている。50歳代男性の“妻の役割計”の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。

性・未既婚別でみると、“妻の役割計”の割合は男女ともに未婚より既婚のほうが高い。

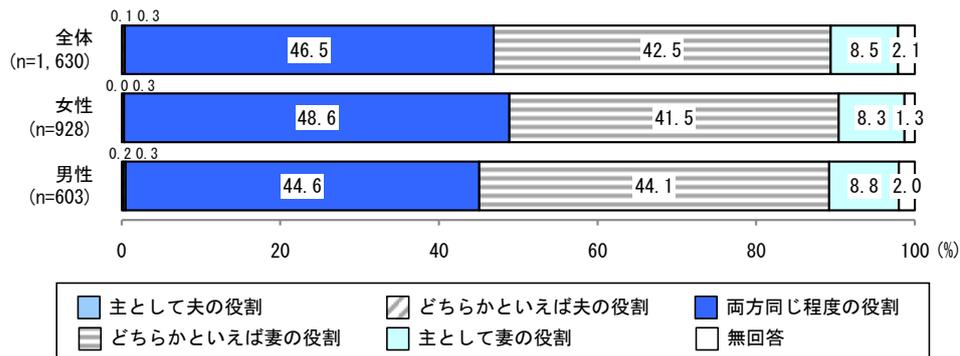


【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】



夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.2	56.8	41.5
0.4	55.9	43.3
-	80.2	18.9
-	46.9	52.1
-	80.2	19.8

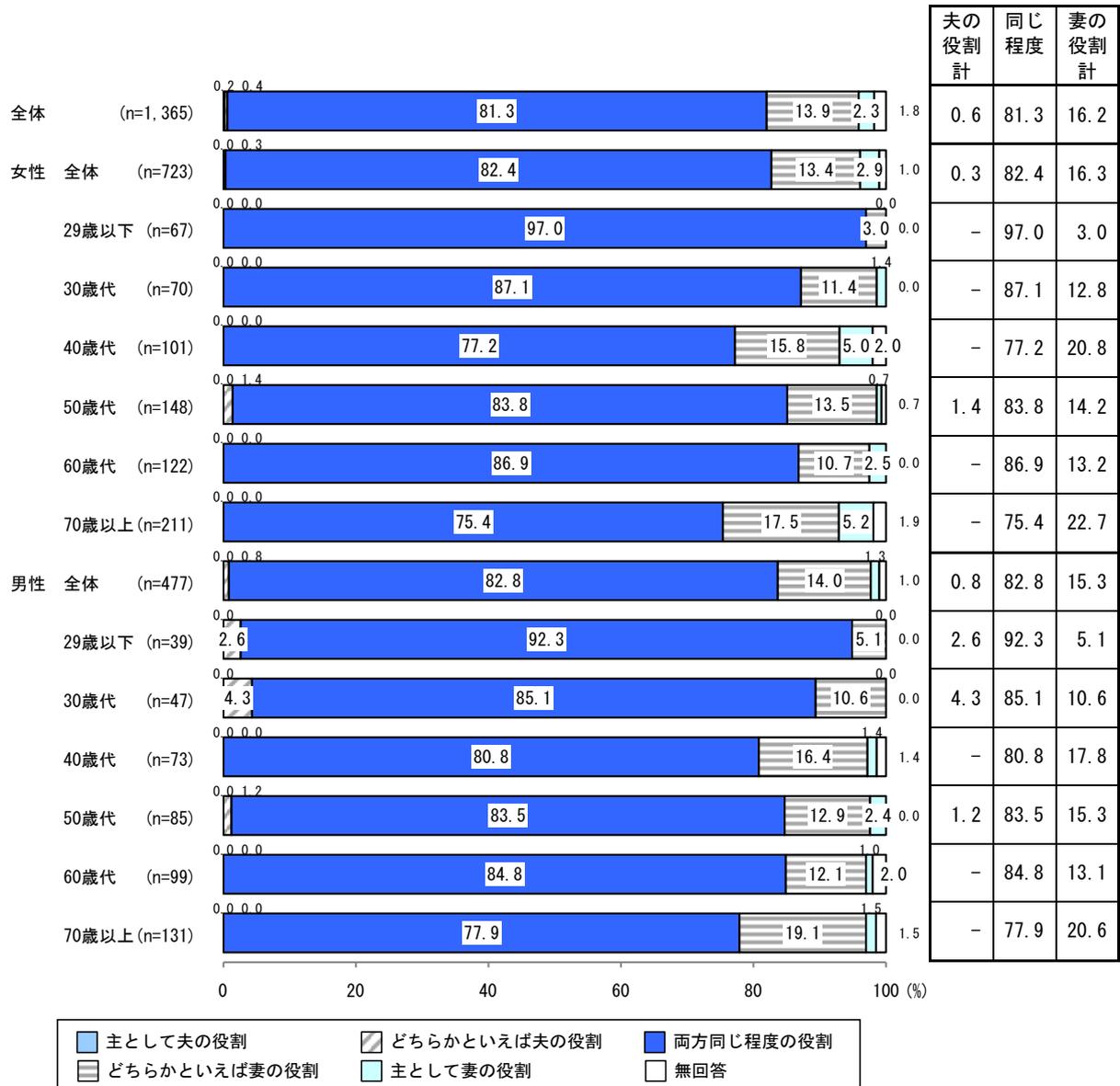
【前回調査（令和2年）】



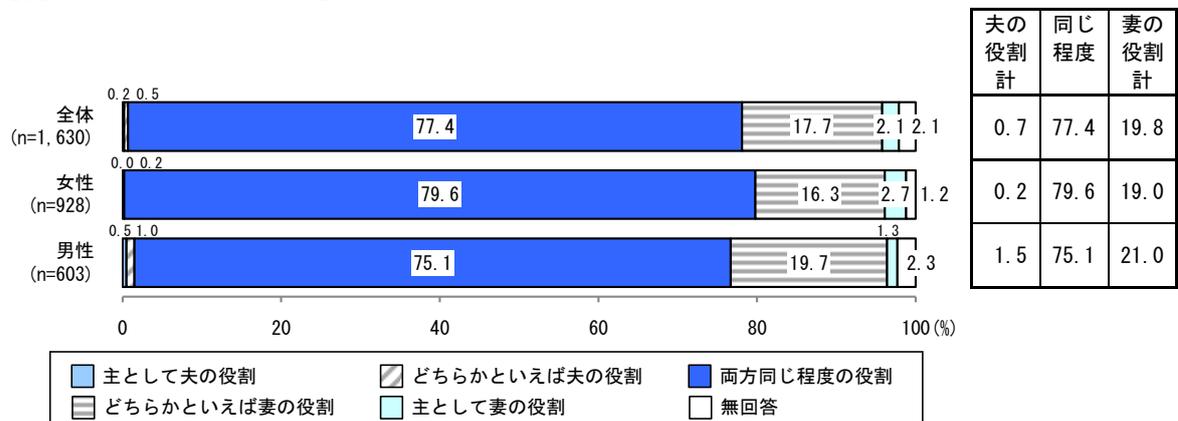
夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.4	46.5	51.0
0.3	48.6	49.8
0.5	44.6	52.9

(D) 老親や病身者の介護や看護

性・年代別で見ると、全ての年代で「両方同じ程度の役割」の割合が70%を超えており、若い年代ほどその割合は高い。

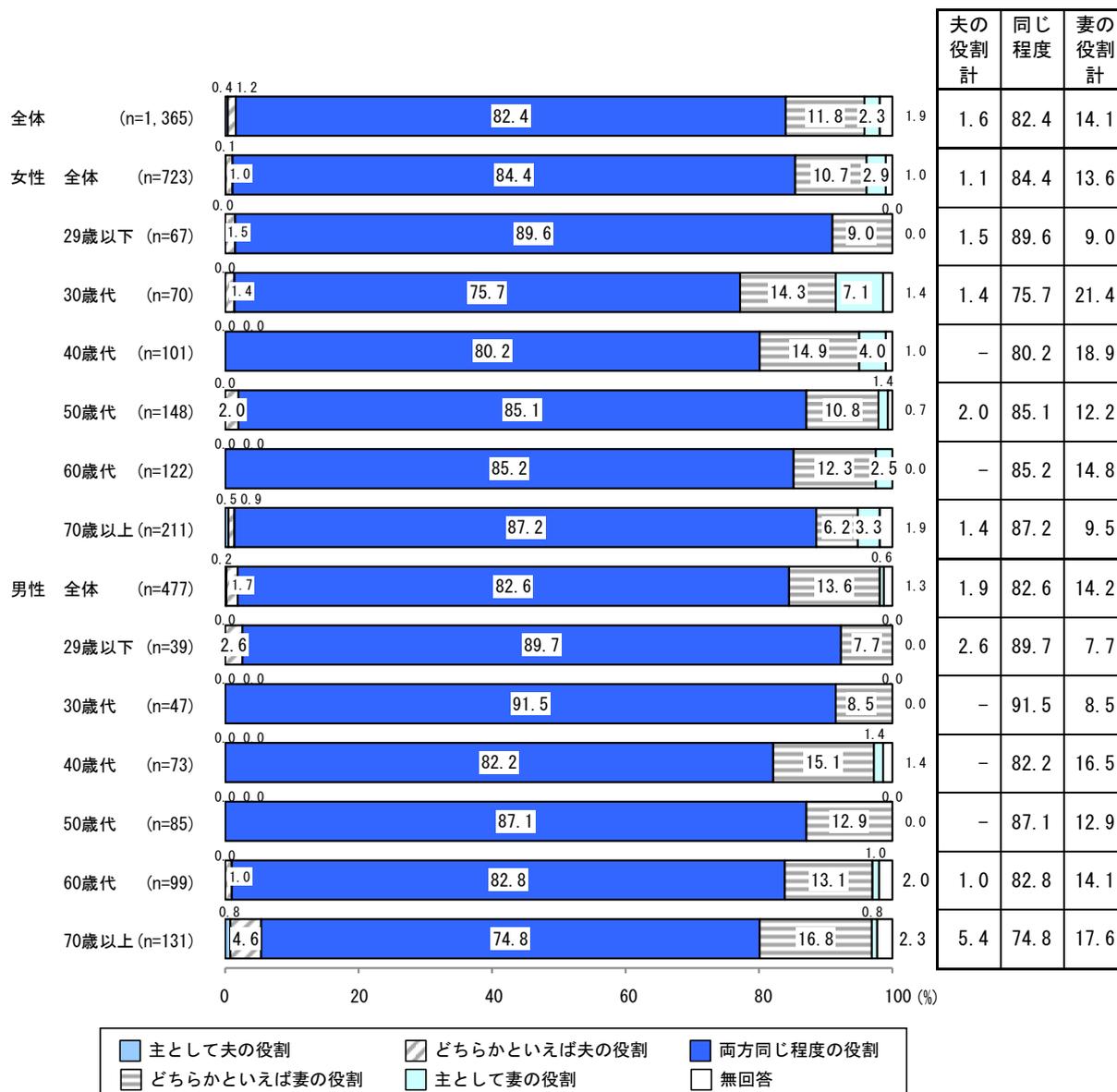


【前回調査（令和2年）】

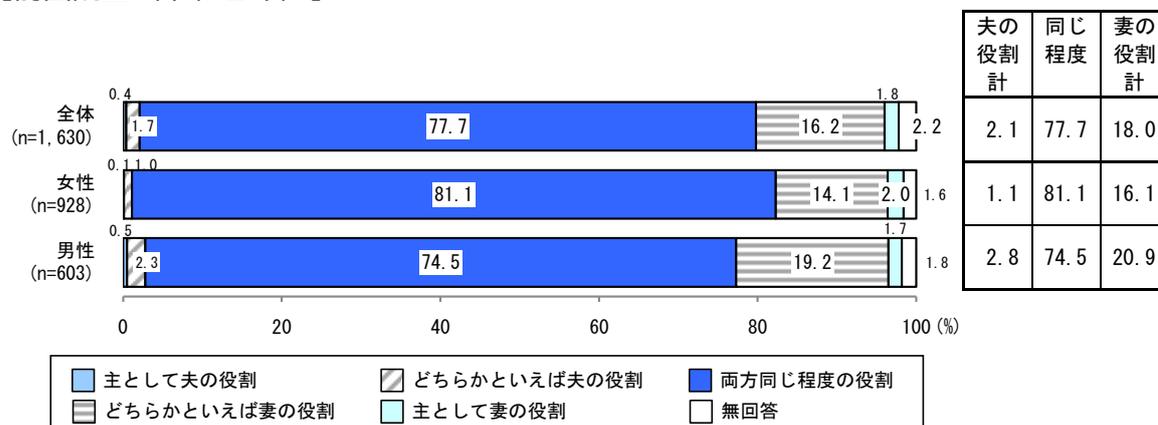


(E) 子どもの教育としつけ

性・年代別でみると、30歳代男性の「両方同じ程度の役割」の割合は女性に比べて15.8ポイント高く、差が最も大きい。



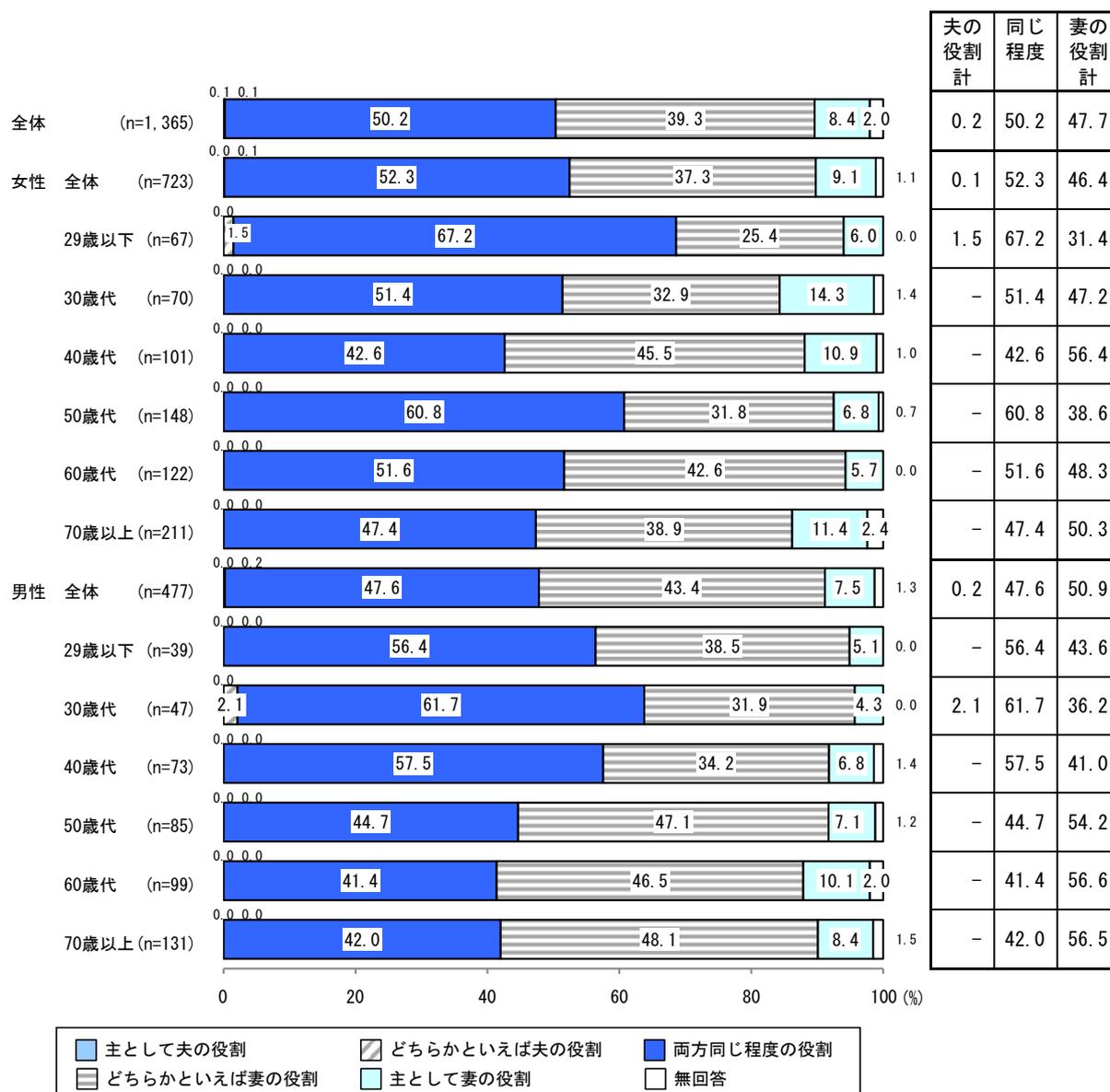
【前回調査（令和2年）】



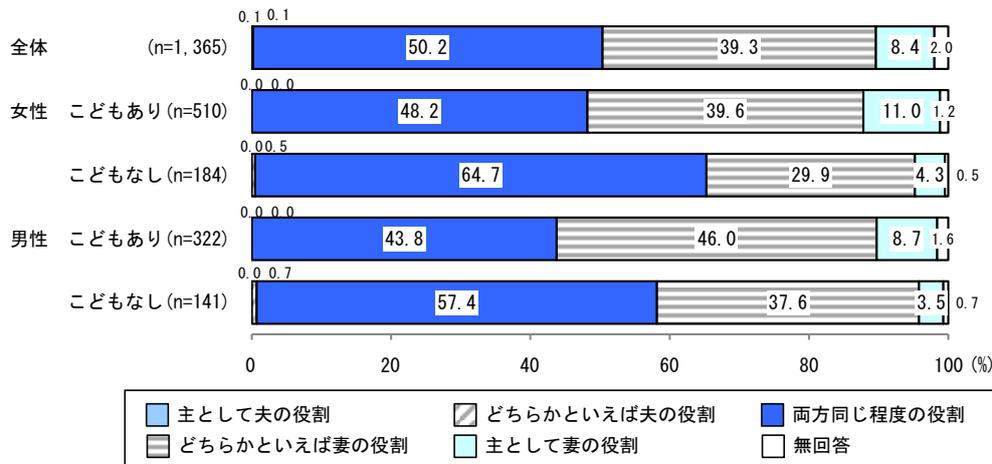
(F) 育児（乳幼児の世話）

性・年代別でみると、女性では29歳以下と50歳代、男性では30歳代で「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えており、29歳以下と50・60歳代では男性に比べて女性のほうが高くなっている。“妻の役割計”の割合は29歳以下と50歳代が女性に比べて男性のほうが10ポイント以上高い。

性・子どもの有無別でみると、“妻の役割計”の割合は男女とも子どもがいない人よりいる人のほうが高くなっている。

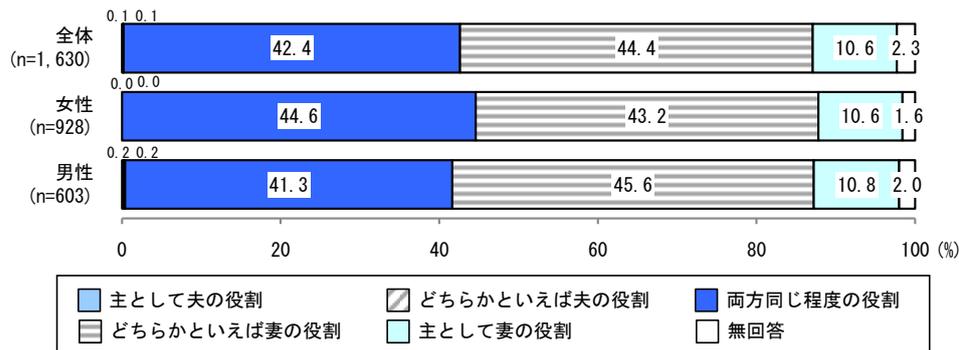


【性・子どもの有無別】



夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.2	50.2	47.7
-	48.2	50.6
0.5	64.7	34.2
-	43.8	54.7
0.7	57.4	41.1

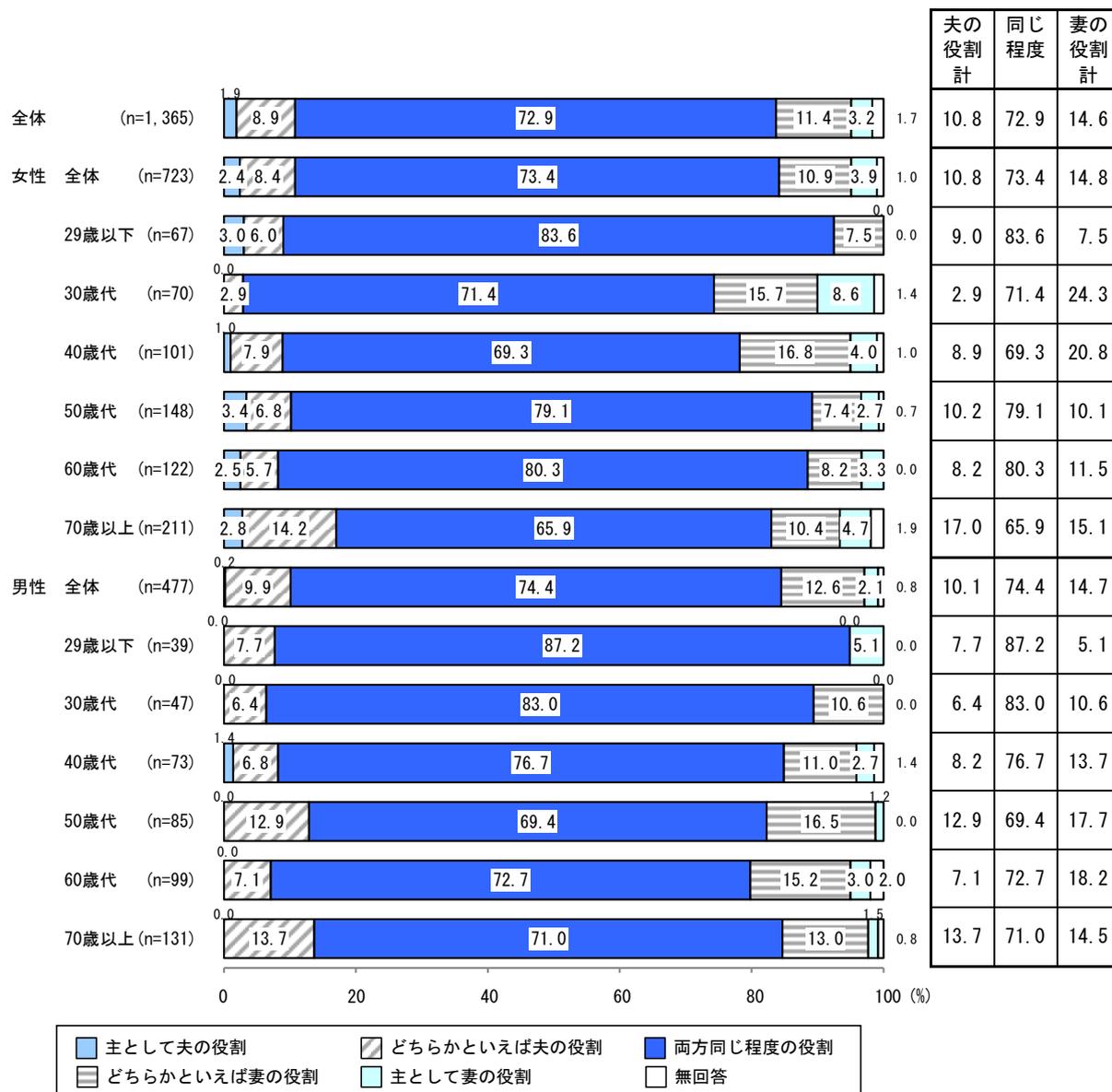
【前回調査（令和2年）】



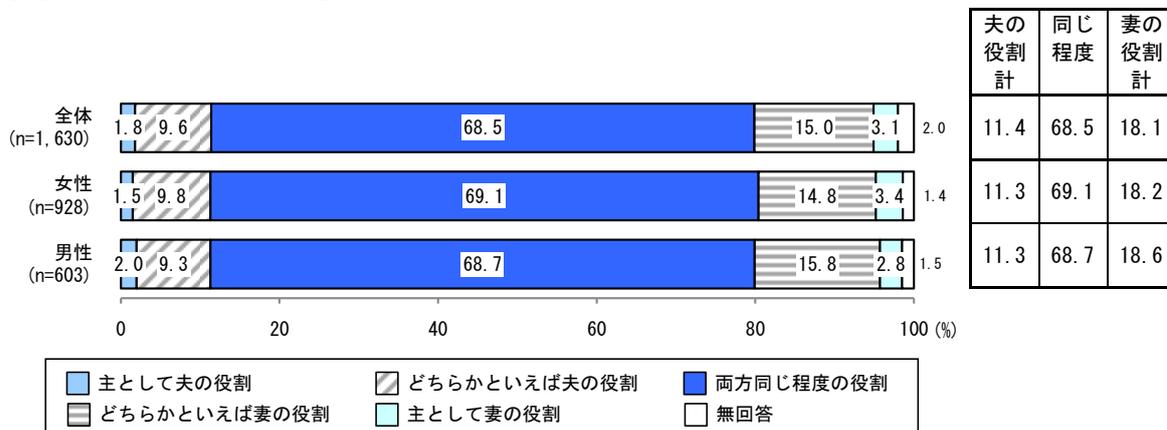
夫の役割計	同じ程度	妻の役割計
0.2	42.4	55.0
-	44.6	53.8
0.4	41.3	56.4

(G) 自治会、PTAなど地域活動への参加

性・年代別でみると、男女ともに全ての年代で「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えており、男女とも29歳以下で最も高くなっている。



【前回調査（令和2年）】



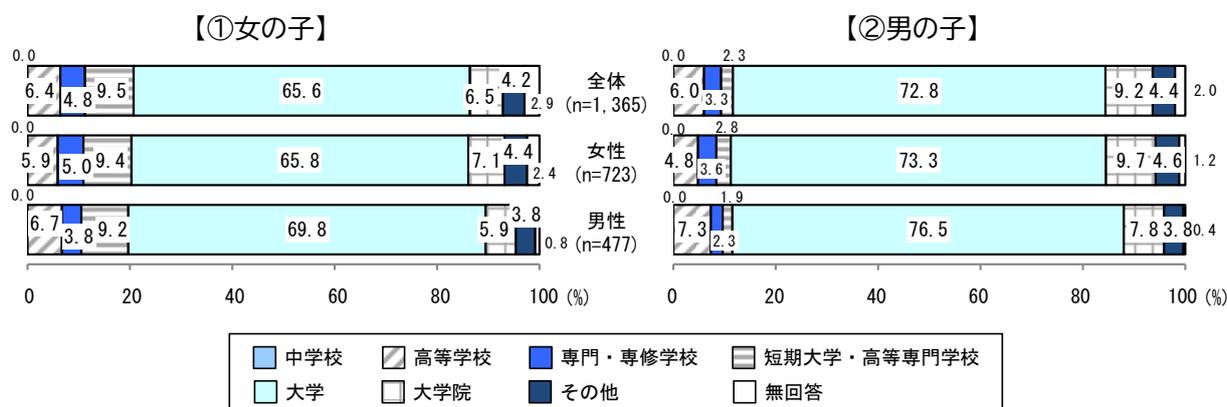
3 こどもの教育について

(1) こどもに受けさせたい教育程度

問5 あなたのこどもには、どの程度までの教育を受けさせたいと思いますか。
 女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。（それぞれ○は一つ）

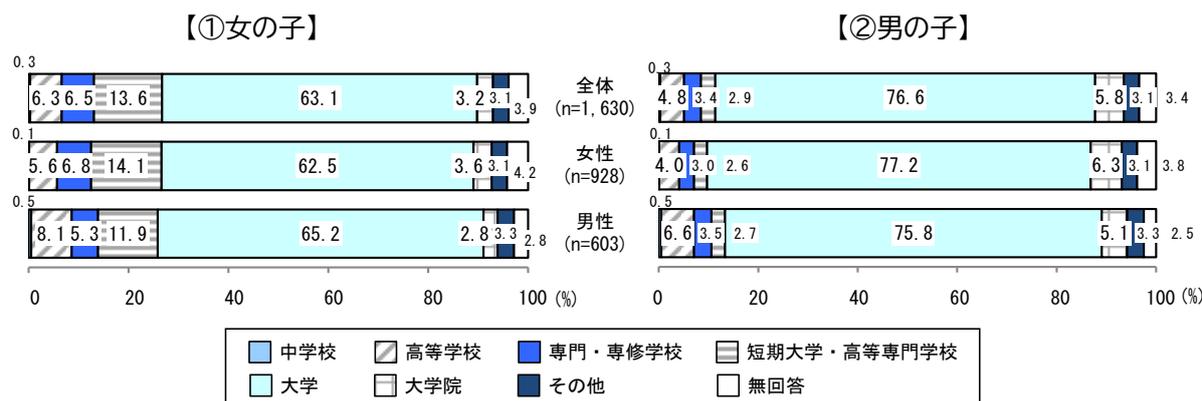
女の子、男の子とも「大学」の割合が最も高く、性別でも同様の傾向であり、「大学」の割合は女性より男性のほうがやや高くなっている。

前回調査との比較でみると、全体では女の子は「大学」「大学院」の割合が前回より高くなり、男の子は「大学院」の割合が前回より高くなっている。



(単位: %)	n	①女の子								②男の子								
		中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答	中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答	
全体	1,365	-	6.4	4.8	9.5	65.6	6.5	4.2	2.9	-	6.0	3.3	2.3	72.8	9.2	4.4	2.0	
女性全体	723	-	5.9	5.0	9.4	65.8	7.1	4.4	2.4	-	4.8	3.6	2.8	73.3	9.7	4.6	1.2	
女性	29歳以下	67	-	11.9	4.5	4.5	68.7	6.0	3.0	1.5	-	10.4	4.5	-	76.1	6.0	3.0	-
	30歳代	70	-	5.7	1.4	10.0	70.0	5.7	7.1	-	-	4.3	2.9	2.9	74.3	7.1	7.1	1.4
	40歳代	101	-	8.9	5.9	5.9	63.4	7.9	6.9	1.0	-	7.9	3.0	2.0	68.3	10.9	6.9	1.0
	50歳代	148	-	4.7	4.7	6.8	73.6	6.1	1.4	2.7	-	4.1	2.7	2.7	81.1	8.1	1.4	-
	60歳代	122	-	4.9	3.3	9.0	61.5	13.1	4.9	3.3	-	4.1	3.3	1.6	65.6	18.9	4.9	1.6
	70歳以上	211	-	3.8	7.1	14.2	62.6	4.7	4.3	3.3	-	2.4	4.7	4.7	73.9	7.1	4.7	2.4
男性全体	477	-	6.7	3.8	9.2	69.8	5.9	3.8	0.8	-	7.3	2.3	1.9	76.5	7.8	3.8	0.4	
男性	29歳以下	39	-	5.1	2.6	2.6	74.4	12.8	2.6	-	-	5.1	2.6	2.6	69.2	17.9	2.6	-
	30歳代	47	-	14.9	-	8.5	72.3	2.1	2.1	-	-	19.1	-	4.3	68.1	6.4	2.1	-
	40歳代	73	-	12.3	2.7	5.5	72.6	4.1	1.4	1.4	-	15.1	1.4	1.4	75.3	5.5	1.4	-
	50歳代	85	-	1.2	4.7	8.2	71.8	7.1	7.1	-	-	-	2.4	-	82.4	7.1	7.1	1.2
	60歳代	99	-	2.0	3.0	7.1	73.7	8.1	5.1	1.0	-	2.0	3.0	3.0	77.8	8.1	5.1	1.0
	70歳以上	131	-	7.6	6.1	15.3	63.4	3.1	3.1	1.5	-	7.6	3.1	1.5	78.6	6.1	3.1	-

【前回調査（令和2年）】



(2) こどもに身につけてほしいこと

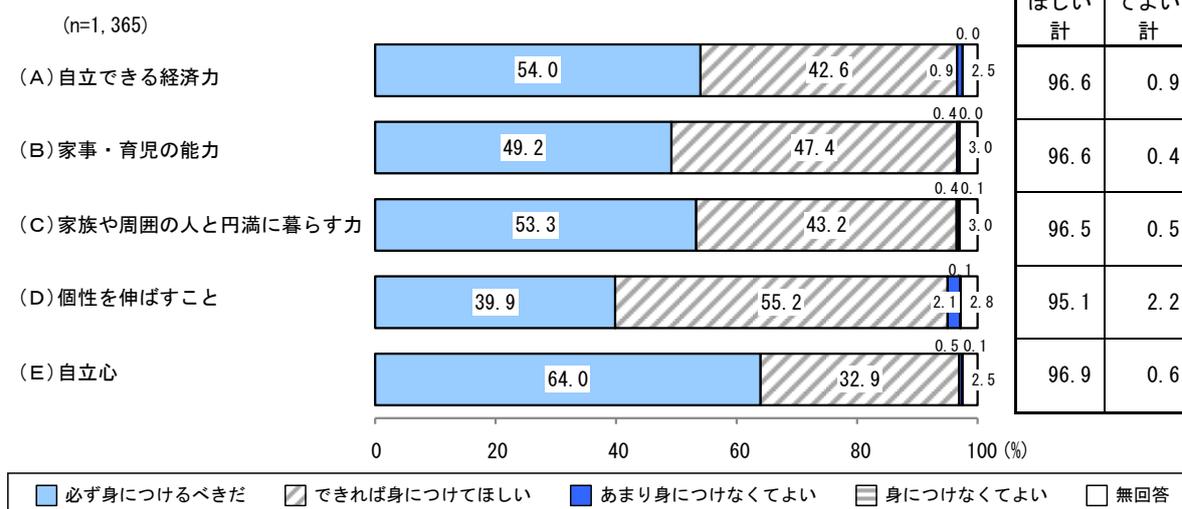
問6 あなたのこどもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。（それぞれ○は一つ）

女の子の「必ず身につけるべきだ」の割合が男の子より10ポイント以上高い項目は、『(B) 家事・育児の能力』(+13.2ポイント)、男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合が女の子より10ポイント以上高い項目は『(A) 自立できる経済力』(+25.3ポイント)である。

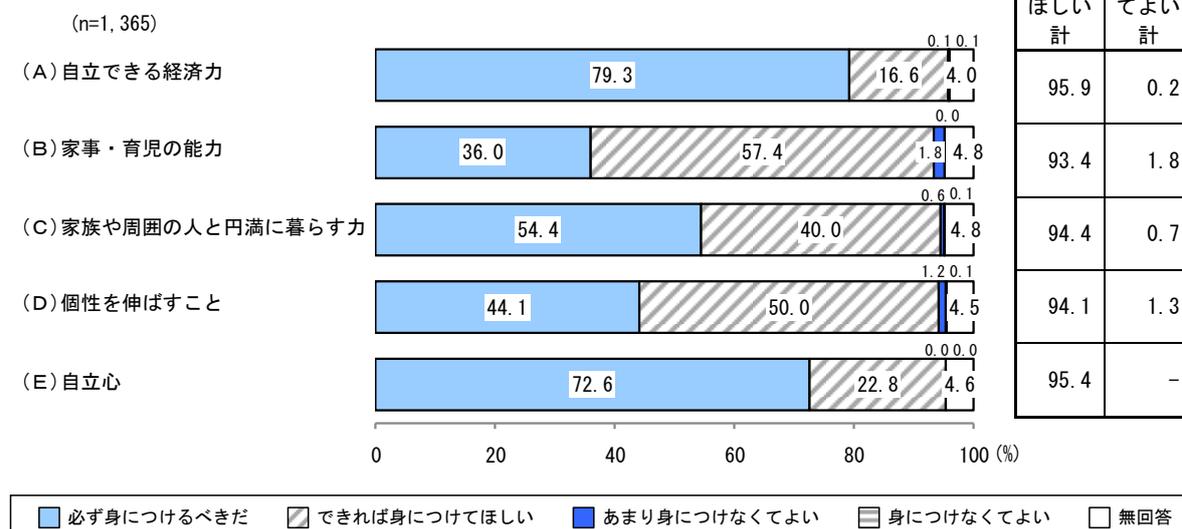
性別で見ると、「必ず身につけるべきだ」の割合に10ポイント以上の差がみられるのは、女の子、男の子とも『(C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力』と『(D) 個性を伸ばすこと』となっている。

前回調査との比較で見ると、全体では“身につけてほしい計”の割合は『(C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力』では女の子が前回よりやや低いが、それ以外の項目は女の子、男の子とも前回より高くなっている。

【①女の子】



【②男の子】



【性別】

	n	①女の子								②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよくない	身につけてよくない	無回答	身につけてほしい計	身につけてよくない計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよくない	身につけてよくない	無回答	身につけてほしい計	身につけてよくない計		
(A) 自立できる経済力	【女性】	723	57.8	39.7	0.6	-	1.9	97.5	0.6	80.8	16.3	-	0.1	2.8	97.1	0.1	
	【男性】	477	51.6	46.8	1.5	-	0.2	98.4	1.5	80.3	17.2	0.2	-	2.3	97.5	0.2	
(B) 家事・育児の能力	【女性】	723	46.7	50.8	0.1	-	2.4	97.5	0.1	34.4	61.0	1.5	-	3.0	95.4	1.5	
	【男性】	477	55.8	42.8	0.4	-	1.0	98.6	0.4	40.7	54.1	1.9	-	3.4	94.8	1.9	
(C) 家族や周囲の人と円満に暮らすか	【女性】	723	50.2	46.7	0.7	0.1	2.2	96.9	0.8	51.5	44.3	0.8	-	3.5	95.8	0.8	
	【男性】	477	62.7	35.8	0.2	0.2	1.0	98.5	0.4	64.6	31.9	0.4	0.2	2.9	96.5	0.6	
(D) 個性を伸ばすこと	【女性】	723	36.7	59.3	1.9	-	2.1	96.0	1.9	40.0	55.9	0.8	-	3.3	95.9	0.8	
	【男性】	477	47.6	48.4	2.7	0.2	1.0	96.0	2.9	53.0	41.9	1.9	0.4	2.7	94.9	2.3	
(E) 自立心	【女性】	723	63.9	33.9	-	0.1	2.1	97.8	0.1	72.5	23.9	-	-	3.6	96.4	-	
	【男性】	477	67.9	30.4	1.0	0.2	0.4	98.3	1.2	76.9	20.3	-	-	2.7	97.2	-	

(A) 自立できる経済力

性・年代別でみると、女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、全ての年代で女の子より男の子の割合が高く、男女とも70歳以上で差が最も大きくなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	54.0	42.6	0.9	-	2.5	96.6	0.9	79.3	16.6	0.1	0.1	4.0	95.9	0.2	
性・年代別	女性全体	723	57.8	39.7	0.6	-	1.9	97.5	0.6	80.8	16.3	-	0.1	2.8	97.1	0.1
	29歳以下	67	71.6	28.4	-	-	-	100.0	-	79.1	19.4	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	71.4	28.6	-	-	-	100.0	-	84.3	14.3	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	64.4	34.7	-	-	1.0	99.1	-	82.2	17.8	-	-	-	100.0	-
	50歳代	148	61.5	36.5	-	-	2.0	98.0	-	83.8	15.5	-	-	0.7	99.3	-
	60歳代	122	59.0	41.0	-	-	-	100.0	-	85.2	13.9	-	-	0.8	99.1	-
	70歳以上	211	43.1	50.2	1.9	-	4.7	93.3	1.9	74.9	17.1	-	0.5	7.6	92.0	0.5
	男性全体	477	51.6	46.8	1.5	-	0.2	98.4	1.5	80.3	17.2	0.2	-	2.3	97.5	0.2
	29歳以下	39	64.1	35.9	-	-	-	100.0	-	76.9	23.1	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	63.8	34.0	2.1	-	-	97.8	2.1	85.1	10.6	2.1	-	2.1	95.7	2.1
	40歳代	73	61.6	38.4	-	-	-	100.0	-	83.6	16.4	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	54.1	42.4	2.4	-	1.2	96.5	2.4	81.2	17.6	-	-	1.2	98.8	-
	60歳代	99	55.6	43.4	1.0	-	-	99.0	1.0	84.8	13.1	-	-	2.0	97.9	-
	70歳以上	131	33.6	64.1	2.3	-	-	97.7	2.3	74.8	19.8	-	-	5.3	94.6	-

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	45.2	51.1	1.2	0.2	2.4	96.3	1.4	81.8	13.0	0.2	0.1	5.0	94.8	0.3
女性	928	50.3	46.2	0.9	-	2.6	96.5	0.9	83.2	11.6	0.1	-	5.1	94.8	0.1
男性	603	39.5	57.0	1.8	0.2	1.5	96.5	2.0	81.6	14.6	0.3	-	3.5	96.2	0.3

(B) 家事・育児の能力

性・年代別でみると、女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、男女とも全ての年代で男の子より女の子の割合が高い。男女ともに60歳代以上の年代でその差は大きくなっている。

(単位：%)	n	①女の子						②男の子								
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	49.2	47.4	0.4	-	3.0	96.6	0.4	36.0	57.4	1.8	-	4.8	93.4	1.8	
性・年代別	女性全体	723	46.7	50.8	0.1	-	2.4	97.5	0.1	34.4	61.0	1.5	-	3.0	95.4	1.5
	29歳以下	67	58.2	41.8	-	-	-	100.0	-	52.2	46.3	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	45.7	54.3	-	-	-	100.0	-	42.9	55.7	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	46.5	51.5	1.0	-	1.0	98.0	1.0	41.6	58.4	-	-	-	100.0	-
	50歳代	148	46.6	50.7	-	-	2.7	97.3	-	37.2	60.8	0.7	-	1.4	98.0	0.7
	60歳代	122	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	32.0	65.6	1.6	-	0.8	97.6	1.6
	70歳以上	211	42.2	52.1	-	-	5.7	94.3	-	22.3	65.9	3.8	-	8.1	88.2	3.8
	男性全体	477	55.8	42.8	0.4	-	1.0	98.6	0.4	40.7	54.1	1.9	-	3.4	94.8	1.9
	29歳以下	39	71.8	28.2	-	-	-	100.0	-	56.4	43.6	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	57.4	42.6	-	-	-	100.0	-	55.3	40.4	2.1	-	2.1	95.7	2.1
	40歳代	73	64.4	35.6	-	-	-	100.0	-	53.4	46.6	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	49.4	49.4	-	-	1.2	98.8	-	41.2	55.3	1.2	-	2.4	96.5	1.2
	60歳代	99	62.6	36.4	1.0	-	-	99.0	1.0	42.4	54.5	1.0	-	2.0	96.9	1.0
	70歳以上	131	44.3	51.9	0.8	-	3.1	96.2	0.8	21.4	65.6	4.6	-	8.4	87.0	4.6

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子						②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	53.1	43.3	0.5	0.2	2.9	96.4	0.7	28.3	62.5	2.8	0.2	6.1	90.8	3.0
女性	928	51.6	44.8	0.5	0.2	2.8	96.4	0.7	29.3	62.4	2.2	0.1	6.0	91.7	2.3
男性	603	57.5	39.8	0.5	-	2.2	97.3	0.5	28.9	62.5	3.8	0.5	4.2	91.4	4.3

(C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力

性・年代別でみると、女の子、男の子とも「必ず身につけるべきだ」の割合は全ての年代で女性より男性のほうが高くなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計	
全体	1,365	53.3	43.2	0.4	0.1	3.0	96.5	0.5	54.4	40.0	0.6	0.1	4.8	94.4	0.7	
性・年代別	女性全体	723	50.2	46.7	0.7	0.1	2.2	96.9	0.8	51.5	44.3	0.8	-	3.5	95.8	0.8
	29歳以下	67	64.2	32.8	3.0	-	-	97.0	3.0	65.7	29.9	3.0	-	1.5	95.6	3.0
	30歳代	70	55.7	44.3	-	-	-	100.0	-	58.6	40.0	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	55.4	43.6	-	-	1.0	99.0	-	57.4	41.6	1.0	-	-	99.0	1.0
	50歳代	148	52.7	43.9	0.7	-	2.7	96.6	0.7	53.4	44.6	0.7	-	1.4	98.0	0.7
	60歳代	122	47.5	50.8	0.8	-	0.8	98.3	0.8	50.0	48.4	0.8	-	0.8	98.4	0.8
	70歳以上	211	41.2	53.1	0.5	0.5	4.7	94.3	1.0	41.2	48.8	0.5	-	9.5	90.0	0.5
	男性全体	477	62.7	35.8	0.2	0.2	1.0	98.5	0.4	64.6	31.9	0.4	0.2	2.9	96.5	0.6
	29歳以下	39	79.5	20.5	-	-	-	100.0	-	76.9	23.1	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	63.8	34.0	2.1	-	-	97.8	2.1	66.0	31.9	-	-	2.1	97.9	-
	40歳代	73	76.7	23.3	-	-	-	100.0	-	80.8	19.2	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	70.6	27.1	-	-	2.4	97.7	-	71.8	27.1	-	-	1.2	98.9	-
	60歳代	99	53.5	44.4	-	1.0	1.0	97.9	1.0	60.6	35.4	-	1.0	3.0	96.0	1.0
	70歳以上	131	51.9	46.6	-	-	1.5	98.5	-	50.4	41.2	1.5	-	6.9	91.6	1.5

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてない	身につけてない	無回答	身につけてほしい計	身につけてない計
全体	1,630	56.7	40.1	0.3	0.2	2.6	96.8	0.5	54.9	38.7	0.4	0.1	5.9	93.6	0.5
女性	928	56.1	40.9	0.3	0.1	2.5	97.0	0.4	54.5	9.3	0.3	0.1	5.7	63.8	0.4
男性	603	59.5	37.6	0.3	0.5	2.0	97.1	0.8	58.2	36.8	0.5	0.2	4.3	95.0	0.7

(D) 個性を伸ばすこと

性・年代別でみると、女の子、男の子とも「必ず身につけるべきだ」の割合は全ての年代で女性より男性のほうが高く、なかでも女の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は40歳代で差が大きく、女性より男性のほうが20.3ポイント高くなっている。

(単位：%)	n	①女の子							②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	39.9	55.2	2.1	0.1	2.8	95.1	2.2	44.1	50.0	1.2	0.1	4.5	94.1	1.3	
性・年代別	女性全体	723	36.7	59.3	1.9	-	2.1	96.0	1.9	40.0	55.9	0.8	-	3.3	95.9	0.8
	29歳以下	67	56.7	41.8	1.5	-	-	98.5	1.5	55.2	43.3	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	37.1	60.0	2.9	-	-	97.1	2.9	41.4	55.7	1.4	-	1.4	97.1	1.4
	40歳代	101	38.6	59.4	1.0	-	1.0	98.0	1.0	42.6	56.4	1.0	-	-	99.0	1.0
	50歳代	148	33.8	62.8	0.7	-	2.7	96.6	0.7	35.1	63.5	-	-	1.4	98.6	-
	60歳代	122	38.5	60.7	0.8	-	-	99.2	0.8	41.8	56.6	0.8	-	0.8	98.4	0.8
	70歳以上	211	30.3	61.1	3.8	-	4.7	91.4	3.8	35.5	54.0	1.4	-	9.0	89.5	1.4
	男性全体	477	47.6	48.4	2.7	0.2	1.0	96.0	2.9	53.0	41.9	1.9	0.4	2.7	94.9	2.3
	29歳以下	39	61.5	35.9	2.6	-	-	97.4	2.6	64.1	35.9	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	48.9	44.7	6.4	-	-	93.6	6.4	57.4	34.0	6.4	-	2.1	91.4	6.4
	40歳代	73	58.9	41.1	-	-	-	100.0	-	61.6	38.4	-	-	-	100.0	-
	50歳代	85	45.9	47.1	4.7	-	2.4	93.0	4.7	50.6	44.7	3.5	-	1.2	95.3	3.5
	60歳代	99	53.5	41.4	3.0	-	2.0	94.9	3.0	57.6	35.4	2.0	1.0	4.0	93.0	3.0
	70歳以上	131	33.6	63.4	1.5	0.8	0.8	97.0	2.3	42.0	51.1	0.8	0.8	5.3	93.1	1.6

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子							②男の子						
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	38.2	55.6	2.8	0.2	3.1	93.8	3.0	44.4	47.6	1.7	0.2	6.1	92.0	1.9
女性	928	37.7	56.7	2.5	0.2	2.9	94.4	2.7	43.0	49.4	1.7	0.1	5.8	92.4	1.8
男性	603	40.5	53.6	3.6	0.2	2.2	94.1	3.8	48.1	44.9	2.0	0.3	4.6	93.0	2.3

(E) 自立心

性・年代別でみると、女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、全ての年代で女の子より男の子の割合が上回り、その差は70歳以上女性、50・60歳代男性で10ポイントを超えている。

(単位：%)	n	①女の子						②男の子								
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	
全体	1,365	64.0	32.9	0.5	0.1	2.5	96.9	0.6	72.6	22.8	-	-	4.6	95.4	-	
性・年代別	女性全体	723	63.9	33.9	-	0.1	2.1	97.8	0.1	72.5	23.9	-	-	3.6	96.4	-
	29歳以下	67	79.1	20.9	-	-	-	100.0	-	79.1	19.4	-	-	1.5	98.5	-
	30歳代	70	64.3	35.7	-	-	-	100.0	-	68.6	30.0	-	-	1.4	98.6	-
	40歳代	101	66.3	32.7	-	-	1.0	99.0	-	76.2	23.8	-	-	-	100.0	-
	50歳代	148	64.2	33.1	-	-	2.7	97.3	-	72.3	25.7	-	-	2.0	98.0	-
	60歳代	122	66.4	33.6	-	-	-	100.0	-	73.8	25.4	-	-	0.8	99.2	-
	70歳以上	211	56.4	38.4	-	0.5	4.7	94.8	0.5	69.7	20.9	-	-	9.5	90.6	-
	男性全体	477	67.9	30.4	1.0	0.2	0.4	98.3	1.2	76.9	20.3	-	-	2.7	97.2	-
	29歳以下	39	76.9	20.5	2.6	-	-	97.4	2.6	84.6	15.4	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	68.1	31.9	-	-	-	100.0	-	74.5	23.4	-	-	2.1	97.9	-
	40歳代	73	65.8	34.2	-	-	-	100.0	-	69.9	27.4	-	-	2.7	97.3	-
	50歳代	85	63.5	32.9	1.2	1.2	1.2	96.4	2.4	76.5	22.4	-	-	1.2	98.9	-
	60歳代	99	74.7	24.2	1.0	-	-	98.9	1.0	86.9	11.1	-	-	2.0	98.0	-
	70歳以上	131	64.1	33.6	1.5	-	0.8	97.7	1.5	72.5	22.1	-	-	5.3	94.6	-

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	①女の子						②男の子							
		必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答	身につけてほしい計	身につけてよい計
全体	1,630	60.6	35.1	1.1	0.2	2.9	95.7	1.3	83.2	11.6	0.1	-	5.1	94.8	0.1
女性	928	64.0	32.3	0.6	0.3	2.7	96.3	0.9	75.5	18.4	0.3	-	5.7	93.9	0.3
男性	603	57.0	38.6	1.8	0.2	2.3	95.6	2.0	71.8	22.7	0.5	0.3	4.6	94.5	0.8

(3) 男女平等を推進するための学校教育

問7 男女平等を推進するために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする」(70.8%)が最も多く、次いで「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(69.3%)となっている。

性別で見ると、女性では「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(75.0%)が最も多いが、男性では「男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする」(67.3%)が最も多くなっている。「性の多様性について正しく理解するための教育を充実する」の割合は男性より女性のほうが11.3ポイント高く、「DVやデートDVや性暴力の防止に向けた教育を行う」の割合も男性より女性のほうが9.9ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合は前回より低い、それ以外の項目は前回より高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	64.7	69.8	61.4	62.1	66.5	59.2
進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	69.3	75.0	66.0	69.9	73.7	65.0
男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする	70.8	74.1	67.3	69.3	71.0	67.5
男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う	49.2	50.1	48.6	43.6	45.5	41.8
校長や教頭に女性を増やす	35.8	35.8	38.2	32.9	34.2	32.0
保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す	38.2	37.6	39.6	34.4	35.8	33.0
性の多様性について正しく理解するための教育を充実する	52.7	59.1	47.8	44.4	47.0	41.3
DVやデートDVや性暴力の防止に向けた教育を行う	58.8	64.2	54.3	49.1	52.9	45.8
その他	2.7	3.0	2.5	2.9	3.0	3.2
学校教育の中でする必要はない	1.3	0.7	2.1	1.3	0.4	2.8
無回答	1.8	1.0	0.8	2.0	1.9	1.5

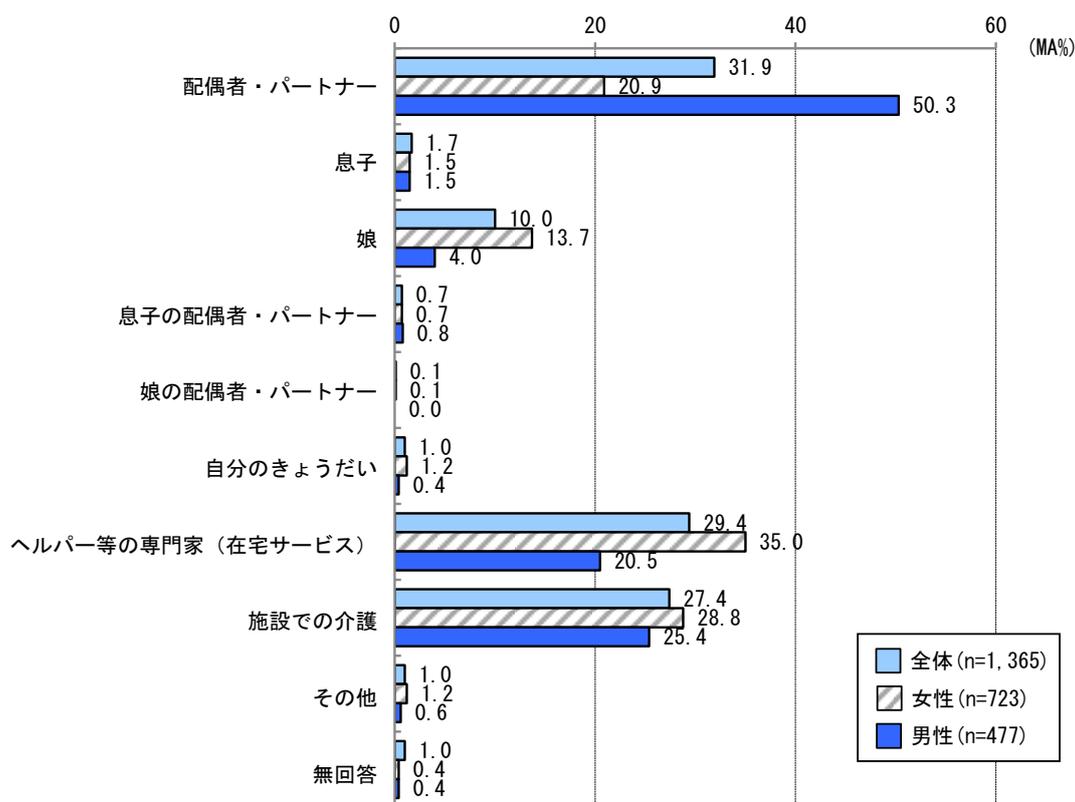
4 介護について

(1) 介護が必要になった場合に希望する介護者

問8 もしあなた自身に介護が必要になった場合、一番介護されたい方をおひとり選んで、お答えください。(〇は一つ)

全体は、「配偶者・パートナー」(31.9%)が最も多く、次いで「ヘルパー等の専門家(在宅サービス)」(29.4%)となっている。

性別で見ると、女性で「ヘルパー等の専門家(在宅サービス)」「娘」の割合が男性に比べて5ポイント以上高く、男性で「配偶者・パートナー」の割合が女性に比べて29.4ポイント高い。



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

(単位: MA%)		n	配偶者・パートナー	息子	娘	息子の配偶者・パートナー	娘の配偶者・パートナー	自分のきょうだい	ヘルパー等の専門家(在宅サービス)	施設での介護	その他	無回答
全体		1,365	31.9	1.7	10.0	0.7	0.1	1.0	29.4	27.4	1.0	1.0
性・年代別	女性全体	723	20.9	1.5	13.7	0.7	0.1	1.2	35.0	28.8	1.2	0.4
	29歳以下	67	25.4	-	6.0	-	-	3.0	28.4	34.3	3.0	-
	30歳代	70	35.7	-	7.1	-	-	-	31.4	27.1	1.4	-
	40歳代	101	23.8	3.0	5.9	-	-	3.0	35.6	32.7	1.0	1.0
	50歳代	148	17.6	2.0	15.5	0.7	-	2.0	32.4	31.8	2.0	-
	60歳代	122	14.8	1.6	13.1	-	-	-	39.3	32.8	0.8	-
	70歳以上	211	19.4	1.4	21.3	1.9	0.5	0.5	37.4	20.4	0.5	0.9
	男性全体	477	50.3	1.5	4.0	0.8	-	0.4	20.5	25.4	0.6	0.4
	29歳以下	39	35.9	2.6	2.6	-	-	-	30.8	33.3	2.6	-
	30歳代	47	40.4	2.1	2.1	-	-	-	19.1	42.6	2.1	-
	40歳代	73	52.1	1.4	5.5	1.4	-	-	17.8	23.3	-	-
	50歳代	85	55.3	1.2	3.5	-	-	-	20.0	20.0	-	-
	60歳代	99	46.5	2.0	3.0	-	-	-	22.2	29.3	1.0	1.0
	70歳以上	131	55.7	0.8	5.3	2.3	-	1.5	19.1	19.1	-	0.8

5 仕事について

(1) 女性の働き方について

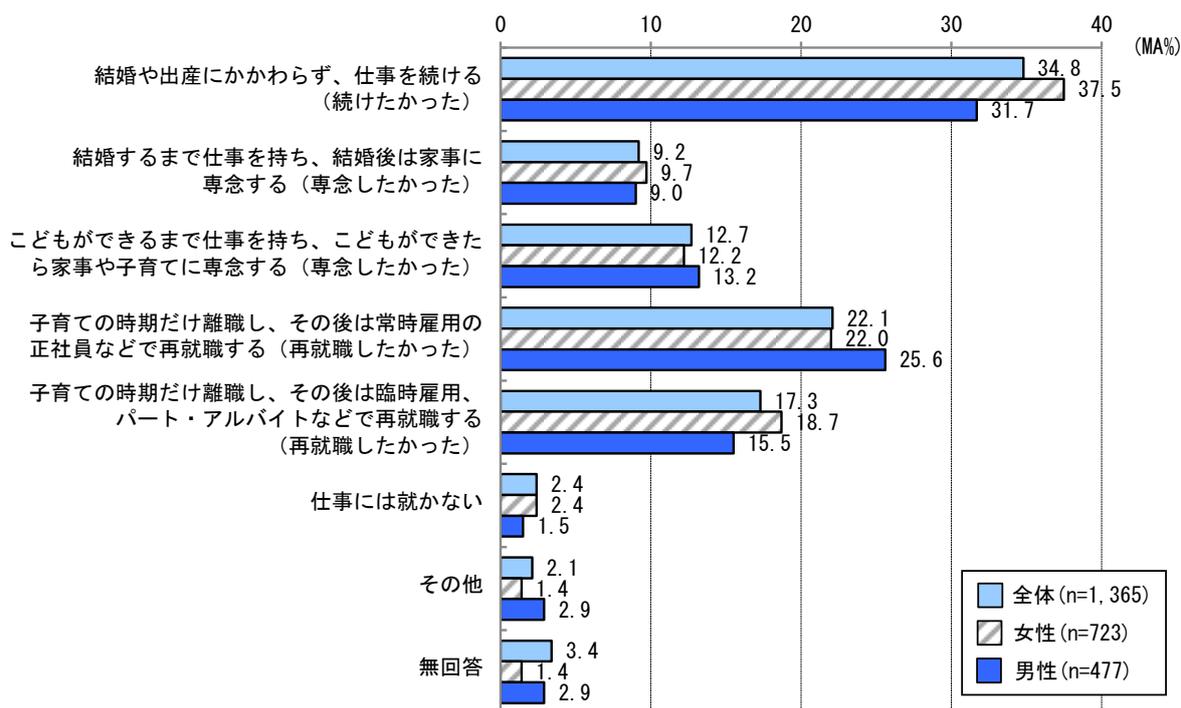
問9 「女性の働き方」について、あなたの①希望と②実際はどれにあてはまりますか。
(それぞれ○は一つ)

全体は、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「こどもができるまで仕事をもち、こどもができたら家事や子育てに専念する」「子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する」の割合は実際より希望のほうが高くなっている。

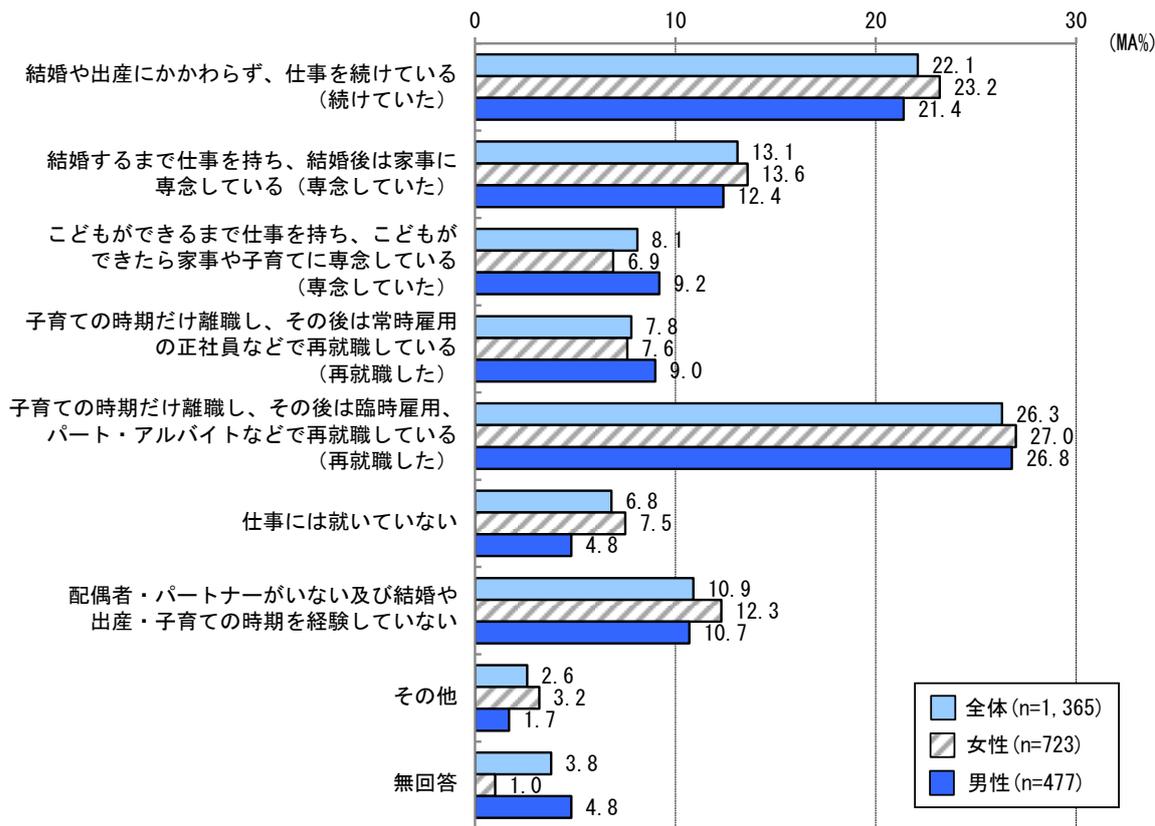
性別で見ると、「女性の働き方」の希望に比べて実際は、女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「こどもができるまで仕事をもち、こどもができたら家事や子育てに専念する」「子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する」という3つの項目の割合が低く、「子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合は希望、実際とも前回より高くなっている。

①希望



②実際



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

【性・年代別】

性・年代別	(単位: MA%)	n	①希望							②実際									
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける (続けた)	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する (専念した)	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する (専念した)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する (再就職した)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する (再就職した)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (続けた)	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している (専念していた)	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念している (専念していた)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職している (再就職した)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職している (再就職した)	仕事には就いていない	配偶者・パートナーがいない及び結婚や出産・子育ての時期を経験していない	その他	無回答
全体	1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
女性	女性全体	723	37.5	9.7	12.2	22.0	18.7	2.4	1.4	1.4	23.2	13.6	6.9	7.6	27.0	7.5	12.3	3.2	1.0
	29歳以下	67	52.2	7.5	4.5	22.4	11.9	1.5	-	-	19.4	1.5	1.5	3.0	6.0	59.7	6.0	1.5	-
	30歳代	70	42.9	2.9	5.7	17.1	28.6	1.4	1.4	-	48.6	-	8.6	-	17.1	4.3	18.6	2.9	-
	40歳代	101	37.6	8.9	16.8	18.8	19.8	-	3.0	-	33.7	5.9	7.9	5.9	30.7	2.0	11.9	3.0	-
	50歳代	148	41.9	5.4	14.2	22.3	17.6	1.4	0.7	-	23.6	8.1	4.1	9.5	39.9	6.1	7.4	2.0	-
	60歳代	122	36.9	9.8	12.3	23.8	18.0	3.3	2.5	0.8	15.6	21.3	8.2	7.4	29.5	10.7	4.9	4.9	-
	70歳以上	211	28.4	15.2	13.3	24.2	18.0	4.3	0.9	4.3	15.2	25.1	9.0	11.4	25.6	10.9	2.8	2.4	2.8
男性	男性全体	477	31.7	9.0	13.2	25.6	15.5	1.5	2.9	2.9	21.4	12.4	9.2	9.0	26.8	4.8	10.7	1.7	4.8
	29歳以下	39	43.6	5.1	10.3	25.6	12.8	-	-	2.6	23.1	2.6	2.6	10.3	23.1	2.6	30.8	-	5.1
	30歳代	47	40.4	-	8.5	19.1	21.3	2.1	6.4	2.1	31.9	-	8.5	4.3	21.3	4.3	19.1	8.5	2.1
	40歳代	73	38.4	4.1	12.3	30.1	8.2	2.7	4.1	-	34.2	4.1	5.5	9.6	27.4	4.1	15.1	-	-
	50歳代	85	35.3	7.1	9.4	25.9	16.5	2.4	3.5	1.2	25.9	10.6	3.5	11.8	30.6	5.9	7.1	1.2	3.5
	60歳代	99	28.3	12.1	12.1	33.3	12.1	-	4.0	2.0	16.2	17.2	14.1	9.1	25.3	5.1	9.1	1.0	4.0
	70歳以上	131	20.6	15.3	19.8	19.8	20.6	1.5	0.8	6.1	10.7	21.4	13.7	8.4	29.0	5.3	3.1	1.5	9.2

【性・未既婚別】

	(単位：MA%)	n	①希望							②実際										
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就いていない	配偶者・子育ての時期を経験していない	その他
全体		1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
性・未既婚別	女性	既婚	501	34.7	10.4	13.0	22.8	19.4	2.6	1.8	0.8	25.7	15.4	8.0	7.4	31.9	7.8	2.6	3.2	0.2
		未婚	111	53.2	5.4	6.3	18.9	17.1	-	-	-	18.0	0.9	-	2.7	3.6	5.4	65.8	2.7	0.9
	男性	既婚	311	30.2	10.9	11.9	26.4	17.0	1.3	2.9	1.9	21.5	15.4	10.3	10.0	32.8	4.5	3.9	1.0	1.9
		未婚	101	39.6	4.0	13.9	26.7	8.9	1.0	3.0	4.0	24.8	2.0	6.9	5.0	11.9	3.0	33.7	4.0	8.9

【性・子どもの有無別】

	(単位：MA%)	n	①希望							②実際										
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就いていない	配偶者・子育ての時期を経験していない	その他
全体		1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
性・子どもの有無別	女性	子どもあり	510	32.5	9.6	14.9	22.9	19.0	2.9	1.4	1.6	19.6	16.3	9.2	9.6	36.3	8.2	-	2.5	1.0
		子どもなし	184	51.1	8.7	4.3	19.0	16.8	1.1	1.6	0.5	31.5	6.0	0.5	2.2	3.8	4.3	46.2	5.4	1.1
	男性	子どもあり	322	27.0	11.5	15.2	24.5	18.0	1.9	2.8	1.9	18.0	16.5	11.5	10.9	33.9	5.9	0.6	1.2	2.8
		子どもなし	141	42.6	4.3	9.9	27.0	9.9	0.7	2.8	3.5	29.1	2.8	5.0	5.0	12.1	2.8	34.0	2.8	6.4

【性・勤務形態別】

	(単位：MA%)	n	①希望							②実際										
			結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けたかった)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(専念したかった)	結婚するまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子どもができたから家事や子育てに専念する(専念したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は常時雇用の正社員などで再就職する(再就職したかった)	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用・パート・アルバイトなどで再就職する(再就職したかった)	仕事には就いていない	配偶者・子育ての時期を経験していない	その他
全体		1,365	34.8	9.2	12.7	22.1	17.3	2.4	2.1	3.4	22.1	13.1	8.1	7.8	26.3	6.8	10.9	2.6	3.8	
性・勤務形態別	女性	正社員(職員)	162	54.9	4.3	8.6	20.4	10.5	1.2	-	-	55.6	1.2	1.2	14.2	4.9	-	21.0	1.2	0.6
		非正規社員(職員)	204	31.9	7.4	12.7	27.5	25.0	-	1.5	0.5	15.2	7.4	5.9	3.4	54.9	0.5	12.3	2.5	0.5
		自営業主・家族従業者	34	41.2	8.8	11.8	14.7	20.6	2.9	2.9	2.9	32.4	2.9	2.9	8.8	11.8	14.7	14.7	8.8	2.9
		専業主婦	146	27.4	14.4	14.4	21.9	18.5	2.7	2.1	2.1	5.5	32.2	13.7	4.8	26.0	17.1	-	2.7	-
		無職(専業主婦除く)	90	33.3	13.3	16.7	20.0	16.7	7.8	2.2	-	15.6	18.9	13.3	10.0	16.7	13.3	13.3	3.3	-
	男性	正社員(職員)	219	35.2	6.8	11.0	26.0	15.5	2.3	4.1	0.9	27.4	8.7	8.2	11.0	28.3	4.6	9.6	0.9	1.8
		非正規社員(職員)	62	25.8	9.7	6.5	29.0	22.6	-	-	6.5	9.7	17.7	6.5	1.6	37.1	6.5	16.1	1.6	4.8
		自営業主・家族従業者	44	31.8	13.6	13.6	29.5	9.1	-	2.3	2.3	31.8	18.2	11.4	15.9	15.9	-	-	2.3	4.5
		専業主夫	11	18.2	18.2	36.4	18.2	18.2	-	-	-	9.1	36.4	9.1	-	18.2	27.3	9.1	-	-
		無職(専業主夫除く)	85	31.8	10.6	21.2	22.4	15.3	2.4	1.2	-	17.6	11.8	12.9	8.2	28.2	4.7	12.9	2.4	2.4

【前回調査（令和2年）】

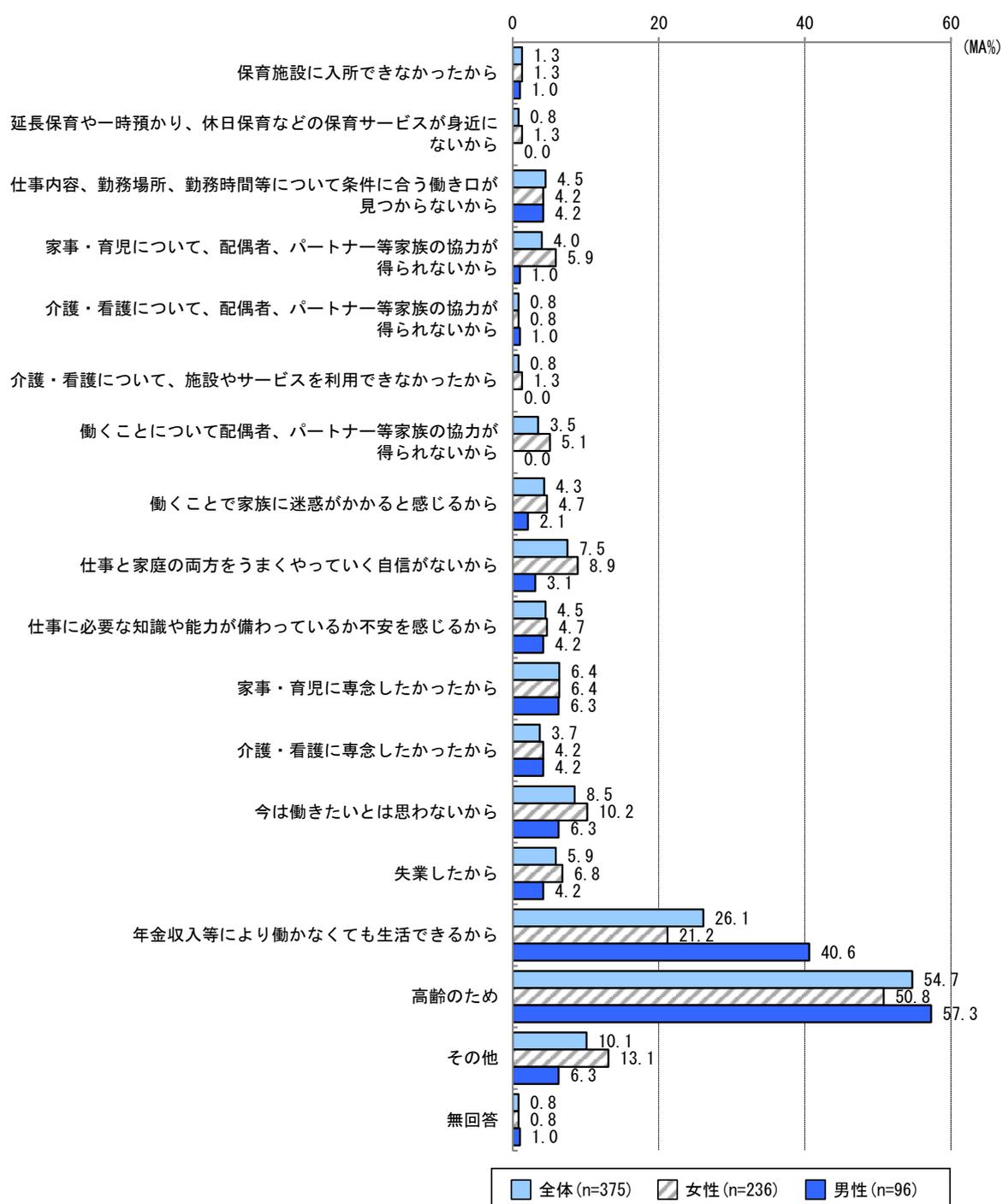
	n	①希望								②実際																		
		結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける（続けたかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（専念したかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事や子育てに専念する（専念したかった）	子どもができたから家事や子育てに専念する（専念したかった）	就職したかった	就職したかった	就職したかった	就職したかった	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	仕事には就かない	その他	無回答	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける（続けたかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（専念したかった）	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事や子育てに専念する（専念したかった）	子どもができたから家事や子育てに専念する（専念したかった）	就職したかった	就職したかった	就職したかった	就職したかった	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	子育ての時期だけ離職し、その後は臨時雇用、パート・アルバイトなどで再就職する（再就職したかった）	仕事には就かない
全体	1,630	26.0	7.2	12.9	16.7	29.1	1.9	2.1	4.2	17.9	11.6	9.7	10.4	28.0	6.5	3.4	12.5											
性別	女性	928	28.7	5.8	10.0	17.8	32.5	1.3	0.6	3.2	19.3	11.4	9.3	10.0	25.1	7.0	4.4	13.5										
	男性	603	21.7	8.8	16.6	15.3	25.2	3.2	4.5	4.8	14.7	12.1	10.7	11.1	5.5	1.2	10.4											

(2) 働いていない理由

問10-1は、問10で「5. 専業主婦・主夫」、「6. 無職」と回答した方にお聞きします。
問10-1 現在働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「高齢のため」(54.7%)が最も多く、次いで「年金収入等により働かなくても生活できるから」(26.1%)となっている。

性別で見ると、女性は男性に比べて「働くことについて配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから」「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」が5ポイント以上高い。



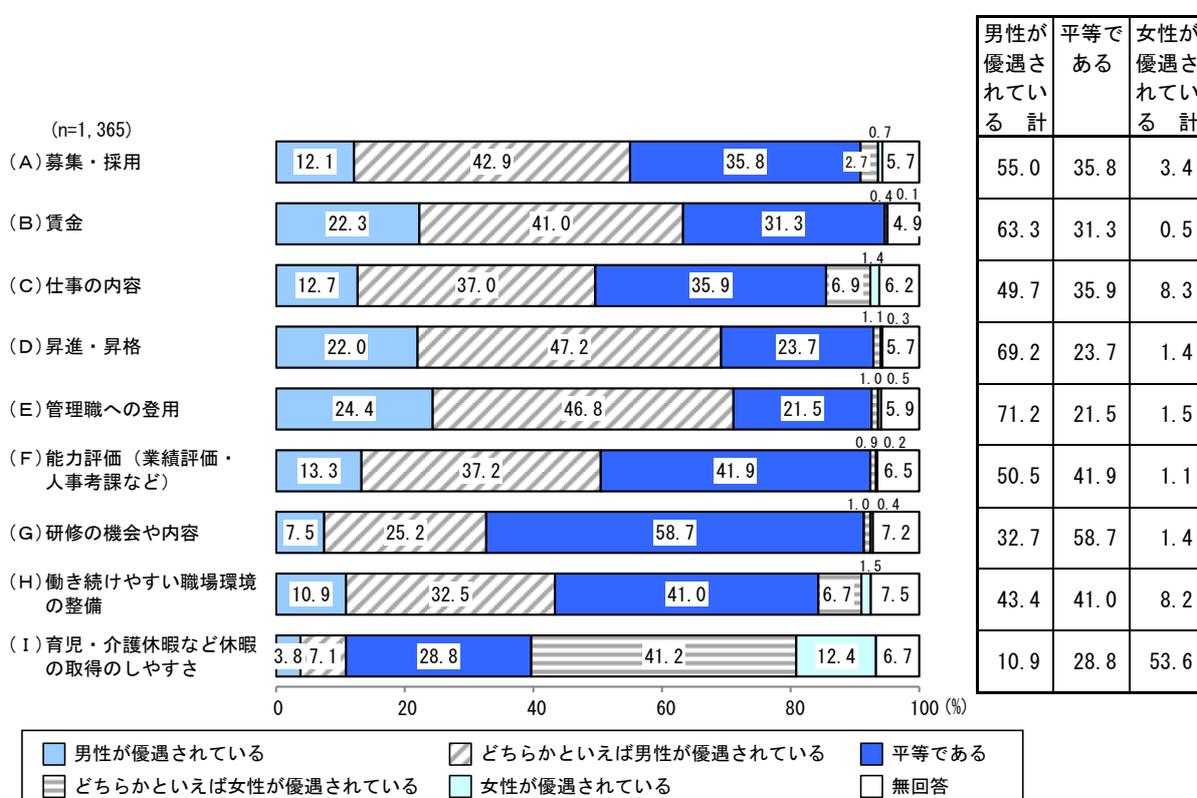
(3) 仕事における性別による差

問11 あなたは、仕事に関する次のことについて、性別による差があると思いますか。(それぞれ○は一つ)

全体は、“男性が優遇されている計”の割合は『(E) 管理職への登用』(71.2%)が最も高く、次いで『(D) 昇進・昇格』(69.2%)となっている。

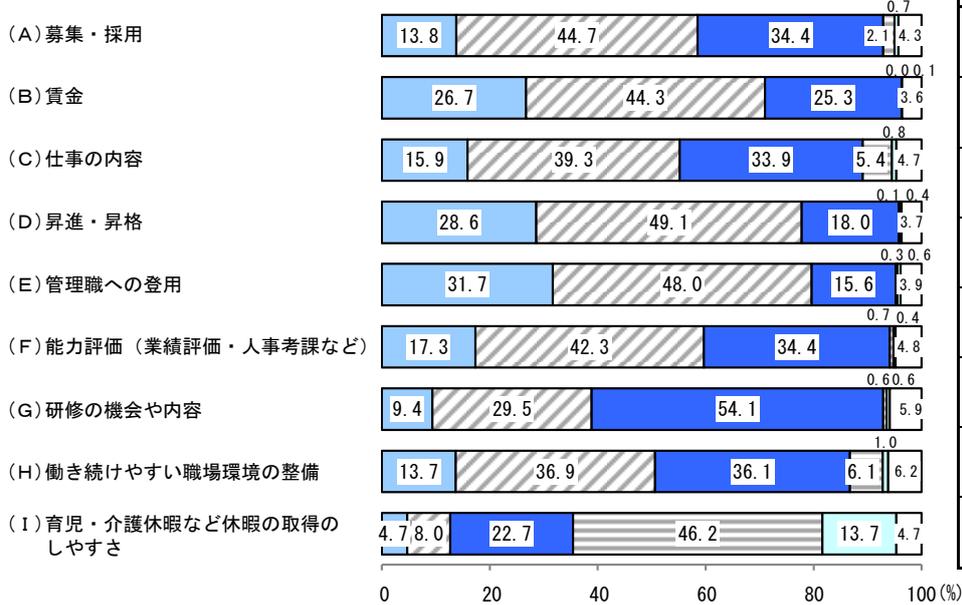
性別で見ると、全ての項目で女性の“男性が優遇されている計”の割合は男性に比べて5ポイント以上高い。また、全ての項目で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高い。

前回調査との比較で見ると、全体ではいずれの項目も“男性が優遇されている計”の割合が前回より低く、“平等である”の割合は前回より高くなっている。

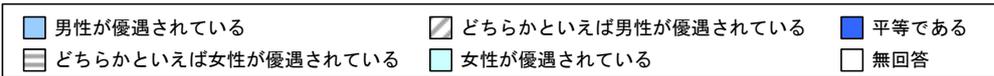


※男性が優遇されている計：「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた値
 女性が優遇されている計：「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた値

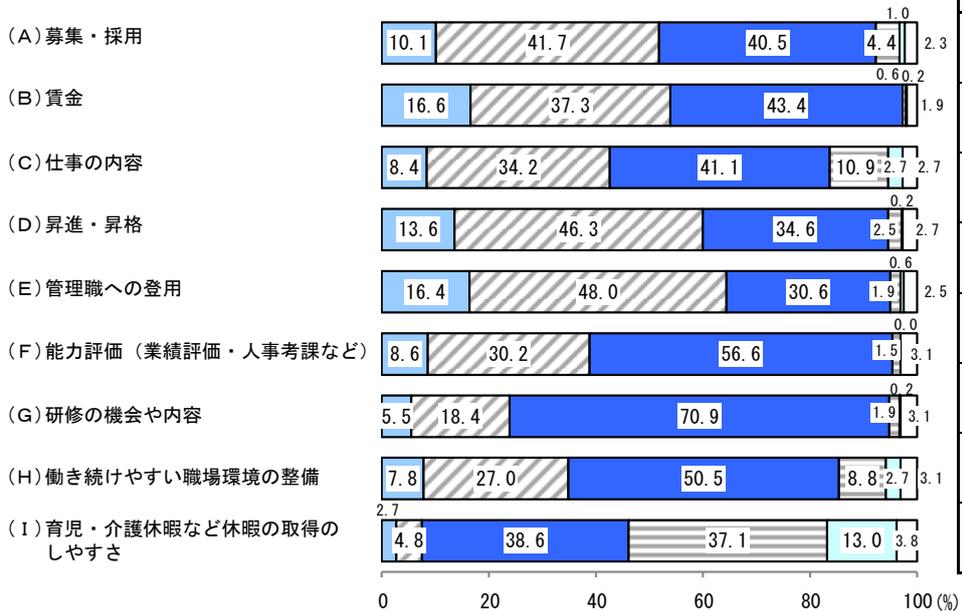
女性(n=723)



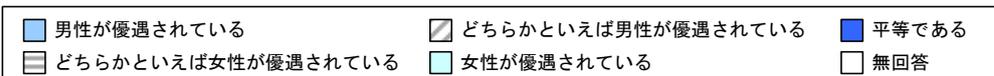
男性が優遇されている計	平等である	女性が優遇されている計
58.5	34.4	2.8
71.0	25.3	0.1
55.2	33.9	6.2
77.7	18.0	0.5
79.7	15.6	0.9
59.6	34.4	1.1
38.9	54.1	1.2
50.6	36.1	7.1



男性(n=477)

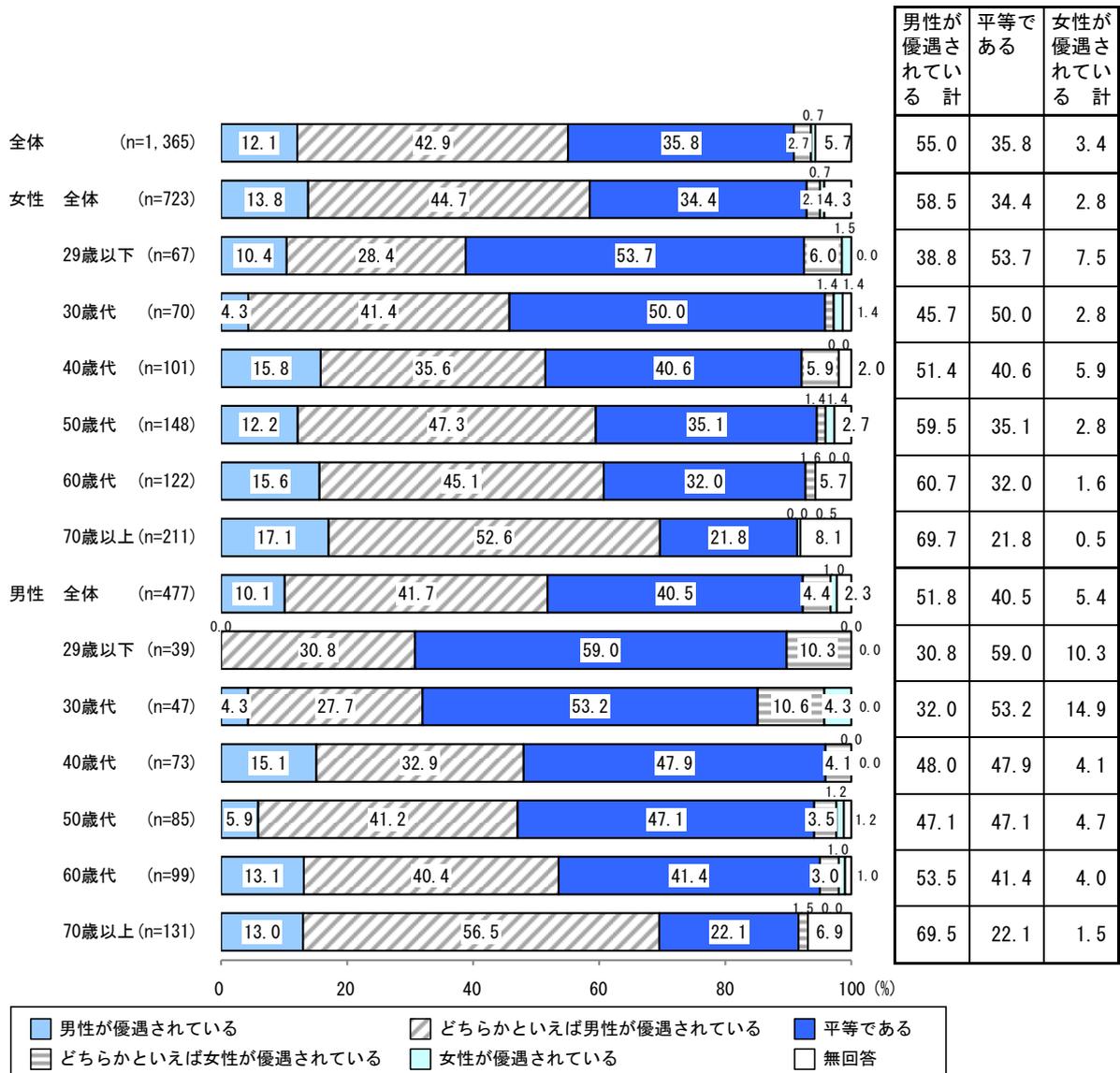


男性が優遇されている計	平等である	女性が優遇されている計
51.8	40.5	5.4
53.9	43.4	0.8
42.6	41.1	13.6
59.9	34.6	2.7
64.4	30.6	2.5
38.8	56.6	1.5
23.9	70.9	2.1
34.8	50.5	11.5

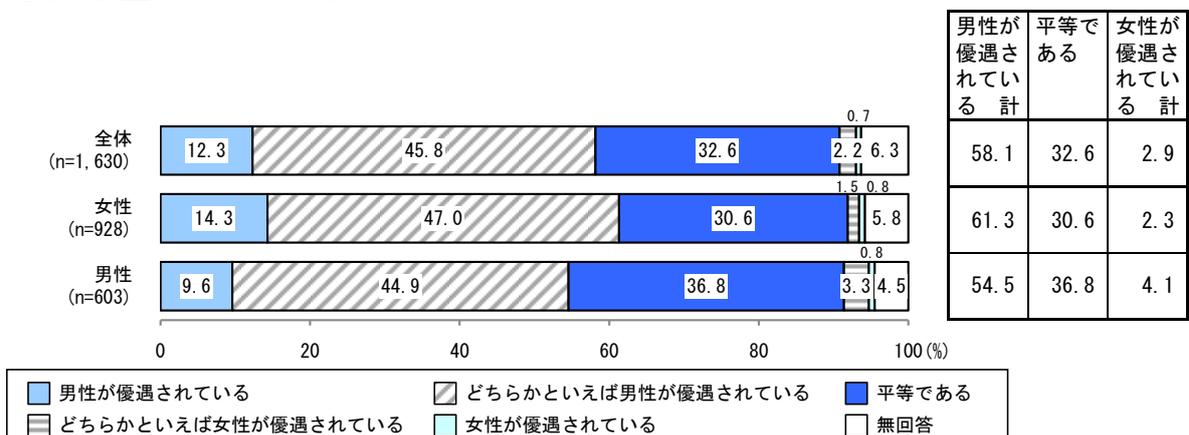


(A) 募集・採用

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は60歳代以上女性、70歳以上男性で60%を超えている。“男性が優遇されている計”の割合は全ての年代で男性より女性のほうが高くなっている。

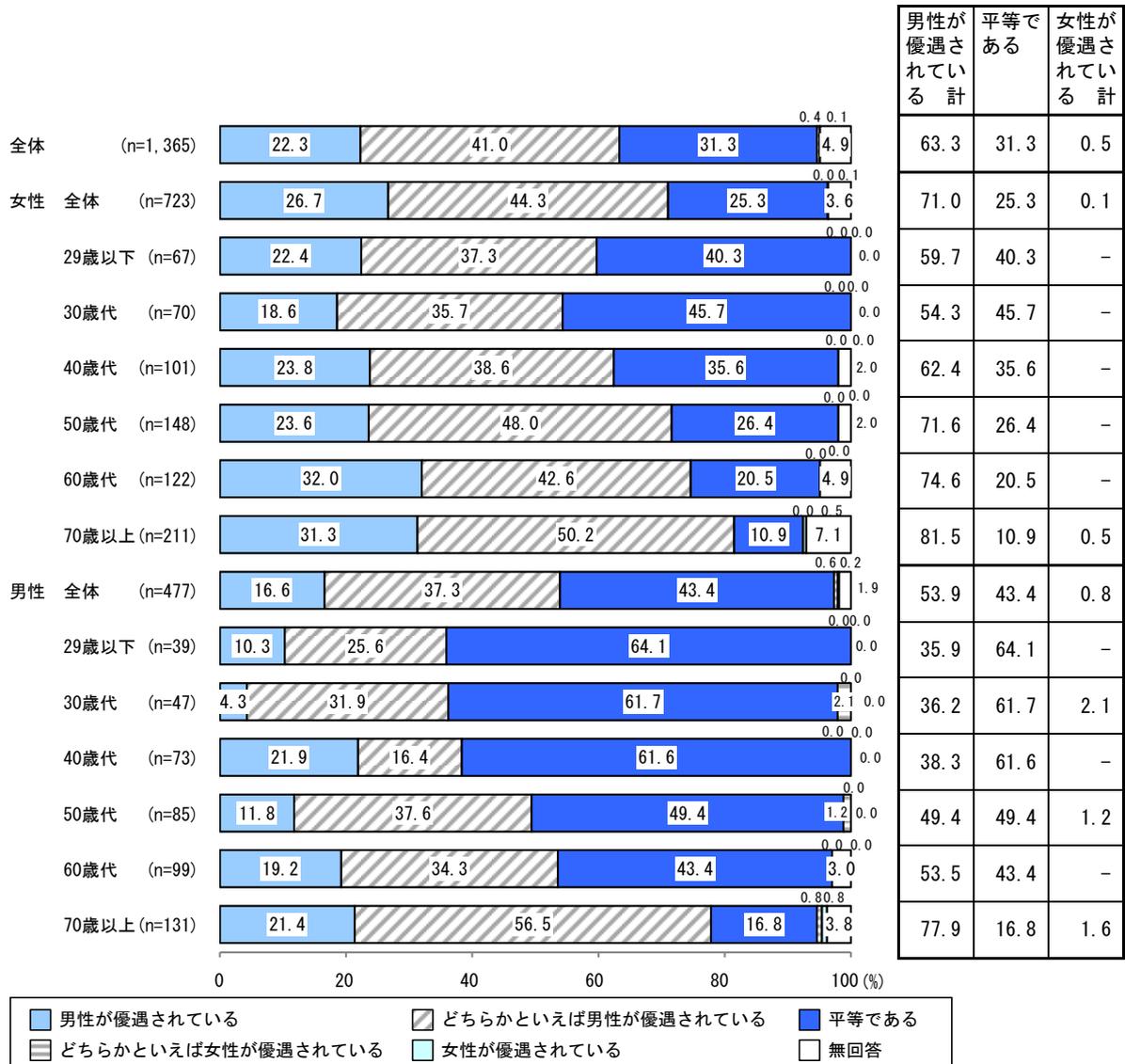


【前回調査（令和2年）】

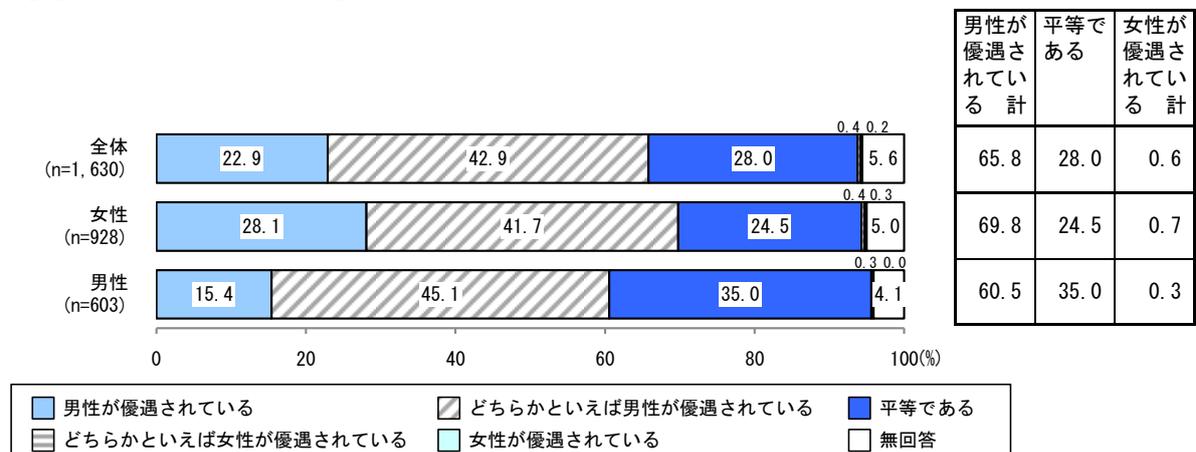


(B) 賃金

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は50歳代以上女性、70歳以上男性で70%を超えている。女性は、全ての年代で“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、29歳以下、40・50歳代で男女差がより大きい。

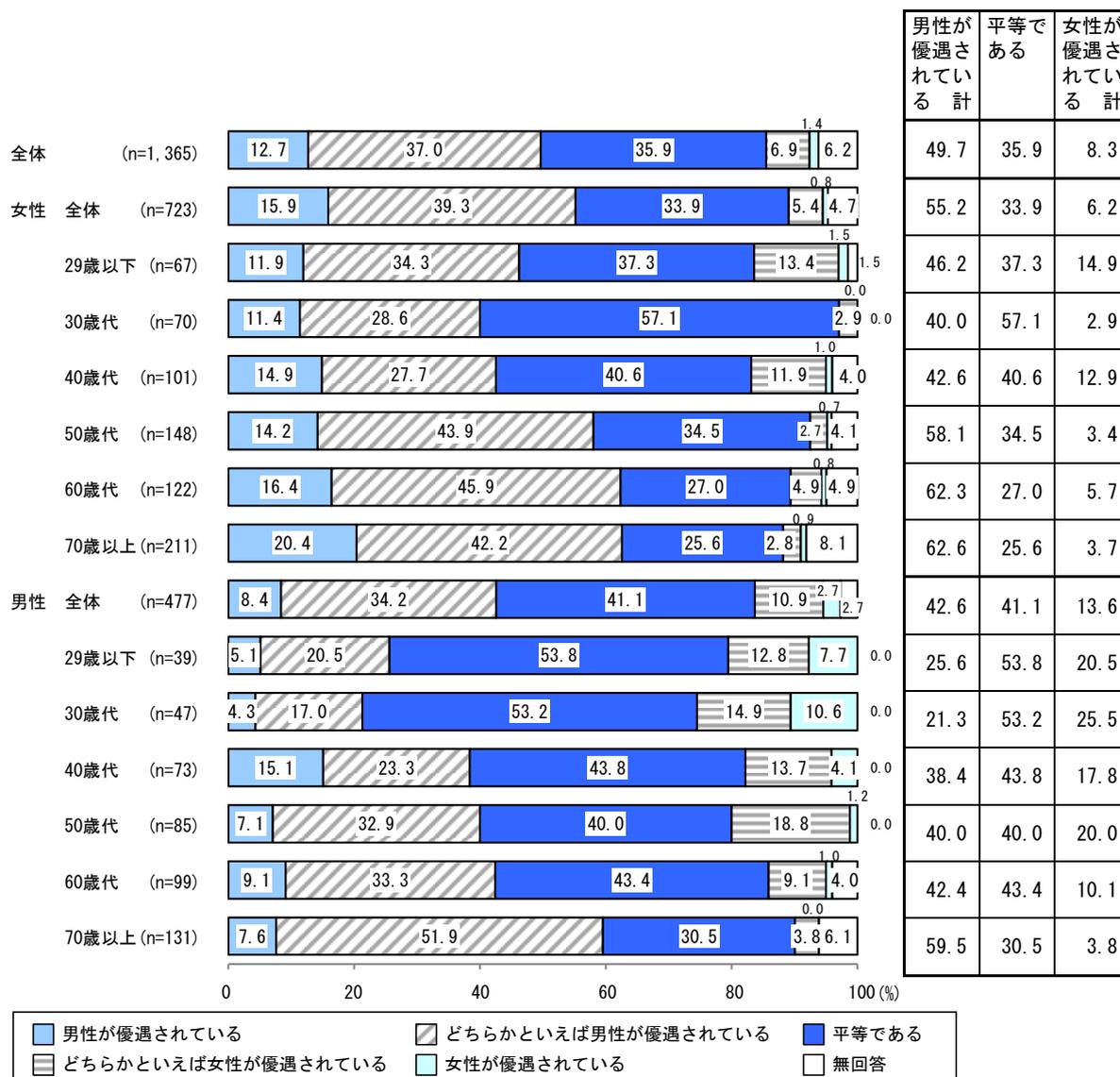


【前回調査（令和2年）】

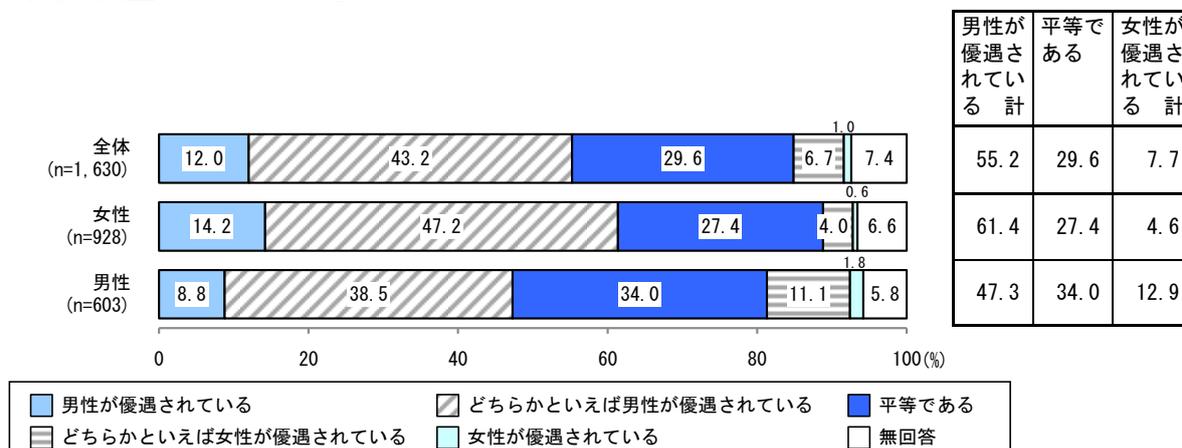


(C) 仕事の内容

性・年代別でみると、女性では50歳以上の年代で“男性が優遇されている計”の割合が50%を超えている。男性では50歳代以上で“男性が優遇されている計”が40%を超えているが、40歳代以下では“男性が優遇されている計”よりも“平等である”の割合が高い。

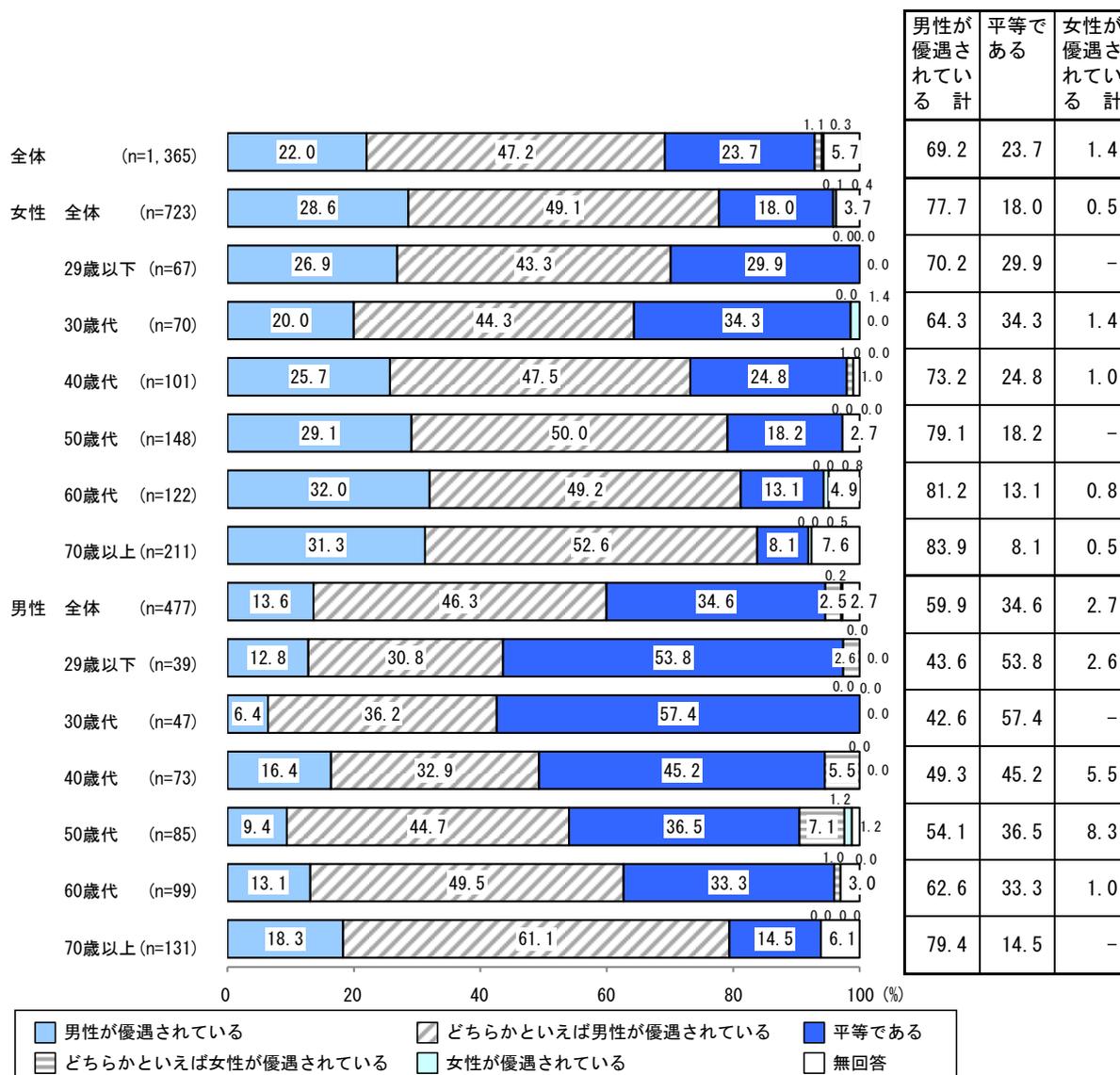


【前回調査（令和2年）】

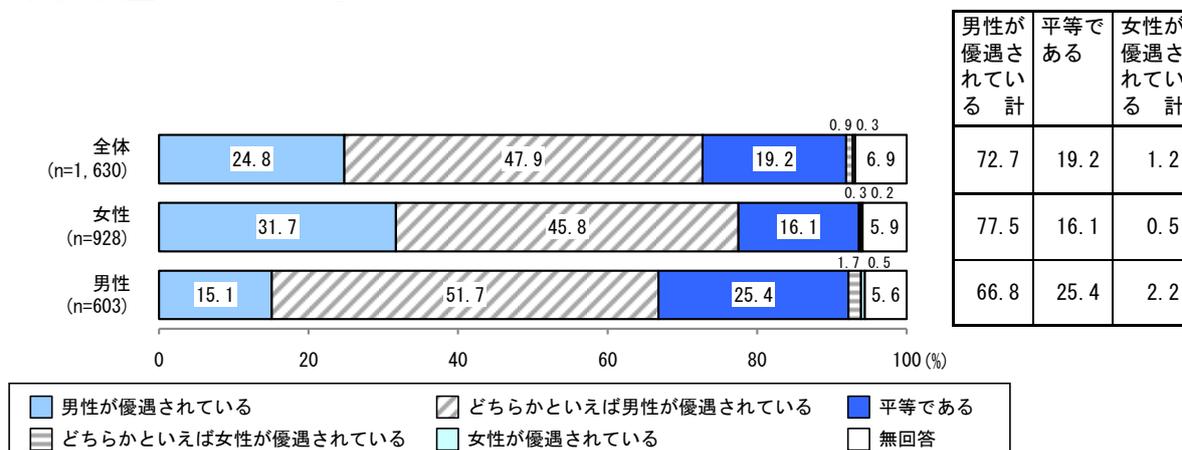


(D) 昇進・昇格

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は女性では全ての年代で60%を超えているのに対して、男性は50歳代以下で60%を下回る。全ての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、50歳代以下で男女差がより大きい。

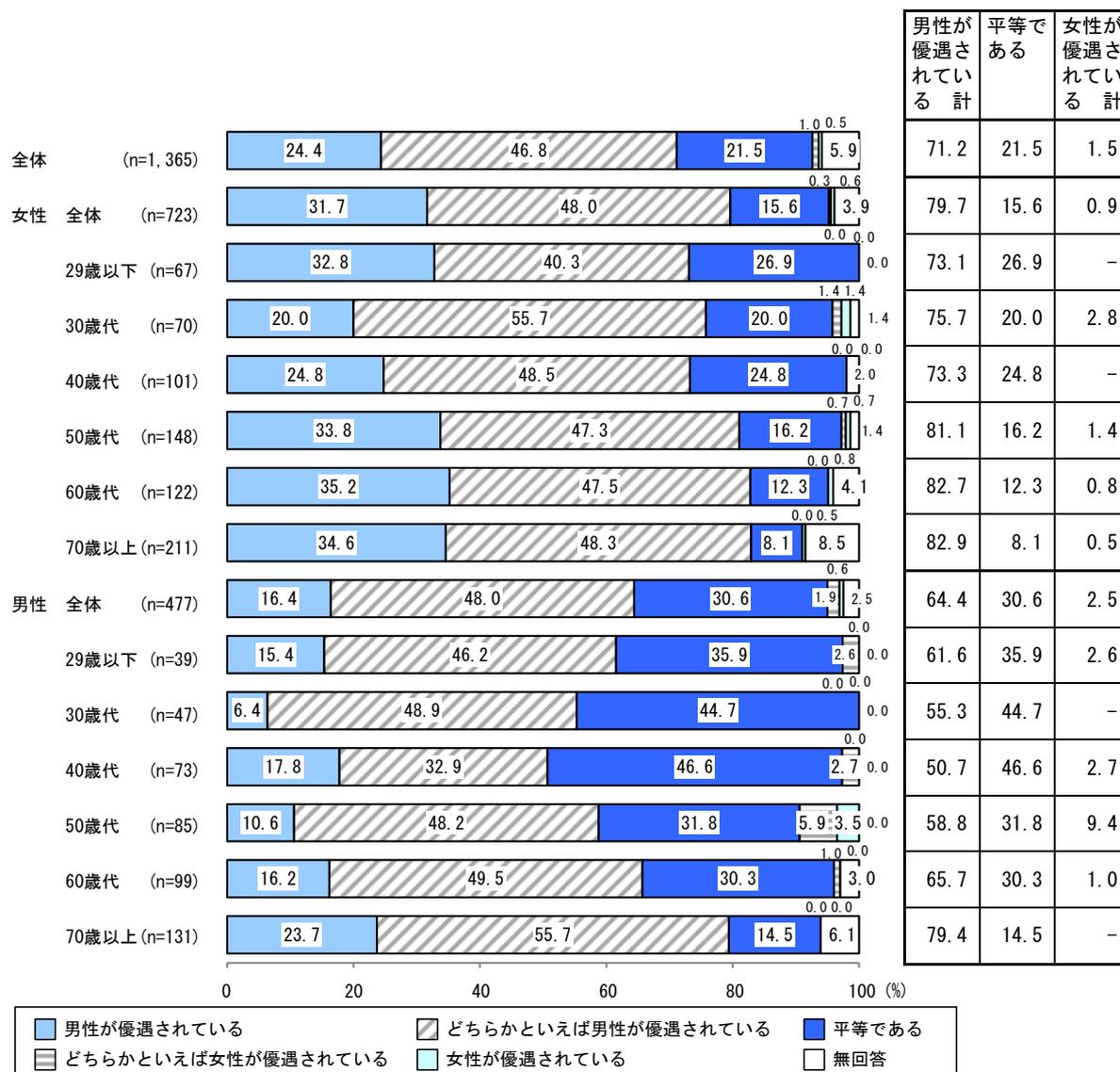


【前回調査（令和2年）】

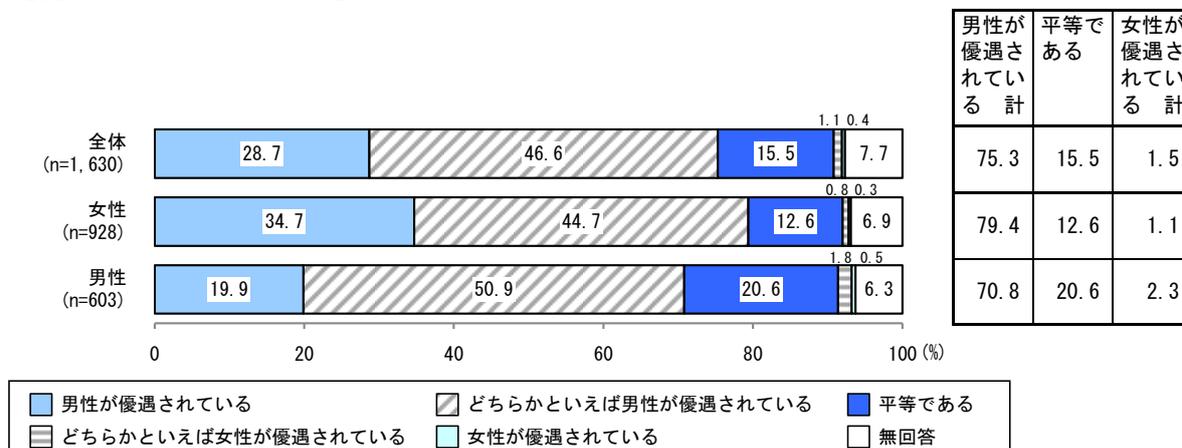


(E) 管理職への登用

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は女性では全ての年代で70%を超えているのに対して、男性は60歳代以下で70%を下回る。全ての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30～50歳代で男女差がより大きい。

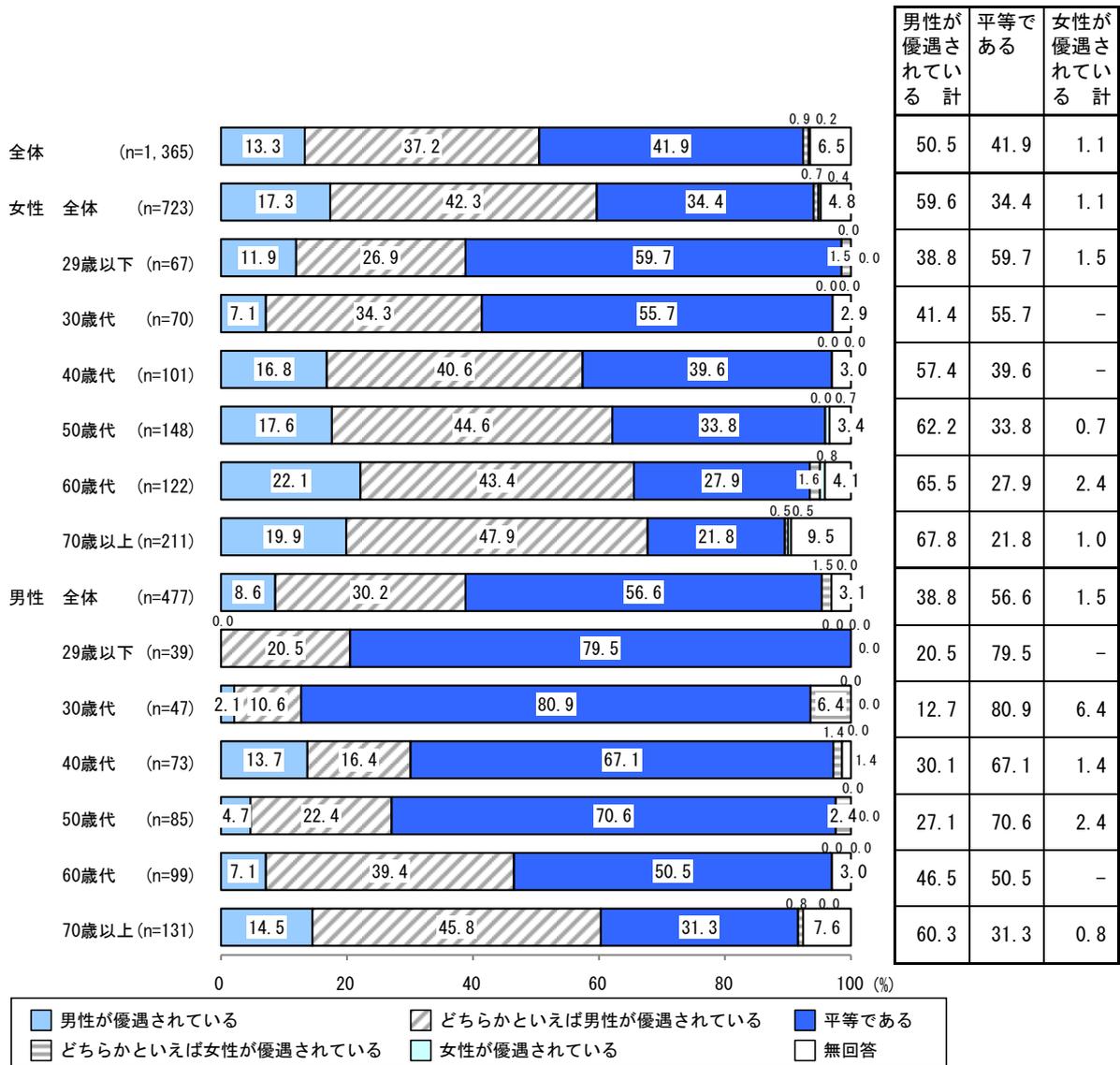


【前回調査（令和2年）】

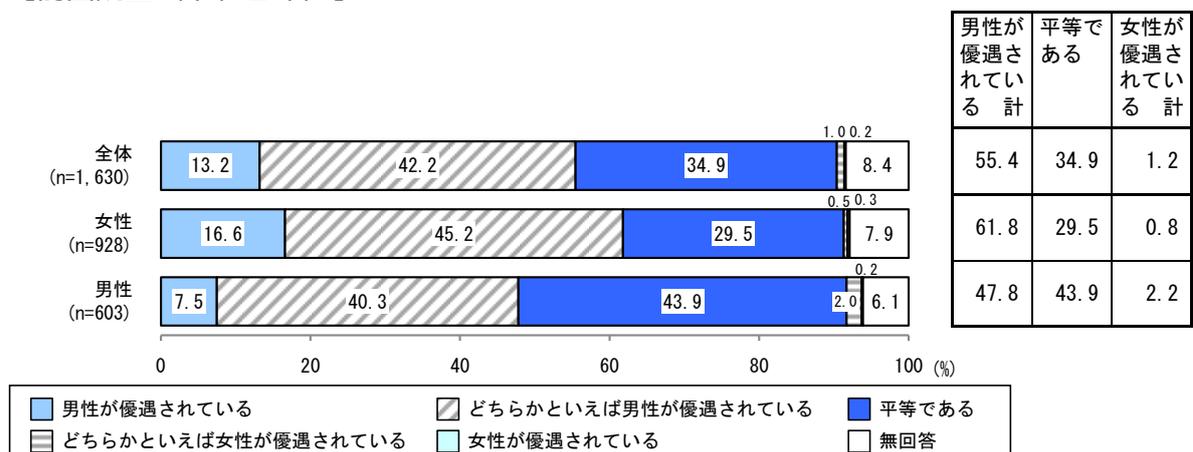


(F) 能力評価（業績評価・人事考課など）

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は50歳代以上女性、70歳代男性で60%を超えている。全ての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代から40歳代で男女差が20ポイント以上と大きい。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代、40歳代で男女差がより大きい。

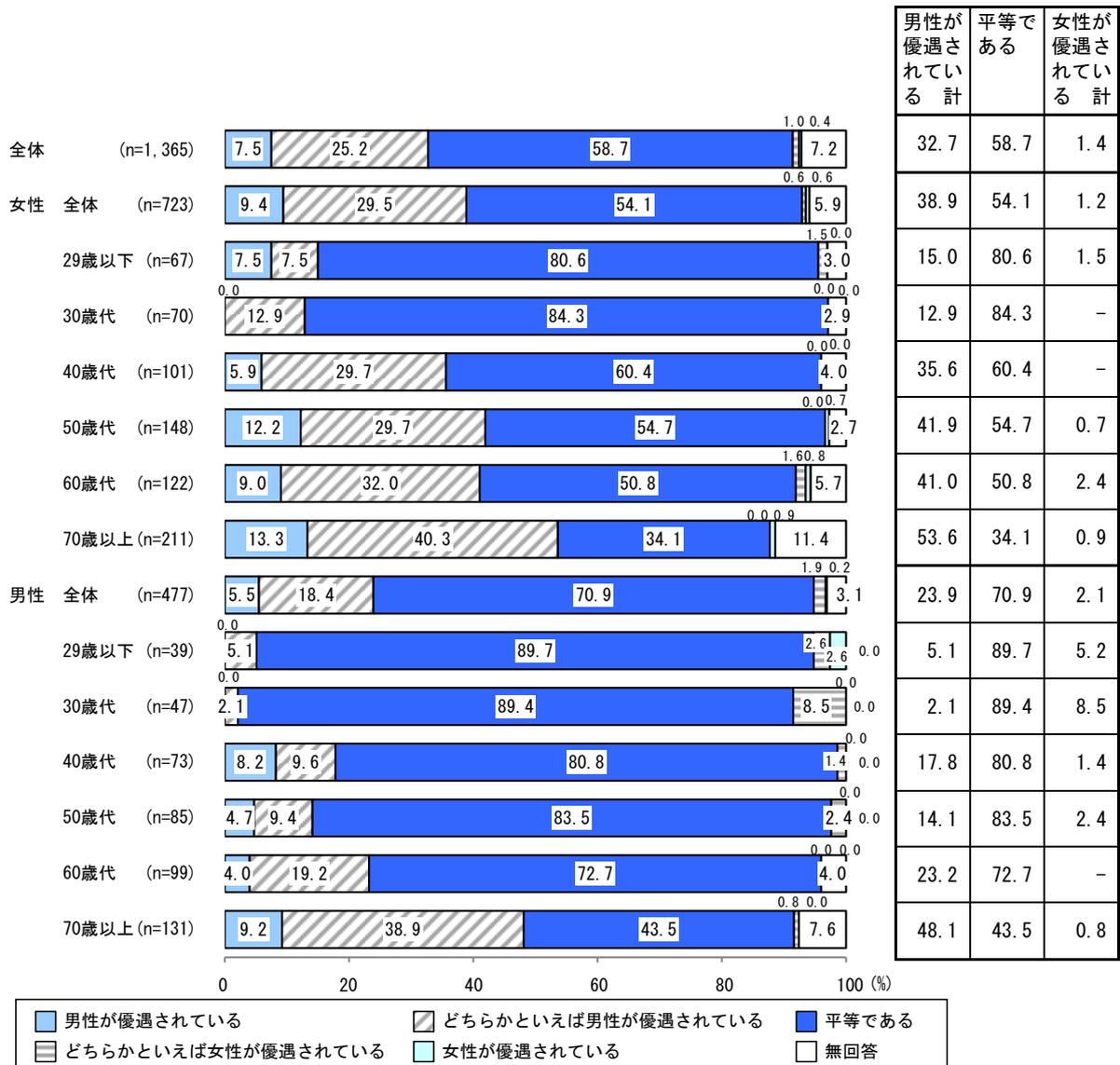


【前回調査（令和2年）】

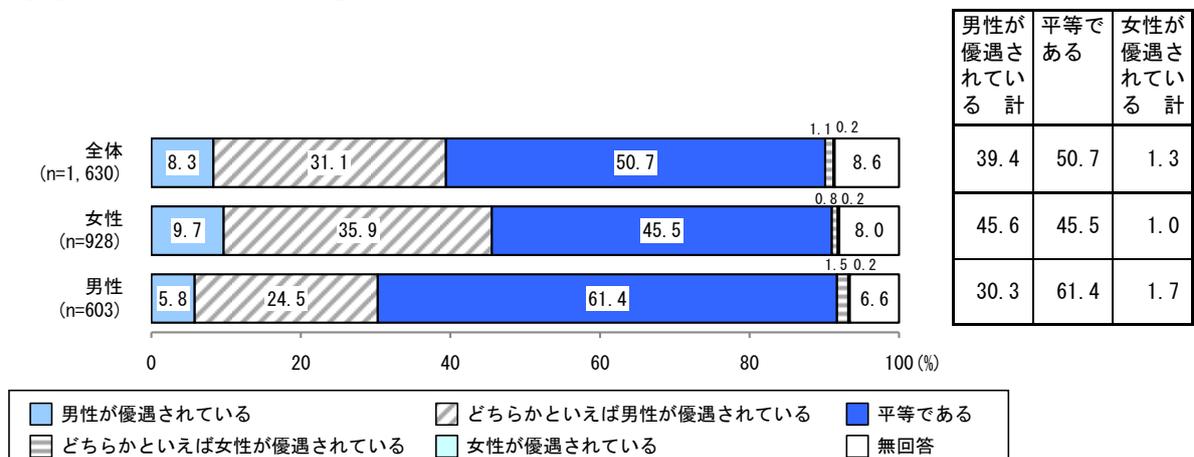


(G) 研修の機会や内容

性・年代別でみると、“男性が優遇されている計”の割合は男女ともに70歳以上で高い。女性は“男性が優遇されている計”の割合が全ての年代で男性に比べて高く、50歳代で男女差が27.8ポイントと大きくなっている。

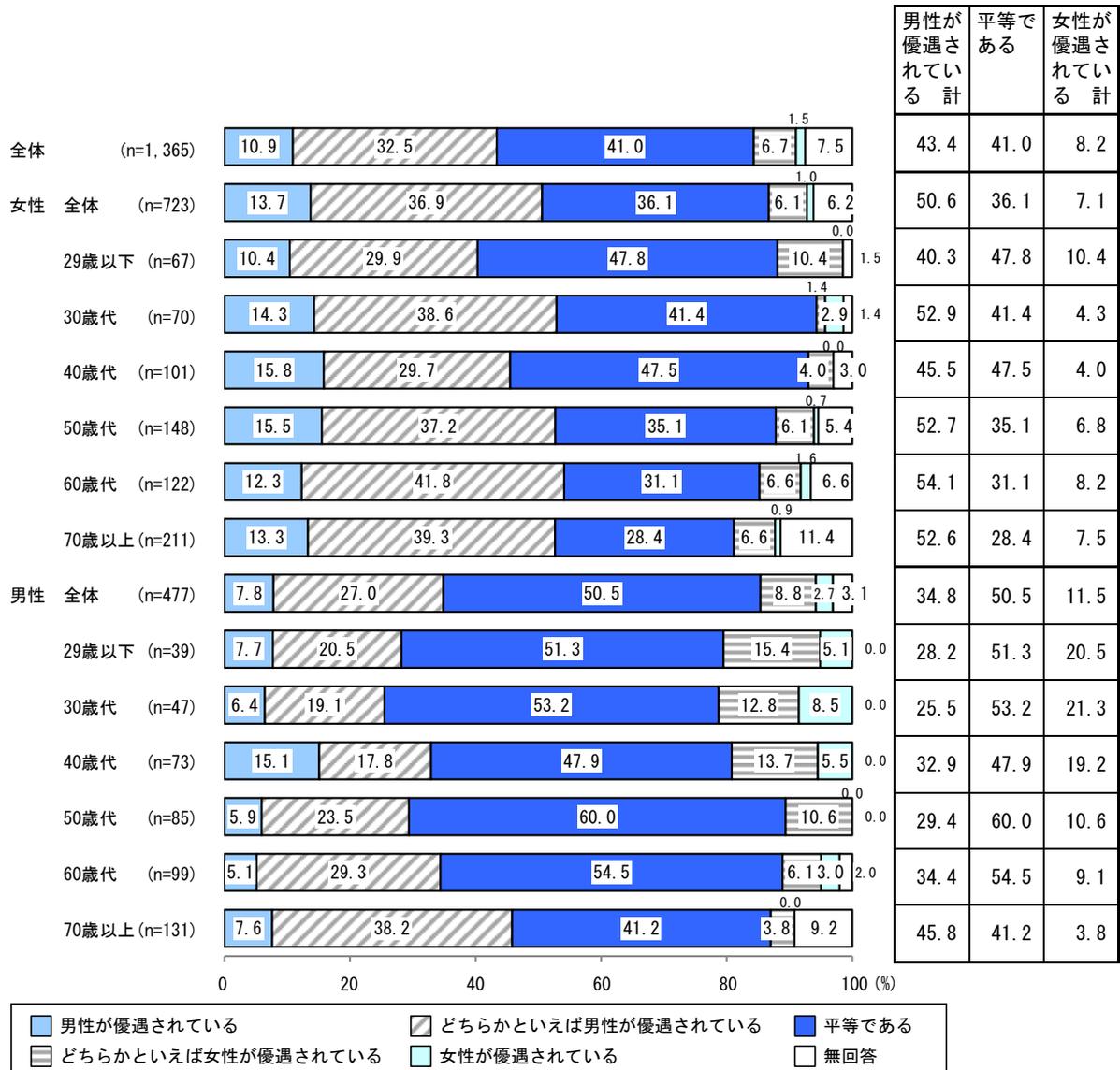


【前回調査（令和2年）】

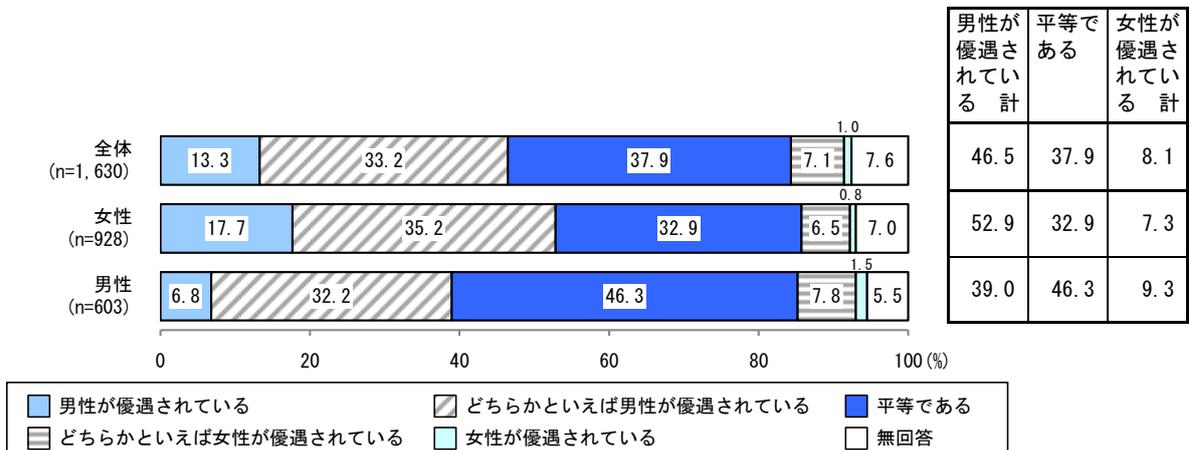


(H) 働き続けやすい職場環境の整備

性・年代別でみると、30歳代、50歳代以上女性の“男性が優遇されている計”の割合が50%台と高く、全ての年代で男性より女性のほうが高くなっている。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、50歳代、60歳代で男女差がより大きい。

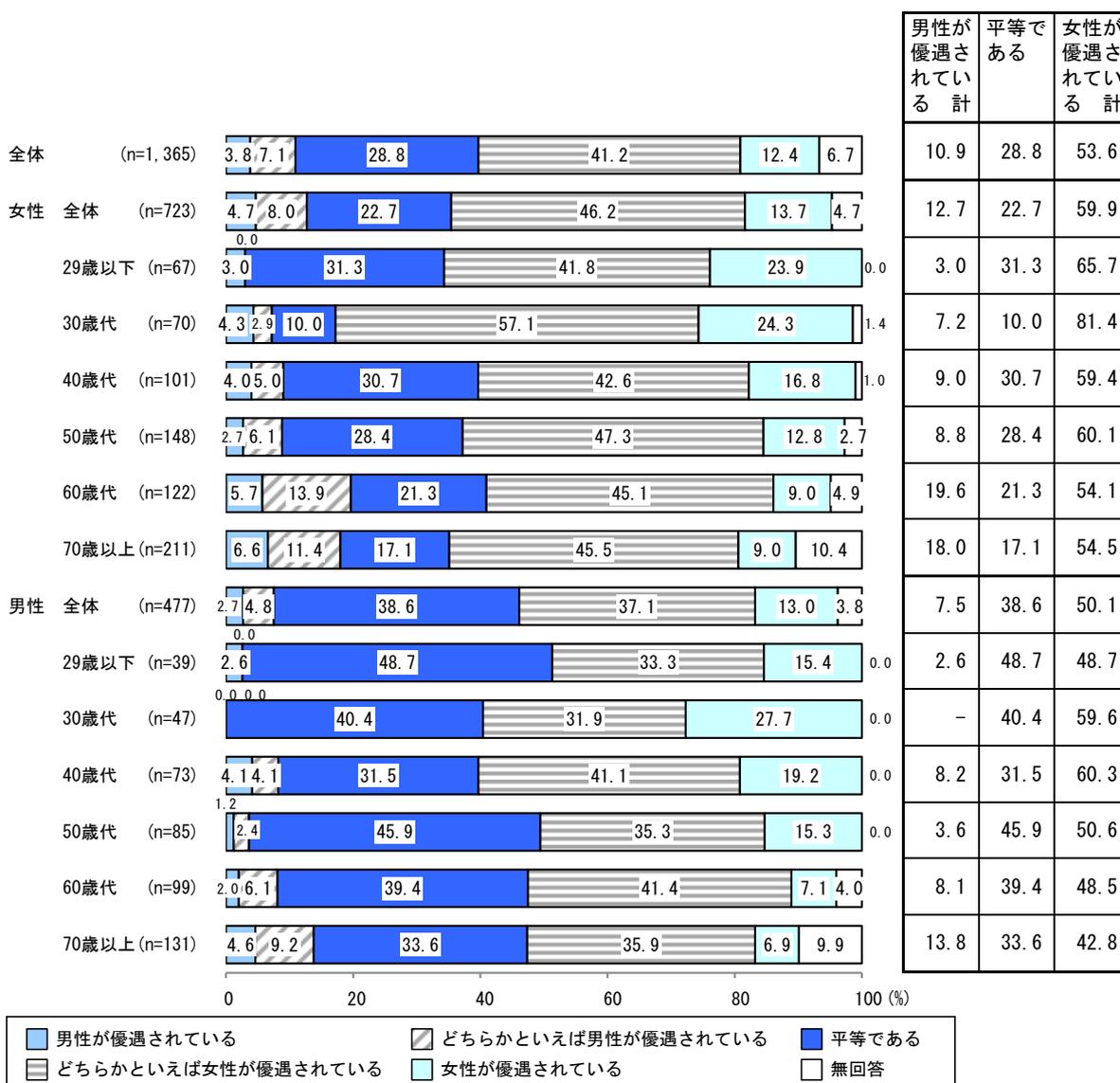


【前回調査（令和2年）】

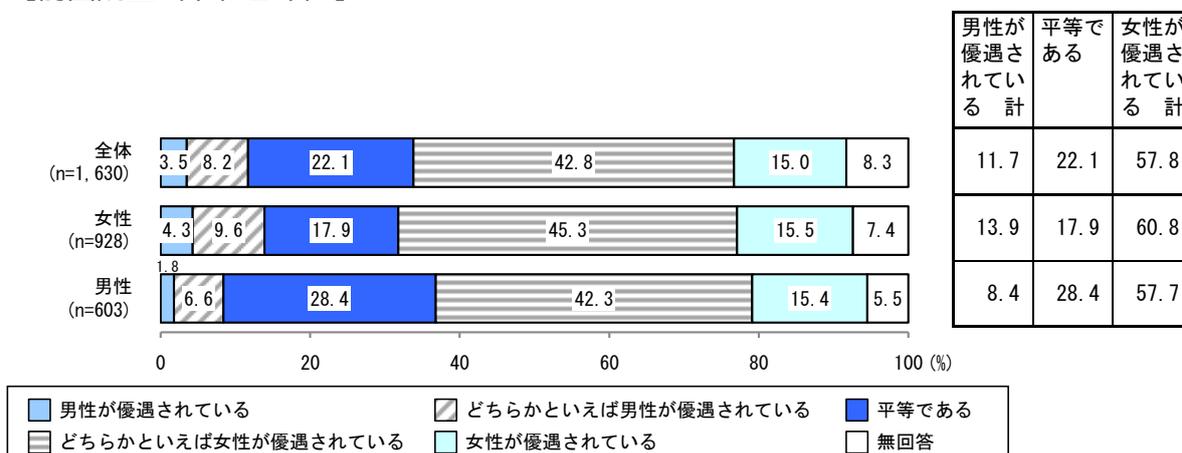


(I) 育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ

性・年代別でみると、29歳以下、30歳代女性で“女性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、男女差が大きい。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代の女性は男性より30.4ポイント低くなっている。



【前回調査（令和2年）】



(4) 男女が対等に働くために必要なこと

問12 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備」(69.5%)が最も多く、次いで「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」(67.0%)となっている。

性別で見ると、「女性の採用を拡大する」「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」「男女ともに、教育・研修機会を充実する」を除き、全ての項目で女性の割合が男性より高くなっている。女性では「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備」の割合が76.3%で最も高いが、男性では「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」の割合が65.8%で最も高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体では「短時間勤務、フレックスタイム(時差出勤)、テレワーク(在宅勤務等)など時間や場所にとられない柔軟な働き方の普及」の割合が前回より10.2ポイント高くなっている。

(単位: MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
女性の採用を拡大する	32.7	31.4	34.4	40.2	41.8	39.0
賃金、昇給の男女の格差をなくす	62.4	67.4	57.7	54.7	58.3	50.2
男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める	43.9	45.4	45.1	36.5	38.5	33.5
男女ともに、能力を発揮できる配置を行う	63.4	64.5	65.8	61.4	62.7	60.2
男女ともに、教育・研修機会を充実する	38.5	38.9	39.0	33.6	33.0	33.8
結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備	69.5	76.3	64.2	65.9	70.9	59.2
男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする	67.0	71.4	65.2	62.3	67.0	56.6
育児・介護の施設や支援制度の充実	53.5	57.4	50.7	46.1	51.7	38.8
職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす	45.6	49.1	41.3	43.4	44.7	41.8
職場において男女が対等であるという意識を普及させる	41.3	43.4	39.8	35.0	37.1	31.5
女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める	33.5	34.4	32.9	32.2	32.5	32.0
男性自身の意識を変える	36.0	37.6	35.4	34.8	35.6	35.0
短時間勤務、フレックスタイム(時差出勤)、テレワーク(在宅勤務等)など時間や場所にとられない柔軟な働き方の普及	57.3	62.9	52.8	47.1	52.6	40.6
長時間労働を見直し、仕事と家事・育児等との両立(ワーク・ライフ・バランス)を実現する	59.3	66.7	53.7	53.4	58.2	48.3
その他	2.6	1.8	3.8	2.0	1.4	3.2
わからない	1.8	1.1	2.3	1.7	1.3	2.0
無回答	2.1	0.8	1.3	1.9	1.7	1.7

(5) 男性が休業や休暇を取得すること

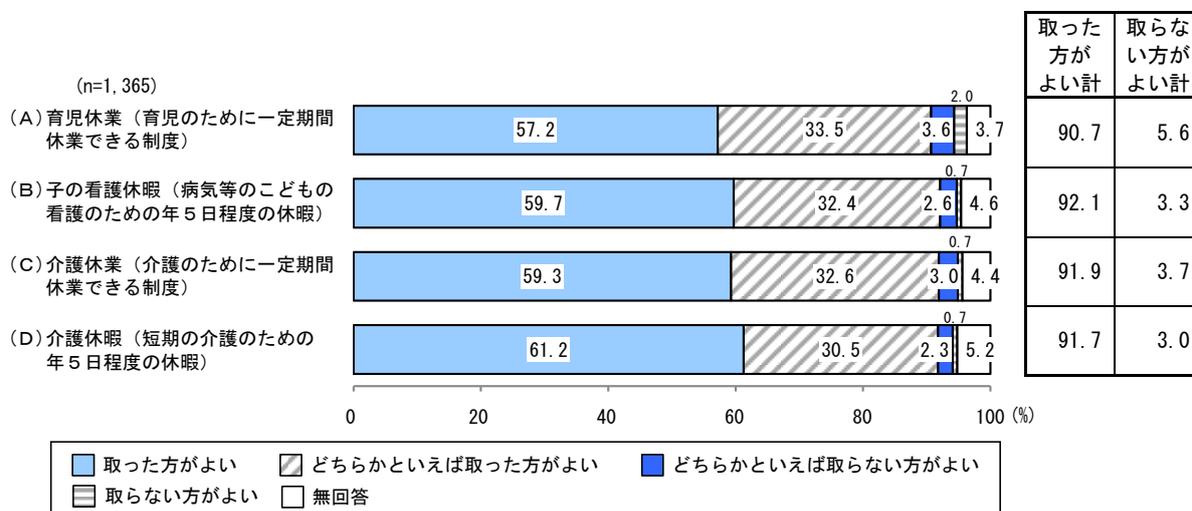
問13 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。
(それぞれ○は一つ)

全体は、いずれの項目も“取った方がよい計”の割合が90%を超えている。

性別でみると、女性の“取った方がよい計”の割合が『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』で94.0%と、男性に比べて3.3ポイント高い。

性・年代別でみると、『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』の“取った方がよい計”の割合が50歳代女性で8.3ポイント男性に比べて高い。また、『(B) 子の看護休暇（病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇）』の50歳代女性も“取った方がよい計”の割合が5.5ポイント男性に比べて高くなっている。

前回調査との比較でみると、全体ではいずれの項目も“取った方がよい計”の割合が前回より高くなっている。



※取った方がよい計：「取った方がよい」「どちらかといえば取った方がよい」をあわせた値
取らない方がよい計：「取らない方がよい」「どちらかといえば取らない方がよい」をあわせた値

(単位：%)	女性 (n=723)					男性 (n=477)					取った方がよい計	取らない方がよい計		
	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい			取らない方がよい	無回答
(A) 育児休業	60.9	33.1	2.5	1.9	1.7	94.0	4.4	55.1	35.6	5.0	2.1	2.1	90.7	7.1
(B) 子の看護休暇	63.3	31.0	2.4	0.4	2.9	94.3	2.8	58.5	35.0	3.1	1.3	2.1	93.5	4.4
(C) 介護休業	63.5	30.3	2.5	0.8	2.9	93.8	3.3	57.4	36.1	3.8	0.6	2.1	93.5	4.4
(D) 介護休暇	65.8	28.5	2.2	0.7	2.8	94.3	2.9	60.0	34.0	2.5	0.8	2.7	94.0	3.3

(単位：%)	n	(A) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)							(B) 子の看護休暇 (病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇)							
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	
全体	1,365	57.2	33.5	3.6	2.0	3.7	90.7	5.6	59.7	32.4	2.6	0.7	4.6	92.1	3.3	
性・年代別	女性全体	723	60.9	33.1	2.5	1.9	1.7	94.0	4.4	63.3	31.0	2.4	0.4	2.9	94.3	2.8
	29歳以下	67	77.6	19.4	1.5	1.5	-	97.0	3.0	82.1	17.9	-	-	-	100.0	-
	30歳代	70	77.1	21.4	1.4	-	-	98.5	1.4	80.0	17.1	2.9	-	-	97.1	2.9
	40歳代	101	58.4	31.7	5.0	4.0	1.0	90.1	9.0	65.3	29.7	3.0	1.0	1.0	95.0	4.0
	50歳代	148	64.2	32.4	2.7	0.7	-	96.6	3.4	66.2	31.1	0.7	-	2.0	97.3	0.7
	60歳代	122	57.4	38.5	1.6	0.8	1.6	95.9	2.4	61.5	33.6	3.3	-	1.6	95.1	3.3
	70歳以上	211	51.2	39.3	1.9	3.3	4.3	90.5	5.2	50.2	38.4	3.3	0.9	7.1	88.6	4.2
	男性全体	477	55.1	35.6	5.0	2.1	2.1	90.7	7.1	58.5	35.0	3.1	1.3	2.1	93.5	4.4
	29歳以下	39	71.8	28.2	-	-	-	100.0	-	76.9	20.5	2.6	-	-	97.4	2.6
	30歳代	47	68.1	25.5	6.4	-	-	93.6	6.4	68.1	27.7	2.1	2.1	-	95.8	4.2
	40歳代	73	57.5	34.2	5.5	2.7	-	91.7	8.2	64.4	34.2	1.4	-	-	98.6	1.4
	50歳代	85	56.5	31.8	8.2	2.4	1.2	88.3	10.6	61.2	30.6	7.1	1.2	-	91.8	8.3
	60歳代	99	52.5	39.4	4.0	2.0	2.0	91.9	6.0	56.6	38.4	3.0	-	2.0	95.0	3.0
	70歳以上	131	46.6	41.2	4.6	2.3	5.3	87.8	6.9	47.3	42.0	2.3	2.3	6.1	89.3	4.6

(単位：%)	n	(C) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)							(D) 介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)							
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	
全体	1,365	59.3	32.6	3.0	0.7	4.4	91.9	3.7	61.2	30.5	2.3	0.7	5.2	91.7	3.0	
性・年代別	女性全体	723	63.5	30.3	2.5	0.8	2.9	93.8	3.3	65.8	28.5	2.2	0.7	2.8	94.3	2.9
	29歳以下	67	73.1	25.4	-	-	1.5	98.5	-	76.1	22.4	-	1.5	-	98.5	1.5
	30歳代	70	77.1	20.0	2.9	-	-	97.1	2.9	78.6	20.0	1.4	-	-	98.6	1.4
	40歳代	101	68.3	26.7	3.0	1.0	1.0	95.0	4.0	72.3	21.8	4.0	1.0	1.0	94.1	5.0
	50歳代	148	68.9	27.7	0.7	1.4	1.4	96.6	2.1	71.6	26.4	0.7	-	1.4	98.0	0.7
	60歳代	122	62.3	32.0	4.9	-	0.8	94.3	4.9	64.8	31.1	3.3	-	0.8	95.9	3.3
	70歳以上	211	50.7	37.9	2.4	1.4	7.6	88.6	3.8	52.1	36.5	2.4	1.4	7.6	88.6	3.8
	男性全体	477	57.4	36.1	3.8	0.6	2.1	93.5	4.4	60.0	34.0	2.5	0.8	2.7	94.0	3.3
	29歳以下	39	76.9	20.5	2.6	-	-	97.4	2.6	76.9	23.1	-	-	-	100.0	-
	30歳代	47	59.6	34.0	6.4	-	-	93.6	6.4	61.7	36.2	2.1	-	-	97.9	2.1
	40歳代	73	65.8	31.5	2.7	-	-	97.3	2.7	69.9	28.8	1.4	-	-	98.7	1.4
	50歳代	85	58.8	34.1	3.5	1.2	2.4	92.9	4.7	61.2	34.1	3.5	-	1.2	95.3	3.5
	60歳代	99	56.6	36.4	4.0	1.0	2.0	93.0	5.0	60.6	33.3	4.0	-	2.0	93.9	4.0
	70歳以上	131	46.6	45.0	3.1	0.8	4.6	91.6	3.9	47.3	40.5	2.3	2.3	7.6	87.8	4.6

【前回調査（令和2年）】

(単位：%)	n	(A) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)							(B) 子の看護休暇 (病気等のこどもの看護のための年5日程度の休暇)						
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計
全体	1,630	39.9	43.6	9.5	2.4	4.6	83.5	11.9	43.6	45.0	4.8	1.1	5.6	88.6	5.9
女性	928	43.9	42.6	8.2	1.5	3.9	86.5	9.7	47.0	43.0	4.2	1.0	4.8	90.0	5.2
男性	603	35.5	45.9	11.3	3.8	3.5	81.4	15.1	39.6	49.4	5.8	1.3	3.8	89.0	7.1

(単位：%)	n	(C) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)							(D) 介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)						
		取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計	取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答	取った方がよい計	取らない方がよい計
全体	1,630	45.5	42.9	5.6	1.0	4.9	88.4	6.6	47.2	41.4	4.2	0.8	6.4	88.6	5.0
女性	928	49.7	41.2	4.5	0.8	3.9	90.9	5.3	51.9	39.0	3.6	0.5	5.0	90.9	4.1
男性	603	40.1	47.1	7.5	1.5	3.8	87.2	9.0	42.0	46.4	5.0	1.2	5.5	88.4	6.2

(6) 男性が休業や休暇を取得しないほうがよいと考える理由

問13-1は、問13で取らない方がよい（「3」または「4」）と回答した方にお聞きします。
問13-1 それぞれ取らない方がよいと考える理由は何ですか。

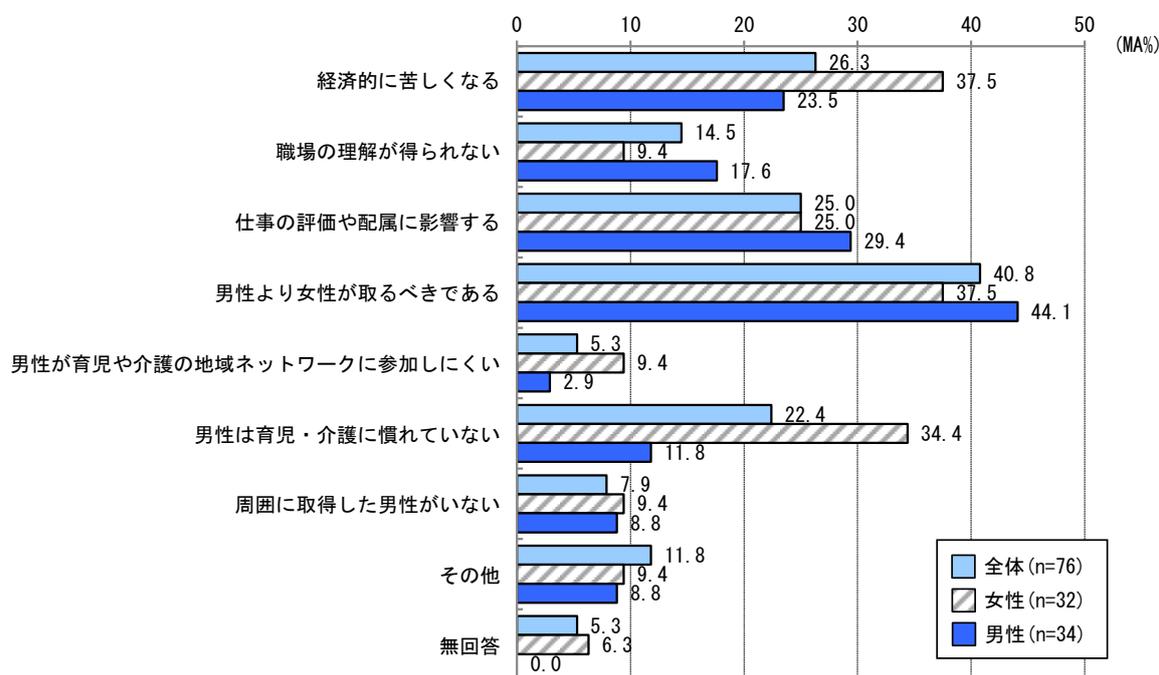
問13 A～Dで「3」または「4」と回答した項目のみお答えください。

（それぞれあてはまるものすべてに○）

(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）

全体は、「男性より女性が取るべきである」（40.8%）が最も多く、次いで「経済的に苦しくなる」（26.3%）となっている。

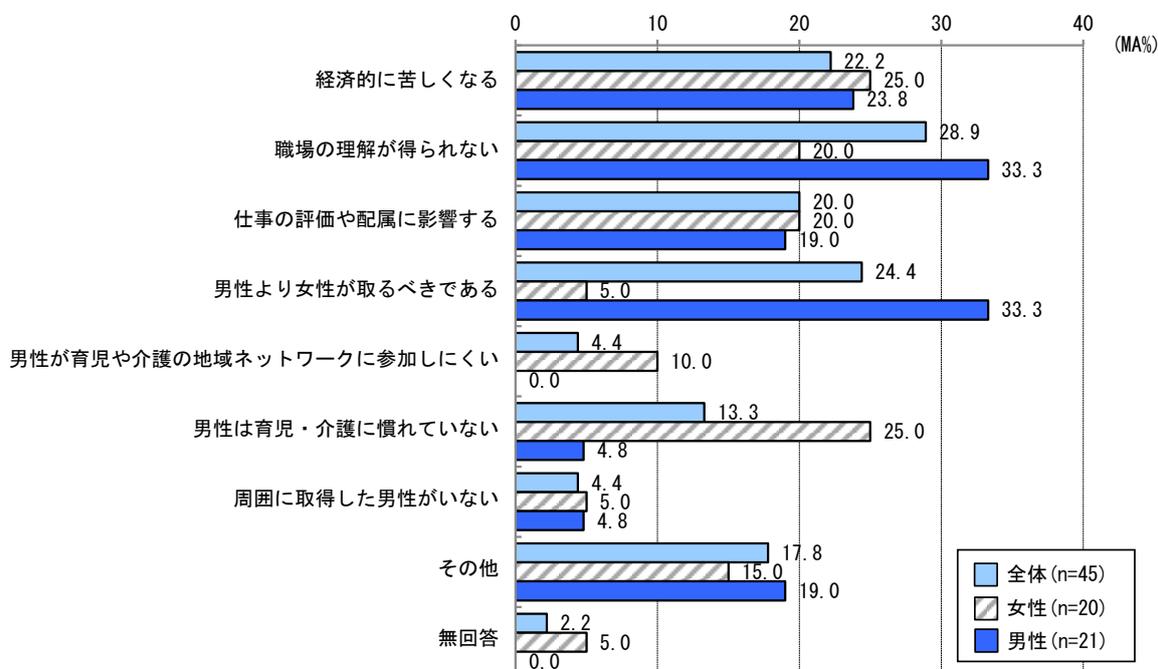
性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「男性より女性が取るべきである」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



(B) 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）

全体は、「職場の理解が得られない」（28.9%）が最も多く、次いで「男性より女性が取るべきである」（24.4%）となっている。

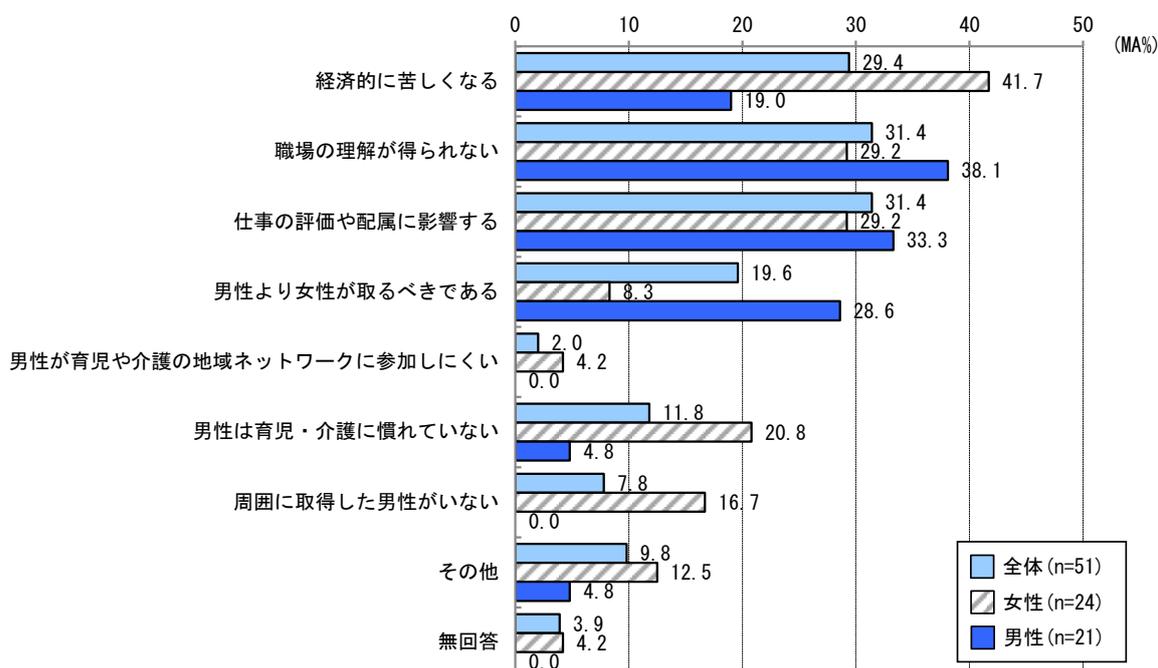
性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「男性より女性が取るべきである」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



(C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

全体は、「職場の理解が得られない」と「仕事の評価や配属に影響する」がそれぞれ31.4%で最も多くなっている。

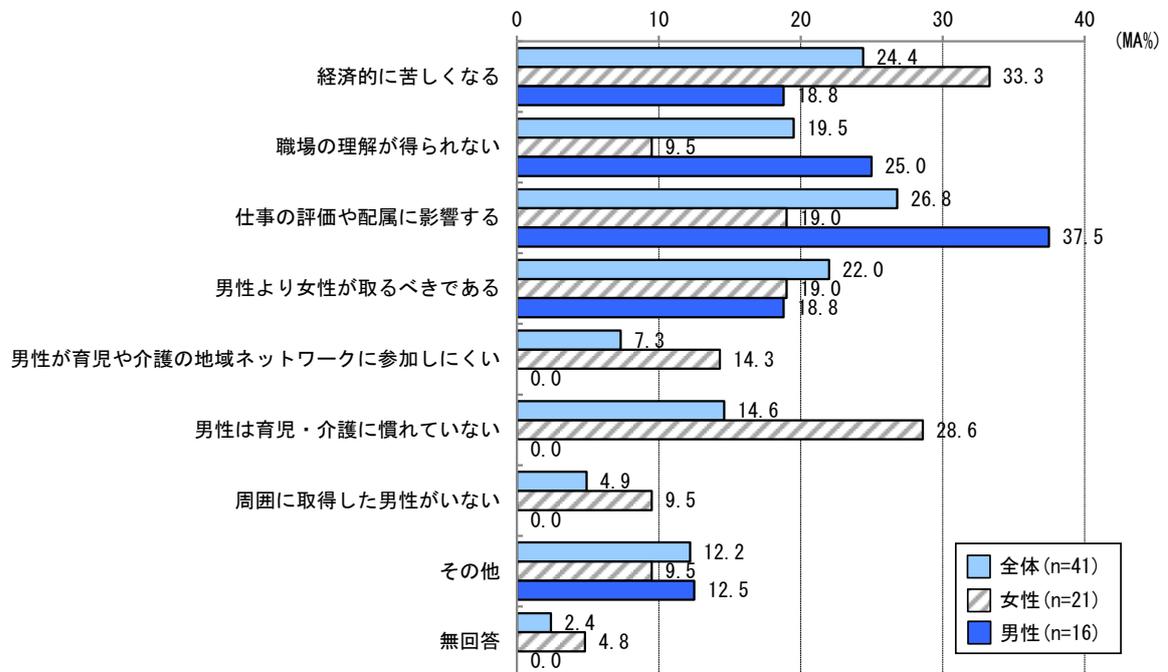
性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「男性より女性が取るべきである」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



(D) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）

全体は、「仕事の評価や配属に影響する」（26.8%）が最も多く、次いで「経済的に苦しくなる」（24.4%）となっている。

性別で見ると、男性で「職場の理解が得られない」「仕事の評価や配属に影響する」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



6 地域・生活全般について

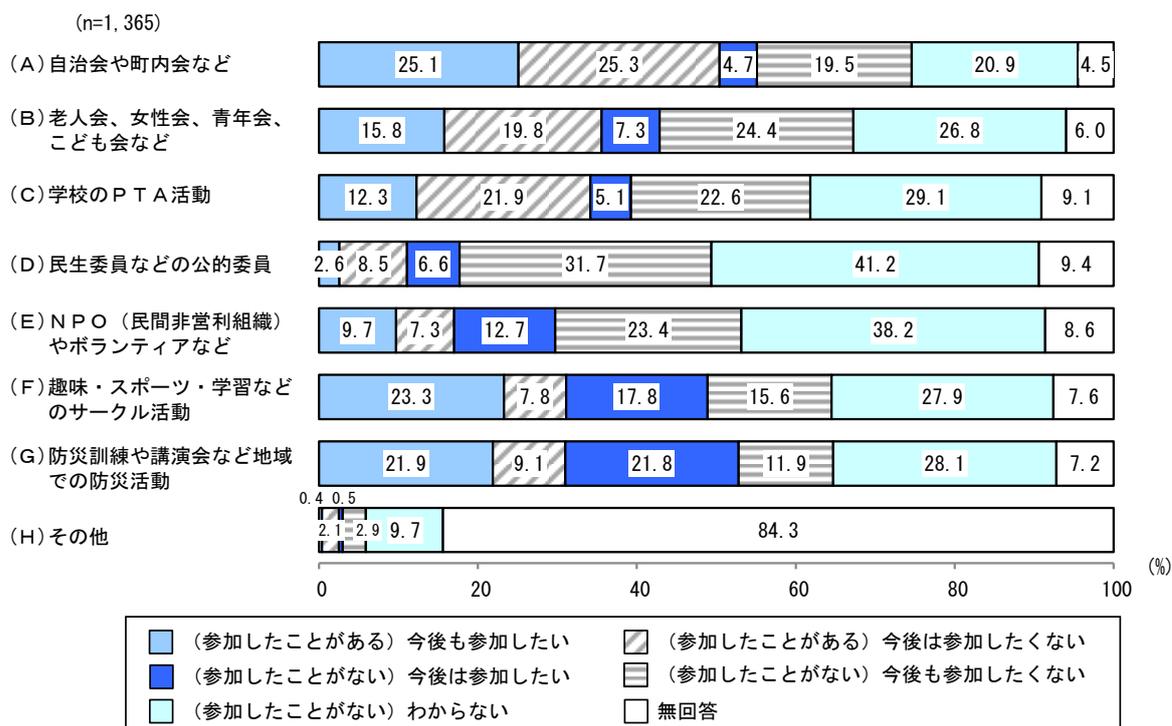
(1) 地域活動の参加状況

問14 あなたは、現在お住まいの地域で、次の活動に参加したことはありますか。また、今後参加したいと思いますか。（それぞれ○は一つ）

全体は、「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合は『（A）自治会や町内会など』（25.1%）が最も高く、次いで『（F）趣味・スポーツ・学習などのサークル活動』（23.3%）となっている。

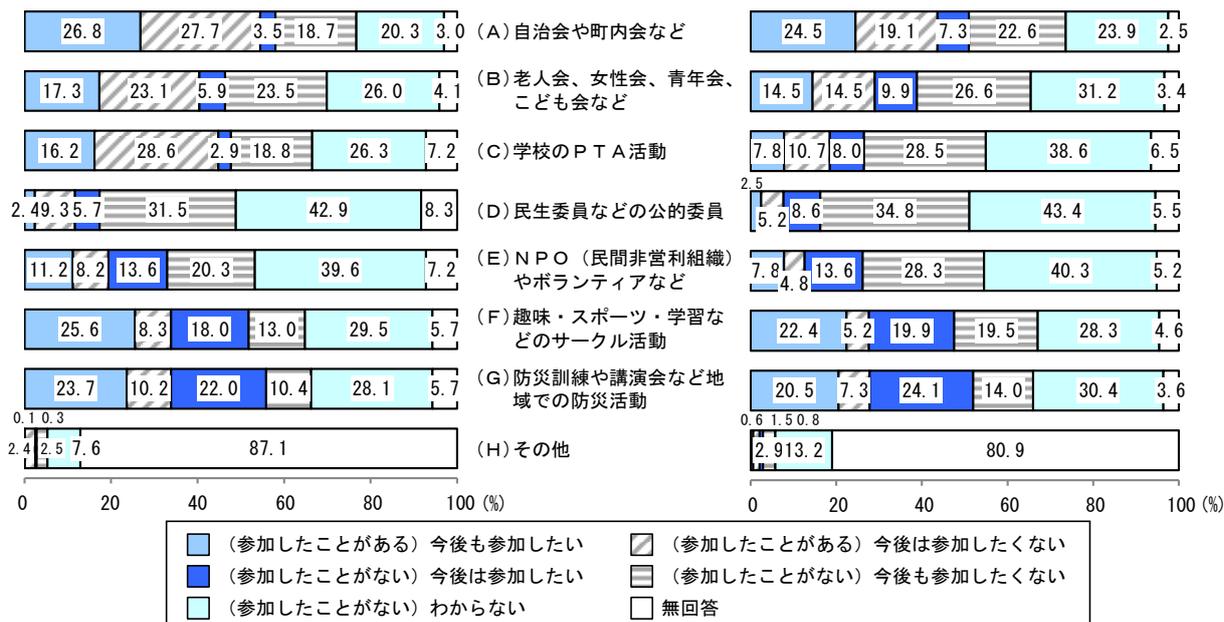
性別で見ると、男女とも「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合は『（A）自治会や町内会など』が最も高く、次いで『（F）趣味・スポーツ・学習などのサークル活動』となっている。「（参加したことがない）今後は参加したい」と「（参加したことがない）今後も参加したくない」の割合は全ての項目で女性より男性のほうが高くなっている。

前回調査との比較で見ると、女性はいずれの項目も「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合が前回より低くなっている。男性は「（参加したことがある）今後も参加したい」の割合は『（E）NPO（民間非営利組織）やボランティアなど』と『（F）趣味・スポーツ・学習などのサークル活動』以外の項目で前回より低くなっている。



【女性(n=723)】

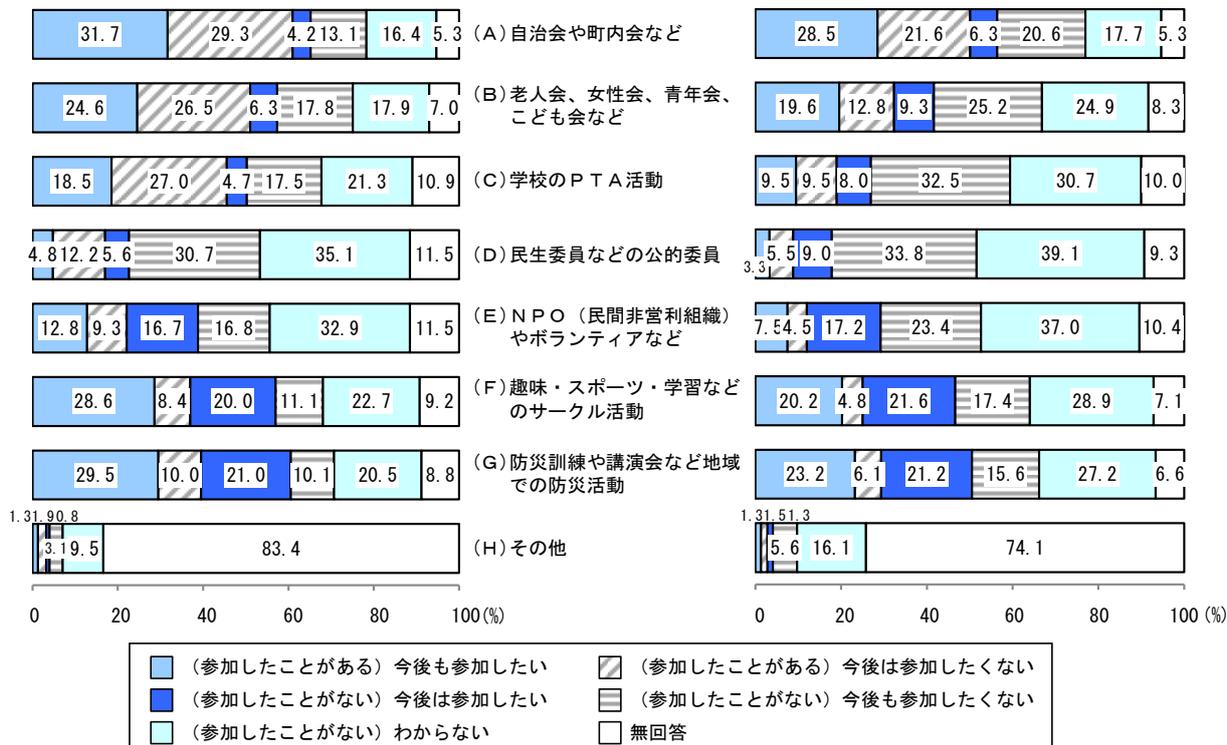
【男性(n=477)】



【前回調査（令和2年）】

【女性(n=928)】

【男性(n=603)】



(2) 地域活動の参加状況

問14-1は、問14で一つでも今後参加したくない（「2」または「4」）と回答した方にお聞きします。

問14-1 今後参加したくない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「人間関係がわずらわしい」（53.3%）が最も多く、次いで「仕事が忙しい」（29.7%）となっている。

性別で見ると、男女とも「人間関係がわずらわしい」が最も多い。「仕事が忙しい」「自分の意見や地域のニーズが反映されない」「関心がない」の割合は女性より男性のほうが5ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ても、大きな差はみられない。

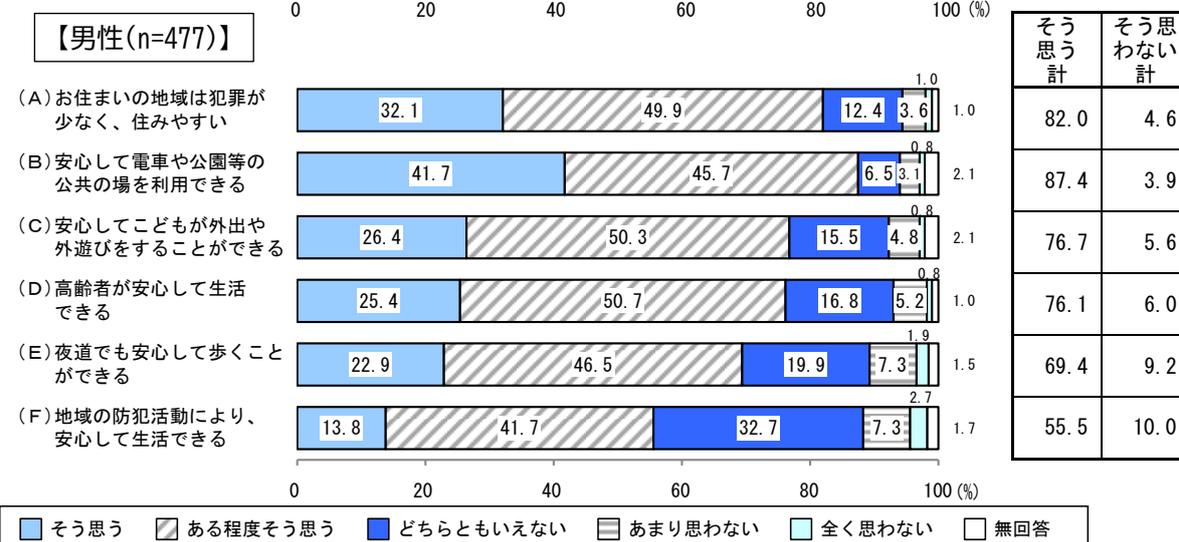
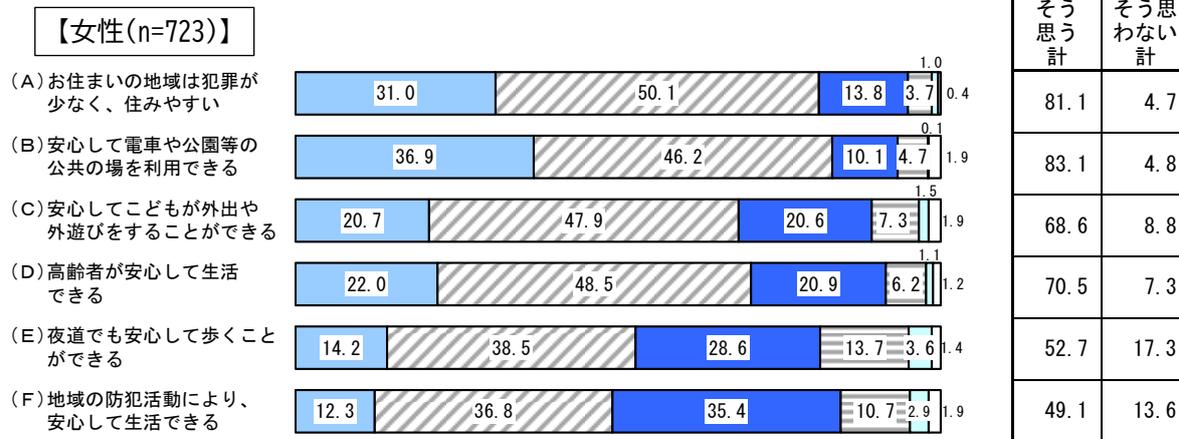
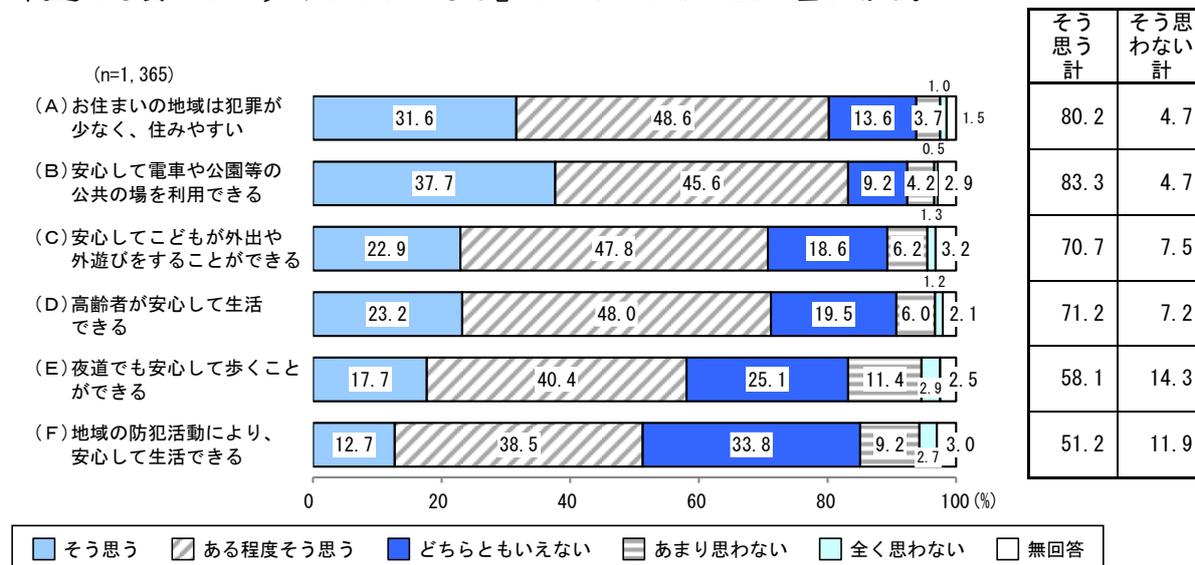
(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=855)	女性 (n=477)	男性 (n=275)	全体 (n=961)	女性 (n=565)	男性 (n=348)
仕事が忙しい	29.7	25.6	39.6	29.3	28.8	32.2
家事・育児・介護などで暇がない	14.0	17.2	12.4	13.2	16.5	8.9
健康に自信がない	22.5	22.4	18.5	20.4	20.5	18.1
人間関係がわずらわしい	53.3	53.7	54.2	55.0	55.2	55.2
自分の意見や地域のニーズが反映されない	6.8	4.6	9.8	8.7	8.0	10.3
自分の意見が男女平等に扱われない	1.3	1.3	1.1	1.6	2.1	0.9
活動について情報が得られない	12.5	12.6	13.8	9.8	10.1	9.8
性別や役割によって個人の負担が違う	9.6	10.1	9.5	10.3	11.7	8.6
関心がない	29.2	26.8	34.9	29.3	26.0	35.9
活動時間（時間帯）が合わない	27.3	27.0	30.9	26.6	28.5	26.1
その他	7.3	8.6	4.7	8.8	9.4	8.0
無回答	2.9	2.7	1.8	2.5	2.8	1.4

(3) 地域の安全・安心に関する意識

問15 地域の安全・安心に関する下記の項目についてお答えください。(それぞれ〇は一つ)

全体は、“そう思う計”の割合は『(B)安心して電車や公園等の公共の場を利用できる』(83.3%)が最も高く、次いで『(A)お住まいの地域は犯罪が少なく、住みやすい』(80.2%)となっている。

性別で見ると、女性の“そう思う計”の割合は全ての項目で男性に比べて低く、特に『(E)夜道でも安心して歩くことができる』で10ポイント以上の差がある。

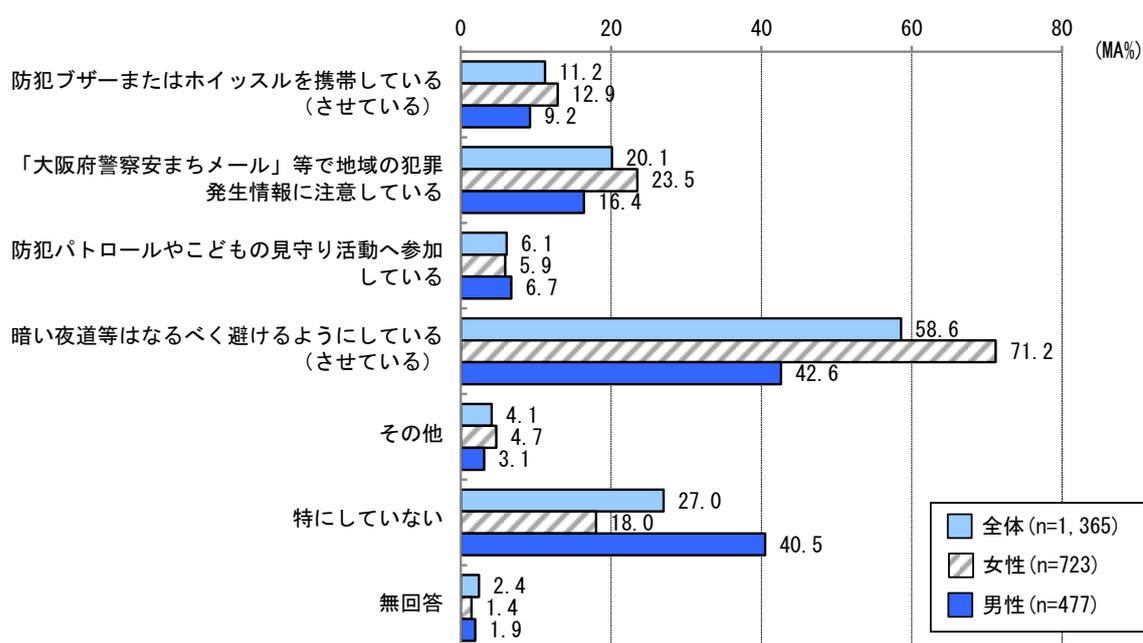


(4) 日頃から取り組んでいる防犯対策

問16 あなたやあなたの家族が日頃から気にしている、または取り組んでいる防犯対策は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「暗い夜道等はあるべく避けるようにしている(させている)」(58.6%)が最も多く、次いで「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している(20.1%)となっている。

性別で見ると、女性は「暗い夜道等はあるべく避けるようにしている(させている)」の割合が男性に比べて28.6ポイント、「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している」の割合が男性に比べて7.1ポイント高い。男性は「特にしていない」の割合が女性に比べて22.5ポイント高い。



(単位: MA%)		n	防犯ブザーまたはホイッスルを携帯している(させている)	「大阪府警察安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している	防犯パトロールやこどもの見守り活動へ参加している	暗い夜道等はあるべく避けるようにしている(させている)	その他	特にしていない	無回答
全体		1,365	11.2	20.1	6.1	58.6	4.1	27.0	2.4
性・年代別	女性全体	723	12.9	23.5	5.9	71.2	4.7	18.0	1.4
	29歳以下	67	1.5	6.0	3.0	68.7	6.0	25.4	1.5
	30歳代	70	20.0	21.4	2.9	74.3	4.3	15.7	2.9
	40歳代	101	33.7	42.6	6.9	68.3	4.0	10.9	2.0
	50歳代	148	7.4	24.3	4.1	70.3	4.7	20.3	-
	60歳代	122	9.8	24.6	9.0	68.9	4.9	19.7	-
	70歳以上	211	10.0	19.4	7.1	74.4	4.7	17.1	2.4
	男性全体	477	9.2	16.4	6.7	42.6	3.1	40.5	1.9
	29歳以下	39	5.1	7.7	2.6	46.2	-	43.6	-
	30歳代	47	12.8	10.6	-	31.9	2.1	57.4	-
40歳代	73	19.2	26.0	5.5	46.6	4.1	30.1	-	
50歳代	85	5.9	16.5	4.7	44.7	1.2	40.0	-	
60歳代	99	5.1	13.1	6.1	40.4	2.0	45.5	4.0	
70歳以上	131	9.2	18.3	13.0	43.5	6.1	35.9	3.1	

(5) 各活動に費やしている時間

問17 あなたは普段、1日のうちで、以下の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。平日、休日それぞれについて平均どのくらい費やしているかお答えください。(○はそれぞれ一つ)

(1) 仕事・学校(通勤・通学時間を含む)

全体は、「なし(0分)」(27.2%)が最も多く、次いで「8時間～10時間未満」(21.6%)となっている。

性別で見ると、女性は「なし(0分)」が31.4%で最も多く、男性では「8時間～10時間未満」が27.3%で最も多くなっている。

(単位：%)		n	なし (0分)	4時間未 満	4時間～ 6時間未 満	6時間～ 8時間未 満	8時間～ 10時間未 満	10時間～ 12時間未 満	12時間以 上	無回答	
全体		1,365	27.2	6.7	9.1	10.8	21.6	10.3	4.5	9.7	
性別	女性	723	31.4	7.1	12.2	10.8	20.1	7.7	1.2	9.5	
	男性	477	20.8	6.7	4.0	10.7	27.3	16.1	10.1	4.4	
性・ 年代別	女性	29歳以下	67	10.4	4.5	1.5	14.9	53.7	10.4	4.5	-
		30歳代	70	22.9	2.9	12.9	15.7	28.6	14.3	2.9	-
		40歳代	101	6.9	6.9	25.7	19.8	27.7	10.9	2.0	-
		50歳代	148	18.9	5.4	18.2	14.9	26.4	14.2	0.7	1.4
		60歳代	122	43.4	9.8	9.8	9.0	15.6	4.1	0.8	7.4
		70歳以上	211	55.0	8.5	6.2	1.4	1.4	-	-	27.5
	男性	29歳以下	39	-	5.1	7.7	15.4	56.4	12.8	2.6	-
		30歳代	47	2.1	2.1	-	6.4	46.8	21.3	21.3	-
		40歳代	73	4.1	4.1	1.4	9.6	37.0	26.0	17.8	-
		50歳代	85	4.7	4.7	-	10.6	31.8	30.6	17.6	-
		60歳代	99	24.2	7.1	7.1	14.1	23.2	15.2	8.1	1.0
		70歳以上	131	51.1	11.5	6.1	9.2	5.3	1.5	0.8	14.5

(2) 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

全体は、平日・休日とも「1時間～2時間未満」が最も多い。

性別でみると、女性は平日・休日とも「2時間～3時間未満」の割合が最も高く、男性は平日は「30分～1時間未満」、休日は「1時間～2時間未満」の割合が最も高い。

末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方で見ると、女性は平日が「2時間～3時間未満」、休日は「3時間～4時間未満」の割合が最も高く、男性は平日が「30分～1時間未満」、休日は「2時間～3時間未満」の割合が最も高い。

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）									②休日（仕事や学校がない日）										
		なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答		
全体	1,365	6.8	11.8	17.1	22.6	17.3	11.1	5.2	4.2	4.0	4.6	7.5	12.3	21.4	20.5	12.5	5.6	6.2	9.4		
性別	女性	723	2.2	4.6	12.0	23.0	23.2	17.0	8.2	6.6	3.2	2.1	3.3	7.3	19.9	25.2	17.8	9.4	8.7	6.2	
	男性	477	14.5	23.1	24.9	21.8	9.6	2.1	1.0	0.8	2.1	8.6	13.4	20.5	24.3	17.0	4.8	0.8	2.7	7.8	
性・年代別	女性	29歳以下	67	10.4	19.4	32.8	20.9	7.5	6.0	1.5	1.5	-	9.0	16.4	16.4	31.3	9.0	6.0	3.0	6.0	3.0
		30歳代	70	1.4	5.7	15.7	28.6	20.0	18.6	4.3	5.7	-	-	1.4	5.7	25.7	31.4	22.9	4.3	7.1	1.4
		40歳代	101	1.0	4.0	9.9	21.8	22.8	22.8	8.9	8.9	-	-	1.0	2.0	16.8	24.8	24.8	14.9	15.8	-
		50歳代	148	0.7	2.0	8.8	27.7	27.0	22.3	4.1	6.1	1.4	2.7	1.4	2.7	19.6	29.7	18.2	13.5	9.5	2.7
		60歳代	122	0.8	1.6	9.0	25.4	25.4	11.5	16.4	9.0	0.8	-	0.8	11.5	15.6	28.7	17.2	13.1	9.0	4.1
	70歳以上	211	2.4	2.8	9.0	17.5	26.1	16.6	9.5	6.6	9.5	2.4	3.3	8.5	18.0	23.7	16.6	5.7	6.2	15.6	
	男性	29歳以下	39	28.2	23.1	25.6	12.8	10.3	-	-	-	-	23.1	17.9	23.1	17.9	15.4	2.6	-	-	-
		30歳代	47	17.0	25.5	21.3	23.4	12.8	-	-	-	-	12.8	6.4	14.9	25.5	29.8	8.5	-	2.1	-
		40歳代	73	12.3	24.7	31.5	23.3	6.8	1.4	-	-	-	2.7	15.1	21.9	28.8	23.3	4.1	-	1.4	2.7
		50歳代	85	14.1	23.5	32.9	18.8	7.1	2.4	-	1.2	-	4.7	10.6	27.1	27.1	20.0	5.9	-	3.5	1.2
60歳代		99	10.1	26.3	17.2	32.3	8.1	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	16.2	19.2	29.3	13.1	6.1	2.0	6.1	6.1	
70歳以上	131	14.5	19.1	22.9	16.8	13.0	3.8	2.3	1.5	6.1	13.7	13.7	18.3	17.6	9.9	3.1	1.5	1.5	20.6		

【末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方】

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）									②休日（仕事や学校がない日）								
		なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体	90	2.2	8.9	15.6	20.0	23.3	15.6	8.9	5.6	-	-	1.1	6.7	23.3	27.8	20.0	10.0	10.0	1.1
女性	54	-	-	3.7	16.7	29.6	25.9	14.8	9.3	-	-	-	-	16.7	22.2	31.5	14.8	13.0	1.9
男性	33	6.1	24.2	36.4	24.2	9.1	-	-	-	-	-	3.0	18.2	33.3	39.4	3.0	-	3.0	-

(3) 育児

全体は、平日・休日とも「育児の必要な子どもがいない」が最も多い。

性・年代別でみると、女性の30歳代は「5時間以上」の割合が47.1%で最も高いが、それ以外の年代は男女とも「育児の必要な子どもがいない」の割合が最も高い。

末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方でみると、女性は平日・休日とともに「5時間以上」の割合が最も高く、男性は平日が「30分～1時間未満」、休日は「5時間以上」の割合が最も高い。

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）										②休日（仕事や学校がない日）									
		が育児の必要な子どもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	が育児の必要な子どもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体	1,365	62.9	12.4	1.8	2.7	4.2	2.3	1.6	1.1	2.9	8.1	61.8	10.0	1.4	1.2	2.6	2.3	1.3	1.4	7.3	10.8
性別																					
女性	723	64.2	11.3	0.3	1.4	3.9	3.5	2.1	1.5	5.1	6.8	63.5	10.2	0.1	1.0	2.5	2.2	1.4	1.7	9.0	8.4
男性	477	65.2	12.8	4.2	5.2	5.0	1.3	1.3	0.4	0.2	4.4	63.5	9.6	3.4	1.9	2.9	2.5	1.7	1.5	5.9	7.1
性・年代別																					
女性																					
29歳以下	67	89.6	3.0	-	-	-	1.5	-	-	4.5	1.5	88.1	1.5	-	-	-	-	-	-	6.0	4.5
30歳代	70	40.0	1.4	-	2.9	2.9	8.6	8.6	8.6	27.1	-	38.6	1.4	-	1.4	2.9	2.9	2.9	1.4	47.1	1.4
40歳代	101	39.6	4.0	2.0	4.0	17.8	13.9	4.0	4.0	9.9	1.0	39.6	4.0	1.0	8.9	11.9	4.0	8.9	19.8	1.0	
50歳代	148	66.2	18.2	-	1.4	3.4	2.0	3.4	-	2.7	2.7	64.9	16.9	-	2.0	2.7	1.4	2.0	0.7	4.7	4.7
60歳代	122	82.0	9.8	-	-	1.6	0.8	-	0.8	0.8	4.1	82.8	8.2	-	1.6	-	0.8	0.8	0.8	4.9	4.9
70歳以上	211	64.5	16.1	-	0.9	0.5	-	-	-	-	18.0	63.5	14.7	-	0.9	0.5	-	-	-	-	20.4
男性																					
29歳以下	39	82.1	10.3	-	-	7.7	-	-	-	-	-	82.1	10.3	-	-	-	-	-	7.7	-	-
30歳代	47	57.4	6.4	4.3	12.8	10.6	4.3	2.1	-	2.1	-	57.4	-	2.1	-	6.4	6.4	2.1	2.1	23.4	-
40歳代	73	39.7	11.0	16.4	16.4	9.6	1.4	4.1	1.4	-	-	38.4	4.1	11.0	5.5	11.0	5.5	2.7	1.4	16.4	4.1
50歳代	85	71.8	8.2	3.5	5.9	7.1	1.2	-	-	-	2.4	70.6	5.9	3.5	4.7	2.4	2.4	4.7	1.2	1.2	3.5
60歳代	99	74.7	14.1	1.0	-	3.0	1.0	2.0	1.0	-	3.0	73.7	13.1	1.0	-	1.0	2.0	1.0	1.0	4.0	3.0
70歳以上	131	65.6	19.1	1.5	1.5	-	0.8	-	-	-	11.5	61.8	16.0	2.3	0.8	-	0.8	-	-	-	18.3

【末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方】

(単位：%)	n	①平日（仕事や学校がある日）										②休日（仕事や学校がない日）									
		が育児の必要な子どもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	が育児の必要な子どもがいない	なし（0分）	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体	90	1.1	3.3	4.4	13.3	13.3	16.7	12.2	6.7	28.9	-	1.1	-	1.1	-	6.7	8.9	4.4	5.6	72.2	-
女性	54	1.9	-	-	1.9	5.6	20.4	13.0	11.1	46.3	-	1.9	-	-	-	1.9	5.6	3.7	3.7	83.3	-
男性	33	-	9.1	12.1	33.3	27.3	9.1	9.1	-	-	-	-	-	3.0	-	15.2	15.2	6.1	9.1	51.5	-

(4) 介護

全体は、平日・休日とも「介護の必要な家族がない」が最も多い。

性別で見ると、男女とも平日・休日にかかわらず「介護の必要な家族がない」の割合が最も高く、次いで「なし(0分)」となっている。

(単位：%)	n	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)											
		い 介 護 の 必 要 な 家 族 が な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答	い 介 護 の 必 要 な 家 族 が な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答				
全体	1,365	72.5	13.6	1.8	1.4	1.3	1.2	1.0	0.3	1.2	5.6	70.9	11.3	1.3	1.9	1.7	1.8	1.1	0.3	1.7	8.0		
性別	女性	723	74.7	11.8	1.7	1.7	1.7	1.0	1.2	0.4	1.5	4.4	73.3	10.2	0.8	1.8	1.8	2.2	1.4	0.6	2.1	5.8	
	男性	477	74.8	13.8	2.1	1.3	1.0	1.5	0.8	0.2	0.6	3.8	73.2	11.5	1.9	2.3	1.7	1.9	1.0	-	0.8	5.7	
性・年代別	女性	29歳以下	67	95.5	3.0	-	-	-	-	-	-	1.5	94.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	3.0	
		30歳代	70	95.7	4.3	-	-	-	-	-	-	-	92.9	4.3	-	-	-	-	-	-	-	2.9	
		40歳代	101	88.1	6.9	1.0	1.0	1.0	-	-	-	1.0	87.1	5.9	-	2.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	
		50歳代	148	58.1	21.6	2.7	5.4	5.4	0.7	2.7	-	2.7	57.4	18.2	2.7	3.4	5.4	6.1	2.7	0.7	2.7	0.7	
		60歳代	122	76.2	8.2	4.9	0.8	1.6	0.8	1.6	0.8	1.6	3.3	76.2	5.7	1.6	1.6	2.5	1.6	2.5	0.8	3.3	4.1
		70歳以上	211	65.4	14.2	0.5	0.9	0.5	2.4	1.4	0.9	1.9	11.8	63.0	13.3	-	1.9	0.5	1.9	0.9	0.9	2.8	14.7
		70歳以上	211	65.4	14.2	0.5	0.9	0.5	2.4	1.4	0.9	1.9	11.8	63.0	13.3	-	1.9	0.5	1.9	0.9	0.9	2.8	14.7
	男性	29歳以下	39	87.2	12.8	-	-	-	-	-	-	-	87.2	10.3	-	2.6	-	-	-	-	-	-	
		30歳代	47	91.5	2.1	2.1	-	2.1	-	-	-	2.1	89.4	2.1	-	4.3	-	-	-	-	-	2.1	2.1
		40歳代	73	79.5	12.3	4.1	1.4	2.7	-	-	-	-	78.1	12.3	2.7	1.4	2.7	-	1.4	-	-	1.4	
		50歳代	85	80.0	12.9	1.2	2.4	-	1.2	-	-	2.4	78.8	7.1	2.4	3.5	2.4	3.5	-	-	-	2.4	
		60歳代	99	63.6	22.2	2.0	1.0	2.0	5.1	1.0	-	3.0	63.6	17.2	3.0	3.0	3.0	5.1	1.0	-	1.0	3.0	
		70歳以上	131	67.9	13.7	2.3	1.5	-	0.8	2.3	0.8	1.5	9.2	64.1	13.7	1.5	0.8	0.8	0.8	2.3	-	1.5	14.5
		70歳以上	131	67.9	13.7	2.3	1.5	-	0.8	2.3	0.8	1.5	9.2	64.1	13.7	1.5	0.8	0.8	0.8	2.3	-	1.5	14.5

(5) 地域活動(自治会やPTAなど)

全体は、平日・休日とも「なし(0分)」が最も多い。

性別で見ると、男女とも平日・休日にかかわらず「なし(0分)」の割合が最も高く、次いで「30分未満」となっている。地域活動を行っている人の割合は、平日・休日とも女性より男性のほうがやや高くなっている。

(単位：%)	n	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)									
		な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答	な し (0分)	3 0 分 未 満	3 0 分 〜 1 時 間 未 満	1 時 間 〜 2 時 間 未 満	2 時 間 〜 3 時 間 未 満	3 時 間 〜 4 時 間 未 満	4 時 間 〜 5 時 間 未 満	5 時 間 以 上	無 回 答		
全体	1,365	86.1	2.9	2.6	1.8	0.7	0.1	-	0.1	5.7	82.6	4.0	2.3	2.6	0.7	0.5	0.2	0.2	7.0		
性別	女性	723	86.4	3.2	2.5	1.9	0.7	-	-	5.3	84.9	4.0	2.2	2.1	0.8	0.6	-	-	5.4		
	男性	477	89.1	2.9	2.5	2.1	0.6	0.4	-	0.2	2.1	84.9	4.2	2.1	3.1	0.6	0.6	0.4	0.6	3.4	
性・年代別	女性	29歳以下	67	98.5	-	-	-	-	-	-	1.5	98.5	-	-	-	-	-	-	-	1.5	
		30歳代	70	94.3	4.3	1.4	-	-	-	-	-	94.3	4.3	1.4	-	-	-	-	-		
		40歳代	101	87.1	3.0	3.0	5.0	-	-	-	2.0	82.2	5.9	3.0	5.0	2.0	1.0	-	-	1.0	
		50歳代	148	93.2	4.1	0.7	0.7	-	-	-	0.7	91.2	3.4	1.4	2.7	-	0.7	-	-	0.7	
		60歳代	122	87.7	0.8	4.1	3.3	1.6	-	-	2.5	84.4	4.1	4.1	2.5	0.8	-	-	-	4.1	
		70歳以上	211	73.9	4.7	3.8	1.9	0.9	-	-	14.7	74.4	4.7	2.4	1.4	1.4	0.9	-	-	14.7	
		70歳以上	211	73.9	4.7	3.8	1.9	0.9	-	-	14.7	74.4	4.7	2.4	1.4	1.4	0.9	-	-	14.7	
	男性	29歳以下	39	97.4	2.6	-	-	-	-	-	-	97.4	-	-	2.6	-	-	-	-	-	
		30歳代	47	95.7	2.1	2.1	-	-	-	-	-	95.7	2.1	2.1	-	-	-	-	-	-	
		40歳代	73	95.9	1.4	-	2.7	-	-	-	-	91.8	1.4	1.4	1.4	-	1.4	1.4	-	1.4	
		50歳代	85	92.9	4.7	-	1.2	1.2	-	-	-	81.2	7.1	3.5	3.5	-	-	1.2	2.4	1.2	
		60歳代	99	91.9	3.0	1.0	2.0	-	-	-	2.0	91.9	3.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	2.0	
		70歳以上	131	75.6	3.1	7.6	3.8	1.5	1.5	-	0.8	6.1	71.0	6.1	3.1	6.9	2.3	0.8	-	0.8	9.2
		70歳以上	131	75.6	3.1	7.6	3.8	1.5	1.5	-	0.8	6.1	71.0	6.1	3.1	6.9	2.3	0.8	-	0.8	9.2

(6) 男性が家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと

問18 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」（56.6%）が最も多く、次いで「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」（49.9%）となっている。

性別で見ると、男女とも「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が最も高く、男性より女性のほうが8.9ポイント高くなっている。女性は「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」は前回より10.2ポイント高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	46.2	51.2	43.0	45.7	48.4	42.5
家事、子育て、介護、地域活動の社会的な評価を高めること	34.0	34.0	36.7	31.9	34.3	29.5
夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	56.6	62.1	53.2	52.8	58.3	45.9
労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	38.8	38.6	44.2	32.4	32.7	34.2
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	39.3	44.4	35.6	36.9	40.9	32.3
小さいときから男女ともに、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること	49.9	58.9	42.1	39.7	45.7	31.5
男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	49.6	57.7	45.5	43.5	48.1	39.0
その他	1.7	1.7	1.7	2.6	1.6	3.8
特に必要ない	5.4	2.6	8.0	4.9	3.8	6.3
無回答	3.2	2.1	0.8	3.4	2.8	2.8

7 様々な暴力について

(1) ハラスメントを受けた経験

問19 あなたは、最近3年の間に、職場・学校・地域などの身近なところで、セクシュアル・ハラスメントや職場における妊娠・出産に関するハラスメント、育児休業等に関するハラスメントを受けたことがありますか。

(IとJに関しては、あなた自身及びパートナーについてお答えください。)

全体は、「職場で受けた」の割合は『(G)じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた』(5.6%)が最も高くなっている。

女性がハラスメントを受けた場所は、いずれの項目も「職場で受けた」の割合が最も高い。

前回調査との比較でみると、全体は「職場で受けた」の割合は『(E)宴席で、お酌を強要された』で前回より2.1ポイント高くなっている。

【回答者本人】

(単位：MA%)		今回調査					前回調査(令和2年)						
		n	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない	無回答	n	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない	無回答
(A)地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	全体	1,365	1.9	0.4	0.1	84.9	13.0	1,630	0.9	-	0.2	86.3	12.6
	女性	723	2.4	0.4	0.1	86.6	10.9	928	1.6	-	0.3	87.4	10.8
	男性	477	1.0	0.2	-	90.4	8.6	603	-	-	0.2	88.6	11.3
(B)食事やデートにしつこく誘われた	全体	1,365	2.3	0.4	0.4	83.7	13.5	1,630	1.9	0.3	0.7	84.1	13.0
	女性	723	3.9	0.6	0.3	84.0	11.5	928	2.9	0.4	1.2	84.3	11.3
	男性	477	0.2	0.2	0.4	90.6	8.8	603	0.5	0.2	0.2	87.6	11.6
(C)さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	全体	1,365	3.1	0.2	1.0	82.5	13.3	1,630	2.8	0.2	1.0	82.8	13.3
	女性	723	4.6	0.3	1.5	82.3	11.3	928	4.6	0.3	1.7	82.0	11.5
	男性	477	0.6	0.2	-	90.4	9.0	603	0.2	0.2	0.2	87.7	11.8
(D)性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした	全体	1,365	4.2	0.7	0.6	81.5	13.5	1,630	4.4	0.6	0.8	81.7	12.9
	女性	723	5.9	0.8	0.7	81.5	11.6	928	6.7	0.8	1.3	80.4	11.3
	男性	477	2.3	0.8	0.4	88.3	8.8	603	1.2	0.3	-	87.4	11.3
(E)宴席で、お酌を強要された	全体	1,365	5.3	0.2	1.0	80.1	13.6	1,630	3.2	0.1	0.4	83.1	13.3
	女性	723	6.6	0.1	1.2	80.9	11.3	928	4.8	0.2	0.6	82.7	11.7
	男性	477	4.4	0.4	0.4	85.7	9.4	603	0.8	-	0.2	87.1	11.9
(F)異性との交際や結婚予定、出産予定などプライベートなことについてたびたび聞かれた	全体	1,365	5.0	0.3	1.3	80.0	13.7	1,630	4.1	0.4	0.6	82.1	13.3
	女性	723	5.1	0.4	1.7	81.6	11.5	928	4.8	0.2	0.6	82.7	11.7
	男性	477	5.0	0.2	1.0	84.7	9.4	603	0.8	-	0.2	87.1	11.9
(G)じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた	全体	1,365	5.6	1.0	1.5	78.6	13.9	1,630	4.5	0.6	1.8	80.1	13.4
	女性	723	7.1	1.5	1.9	78.6	11.6	928	7.3	0.8	2.6	78.3	11.7
	男性	477	3.8	0.4	0.6	86.2	9.6	603	1.0	0.5	0.7	85.9	12.1
(H)「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な言葉をかけられた	全体	1,365	4.1	1.2	1.8	79.8	13.8	1,630	3.6	0.7	1.2	81.9	13.1
	女性	723	4.4	1.5	2.6	80.8	11.8	928	4.5	0.4	1.5	81.7	12.1
	男性	477	4.0	1.0	0.6	85.3	9.2	603	2.5	1.3	0.5	85.4	11.1
(I)妊娠・出産・育児休業の取得などをきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	全体	1,365	1.5	-	-	80.7	17.9	1,630	0.6	-	0.1	83.1	16.1
	女性	723	1.5	-	-	83.5	14.9	928	1.1	-	0.2	85.9	12.8
	男性	477	0.8	-	-	84.5	14.7	603	-	-	-	82.8	17.2
(J)妊娠・出産・育児休業の取得などを理由に、解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	全体	1,365	1.1	-	-	80.8	18.1	1,630	0.7	-	-	83.1	16.3
	女性	723	1.4	-	-	83.7	14.9	928	1.1	-	-	85.8	13.1
	男性	477	0.2	-	-	84.5	15.3	603	0.2	-	-	82.8	17.1

【パートナー】

(単位：MA%)		今回調査				
		n	職場で受けた	受けたことはない	わからない・パートナーはいない	無回答
(I)妊娠・出産・育児休業の取得などをきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	全体	1,365	1.3	25.5	16.5	56.7
	女性	723	0.7	25.0	15.1	59.2
	男性	477	2.5	30.6	21.8	45.1
(J)妊娠・出産・育児休業の取得などを理由に、解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	全体	1,365	0.5	27.0	15.8	56.8
	女性	723	0.1	25.9	14.7	59.3
	男性	477	0.8	33.5	20.5	45.1

(2) ハラスメント被害に関する相談相手

問19-1は、問19で一つでも「1」～「3」（ハラスメントを受けたことがある）と回答した方にお聞きします。

問19-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（52.2%）が最も多く、次いで「友人や知人」（26.7%）となっている。

性別で見ると、男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が最も高く、男性の割合が女性に比べて31.5ポイント高い。女性で「家族や親戚」「友人や知人」の割合が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が前回より高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=232)	女性 (n=144)	男性 (n=63)	全体 (n=218)	女性 (n=171)	男性 (n=39)
堺市各区役所「女性相談」	0.4	-	1.6	0.9	0.6	-
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	-	-	-	-	-	-
堺市立男女共同参画センター相談	0.4	0.7	-	-	-	-
大阪府女性相談センター	-	-	-	0.5	0.6	-
労働局の雇用環境・均等部（室）	0.4	-	1.6	0.5	0.6	-
警察	1.7	1.4	3.2	0.9	1.2	-
民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラーなど）	0.4	-	1.6	-	-	-
医療関係者（医師、看護師など）	1.7	1.4	3.2	0.5	0.6	-
学校関係者（相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	0.4	0.7	-	0.5	-	2.6
職場の相談窓口	5.2	6.3	3.2	2.8	3.5	-
家族や親戚	16.4	20.1	9.5	17.0	19.9	7.7
友人や知人	26.7	34.7	9.5	33.0	37.4	12.8
その他	3.0	3.5	-	4.1	4.7	2.6
どこ（だれ）にも相談しなかった	52.2	43.1	74.6	46.8	41.5	76.9
無回答	6.0	6.9	3.2	5.5	5.3	-

(3) ハラスメント被害について相談しなかった理由

問19-2は、問19-1で「14. どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
 問19-2 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

全体は、「相談するほどのことではないと思った」(56.2%)が最も多くなっている。
 性別で見ると、男女とも「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高くなっている。女性は「恥ずかしくてだれにも言えなかった」の割合が男性に比べて5.4ポイント高く、男性は「相談してもむだだと思った」の割合が女性に比べて8.1ポイント高い。
 前回調査との比較で見ると、全体は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった」の割合が前回より6.4ポイント低くなっている。

(単位: MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=121)	女性 (n=62)	男性 (n=47)	全体 (n=102)	女性 (n=71)	男性 (n=30)
どこ/だれに相談してよいのかわからなかった	13.2	14.5	14.9	9.8	9.9	6.7
恥ずかしくてだれにも言えなかった	7.4	9.7	4.3	8.8	7.0	13.3
相談してもむだだと思った	35.5	32.3	40.4	39.2	45.1	26.7
相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けるといった	9.1	8.1	10.6	5.9	4.2	6.7
加害者に「だれにも言うな」と脅された	0.8	-	-	2.0	2.8	-
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	3.3	1.6	4.3			
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった	13.2	14.5	12.8	19.6	18.3	23.3
世間体が悪い	1.7	-	2.1			
他の人を巻き込みたくなかった	7.4	8.1	8.5	5.9	7.0	3.3
周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなるといった	4.1	4.8	4.3	4.9	4.2	6.7
そのことについて思い出したくなかった	5.0	3.2	8.5	4.9	7.0	-
自分にも悪いところがあると思った	4.1	4.8	4.3	4.9	4.2	6.7
相手の行為は愛情の表現だと思った	3.3	3.2	4.3	2.9	2.8	3.3
相談するほどのことではないと思った	56.2	54.8	59.6	57.8	54.9	66.7
その他	5.8	4.8	6.4	4.9	5.6	3.3
無回答	0.8	-	2.1	-	-	-

※「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った」と「世間体が悪い」は今回調査の新規項目。

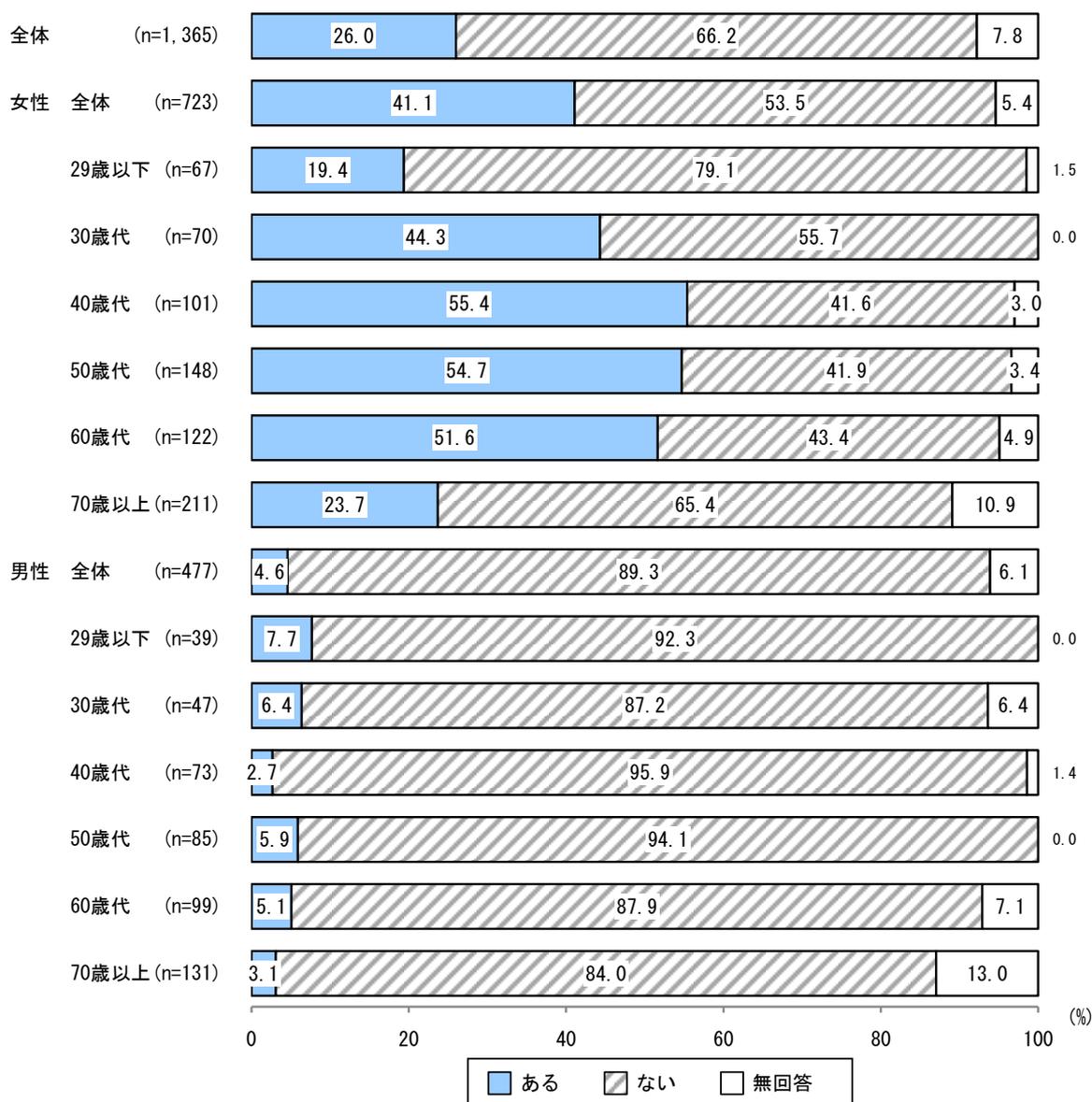
(4) 性暴力被害経験

問20 あなたはこれまで（こどものころを含めて）に、望まないのに性的な行為（※痴漢を含みます）をされたことがありますか。（○は一つ）

全体は、「ある」が26.0%、「ない」が66.2%となっている。

性別で見ると、「ある」の割合は男性より女性のほうが36.5ポイント高い。

性・年代別で見ると、女性の「ある」の割合が全ての年代で男性に比べて高く、30歳代～60歳代で男女差が大きい。



(5) 性暴力被害の内容

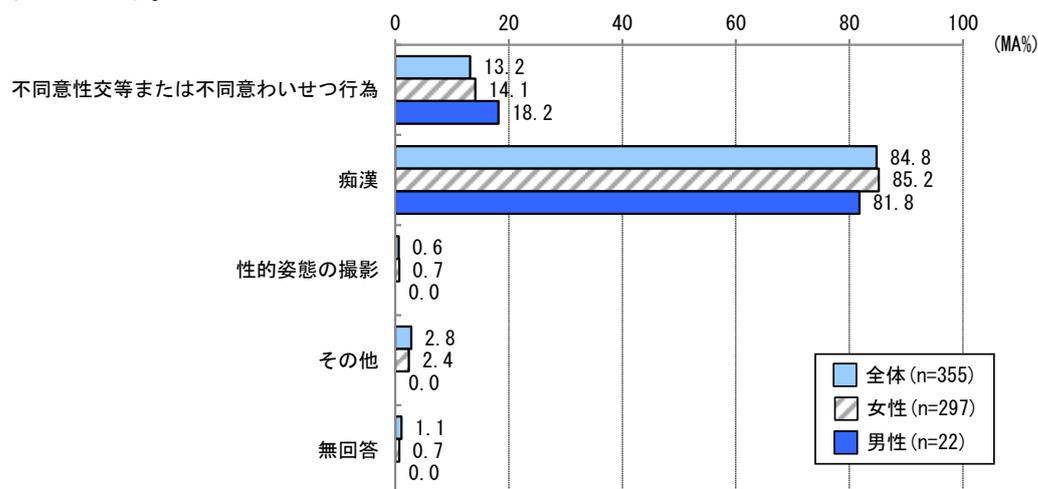
問20-1~4は、問20で「1.ある」と回答した方にお聞きします。

問20-1 あなたは、どのような被害にありましたか。(〇は一つ)

複数被害にあわれた方は、直近のことについてお答えください。

全体は、「痴漢」(84.8%)が最も多く、次いで「不同意性交等または不同意わいせつ行為」(13.2%)となっている。

性別で見ると、男女とも「痴漢」の割合が最も高く、男性より女性のほうが3.4ポイント高い。男性の「不同意性交等または不同意わいせつ行為」の割合は女性より4.1ポイント高くなっている。



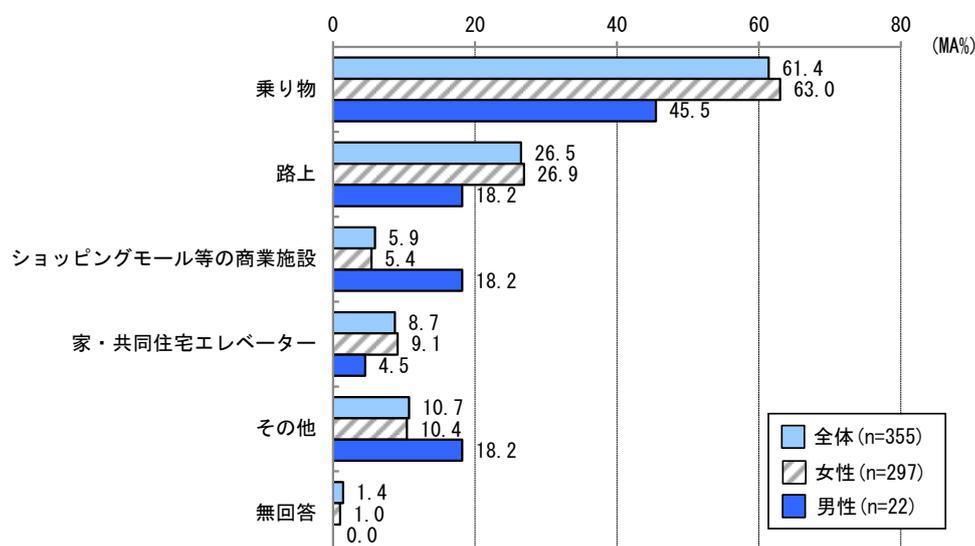
※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

(6) 性暴力被害にあった場所

問20-2 あなたは、どこで被害にありましたか。(〇は一つ)

全体は、「乗り物」(61.4%)が最も多く、次いで「路上」(26.5%)となっている。

性別で見ると、男女とも「乗り物」の割合が最も高く、男性より女性のほうが17.5ポイント高い。男性の「ショッピングモール等の商業施設」の割合は女性より12.8ポイント高くなっている。



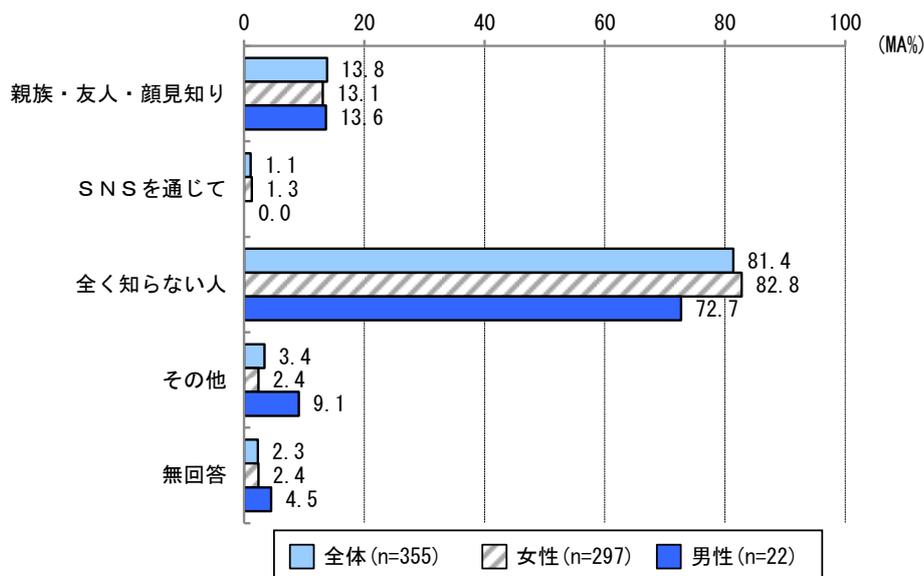
※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

(7) 加害者と知り合ったきっかけ

問20-3 あなたは、性的な行為を行った者とはどのように知り合いましたか。
(○は一つ)

全体は、「全く知らない人」(81.4%)で最も多く、次いで「親族・友人・顔見知り」(13.8%)となっている。

性別で見ると、男女とも「全く知らない人」の割合が最も高く、男性より女性のほうが10.1ポイント高くなっている。



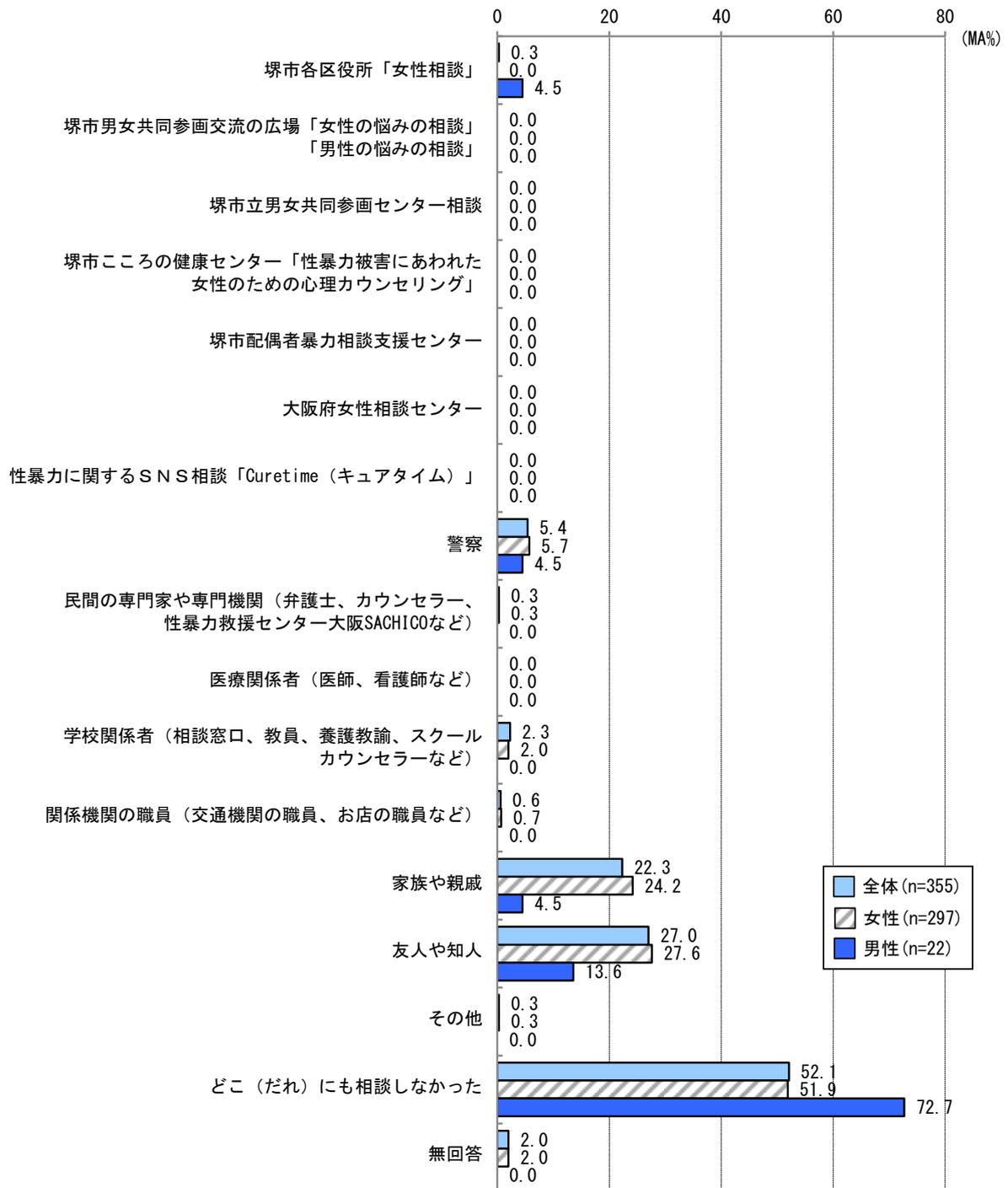
※設問文では「○は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

(8) 性暴力についての相談相手

問20-4 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「友人や知人」(27.0%)が最も多く、次いで「家族や親戚」(22.3%)となっている。

性別で見ると、男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が最も高く、女性より男性のほうが20.8ポイント高い。女性の「家族や親戚」「友人や知人」の割合は男性より10ポイント以上高くなっている。

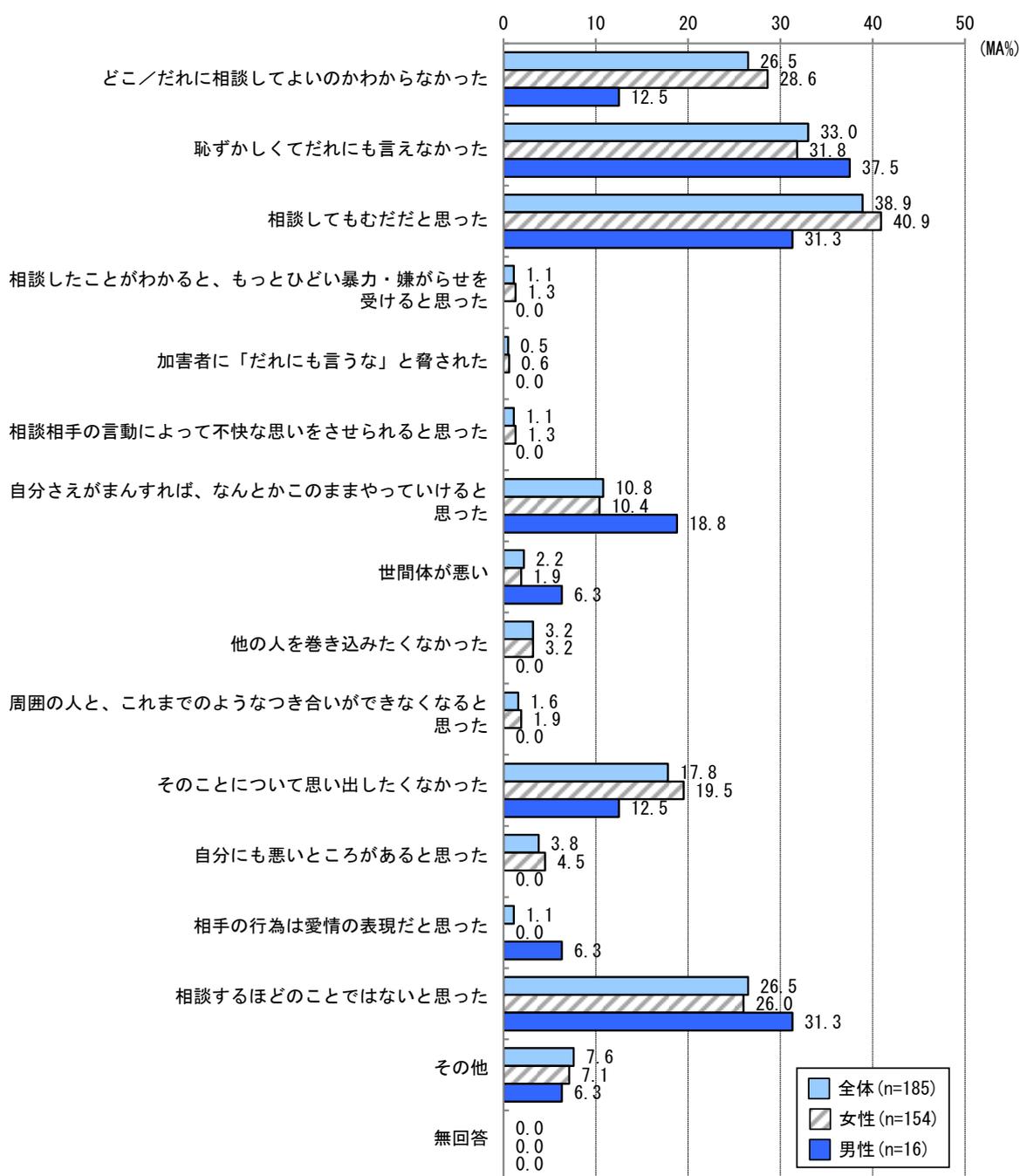


(9) 相談しなかった理由

問20-5は、問20-4で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
 問20-5 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。
 （あてはまるものすべてに○）

全体は、「相談してもむだだと思った」（38.9%）が最も多く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかった」（33.0%）となっている。

性別で見ると、女性は「相談してもむだだと思った」の割合が40.9%で最も高く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が31.8%となっている。



8 配偶者や交際相手等からの暴力について

(1) 「DV防止法」および「デートDV」の認知度

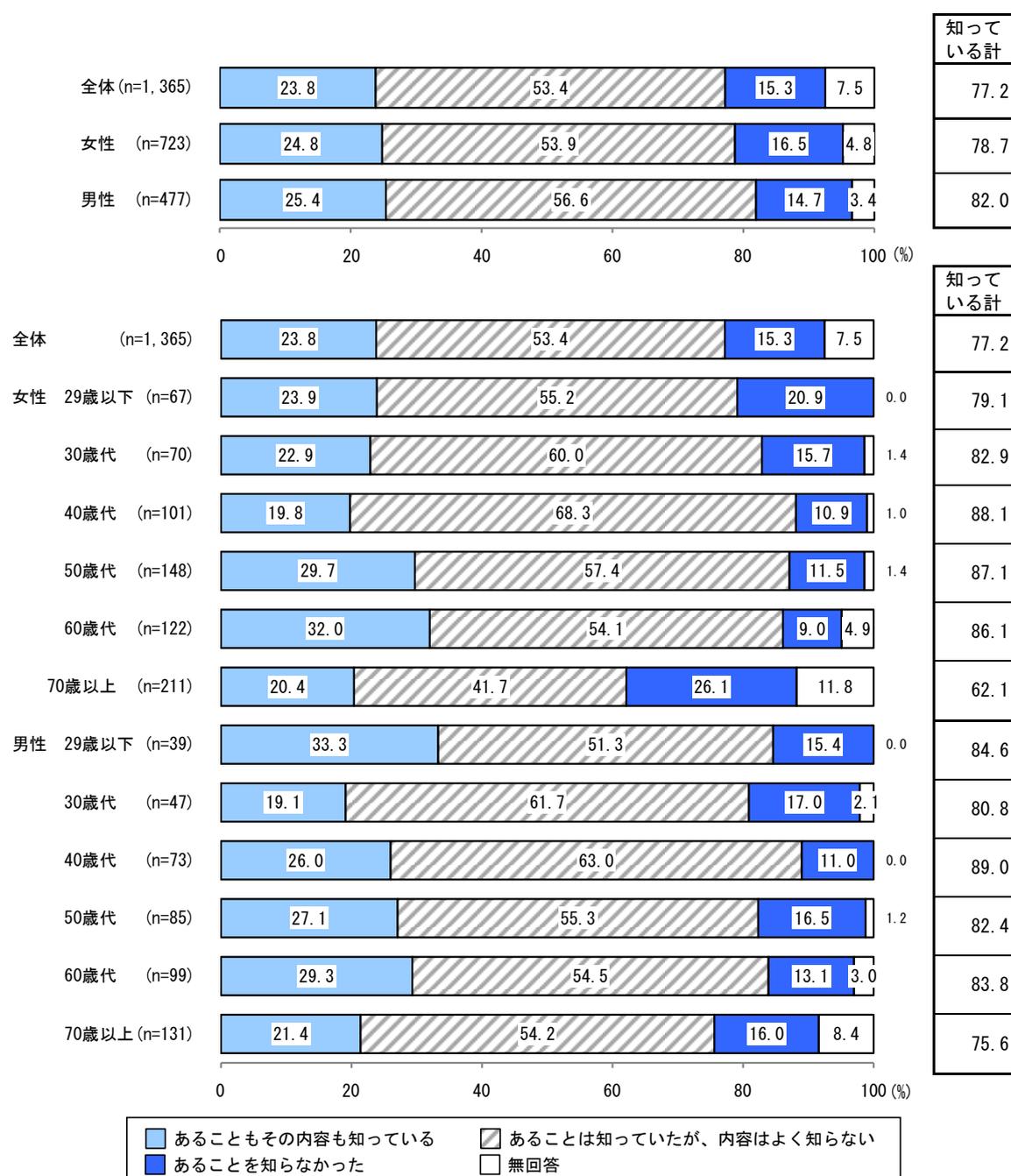
問21 あなたは、①「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」やその内容を知っていますか。また、②結婚していない交際中のパートナー間でおこる暴力を、特に、「デートDV」といいますが、あなたはこの「デートDV」という言葉やその内容を知っていますか。（それぞれ○は一つ）

①「DV防止法」の認知度

全体は、“知っている計”の割合は77.2%となっている。

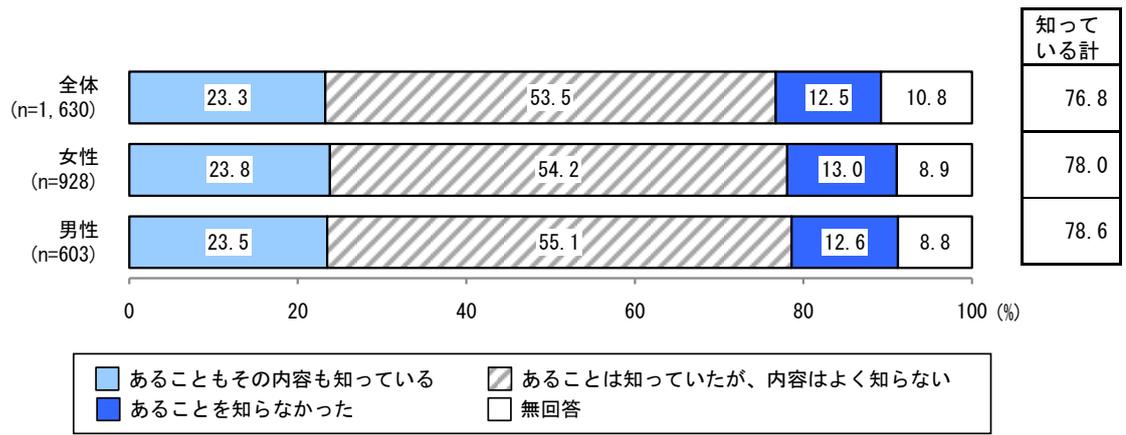
性・年代別で見ると、“知っている計”の割合は男女とも70歳以上で最も低い。

前回調査との比較でも大きな差はみられない。



※知っている計：「あることもその内容も知っている」「あることは知っていたが、内容はよく知らない」を合わせた値

【前回調査（令和2年）】

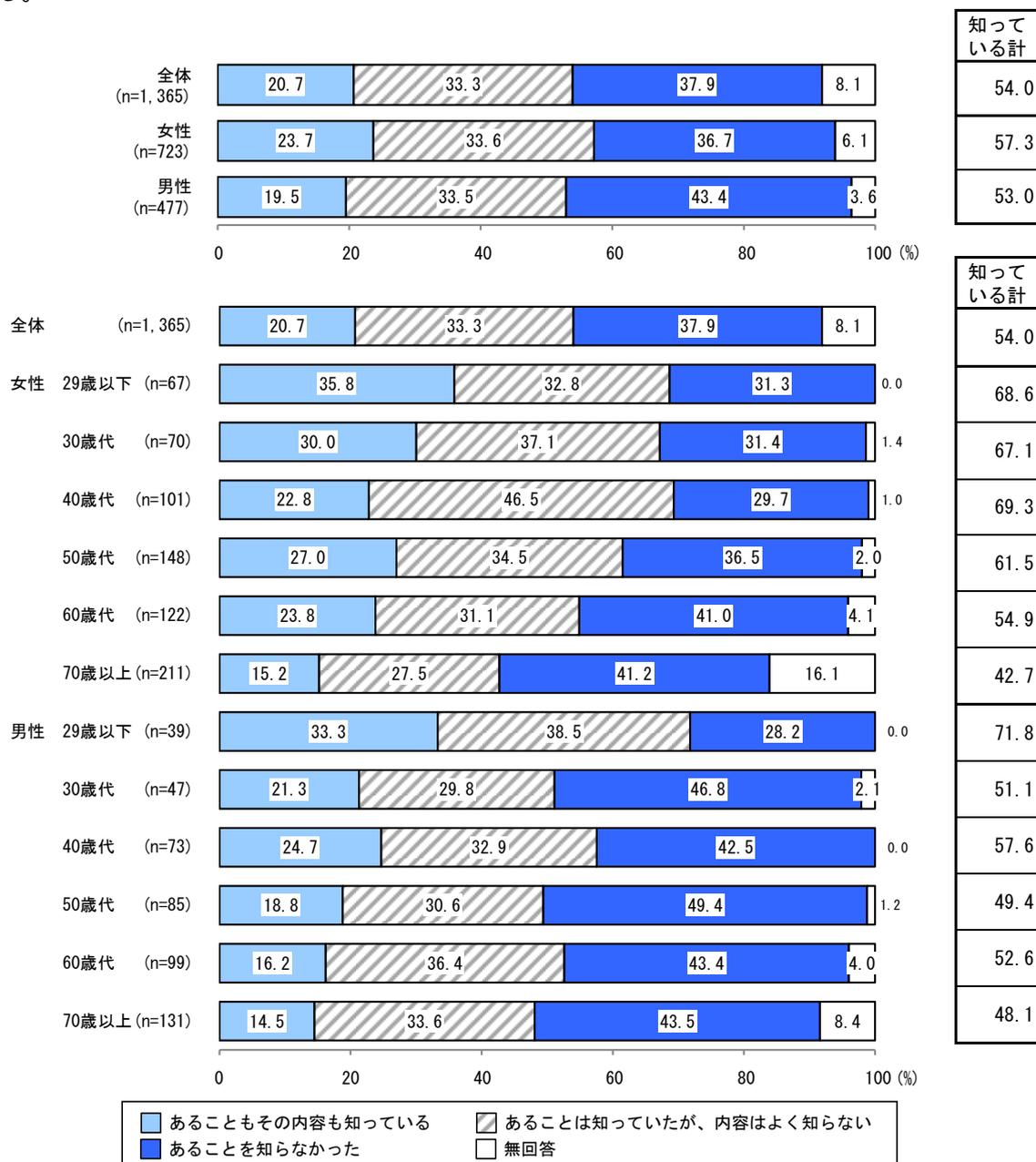


②「デートDV」の認知度

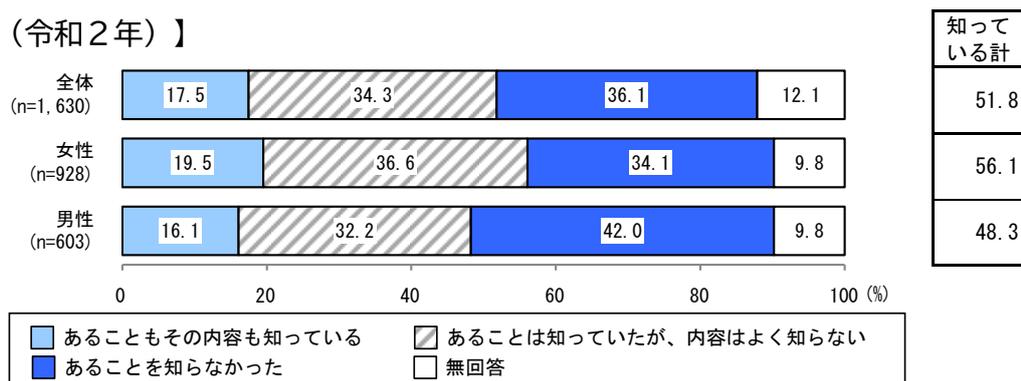
全体は、“知っている計”の割合は54.0%となっている。

性・年代別で見ると、“知っている計”の割合は年代の低い層で高くなっている。男性の「あることを知らなかった」の割合は30歳代から50歳代で女性と比べて高い。

前回調査との比較で見ると、“知っている計”の割合は前回より2.2ポイント高くなっている。



【前回調査（令和2年）】

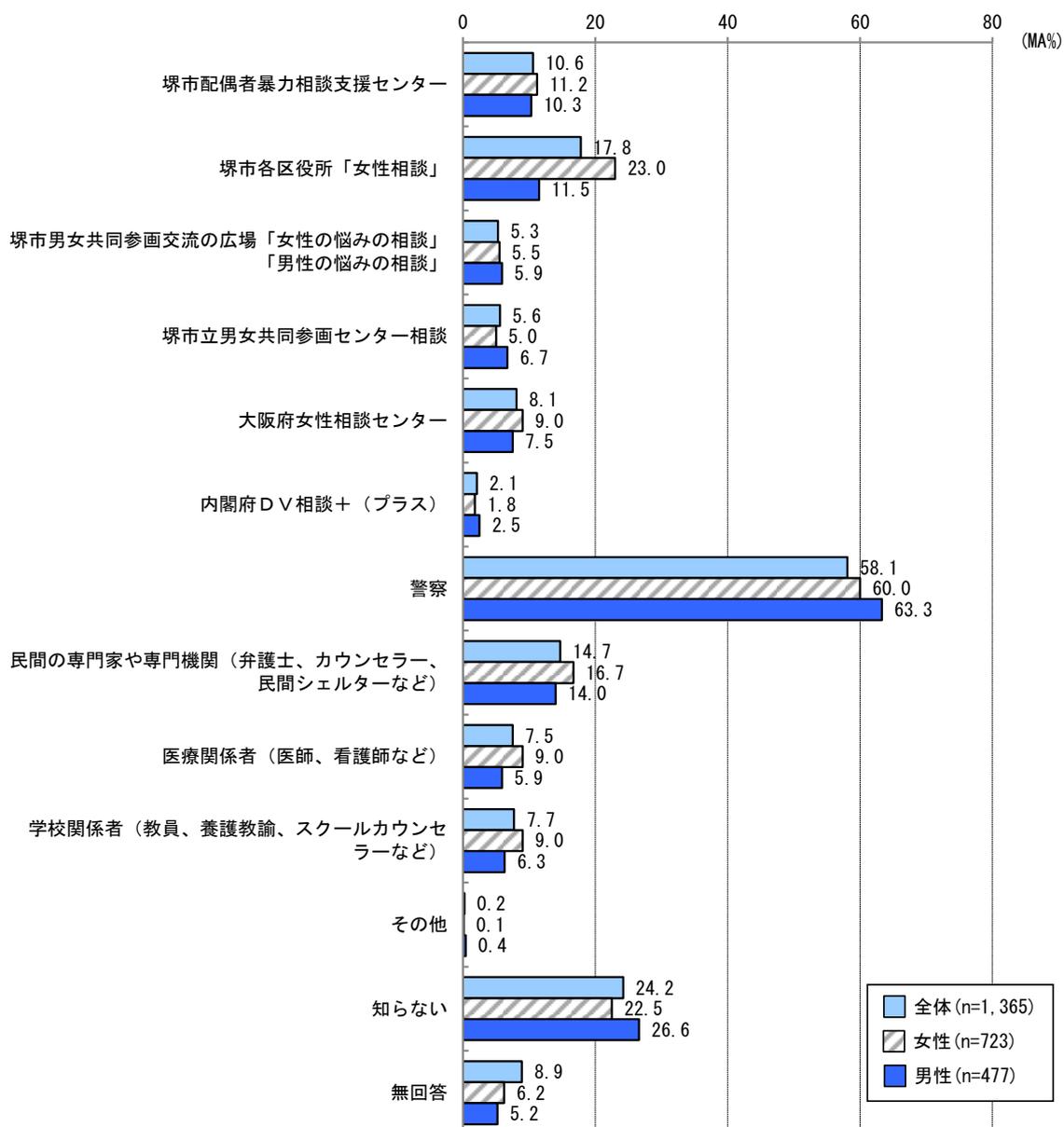


(2) DVに関する相談窓口で知っているもの

問22 あなたは、配偶者や交際相手からの暴力についてどのような相談窓口を知っていますか。（あてはまるものすべてに○）
 なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。

全体は、「警察」(58.1%)が最も多く、次いで「堺市各区役所「女性相談」」(17.8%)となっている。

性別で見ると、男女とも「警察」の割合が最も高い。女性の「堺市各区役所「女性相談」」の割合は男性より11.5ポイント高くなっている。

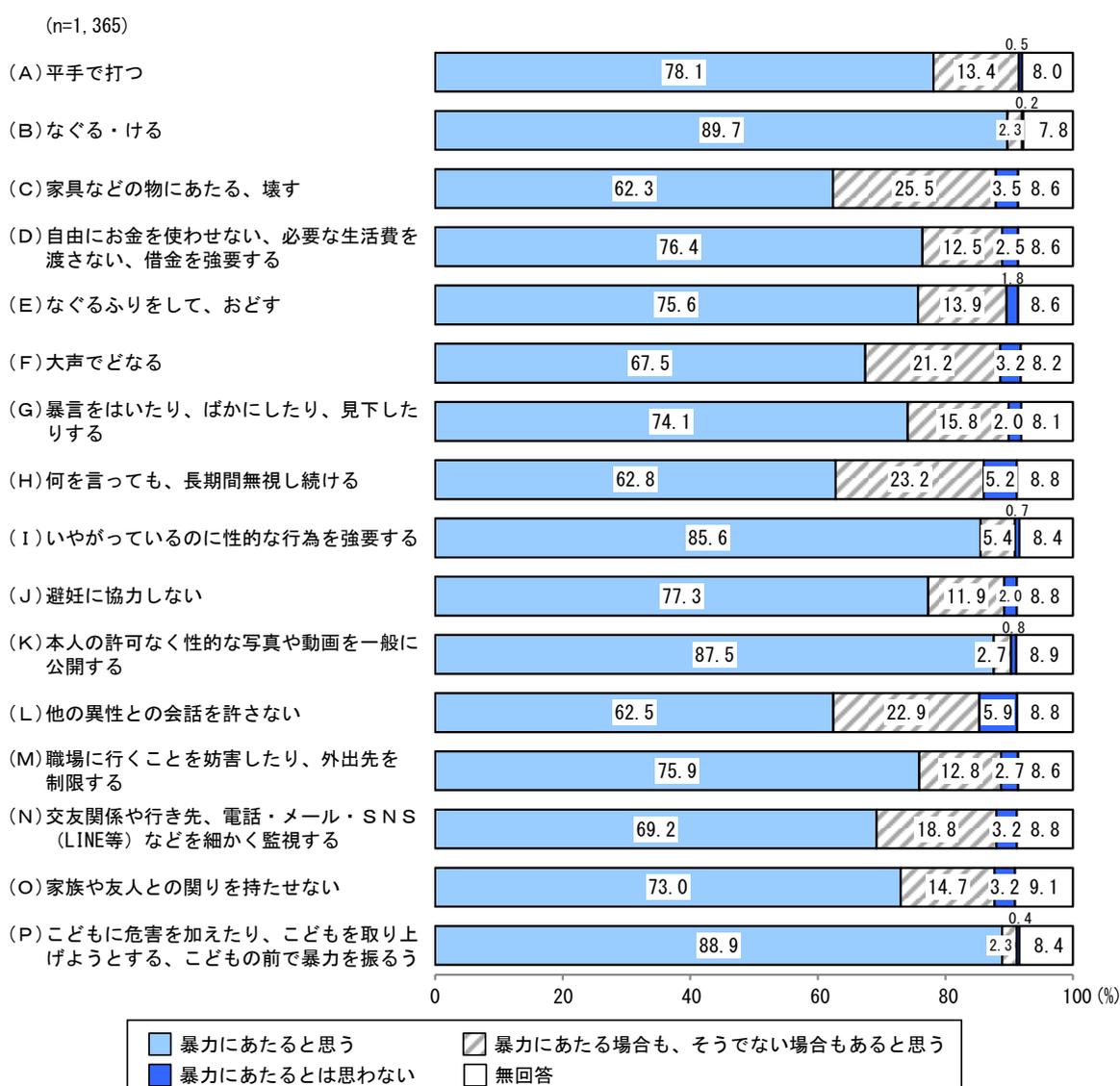


(3) 暴力と認識される行為

問23 あなたは、配偶者や交際相手から次のようなことが相手に対して行われた場合、それを暴力だと思いますか。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。（それぞれ○は一つ）

全体は、「暴力にあたると思う」の割合は『(B) ながる・ける』(89.7%)が最も高く、次いで『(P) こどもに危害を加えたり、こどもを取り上げようとする、こどもの前で暴力を振るう』(88.9%)となっている。

性別で見ると、女性の「暴力にあたると思う」の割合は『(C) 家具などの物にあたる、壊す』『(D) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する』『(F) 大声でどなる』で男性に比べて10ポイント以上高くなっている。



【性別】

(単位：%)	女性 (n=723)				男性 (n=477)			
	暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
(A) 平手で打つ	82.4	11.5	0.4	5.7	79.2	17.0	0.6	3.1
(B) なぐる・ける	92.8	2.1	-	5.1	93.9	2.5	0.2	3.4
(C) 家具などの物にあたる、壊す	69.2	22.5	2.2	6.1	57.9	32.9	5.0	4.2
(D) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	84.0	8.6	1.2	6.2	71.9	19.5	4.4	4.2
(E) なぐるふりをして、おどす	80.4	11.9	1.5	6.2	75.9	18.0	2.1	4.0
(F) 大声でどなる	73.9	17.8	2.6	5.7	63.3	28.7	4.2	3.8
(G) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	80.1	12.7	1.7	5.5	71.9	22.0	2.3	3.8
(H) 何を言っても、長期間無視し続ける	67.8	21.2	4.8	6.2	61.4	28.1	5.7	4.8
(I) いやがっているのに性的な行為を強要する	88.9	4.7	0.6	5.8	88.5	7.5	0.2	3.8
(J) 避妊に協力しない	81.3	10.9	1.2	6.5	78.8	14.3	2.9	4.0
(K) 本人の許可なく性的な写真や動画を一般に公開する	90.9	1.7	0.6	6.9	91.0	4.0	1.0	4.0
(L) 他の異性との会話を許さない	66.9	22.3	4.3	6.5	60.8	27.5	7.8	4.0
(M) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	79.3	12.0	2.4	6.4	77.6	15.5	3.1	3.8
(N) 交友関係や行き先、電話・メール・SNS (LINE等)などを細かく監視する	72.6	18.1	3.0	6.2	69.4	22.6	3.8	4.2
(O) 家族や友人との関りを持たせない	77.2	13.1	2.9	6.8	73.0	19.5	3.4	4.2
(P) こどもに危害を加えたり、こどもを取り上げようとする、こどもの前で暴力を振るう	91.8	1.9	0.1	6.1	92.7	2.9	0.6	3.8

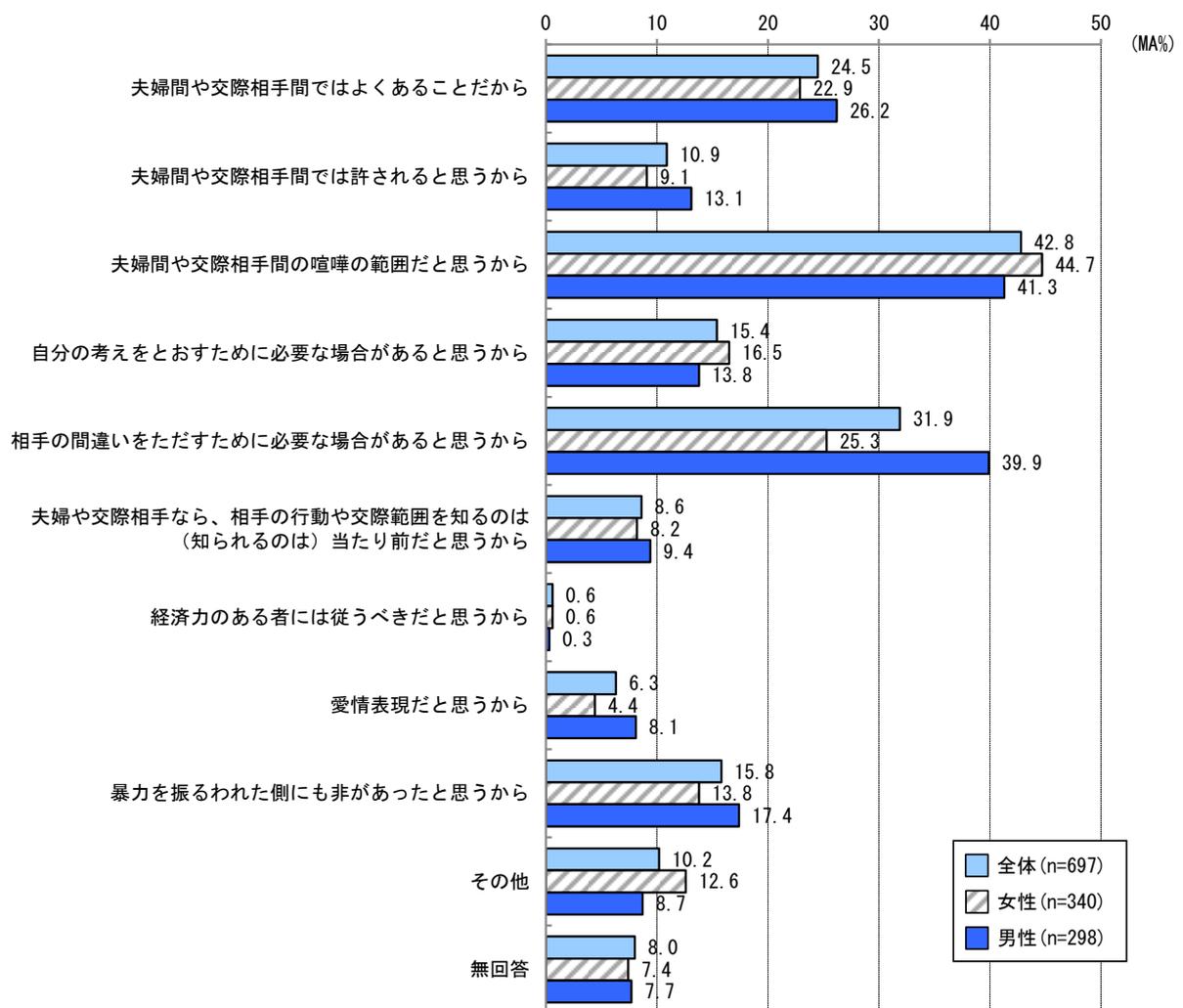
(4) 暴力にあたらない場合があると思う理由

問23-1は、問23で一つでも「2. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「3. 暴力にあたるとは思わない」と回答した方にお聞きします。

問23-1 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

全体は、「夫婦間や交際相手間の喧嘩の範囲だと思うから」(42.8%)が最も多く、次いで「相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから」(31.9%)となっている。

性別でみると、男性は「相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから」の割合が女性に比べて14.6ポイント高い。

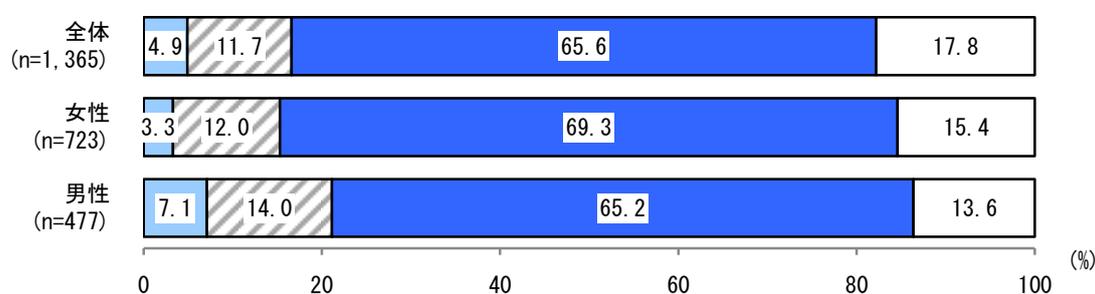


(5) 結婚経験・交際経験の有無

問24 あなたは、結婚した経験、交際相手があった経験がありますか。なお、ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。
(○は一つ)

全体は、「既婚（現在、夫または妻がいる）、または離別（結婚していたが、離婚した）、または死別（結婚していたが、死別した）」（65.6%）が最も多く、次いで「未婚（結婚したことはない）で、現在交際相手がいる、または過去に交際相手があった」（11.7%）となっている。

性別で見ると、女性の「既婚（現在、夫または妻がいる）、または離別（結婚していたが、離婚した）、または死別（結婚していたが、死別した）」の割合は男性に比べ4.1ポイント高くなっている。



- 未婚（結婚したことはない）で、現在も過去も交際相手があった経験はない
- 未婚（結婚したことはない）で、現在交際相手がいる、または過去に交際相手があった
- 既婚（現在、夫または妻がいる）、または離別（結婚していたが、離婚した）、または死別（結婚していたが、死別した）
- 無回答

(6) 配偶者からの暴力の被害経験の有無

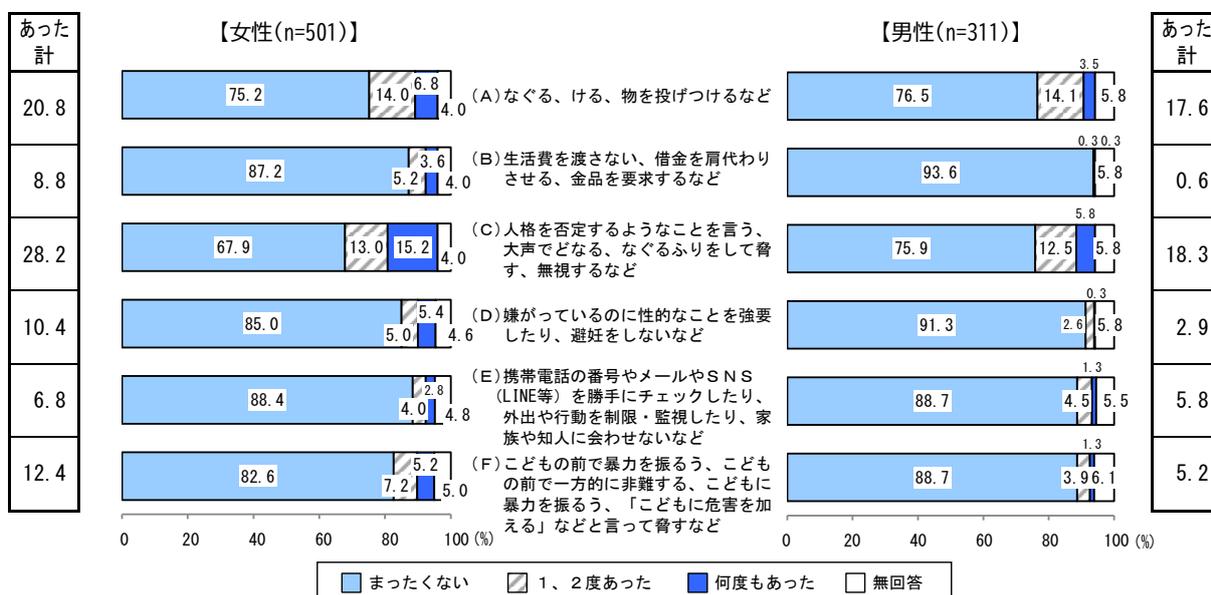
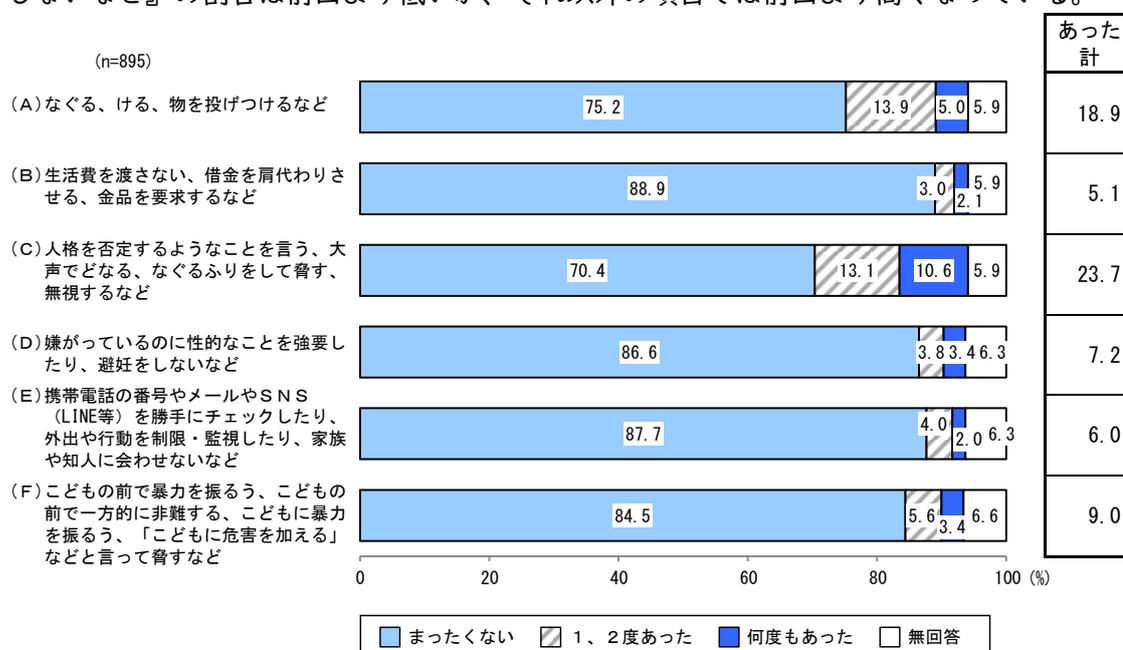
問24で「3. 既婚、または離別、または死別」と回答された方にお聞きします。
 問25 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。また「①これまで」で「1, 2度あった」「何度もあった」と回答した方は、「②この1年間」についてもお答えください。(それぞれ○は一つ)

①これまでの配偶者からの暴力の被害経験の有無

全体は、“あった計”の割合は『(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』(23.7%)が最も高くなっている。

性別で見ると、“あった計”の割合は全ての項目で女性が男性に比べて高くなっており、『(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』の割合が9.9ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、全体の“あった計”の割合は『(B)生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど』と『(D)嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど』の割合は前回より低いが、それ以外の項目では前回より高くなっている。



※あった計：「何度もあった」「1, 2度あった」を合わせた値

【前回調査（令和2年）】

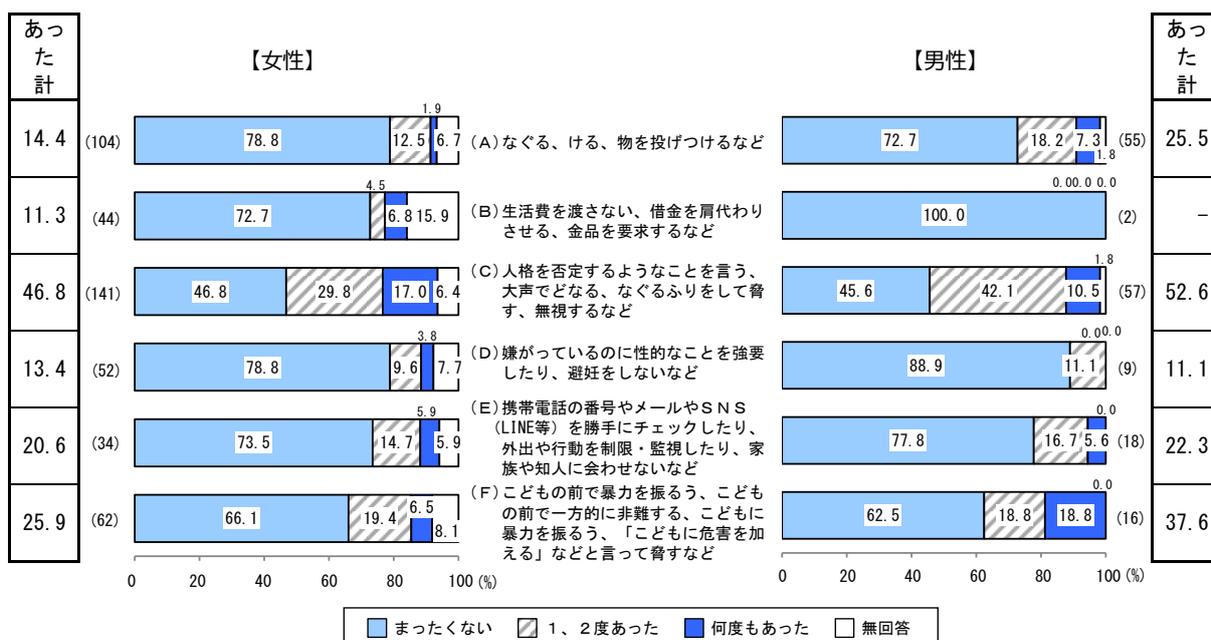
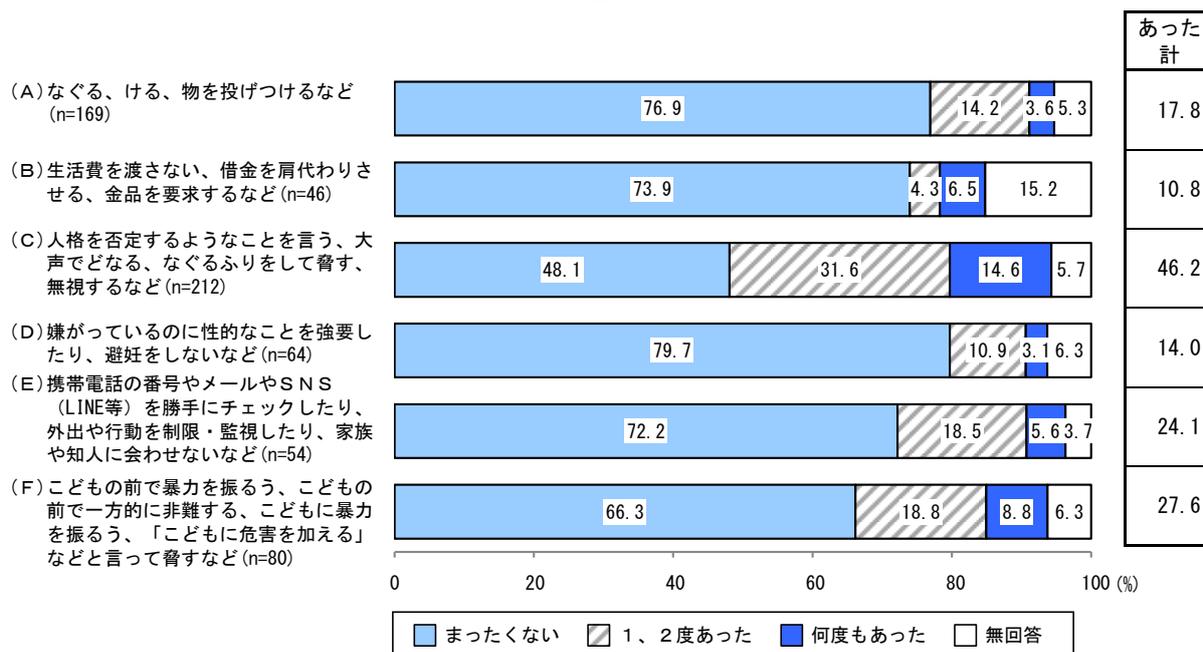
(単位：%)	全体 (n=1,169)				女性 (n=684)				男性 (n=422)			
	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答
(A) なくる、ける、物を投げつけるなど	70.1	13.2	4.2	12.6	68.6	15.1	5.0	11.4	74.6	10.2	3.1	12.1
(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、 金品を要求するなど	81.5	2.5	3.0	13.0	80.8	2.9	4.4	11.8	86.0	1.4	0.7	11.8
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でど なる、なくるふりをして脅す、無視するなど	66.4	11.7	8.3	13.6	63.6	13.3	10.8	12.3	73.0	9.5	5.0	12.6
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、 避妊をしないなど	79.0	4.9	3.0	13.1	76.2	7.2	5.0	11.7	86.5	1.4	0.0	12.1
(E) 携帯電話の番号やメールやSNS (LINE等) を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視 したり、家族や知人に会わせないなど	82.3	2.8	1.7	13.2	82.3	3.7	2.0	12.0	85.5	1.7	0.9	11.8
(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一 方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こども に危害を加える」などと言って脅すなど	79.1	3.4	4.0	13.4	78.5	3.8	5.4	12.3	82.7	2.8	2.4	12.1

②過去1年以内の配偶者からの暴力の被害経験の有無

全体は、“あった計”の割合は『(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』(46.2%)が最も高くなっている。

性別で見ると、男性の“あった計”の割合は『(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど』『(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど』は女性に比べて10ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体の“あった計”の割合は『(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど』が前回より9.6ポイント低くなっている。



【前回調査（令和2年）】

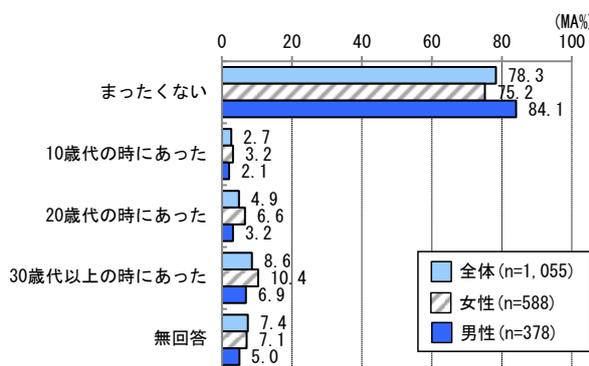
(単位：%)	全体				女性				男性			
	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった	無回答
(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど (n=203)	74.4	13.8	3.0	8.9	74.5	14.6	2.2	8.8	75.0	14.3	5.4	5.4
(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、 金品を要求するなど (n=64)	64.1	6.3	14.1	15.6	68.0	4.0	14.0	14.0	55.6	22.2	22.2	-
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でど なる、なぐるふりをして脅す、無視するなど (n=234)	48.3	26.5	17.5	7.7	46.1	26.7	18.8	8.5	54.1	26.2	16.4	3.3
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、 避妊をしないなど (n=92)	69.6	14.1	6.5	9.8	69.9	13.3	7.2	9.6	66.7	16.7	-	16.7
(E) 携帯電話の番号やメールやSNS (LINE等) を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視 したり、家族や知人に会わせないなど (n=53)	67.9	17.0	7.5	7.5	74.4	12.8	5.1	7.7	45.5	36.4	18.2	-
(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一 方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こども に危害を加える」などと言って脅すなど (n=87)	58.6	20.7	11.5	9.2	58.7	22.2	9.5	9.5	54.5	18.2	18.2	9.1

(7) 交際相手からの暴力の被害経験の有無

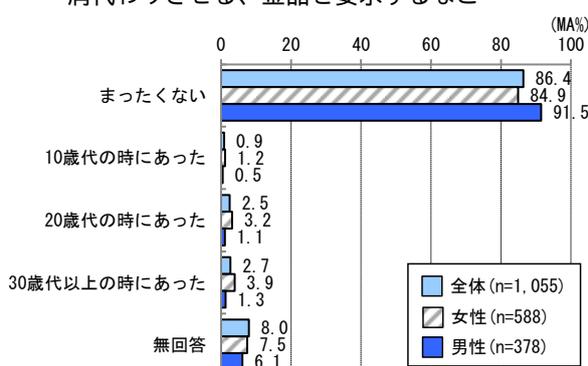
既婚、未婚に関わらず、現在・過去に交際相手がいる・いた人すべてにお聞きします。
問26 あなたは、現在及び過去に交際相手から次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

全体及び女性では、「20歳代の時にあった」「30歳代以上の時にあった」の割合は『(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』が最も高く、「10歳代の時にあった」の割合は『(D)嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど』が最も高い。

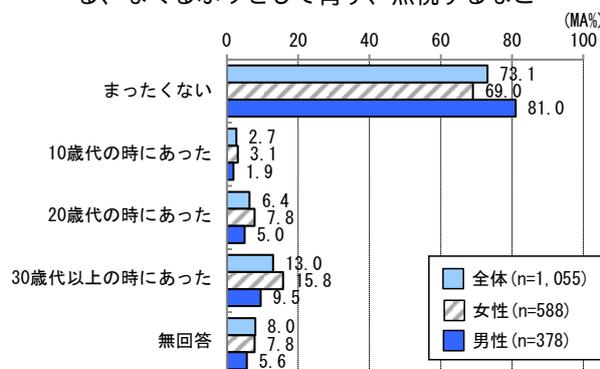
(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど



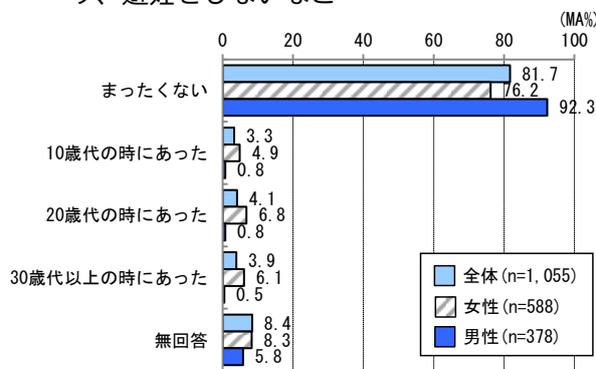
(B) 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど



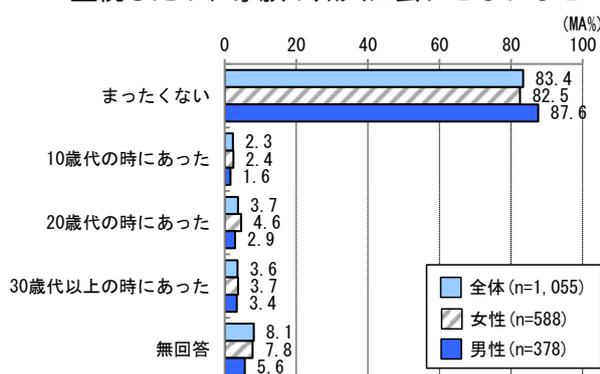
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど



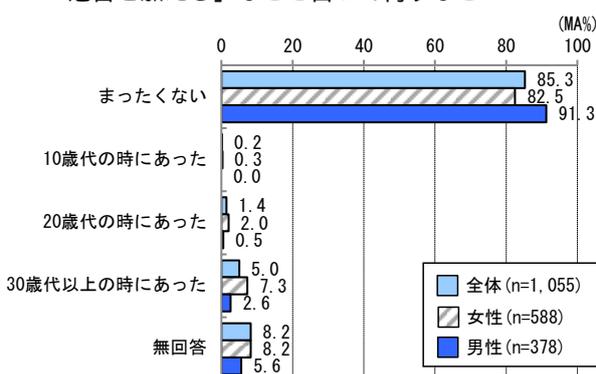
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど



(E) 携帯電話の番号やメールやSNS(LINE等)を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど



(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど



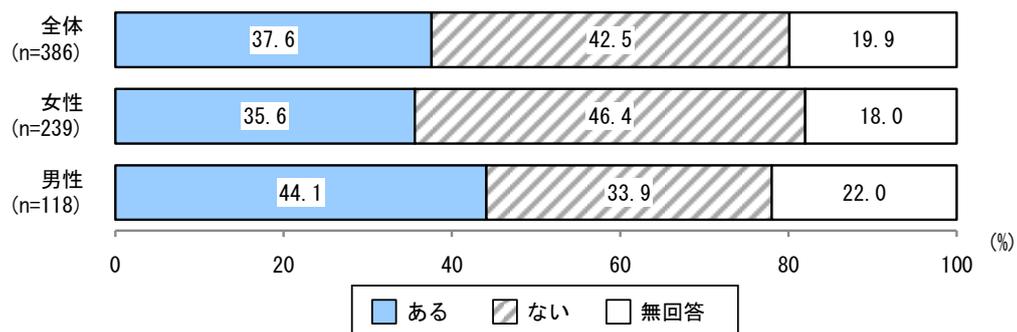
(8) 同棲経験の有無

問26-1は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験があると回答された方にお聞きします。

問26-1 あなたは、現在及び過去に交際相手と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がありますか。（○は一つ）

全体は、「ある」が37.6%、「ない」が42.5%となっている。

性別で見ると、「ある」の割合は女性より男性のほうが8.5ポイント高くなっている。



(9) 同棲相手からの暴力の被害経験の有無

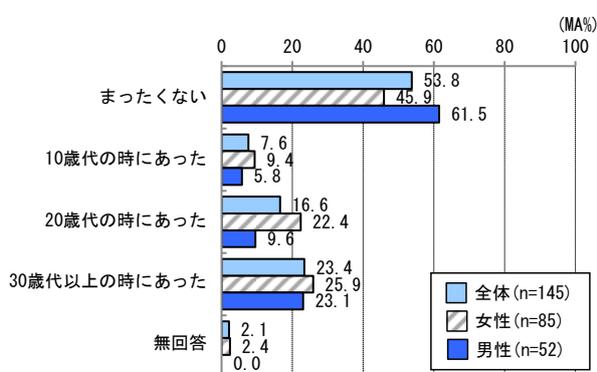
問26-2は、問26-1で「1. ある」と回答された方にお聞きします。

問26-2 あなたは、過去に同居していた交際相手や現在同居している交際相手（いわゆる同棲相手）から同居（同棲）中に次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。（それぞれあてはまるものすべてに○）

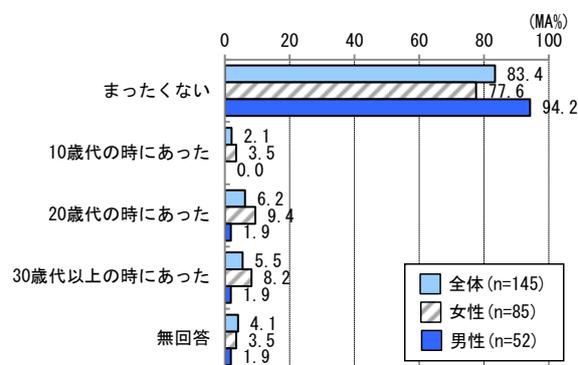
全体は、「20歳代の時にあった」「30歳代以上の時にあった」の割合は『(C)人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど』で最も高くなっている。

性別で見ると、全ての項目であった割合は男性より女性のほうが高くなっている。

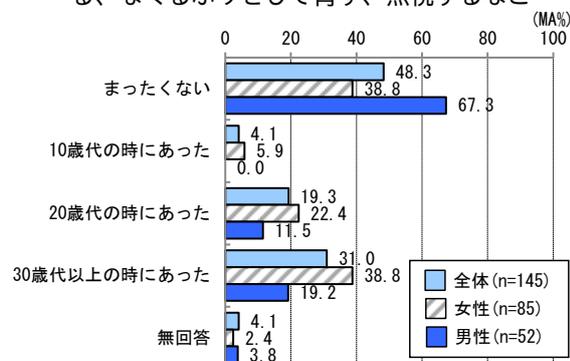
(A) なぐる、ける、物を投げつけるなど



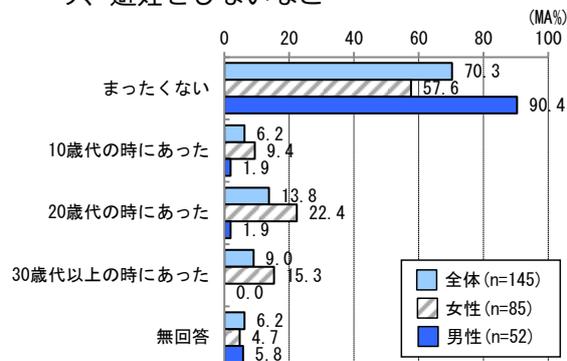
(B) 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど



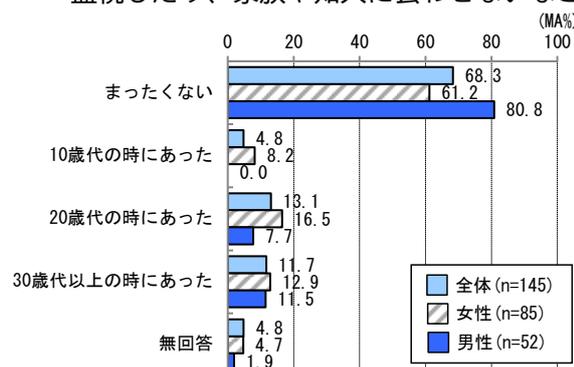
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど



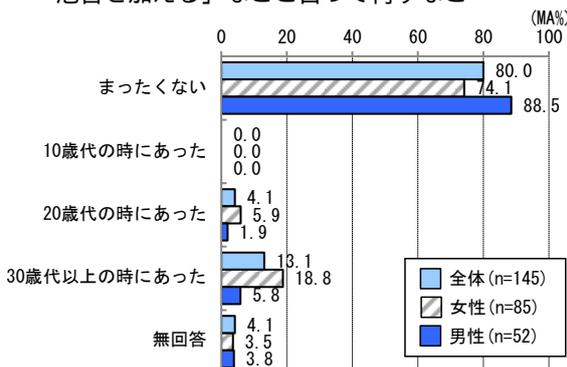
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど



(E) 携帯電話の番号やメールやSNS(LINE等)を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど



(F) こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど



(10) 配偶者や交際相手からの暴力の相談相手

問27は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方にお聞きします。

問27 あなたはこれまでに、あなたの①配偶者や②交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

①配偶者からの暴力

全体は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（41.4%）が最も多く、次いで「友人や知人」（15.5%）となっている。

性別で見ると、女性の「家族や親戚」「友人や知人」の割合は男性に比べ10ポイント以上高くなっている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は女性に比べ男性は11.1ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「家族や親戚」の割合が前回より4.2ポイント低くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=297)	女性 (n=185)	男性 (n=93)	全体 (n=328)	女性 (n=227)	男性 (n=87)
堺市配偶者暴力相談支援センター	0.7	-	2.2	0.6	-	1.1
堺市各区役所「女性相談」	1.0	1.1	1.1	2.1	2.6	1.1
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	0.3	-	1.1	0.6	0.4	1.1
堺市立男女共同参画センター相談	0.3	-	1.1	0.3	-	1.1
大阪府女性相談センター	0.7	0.5	1.1	1.2	1.3	1.1
内閣府DV相談+（プラス）	0.3	-	1.1			
警察	2.7	1.6	5.4	2.4	2.2	2.3
民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）	2.4	3.8	-	1.5	1.8	1.1
医療関係者（医師、看護師など）	1.3	1.1	2.2	1.8	1.8	2.3
学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	-	-	-	0.6	0.4	1.1
家族や親戚	13.8	18.9	5.4	18.0	23.3	5.7
友人や知人	15.5	20.0	8.6	14.6	17.6	5.7
その他	0.3	0.5	-	0.3	-	1.1
どこ（だれ）にも相談しなかった	41.4	37.3	48.4	34.5	32.2	40.2
無回答	31.6	28.1	36.6	36.9	31.7	51.7

②交際相手からの暴力

全体は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（29.0%）で最も多く、次いで「友人や知人」（20.8%）となっている。

性別で見ると、女性の「友人や知人」の割合は男性に比べ16.7ポイント高くなっている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は女性に比べ男性は25.2ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「友人や知人」の割合が前回より11.3ポイント高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=307)	女性 (n=200)	男性 (n=86)	全体 (n=283)	女性 (n=205)	男性 (n=66)
堺市配偶者暴力相談支援センター	-	-	-	0.4	0.5	-
堺市各区役所「女性相談」	-	-	-	0.7	1.0	-
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	-	-	-	-	-	-
堺市立男女共同参画センター相談	-	-	-	-	-	-
大阪府女性相談センター	0.3	0.5	-	-	-	-
内閣府DV相談+（プラス）	-	-	-			
警察	0.3	0.5	-	1.1	1.5	-
民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）	-	-	-	-	-	-
医療関係者（医師、看護師など）	-	-	-	0.4	0.5	-
学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	-	-	-	-	-	-
家族や親戚	6.5	8.0	4.7	3.2	3.9	1.5
友人や知人	20.8	26.0	9.3	9.5	12.7	1.5
その他	0.3	0.5	-	0.4	0.5	-
どこ（だれ）にも相談しなかった	29.0	22.5	47.7	20.5	19.5	25.8
無回答	48.5	49.5	41.9	67.5	64.4	72.7

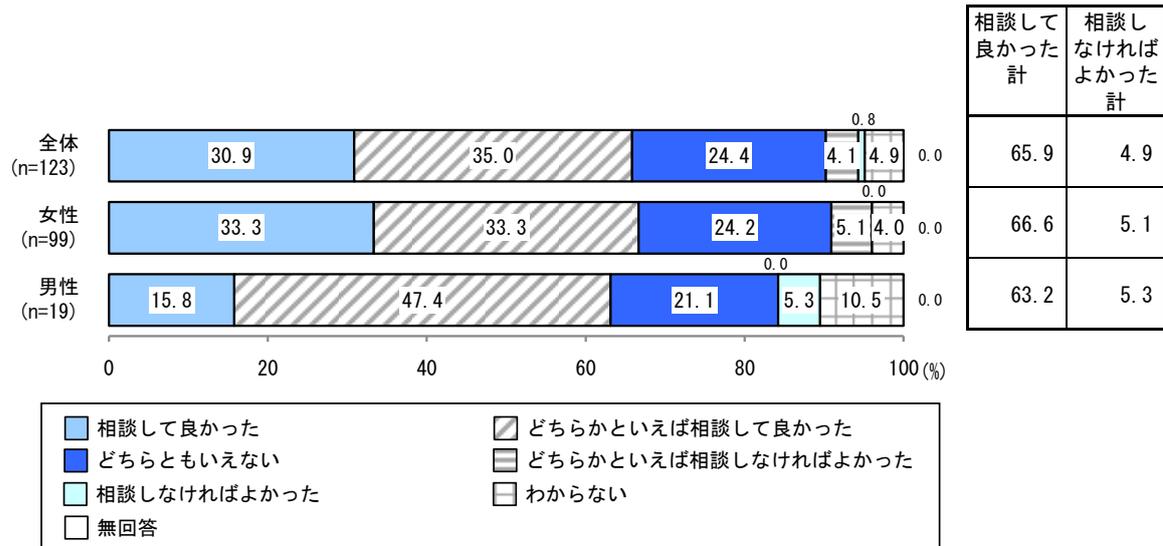
(11) 配偶者や交際相手からの暴力について相談後の評価

問27-1は、配偶者や交際相手から暴力を受けた行為について相談した経験がある方にお聞きします。

問27-1 相談後のあなたのお気持ちに一番近いものはどれですか。(○は一つ)

全体は、“相談して良かった計”の割合は65.9%となっている。

性別で見ると、“相談して良かった計”の割合は男性に比べ女性がやや高く、「相談して良かった」の割合は男性より女性のほうが17.5ポイント高くなっている。



※相談して良かった計：「相談して良かった」「どちらかといえば相談して良かった」を合わせた値

相談しなければよかった計：「相談しなければよかった」「どちらかといえば相談しなければよかった」を合わせた値

(12) 相談しなかった理由

問27-2は、問27で「N どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
問27-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

①配偶者からの暴力

全体は、「相談するほどのことではないと思ったから」（51.2%）が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（23.6%）となっている。

性別で見ると、女性で「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」「相談してもむだだと思ったから」の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が前回より11.8ポイント低くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=123)	女性 (n=69)	男性 (n=45)	全体 (n=113)	女性 (n=73)	男性 (n=35)
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	8.1	13.0	2.2	10.6	11.0	5.7
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	8.1	10.1	6.7	10.6	13.7	5.7
相談してもむだだと思ったから	22.0	26.1	15.6	21.2	26.0	11.4
自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	10.6	13.0	6.7	17.7	21.9	8.6
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	2.4	4.3	-	2.7	4.1	-
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	2.4	2.9	2.2	0.9	1.4	-
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	22.0	26.1	17.8	19.5	19.2	17.1
世間体が悪いと思ったから	5.7	5.8	6.7	7.1	8.2	5.7
他人を巻き込みたくなかったから	6.5	7.2	4.4	9.7	11.0	5.7
他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	1.6	1.4	2.2	0.9	1.4	-
そのことについて思い出したくなかったから	4.1	7.2	-	4.4	4.1	2.9
自分にも悪いところがあると思ったから	23.6	24.6	26.7	35.4	28.8	51.4
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	2.4	2.9	2.2	9.7	6.8	17.1
相談するほどのことではないと思ったから	51.2	53.6	46.7	58.4	50.7	80.0
その他	1.6	1.4	2.2	2.7	2.7	2.9
無回答	15.4	5.8	26.7	4.4	5.5	-

②交際相手からの暴力

全体は、「相談するほどのことではないと思ったから」（42.7%）が最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」（13.5%）となっている。

性別で見ると、女性で「そのことについて思い出したくなかったから」の割合が男性に比べて11.1ポイント高い。男性で「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が女性に比べて22.6ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が前回より22.7ポイント低くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査（令和2年）		
	全体 (n=89)	女性 (n=45)	男性 (n=41)	全体 (n=58)	女性 (n=40)	男性 (n=17)
どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから	4.5	6.7	2.4	15.5	20.0	5.9
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	6.7	11.1	2.4	15.5	17.5	11.8
相談してもむだだと思ったから	13.5	15.6	12.2	15.5	17.5	11.8
自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	3.4	4.4	2.4	22.4	27.5	11.8
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	1.1	2.2	-	5.2	5.0	5.9
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	3.4	-	7.3	-	-	-
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	4.5	2.2	7.3	22.4	22.5	23.5
世間体が悪いと思ったから	2.2	2.2	2.4	6.9	5.0	11.8
他人を巻き込みたくなかったから	1.1	-	2.4	13.8	12.5	17.6
他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	1.1	-	2.4	5.2	5.0	5.9
そのことについて思い出したくなかったから	5.6	11.1	-	10.3	12.5	5.9
自分にも悪いところがあると思ったから	10.1	6.7	14.6	32.8	32.5	35.3
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	4.5	2.2	4.9	20.7	17.5	29.4
相談するほどのことではないと思ったから	42.7	31.1	53.7	44.8	40.0	52.9
その他	-	-	-	-	-	-
無回答	38.2	44.4	34.1	8.6	10.0	5.9

(13) 配偶者や交際相手から暴力を受けた時の行動

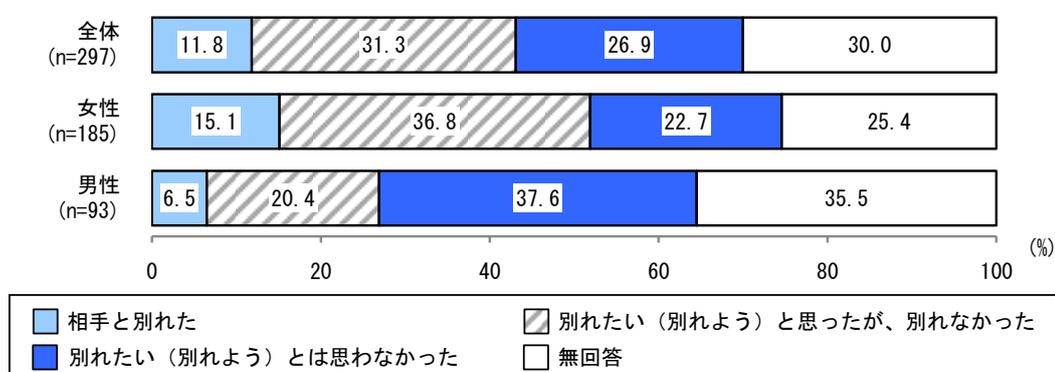
問28は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします。
 問28 あなたは、あなたの配偶者や交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。①配偶者からと②交際相手から、それぞれでお答えください。
 (それぞれ〇は一つ)

①配偶者からの暴力

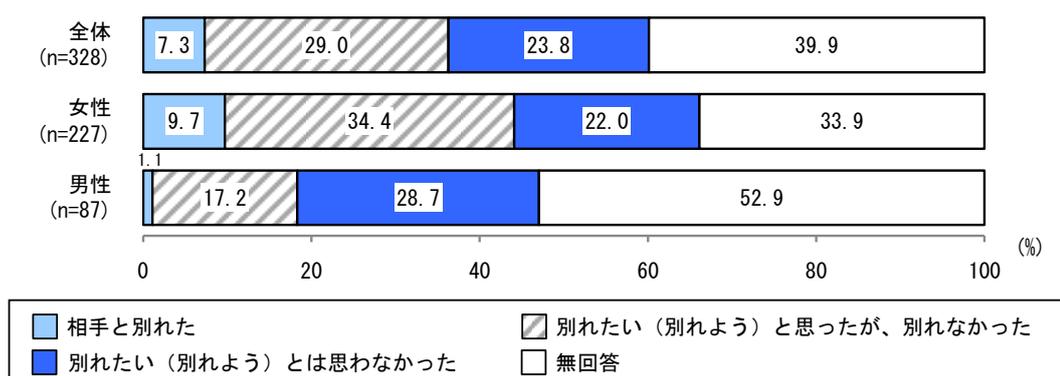
全体は、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」（31.3%）が最も多く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」（26.9%）となっている。

性別で見ると、女性は「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」の割合が男性に比べて16.4ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、「相手と別れた」の割合は前回より4.5ポイント高くなっている。



【前回調査（令和2年）】

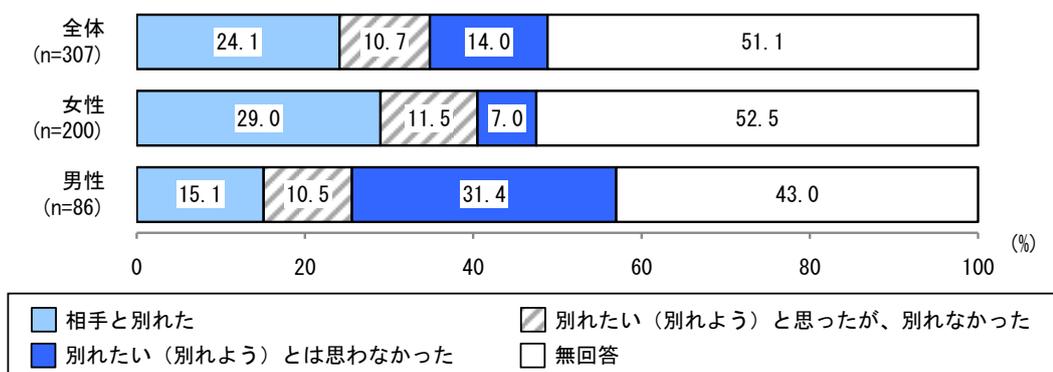


②交際相手からの暴力

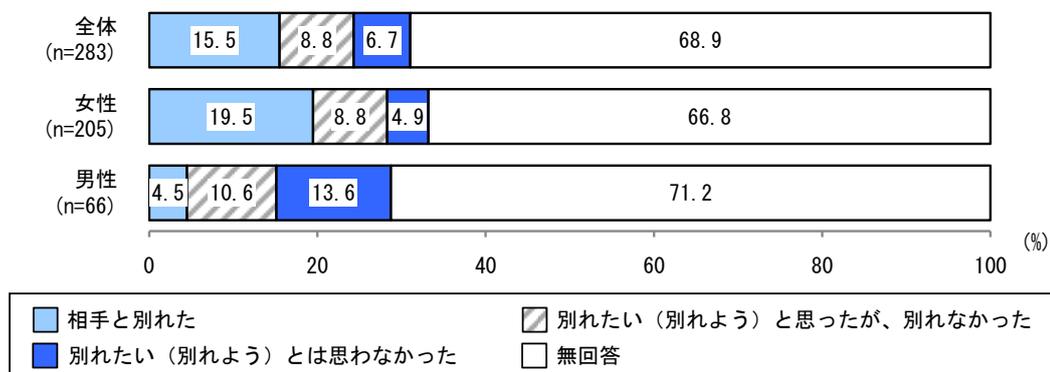
全体は、「相手と別れた」（24.1%）が最も多く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」（14.0%）となっている。

性別で見ると、女性は「相手と別れた」の割合が男性に比べて13.9ポイント高い。

前回調査との比較で見ると、「相手と別れた」の割合は前回より8.6ポイント高くなっている。



【前回調査（令和2年）】



(14) 相手と別れなかった理由

問28-1は、問28で「B. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

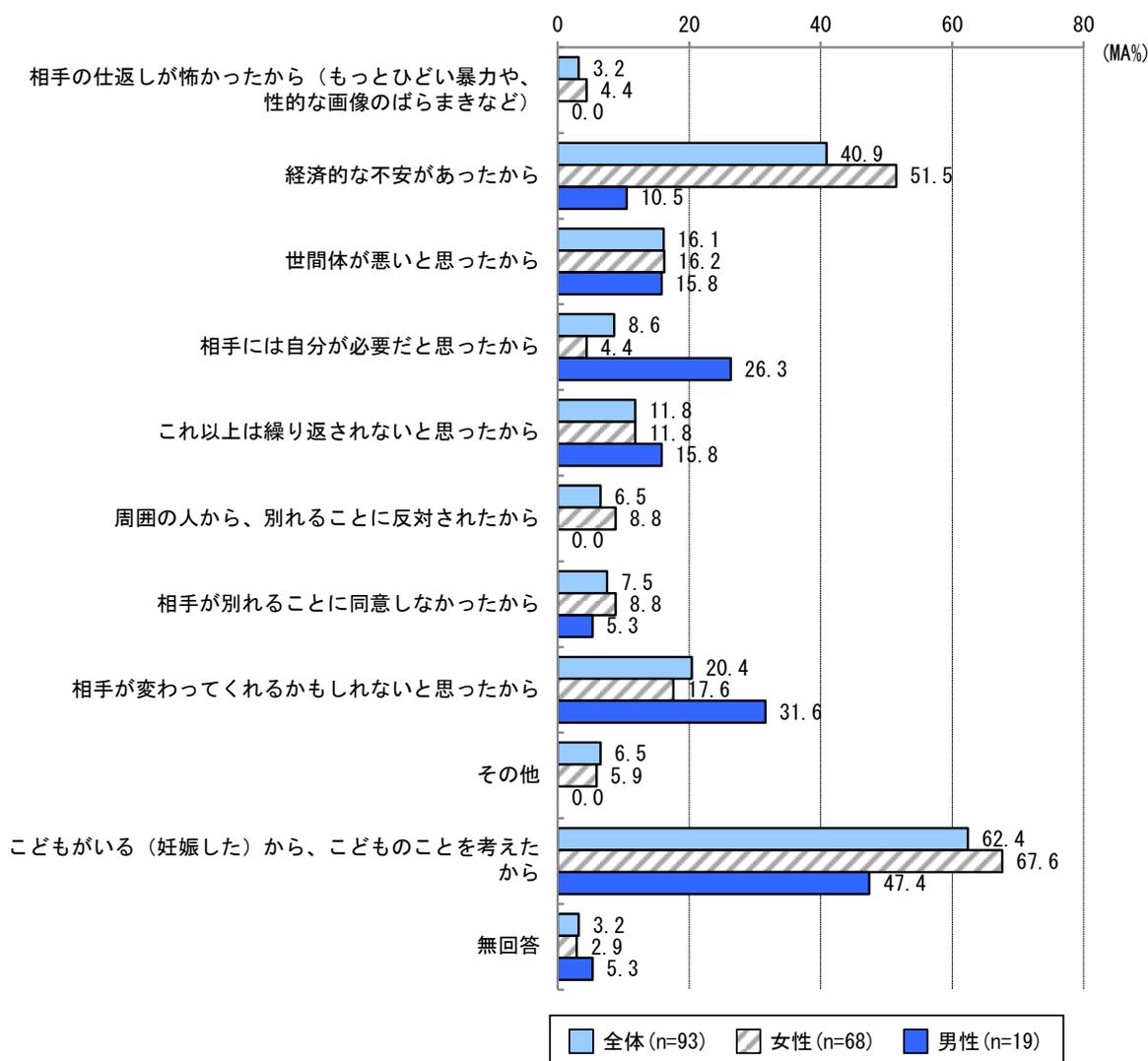
問28-1 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

①配偶者からの暴力

全体は、「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」（62.4%）が最も多く、次いで「経済的な不安があったから」（40.9%）となっている。

性別で見ると、女性では「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」の割合が67.6%で最も高く、次いで「経済的な不安があったから」が51.5%となっている。男性のサンプル数が少ないため、一概に言えないが、「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」が47.4%（9人）で最も高く、次いで「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が31.6%（6人）となっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「世間体が悪いと思ったから」の割合が前回より7.7ポイント高くなっている。



【前回調査（令和2年）】

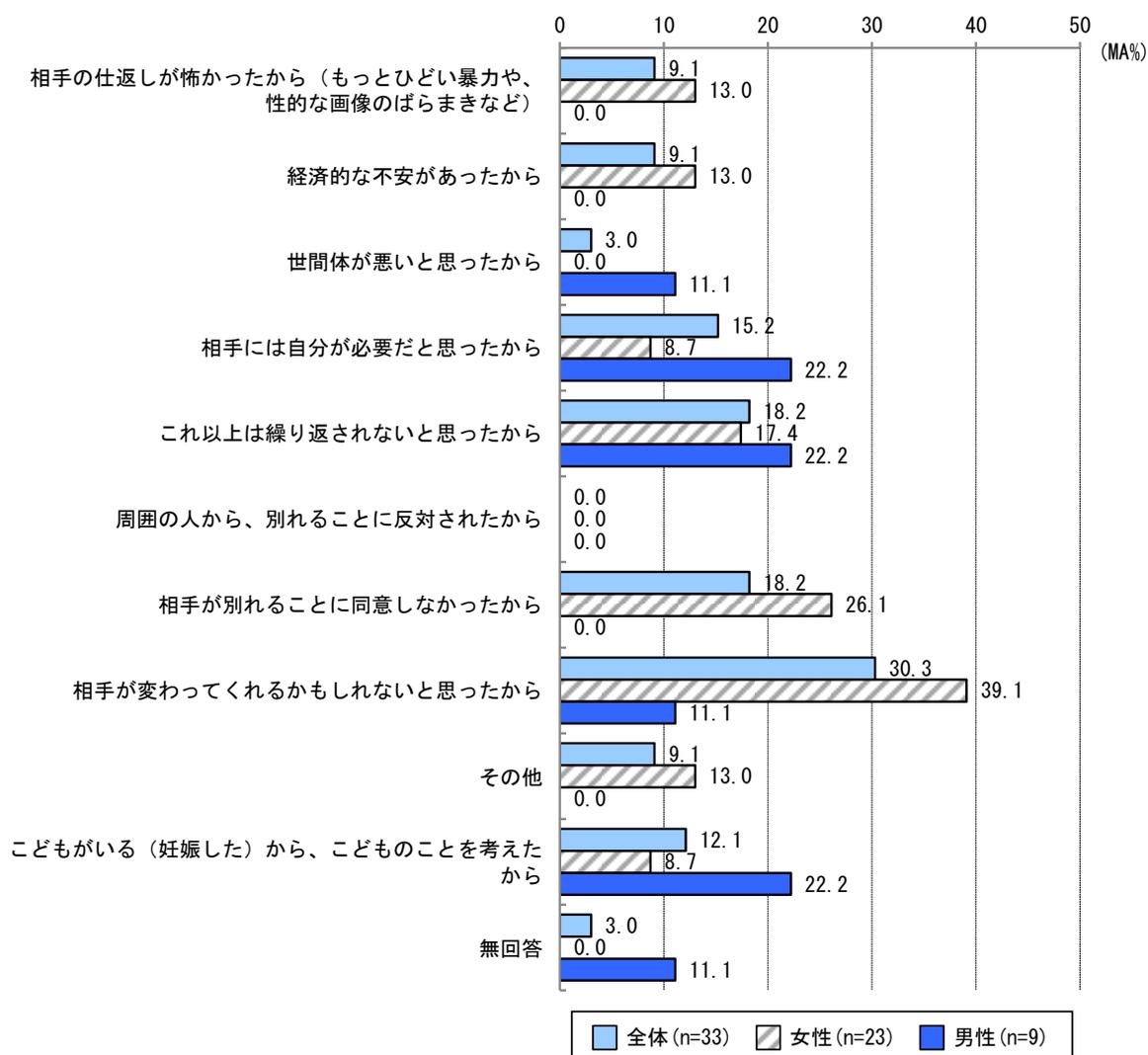
(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=95)	女性 (n=78)	男性 (n=15)
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	4.2	5.1	-
経済的な不安があったから	42.1	50.0	-
世間体が悪いと思ったから	8.4	9.0	-
相手には自分が必要だと思ったから	11.6	6.4	33.3
これ以上は繰り返されないと考えたから	10.5	10.3	13.3
周囲の人から、別れることに反対されたから	8.4	9.0	6.7
相手が別れることに同意しなかったから	20.0	16.7	40.0
相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	16.8	16.7	13.3
その他	2.1	2.6	-
子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから	63.2	69.2	40.0
無回答	5.3	5.1	6.7

②交際相手からの暴力

全体は、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」（30.3%・10人）が最も多く、次いで「これ以上は繰り返されないと考えたから」と「相手が別れることに同意しなかったから」がそれぞれ18.2%（6人）となっている。

性別で見ると、サンプル数が少ないため、一概に言えないが、女性では「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」の割合が39.1%（9人）で最も高い。

前回調査との比較で見ると、全体は「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」の割合が前回より21.7ポイント低くなっている。



【前回調査（令和2年）】

(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=25)	女性 (n=18)	男性 (n=7)
相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	8.0	11.1	-
経済的な不安があったから	4.0	5.6	-
世間体が悪いと思ったから	-	-	-
相手には自分が必要だと思ったから	24.0	22.2	28.6
これ以上は繰り返されないと考えたから	16.0	16.7	14.3
周囲の人から、別れることに反対されたから	-	-	-
相手が別れることに同意しなかったから	28.0	27.8	28.6
相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	52.0	55.6	42.9
その他	4.0	5.6	-
子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから	16.0	-	57.1
無回答	8.0	5.6	14.3

(15) こどものことで相手と別れなかった最も大きな理由

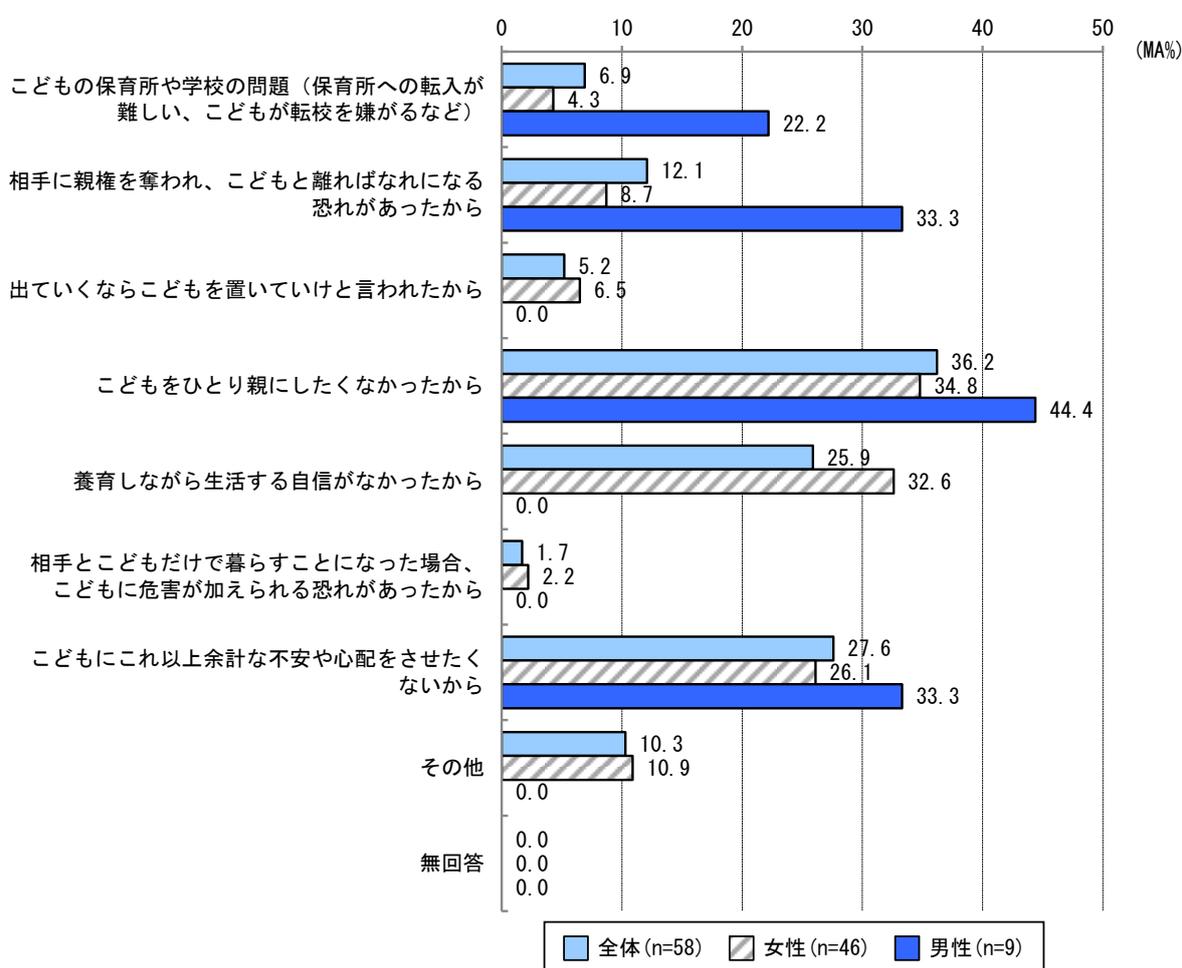
問28-2は、問28-1で「J. こどもがいるから、こどものことを考えたから」と回答した方にお聞きします。

問28-2 あなたが、こどものことで相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(〇は一つ)

全体は、「こどもをひとり親にしたくなかったから」(36.2%)が最も多く、次いで「こどもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」(27.6%)となっている。

性別で見ると、男性のサンプル数が少ないため、一概に言えないが、男女とも「こどもをひとり親にしたくなかったから」の割合が最も高く、女性は34.8%(16人)、男性が44.4%(4人)となっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「こどもをひとり親にしたくなかったから」の割合が前回より16.8ポイント高くなっている。



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

【前回調査（令和2年）】

(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=62)	女性 (n=54)	男性 (n=8)
こどもの保育所や学校の問題（保育所への転入が難しい、こどもが転校を嫌がるなど）	-	-	-
相手に親権を奪われ、こどもと離ればなれになる恐れがあったから	3.2	-	25.0
出ていくならこどもを置いていけと言われたから	1.6	1.9	-
こどもをひとり親にしたくなかったから	19.4	20.4	12.5
養育しながら生活する自信がなかったから	30.6	35.2	-
相手とこどもだけで暮らすことになった場合、こどもに危害が加えられる恐れがあったから	-	-	-
こどもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから	21.0	18.5	37.5
その他	4.8	3.7	12.5
無回答	19.4	20.4	12.5

(16) 命の危険を感じた経験

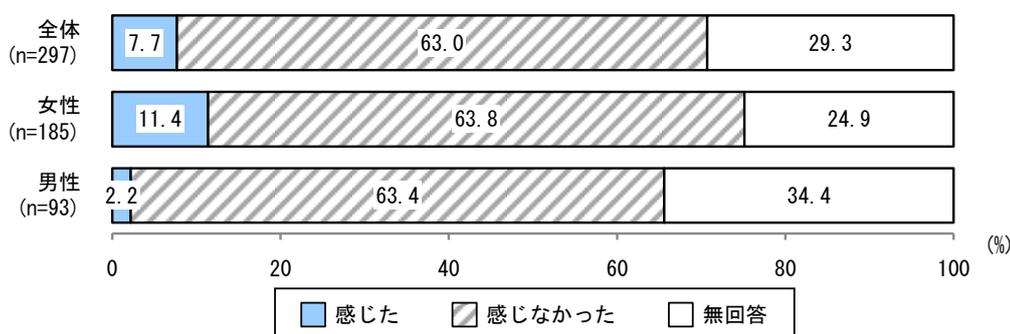
問29、問30は、配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします。
 問29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けた暴力等によって、命の危険を感じたことがありますか。①配偶者から②交際相手からそれぞれでお答えください。（それぞれ○は一つ）

①配偶者からの暴力

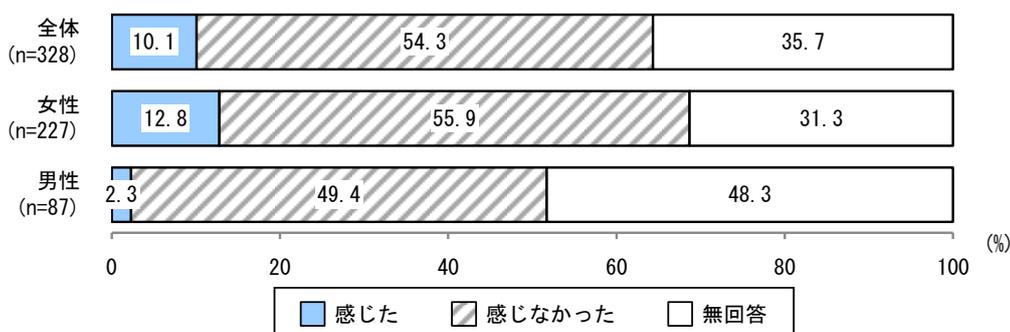
全体は、「感じた」が7.7%、「感じなかった」が63.0%となっている。

性別で見ると、女性の「感じた」の割合は男性に比べ9.2ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「感じた」の割合は前回より2.4ポイント低くなっている。



【前回調査（令和2年）】

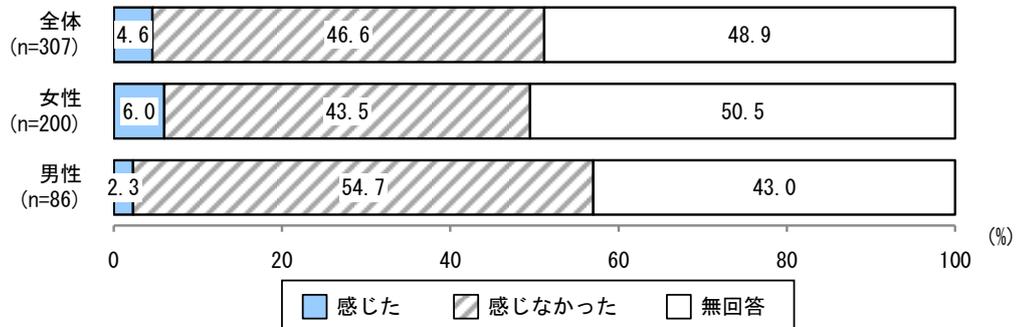


②交際相手からの暴力

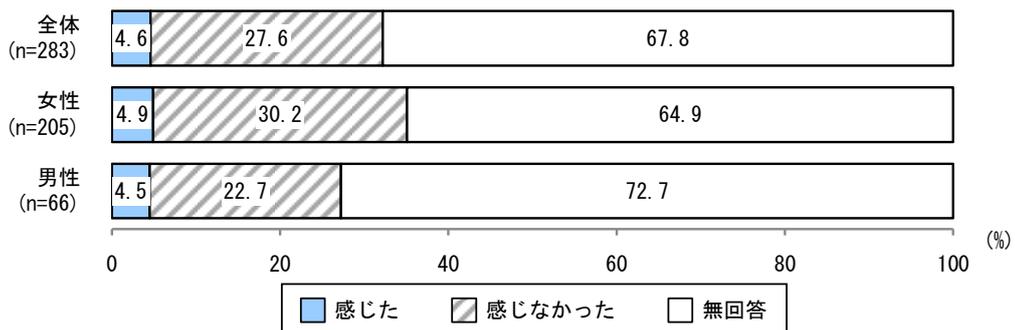
全体は、「感じた」が4.6%、「感じなかった」が46.6%となっている。

性別で見ると、女性の「感じた」の割合は男性に比べ3.7ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、全体は「感じなかった」の割合は前回より19.0ポイント高くなっている。



【前回調査（令和2年）】



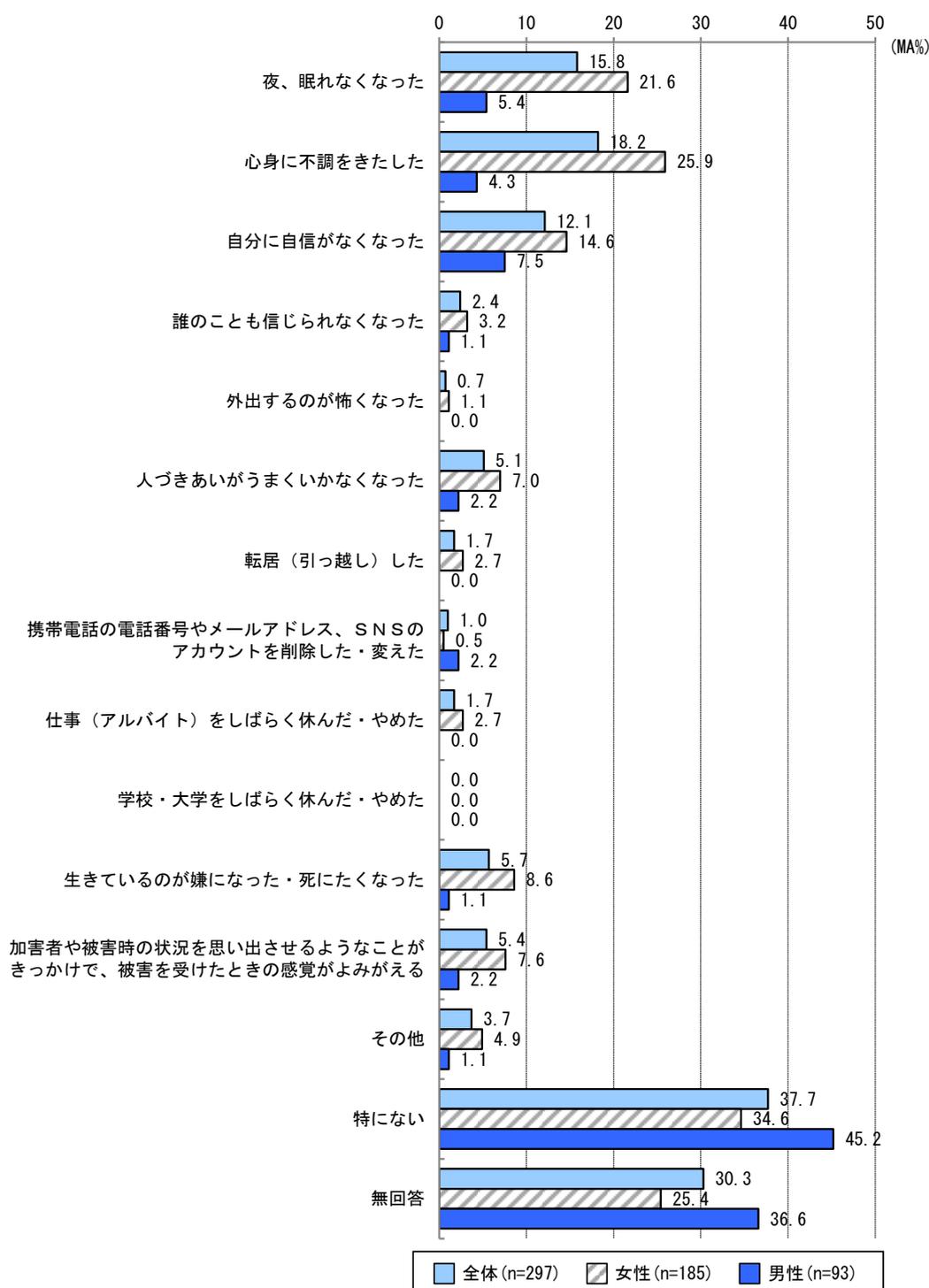
(17) 配偶者や交際相手からの被害による生活上の変化

問30 あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

① 配偶者からの暴力

全体は、「特にない」「無回答」を除くと、「心身に不調をきたした」(18.2%)が最も多く、次いで「夜、眠れなくなった」(15.8%)となっている。

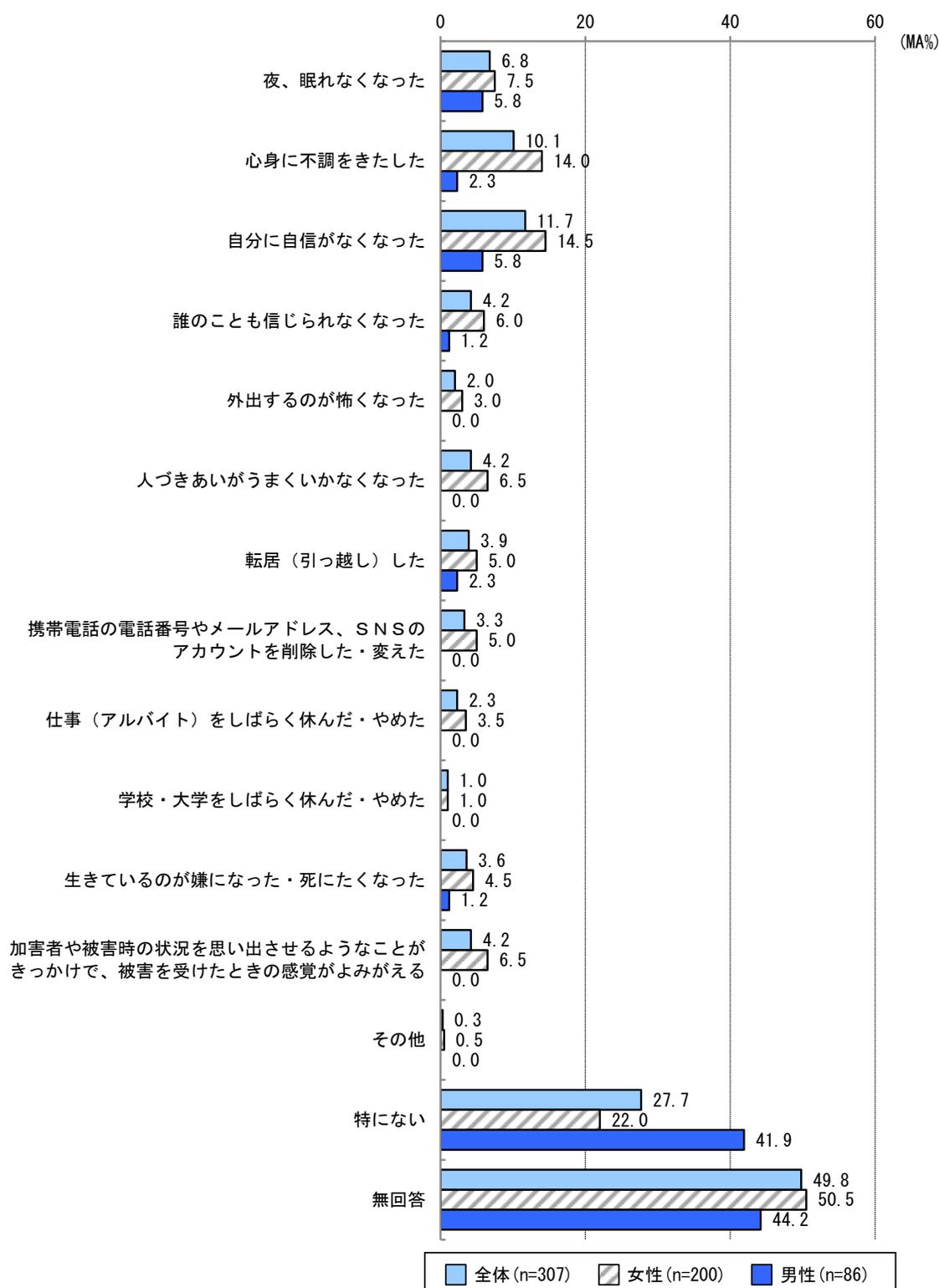
性別で見ると、女性の「夜、眠れなくなった」「心身に不調をきたした」の割合は男性に比べ10ポイント以上高くなっている。



② 交際相手からの暴力

全体は、「特にない」「無回答」を除くと、「自分に自信がなくなった」(11.7%)で最も多く、次いで「心身に不調をきたした」(10.1%)となっている。

性別で見ると、全ての項目で男性より女性の割合が高く、女性の「心身に不調をきたした」の割合は男性に比べ11.7ポイント高くなっている。

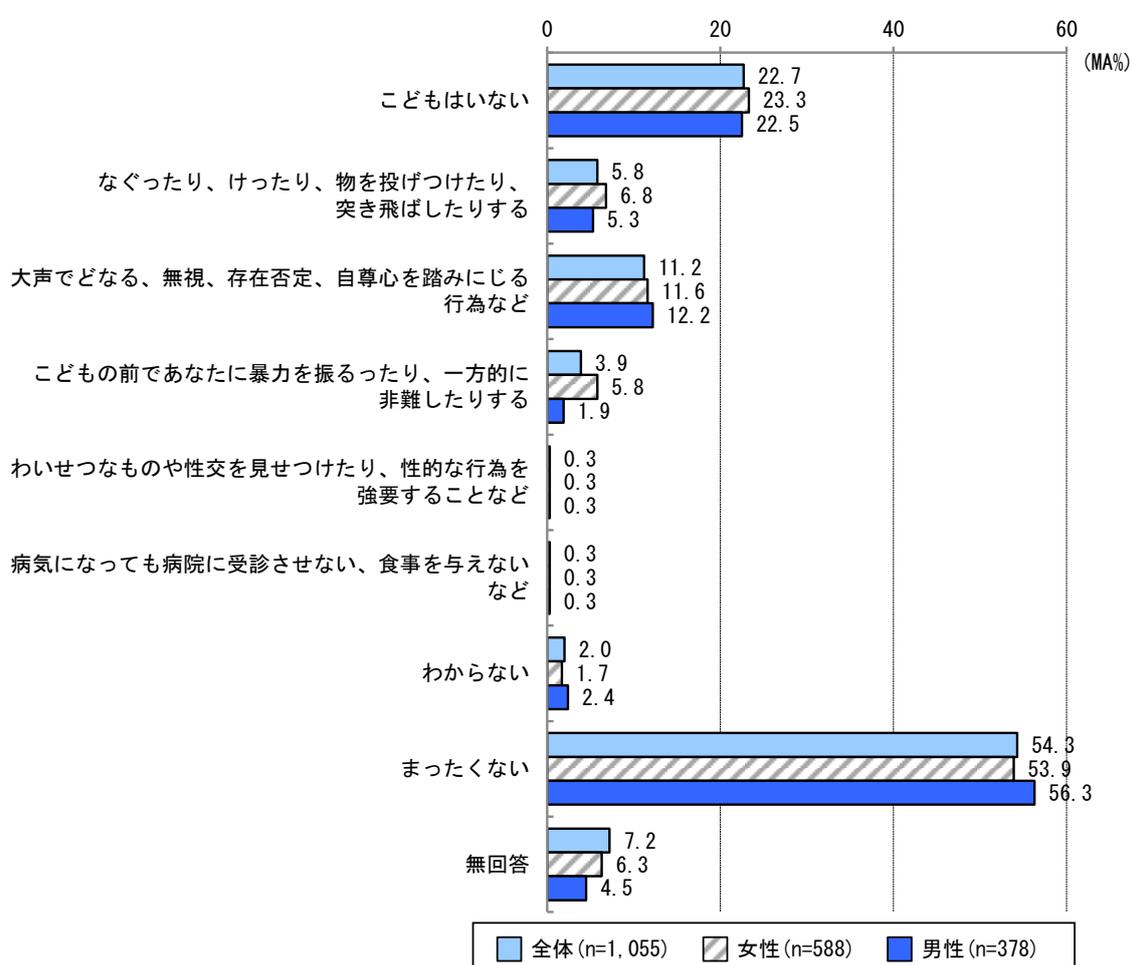


(18) こどもの被害経験

既婚、未婚に関わらず、現在・過去に交際相手がいる・いた人すべてにお聞きします。
 問31 あなたの配偶者や交際相手は、お子さん（ご自身の子どもだけでなく、配偶者や交際相手の子どもを含みます）に次のようなことをしたことがありますか。
 （あてはまるものすべてに○）

全体は、「まったくない」(54.3%)が最も多く、次いで「子どもはいない」(22.7%)、「大声でどなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為など」(11.2%)となっている。

性別で見ると、男女とも「まったくない」の割合が50%台で最も高い。女性の「子どもの前であなたに暴力を振るったり、一方的に非難したりする」の割合は男性に比べ3.9ポイント高くなっている。

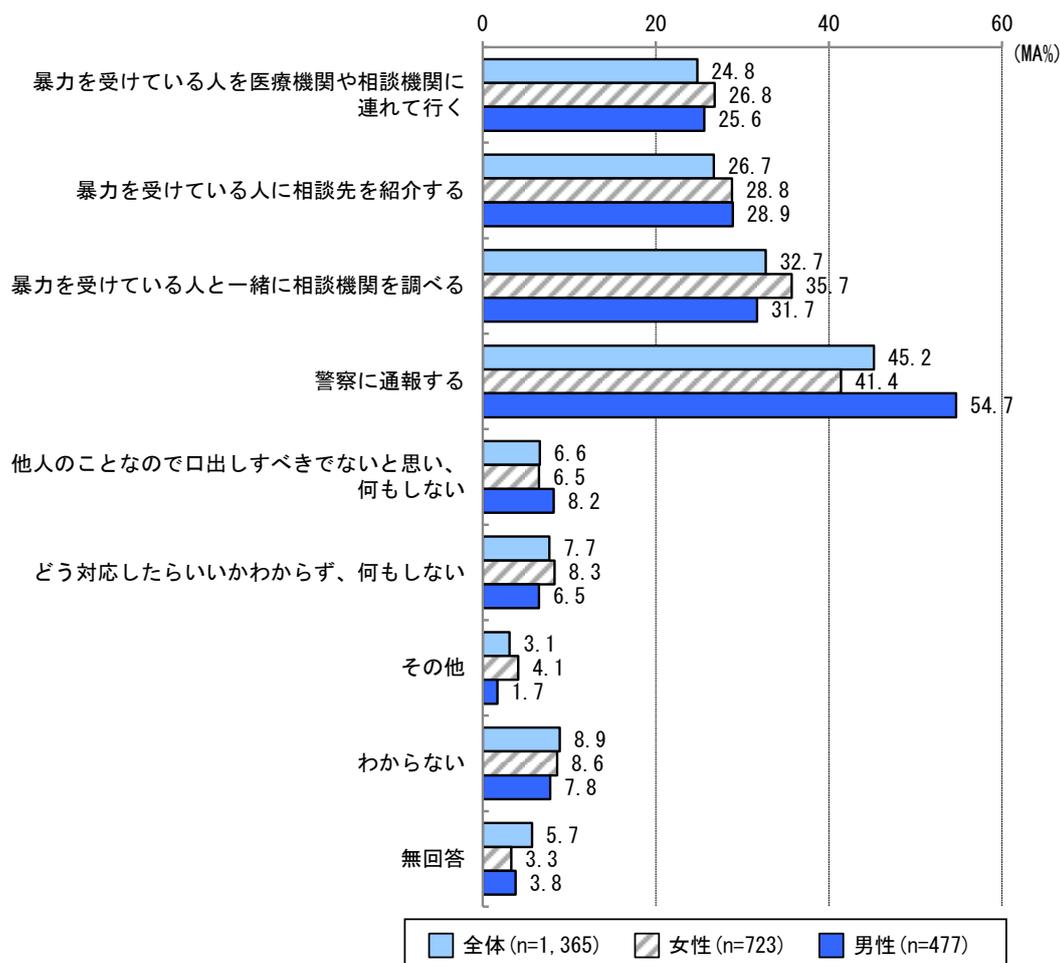


(19) 周囲に配偶者や交際相手から暴力を受けている人がいた場合にできること

問32 もしあなたの周囲に、配偶者や交際相手から下記の（参考）で挙げているような暴力を受けている（かもしれない）人がいた場合、あなたはどんなことができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体は、「警察に通報する」（45.2%）が最も多く、次いで「暴力を受けている人と一緒に相談機関を調べる」（32.7%）となっている。

性別で見ると、男女とも「警察に通報する」の割合が最も高く、女性の割合が男性に比べて13.3ポイント低くなっている。



(参考)

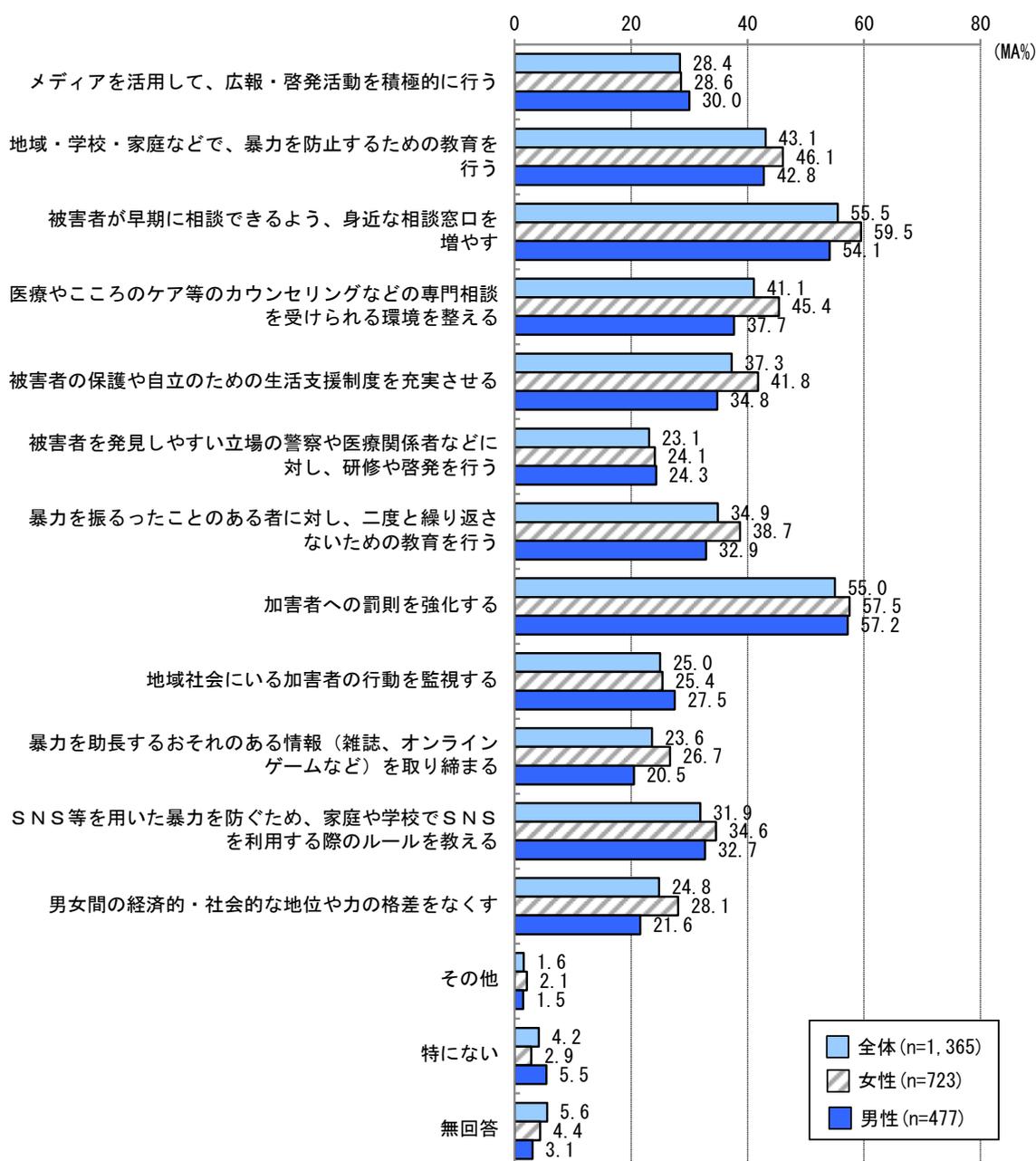
- A 身体的な暴力（なぐる、ける、物を投げつけるなど）
- B 経済的な暴力（給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど）
- C 精神的な暴力（人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど）
- D 性的な暴力（嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど）
- E 社会的な暴力（携帯電話の番号やメール・SNS（LINE等）を勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど）
- F こどもを巻き込んだ暴力（こどもの前で暴力を振るう、こどもの前で一方的に非難する、こどもに暴力を振るう、「こどもに危害を加える」などと言って脅すなど）

(20) 男女間における暴力防止に必要なこと

問33 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(55.5%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(55.0%)となっている。

性別で見ると、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「医療やこころのケア等のカウンセリングなどの専門相談を受けられる環境を整える」「被害者の保護や自立のための生活支援制度を充実させる」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、オンラインゲームなど)を取り締まる」「男女間の経済的・社会的な地位や力の格差をなくす」の割合が男性に比べて5ポイント以上高い。



9 防災対策について

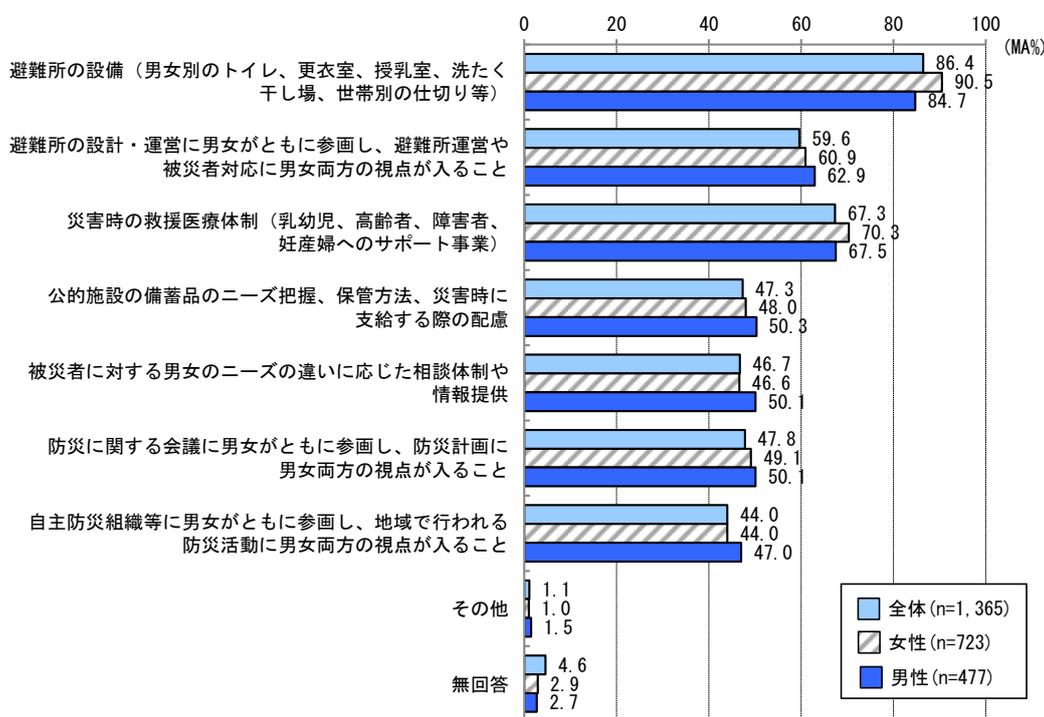
(1) 性別に配慮した対応が必要な防犯対策

問34 防災対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）」（86.4%）が最も多く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）」（67.3%）となっている。

性別で見ると、女性の「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）」の割合は男性に比べて5.8ポイント高くなっている。

前回調査との比較で見ると、いずれの項目も前回より割合が高くなっている。



【前回調査（令和2年）】

(単位：MA%)	前回調査（令和2年）		
	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）	82.0	85.3	80.9
避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	52.3	54.6	52.6
災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）	62.5	64.7	61.2
公的施設の備蓄品のニーズ把握、保管方法、災害時に支給する際の配慮	36.9	37.0	39.5
被災者に対する男女のニーズの違いに応じた相談体制や情報提供	37.1	37.8	38.5
防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	37.1	37.8	38.5
自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること	36.9	37.0	39.5
その他	1.9	1.4	2.5
無回答	6.1	4.8	3.8

10 男女共同参画に関する言葉や施策について

(1) 男女共同参画に関する言葉や法律で知っているもの

問35 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「ストーカー規制法」(75.0%)が最も多く、次いで「ジェンダー(社会的・文化的性別)」となっている。

性別で見ると、女性で「子ども・子育て支援法」の割合が男性に比べて4.7ポイント高くなっており、男性で「男女共同参画社会基本法」の割合が女性に比べて9.5ポイント、「リベンジポルノ防止法」の割合が女性に比べて8.0ポイント高い。

前回調査と比較すると、全体では「ジェンダー(社会的・文化的性別)」の割合が22.1ポイント、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の割合が12.0ポイント、「子ども・子育て支援法」の割合が11.3ポイント高くなっている。

(単位: MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
男女共同参画社会基本法	33.7	31.0	40.5	30.7	27.5	38.5
女子差別撤廃条約	14.5	14.5	17.4	17.1	16.3	19.4
ポジティブ・アクション(積極的差別是正措置)	6.5	5.9	8.0	7.0	7.7	6.5
ジェンダー(社会的・文化的性別)	74.9	79.9	77.1	52.8	55.5	52.7
男女雇用機会均等法	74.1	74.6	79.5	72.8	74.0	76.6
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	44.1	44.8	49.1	32.1	32.0	35.2
LGBTQ	58.0	59.8	62.7	54.0	57.0	53.9
SOGI(性的指向、性自認)	5.6	4.8	6.9	4.0	4.0	3.8
ダイバーシティ	43.2	41.2	52.2			
子ども・子育て支援法	61.5	66.1	61.4	50.2	54.0	47.4
育児・介護休業法	51.3	55.5	52.0	43.7	46.1	42.8
配偶者暴力防止法(DV防止法)	52.4	53.8	56.4	78.5	79.8	80.1
ストーカー規制法	75.0	75.2	82.2	71.3	72.4	74.3
リベンジポルノ防止法(私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律)	45.3	44.8	52.8	40.2	38.8	46.3
女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	18.5	18.1	22.4	16.3	15.2	17.7
候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)	7.2	5.5	10.9	7.7	5.8	10.0
子ども基本法	24.3	22.0	30.4			
LGBT理解増進法(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)	17.7	16.0	22.6			
「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」及び「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」	7.5	6.2	10.9			
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	4.1	4.1	3.4			
見たり聞いたりしたものはない	3.0	2.4	2.7	2.5	2.0	2.7
無回答	5.6	3.5	3.8	4.8	3.2	3.0

※「ダイバーシティ」「子ども基本法」「LGBT理解増進法(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)」「刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律」及び「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」は今回調査の新規項目。

※前回調査の「LGBT」は、今回調査では「LGBTQ」に変更。

(2) 男女共同参画に関する堺市の施策や取組で知っているもの

問36 次の施策、取組のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「見たり聞いたりしたものはない」(56.6%)が最も多く、次いで「さかい男女共同参画プラン」(13.3%)となっている。

性別で見ると、女性の「さかい男女共同参画プラン」「堺市配偶者暴力相談支援センター」「堺自由の泉大学」の割合は男性に比べて5ポイント以上高くなっている。一方、「見たり聞いたりしたものはない」の割合は男女とも50%を超えており、男女とも前回調査より高くなっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例	7.4	7.3	7.1	7.4	7.0	8.3
さかい男女共同参画プラン	13.3	15.9	10.1	15.4	16.3	14.9
堺市男女平等に関する苦情・相談処理制度	4.6	4.6	4.6	6.0	5.1	7.0
堺市パートナーシップ宣誓制度	9.5	11.9	7.8	8.7	8.9	9.0
堺市配偶者暴力相談支援センター	11.0	13.6	8.4	12.8	13.7	11.1
堺市男女共同参画交流の広場	7.5	8.6	6.3	7.2	7.8	6.8
女と男がいきるのやSAKAI宣言	1.1	1.5	0.6	2.1	2.0	1.7
セーフシティさかい(堺セーフシティ・プログラム)	7.3	9.0	5.5	5.7	5.8	5.8
堺自由の泉大学	7.5	10.2	3.8	15.0	20.2	6.8
見たり聞いたりしたものはない	56.6	52.7	66.7	48.9	46.7	56.4
無回答	9.9	7.5	7.1	11.0	9.2	8.6

※前回調査の「堺市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画(DV防止基本計画)」は今回は設けていない。

(3) 男女共同参画社会実現のために国や府、堺市が力を入れるべきこと

問37 女性も男性もともにいきいきと暮らせる男女共同参画社会実現のために、国や大阪府、堺市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体は、「育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する」(59.9%)が最も多く、次いで「育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する」(55.9%)となっている。

性別で見ると、女性の「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「幼少期からの生涯を通じた健康増進や性に関する教育・相談事業を推進する」の割合は男性に比べて5ポイント以上高くなっている。

前回調査との比較で見ると、いずれの項目も前回より高い割合となっている。

(単位：MA%)	今回調査			前回調査(令和2年)		
	全体 (n=1,365)	女性 (n=723)	男性 (n=477)	全体 (n=1,630)	女性 (n=928)	男性 (n=603)
男女が平等になっていない法律や制度の見直しを行う	49.2	49.9	53.5	45.3	47.7	45.3
審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	30.3	31.4	32.5	27.4	29.4	26.0
企業などが女性の積極的な登用や男女の均等な取扱いを進めるよう働きかける	35.9	38.6	36.1	32.4	34.8	30.2
育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する	59.9	64.7	60.8	59.4	65.2	55.2
育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する	55.9	60.2	58.3	50.1	55.5	45.1
ひとり親家庭や生活困難家庭の相談事業などの支援を充実する	40.7	43.6	42.6	40.4	43.6	37.6
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	46.6	52.7	44.9	41.9	46.1	39.3
セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力等の防止や被害者への支援を充実する	33.9	36.0	34.6	30.2	31.8	30.3
幼少期からの生涯を通じた健康増進や性に関する教育・相談事業を推進する	30.0	33.3	27.9	26.0	28.7	23.7
学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する	36.6	39.4	37.3	29.0	30.2	29.5
政策・方針決定に関わる者や管理職の意識改革を進める	25.4	25.6	28.3	21.4	21.4	22.7
男女共同参画に関する広報、情報提供、啓発活動を充実する	26.2	25.7	30.0	20.6	20.8	21.7
その他	1.4	1.0	1.5	1.8	1.5	2.5
特になし	5.7	3.7	8.4	4.5	3.7	6.1
無回答	5.7	3.3	2.9	7.7	4.8	5.3

11 自由意見

問38 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

122名から延べ139件の意見が寄せられた。意見分類ごとの件数は以下のとおりである。

(単位：件)	全体	女性	男性	無回答※
男女共同参画の推進の方法	20	8	9	3
性別役割分担意識の肯定・根強さ（区別は必要、男・女らしさは必要等）	17	8	9	-
教育の重要性	15	10	3	2
意識啓発の必要性（啓蒙・広報・PR）	13	11	1	1
ワーク・ライフ・バランスの重要性（労働時間・育児・育児休業取得）	11	6	5	-
本調査への意見	9	4	3	2
女性登用について（実力で選ぶべき等）	8	4	3	1
堺市への意見	8	6	2	-
男女平等社会実現の難しさ	7	2	5	-
男女平等への意識	7	4	2	1
男女というより人間として尊重すること、多様性を認めることが重要	5	3	2	-
賃金の引き上げ（一人でも暮らせる・女性が働かなくても暮らせる）	5	3	2	-
企業における男女の意識・理解を深める	4	-	3	1
夫婦別姓の必要性	2	2	-	-
その他	8	7	1	-
延べ件数	139	78	50	11

※無回答…回答者の性別（FI）において無回答であった回答者

IV 調査結果からみられる現状と課題

V 調査票